

ブルキナファソ国  
中央プラトー地方給水施設管理・  
衛生改善プロジェクト  
中間レビュー調査  
報告書

平成23年10月  
(2011年)

独立行政法人国際協力機構  
地球環境部

環境
J R
11-192

ブルキナファソ国  
中央プラトー地方給水施設管理・  
衛生改善プロジェクト  
中間レビュー調査  
報告書

平成23年10月  
(2011年)

独立行政法人国際協力機構  
地球環境部

# 目 次

プロジェクト対象位置図

写真

表リスト

略語表

中間レビュー調査結果要約表

<b>第1章</b>	<b>中間レビュー調査の概要</b> .....	<b>1-1</b>
1-1	調査団派遣の経緯と目的.....	1-1
1-2	調査団の構成と調査期間.....	1-1
1-3	対象プロジェクトの概要.....	1-2
<b>第2章</b>	<b>中間レビューの方法</b> .....	<b>2-1</b>
2-1	中間レビューの手法.....	2-1
2-2	主なレビュー調査項目・設問と必要な情報・評価指標.....	2-2
2-3	データ収集方法.....	2-2
<b>第3章</b>	<b>プロジェクトの実績・調査結果</b> .....	<b>3-1</b>
3-1	投入実績.....	3-1
3-1-1	専門家派遣.....	3-1
3-1-2	国別研修.....	3-1
3-1-3	供与機材・携行機材.....	3-1
3-1-4	在外事業強化費（現地業務費）.....	3-1
3-1-5	ブルキナファソ側負担事項.....	3-1
3-2	実施プロセス.....	3-2
3-3	成果の達成状況.....	3-2
3-4	プロジェクト目標の達成状況.....	3-10
3-5	上位目標の達成見込み.....	3-11
<b>第4章</b>	<b>レビュー結果</b> .....	<b>4-1</b>
4-1	評価5項目のレビュー結果.....	4-1
4-2	効果発現の貢献・阻害要因.....	4-2
4-3	結論（レビュー結果総括）.....	4-3
<b>第5章</b>	<b>提言</b> .....	<b>5-1</b>
5-1	提言.....	5-1
5-2	PDM、POの改訂案.....	5-2
5-3	その他の特記事項.....	5-2

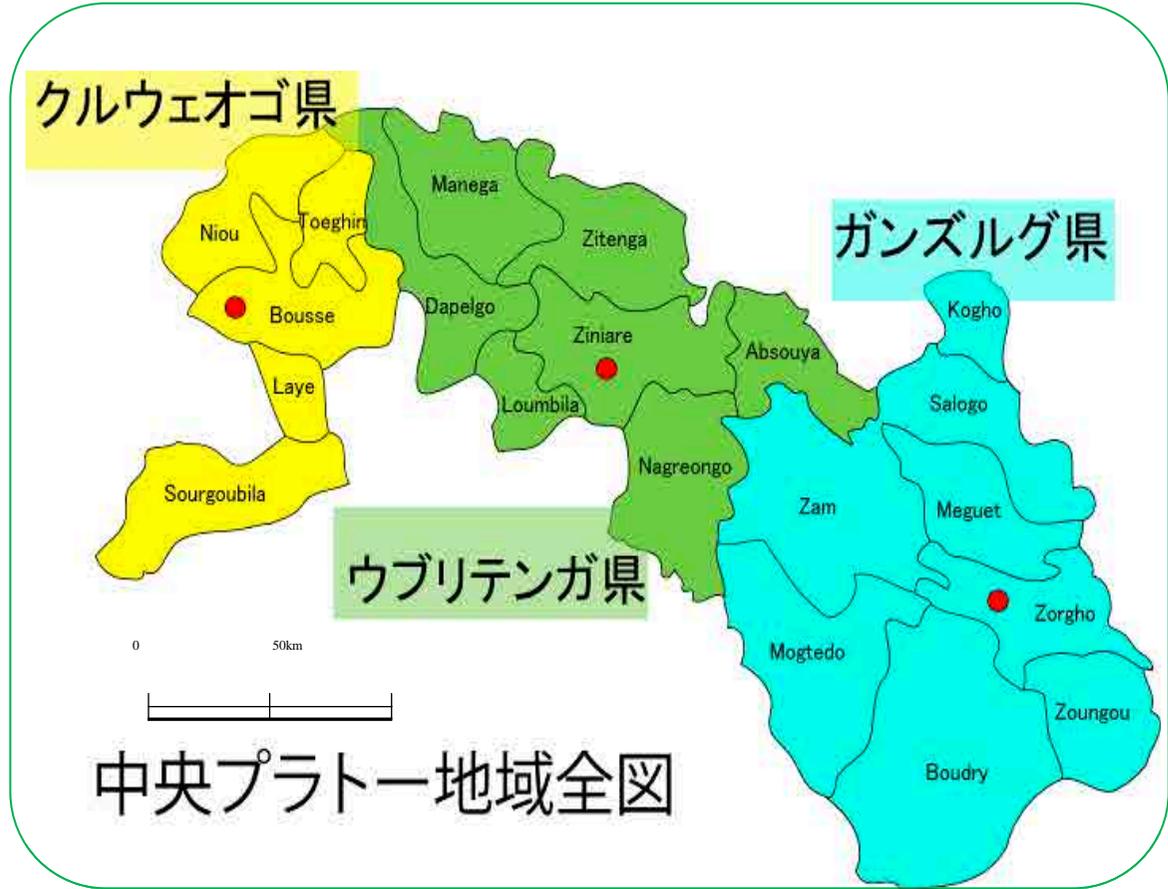
## 添付資料

1. 調査日程
2. 面談者リスト
3. 中間レビュー調査団ミニッツ（含む合同中間レビュー報告書）
4. 評価グリッド
5. 第4回合同調整員会（JCC）協議記録および発表資料
6. 農業・水利省組織図
7. ブルキナファソ側（農業・水利省）の評価制度によるプロジェクト評価（参考資料）

## 通貨換算レート

2011年3月 ブルキナファソセーファーフラン 1FCFA=0.175 円

2011年10月 1FCFA=0.162 円



プロジェクト対象位置図

## 中間レビュー調査 写真



現場インタビューの様子



現場インタビューの様子



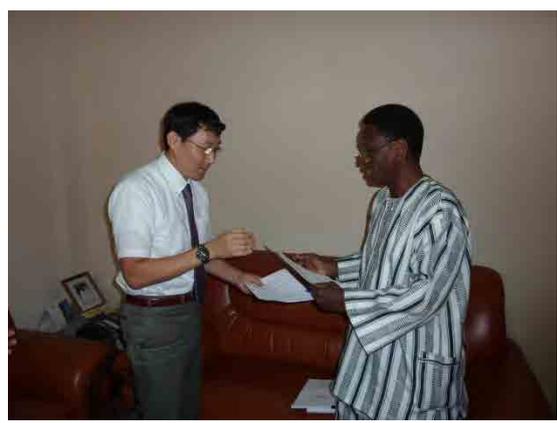
現場インタビューの様子



現場インタビューの様子



現場インタビューの様子



ミニッツ署名

## 表リスト

表 1	プロジェクトの概要.....	1-2
表 2	PDM の構成要素.....	2-1
表 3	レビュー5 項目.....	2-2
表 4	国別研修一覧.....	3-1
表 5	確認テストの受験者数及び結果.....	3-3
表 6	パイロットコミューンで設立された AUE 数.....	3-4
表 7	コミューン-AUE 間の給水施設維持管理委託協定締結状況.....	3-4
表 8	6 対象コミューンで設立された AUE 数.....	3-4
表 9	賦課金の合計額 (単位 : FCFA) .....	3-5
表 10	衛生啓発・教育プログラムの実施者数.....	3-8
表 11	モニタリング体制構築に係る取組に向けた課題と方策 .....	3-9
表 12	給水稼働率の推移 (プロジェクト 9 コミューン) (2008-2010) .....	3-11
表 13	DAC5 項目によるレビュー結果 .....	4-1

## 略語表

略語	名称	日本名
AEPA	Approvisionnement en Eau Potable et Assainissement	給水と衛生
ABS		セクター財政支援
AMB	Association des Municipalités du Burkina Faso	全国自治体首長協会
AUE	Association des Usagers de l'Eau	水利用者組合
COGES	Comité de Gestion Scolaire	学校運営委員会
C/P	Homologues	カウンターパート
CPE	Comité de Point d'Eau	水場委員会
DAEP	Direction de l'Approvisionnement en Eau Potable, Ministère de l'Agriculture et de l'Hydraulique	農業・水利省 飲料水供給局
DEP	Direction des Etudes et de la Planification, Ministère de l'Agriculture et de l'Hydraulique	農業・水利省 調査・計画局
DGAEUE	Direction Générale de l'Assainissement, des Eaux Usées et des Excrétas, Ministère de l'Agriculture et de l'Hydraulique	農業・水利省 衛生・汚水・廃棄物総局
DGRE	Direction Générale des Ressources en Eau, Ministère de l'Agriculture et de l'Hydraulique	農業・水利省 水資源総局
DRAH/PCL	Direction Régionale de l'Agriculture, de l'Hydraulique et des Ressources Halieutiques du Plateau Central, Ministère de l'Agriculture et de l'Hydraulique	農業・水利省 中央プラトー地方局
FCFA	Franc de la Communauté Financière Africaine	セーファーフラン
GIZ	Deutsche Gesellschaft für Internationale Zusammenarbeit	ドイツ国際協力公社
INOH	Inventaire National des Ouvrages Hydrauliques	給水施設全国インベントリー
MAH	Ministère de l'Agriculture et de l'Hydraulique	農業・水利省
Reforme	Réforme du système de gestion des infrastructures hydrauliques d'alimentation en eau potable en milieu rural et semi urbain	村落・準都市部の飲料水供給施設の管理システム改革方針
PDM	Project Design Matrix (Cadre Logique du Projet)	プロジェクト・デザイン・マトリックス
PHAST	Participatory Hygiene and Sanitation Transformation	参加型衛生改善
PN-AEPA	Programme National d'Approvisionnement en Eau Potable et d'Assainissement	飲料水・衛生供給国家計画
PROGEA/PCL	Projet de Renforcement de la Gestion des Infrastructures Hydrauliques d'Approvisionnement en Eau Potable et de la Promotion de l'Hygiène et de l'Assainissement dans le Plateau Central	中央プラトー地方給水施設維持管理・衛生改善プロジェクト
R/D	Record of Discussion (Procès Verbal des Discussions)	討議議事録
UAT	Unité d'Animation Technique	技術指導ユニット
UNICEF	United Nations Children's Fund	国連児童基金
ZAT	Zone d'Appui Technique	技術支援ゾーン

## 中間レビュー調査結果要約表

<b>1. 案件の概要</b>	
国名：ブルキナファソ	案件名：中央プラトー地方給水施設管理・衛生改善プロジェクト
分野：水資源・防災	援助形態：技術協力プロジェクト
所轄部署：地球環境部水資源第二課	協力金額（評価時点）：236,280千円
協力期間	(R/D) : 2009年6月～2013年6月
	(延長) : -
	(F/U) : -
	先方関係機関：農業・水利省（MAH） 水資源総局、衛生・汚水・廃棄物総局、中央プラトー地方局
	日本側協力機関：なし
	他の関連協力：なし
<b>1-1 協力の背景と概要</b>	
<p>ブルキナファソ国政府は早期から貧困削減に取り組み、2003年6月には貧困削減戦略ペーパー（PRSP）が承認された。PRSPの中で「貧困者への基本的社会サービスへのアクセス向上」を重点課題の一つに掲げ、安全な飲料水供給の改善を含む、貧困者の生活環境改善を図っている。しかし「改善された水源を継続して利用できる人口」は61%（2004年人間開発報告書（UNDP））で、地域格差も大きい。給水率が低い村落部では、住民は河川、水溜り等を飲料水としており、ギニアウォーム、下痢等の水因性疾患罹患率が非常に高い。また、「改善された衛生設備を継続して利用できる人口」については13%（同）とサブサハラアフリカの平均を大きく下回り、上記疾患の発生を高める原因となっている。</p> <p>これに対しブルキナファソ国政府は、2006年「飲料水・衛生供給国家計画（PN-AEPA）」を作成し、ミレニアム開発目標（MDGs）に従って、2005年時点で飲料水や衛生の供給を受けられない人々の割合を2015年までに半減させることを目標としている。この実現に向け、我が国に対し、これまで支援が実施されていなかった中央プラトーおよび南部中央地方の6県での水供給施設建設にかかる無償資金協力「中央プラトー・南部中央地方飲料水供給計画」を要請し、現在第一次計画を施工中、第二次計画の概略設計調査を実施中である。また、給水施設の維持管理上の課題である水利用者の組織化、料金徴収の実施、及び適切な施設運営を目的として、上記2地方において水利用者による維持管理システムの定着と保健衛生の促進のための技術協力支援を要請してきた。</p> <p>これを受け、JICAは2007年7月に事前調査団を派遣し、討議議事録（R/D）案についてブルキナファソ国側と合意したが、本プロジェクトと連携が期待されていた上述の無償資金協力の枠組み修正等により2008年12月に再度事前調査を行い、2009年3月30日にR/D署名に至ってプロジェクトが開始された。2011年8月からは第3年次の専門家派遣を開始している。</p>	
<b>1-2 協力内容</b>	
<p>(1) 上位目標：中央プラトー地方における保健・衛生環境が改善される。</p> <p>(2) プロジェクト目標：対象コミュニティ（ウブリテンガ県全コミュニティ、ガンズルグ県とクルウェオゴ県のパイロットコミュニティ）の給水施設の維持管理状況及び住民の衛生行動が改善される。</p> <p>(3) 成果：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>0) プロジェクト・デザイン・マトリックス（PDM）の指標が確定する。</li> <li>1) 対象コミュニティで維持管理システムの改革に則った組織体制が整う。</li> <li>2) 村落組織の給水施設運営維持管理能力が強化される。</li> <li>3) 給水施設運営維持管理にかかるスペアパーツ供給及び修理体制が改善される。</li> <li>4) 中央プラトー地方のパイロット3コミュニティにおける村落住民の衛生行動が改善される。</li> <li>5) 各県の農業・水利省県支局が給水及び衛生状況のモニタリング・評価を実施し、コミュニティに対し支援が行えるようになる。</li> </ol> <p>(4) 投入（評価時点）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 日本側：専門家派遣6分野36.3M/M、機材供与13,551千円、研修員受入9名、現地活動費66,304千円</li> <li>2) ブルキナファソ国側：カウンターパート（C/P）配置47名、プロジェクトオフィスの提供（光熱費込）、プロジェクト実施経費19,470,942セーファーフラン（約3,407千円）</li> </ol>	

<b>2. 評価調査団の概要</b>	
調査者	総括：涌井 純二（JICA 地球環境部水資源第二課 課長） 協力企画：深林 真理（JICA 地球環境部水資源第二課） 評価分析：井ノ口 一善（三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング） フランス語通訳：安土 和夫（財団法人 日本国際協力センター）
調査期間	2011年9月10日～10月1日
	評価種類：中間レビュー
<b>3. 評価結果の概要</b>	
<b>3-1 実績の確認</b>	
<b>(1) 成果達成度</b>	
<b>(成果0) PDMの指標が確定する</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ PDMの指標は確定している。</li> <li>✓ 2010年9月に開催された第2回合同調整委員会において、各成果のPDM指標について議論が行われた。これを受け、タスクフォースが結成されPDMの指標の見直しを実施。</li> <li>✓ 検討されたPDM改定案はJICAに提出され、2011年1月にJICAブルキナファソ事務所とMAHの間でPDM変更に関するミニッツが取り交わされた。</li> </ul>	
<b>(成果1) 対象コミュニティで維持管理システムの改革に則った組織体制が整う</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 技術支援ゾーン（ZAT）/技術支援ユニット（UAT）への研修は予定通り実施されており、能力強化が進んでいる。</li> <li>✓ パイロットコミュニティの全76村落で計80の水利用者組合（AUE）が設立された。これら設立されたAUEとコミュニティ間の給水施設維持管理委託協定締結支援が行われ、Toeghinコミュニティ全18AUE、Dapelogoコミュニティ全29AUE、ZorghoコミュニティはZempassogo村を除く全32AUEで締結された。</li> <li>✓ ウブリテンガ県の6対象コミュニティ（Ziniare、Absouya、Nagreongo、Zitenga、Ourgou-Manega及びLounbila）の全191対象村落においてAUEが設立された。</li> <li>✓ 6対象コミュニティに対する給水施設維持管理委託協定締結支援は第3年次以降に予定されている。</li> </ul>	
<b>(成果2) 村落組織の給水施設運営維持管理能力が強化される</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 賦課金集金を含む給水施設維持管理活動の支援が、コミュニティレベルの行政官と共に行われている。</li> <li>✓ 賦課金の納入、水料金の徴収がパイロットコミュニティで始まっている。</li> <li>✓ 6対象コミュニティへの支援は第3年次に予定されている。</li> </ul>	
<b>(成果3) 給水施設運営維持管理にかかるスペアパーツ供給及び修理体制が改善される</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ パーツ供給体制とポンプ修理工体制の構築に向け、第1年次に基礎情報が収集され、具体的なポンプ修理工を対象とした育成研修が第2年次から開始された。</li> <li>✓ 各県のポンプ修理工組合の組織化は終了している。</li> <li>✓ 実際の修理については第3年次以降の活動が予定されている。</li> </ul>	
<b>(成果4) 中央プラトー地方のパイロット3コミュニティにおける村落住民の衛生行動が改善される</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 衛生啓発・教育の為に教材（衛生行政指導者用マニュアル、住民衛生アニメーター及び教員用衛生啓発・教育活動実践ガイド、啓発用ツールイメージ、及び衛生行動・設備管理マニュアル）が策定された。第1年次及び第2年次終了時点でフィードバックを受け改訂されている。</li> <li>✓ カスケード方式で衛生啓発実施者の研修が行われ、2011年5月時点で計888名が育成された。</li> <li>✓ 村落、学校レベルでの衛生啓発・教育活動が実施されており、2011年9月時点で村落レベルにおいて436回、学校レベルにおいて388回実施されている。</li> </ul>	
<b>(成果5) 各県の農業・水利省県支局が給水及び衛生状況のモニタリング・評価を実施し、コミュニティに対し支援が行えるようになる</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 中央プラトー地方局職員を対象とした「村落・準都市部の飲料水供給水利施設の管理システム改革（Reforme）」研修が実施された。研修後に理解度確認試験を行なったところ、基準以上で理解していることが確認された。</li> <li>✓ モニタリング体制の構築に向けて現状と課題、及び改善に向けた整理が実施されている。</li> </ul>	

## (2) プロジェクト目標達成状況（見込み）

プロジェクト目標（対象コミュニティの給水施設の維持管理状況及び住民の衛生行動の改善）の達成見込みは、指標 2 項目（給水施設の稼働率[指標 1]、住民衛生行動の変容[指標 2]）について、活動の進捗、各成果の達成度及び持続性の観点から分析を行った。その結果、給水施設の稼働率 [指標 1] については、順調に活動が進んでいることが確認された。全コミュニティで AUE が設立され、パイロットコミュニティでは賦課金の納入、水料金の徴収が開始されている。これらを鑑み、プロジェクト目標達成見込みは高いと考えられる。

他方で住民衛生行動の変容 [指標 2] であるが、活動は予定通り実施されているものの、衛生分野の特徴として効果発現には時間が必要なこと、活動の持続性が担保されていないことが課題と考えられる。特に住民アニメーターが無給のボランティアでの活動であり、村落レベルでの衛生啓発活動に対するモチベーションの維持や活動の定着が課題と考えられる。

## (3) 上位目標達成状況（見込み）

上位目標達成（中央プラトー地方における保健・衛生環境の改善）は水源の継続的利用人口割合の改善 [指標 1]、給水施設の常時稼働率の改善 [指標 2] 及び住民の水を取り巻く衛生行動の改善 [指標 3] が指標として設定されている。

指標 1 及び指標 2 についての達成可能性はあると判断した。指標 1 については、国家計画である PN-AEPA で推進されている給水施設建設計画が全国的に順調に進んでおり、今後も 2015 年のターゲットを目指して改善されていくことが予想される。

指標 2 に関しては、日本以外のドナー、機関が中央プラトー地方での AUE 設立を含む Reforme 支援を実施・検討している。また、ブルキナファソ側も本プロジェクトを Reforme 推進のパイロットプロジェクトとして位置づけており、その成果の確認後に拡大・展開方法、整備不備の是正等を進めることになっている。他方で、現時点では中央プラトー地方全 20 コミュニティのうち、Reforme が実際に導入されているのは本プロジェクトを実施している 9 コミュニティに留まっていること、またブルキナファソ側で全国展開に向けた展開計画や予算措置について現時点で定まっていない事は課題と考えられる。加えて MAH をはじめ、地方局、コミュニティの組織体制は人員面、財政面とも脆弱であり、特に現場での活動の実施を担う人員不足は深刻となっている。今後の要検討課題である。

最後に、指標 3 については、既述の通り村落での活動に関する持続性が担保されておらず、達成するためには今後関係者による検討が必要である。

## 3-2 評価結果の要約

### (1) 妥当性: High

- ・ブルキナファソ側の国家計画である PN-AEPA 及び Reforme が打ち出している AUE の形成、給水担当者の能力強化等に変更はない。
- ・中央プラトー地方をプロジェクト対象地域としたことは、我が国の無償資金協力（給水施設建設）及び日本政府出資の UNICEF プログラムが共に同地方で実施されていたことから適切であった。

### (2) 有効性: High

- ・PDM で定義された成果の達成に向けて活動は順調に実施されている。
- ・給水施設稼働率の改善に関するプロジェクト目標が達成される可能性は高い。
- ・Reforme という国家政策に沿ったプロジェクトであり、C/P を含め「ブルキナファソのプロジェクトである」との認識が高い。

### (3) 効率性: Relatively High

- ・日本、ブルキナファソ側共に当初合意された項目について投入を行った。
- ・ブルキナファソ側の 2009 年度予算が執行されなかった。この結果補助的人材（運転手、ガードマン、秘書等）の人件費についてはプロジェクト予算で賄うこととなった。
- ・第 2 年次開始時に C/P 職員が大幅に入れ替わる事態となった。

### (4) インパクト: Moderate

- ・給水施設維持管理の役割を担う AUE が本プロジェクト対象の全コミュニティで設立され、機能する為の取組が進められており、プロジェクト目標（特に給水施設維持管理のコンポーネント）の達成可能性は高い。
- ・以下の通り課題はあるが、上位目標の達成可能性はある。
- ・プロジェクト対象地域は限定的であり、中央プラトー地方全域の保健、衛生環境改善については、ブルキナファソ側の活動継続に関する強いコミットメント（含む予算措置）が必要。
- ・Reforme 推進を目的とした予算措置の必要がある。

**(5) 持続性 : Moderate**

- ・ PN-AEPA は 2015 年まで変更されない。
- ・ Reforme 適用化に関する技術・ノウハウは日本人専門家から行政担当官に移転している。
- ・ ブルキナファソ側の行政の組織的基盤は脆弱であり、特にコミューンは 2006 年に設立されたばかりであり、陣容、予算共に不十分であり能力強化が重要となっている。
- ・ 衛生啓発・教育活動に関しては、プロジェクト終了後の活動予算措置が必要。特に長期的な課題として、衛生アニメーターは無給のボランティアでの活動であり、プロジェクト終了後の継続性に懸念がある。衛生アニメーターのモチベーション向上の枠組み構築を検討すべきである。

**3-3 効果発現に貢献した要因**

**(1) 国家政策との高い整合性**

プロジェクト目標及び活動がブルキナファソ政府の方針と整合している為に、プロジェクト及び各活動に対して中央から地方及びコミューンレベルに至るまで C/P や関係者の理解や同意を容易に得ることが可能となっている。またこの事がブルキナファソ側の高いオーナーシップを引き出す要因の 1 つにもなっていると考えられる。

**(2) プロジェクトチームとブルキナファソ側関係者との緊密な連携**

通常の定期コミュニケーションに加え、特に現場レベルでの活動の中で生じる様々な問題解決に際し、関係者間で連携し解決策の模索を行う等、プロジェクト推進に大きく寄与した。これには、ブルキナファソにおいて豊富な業務経験を有する総括を中心に、アフリカ諸国で現場経験を有しフランス語も堪能なメンバーで構成された日本人専門家の貢献が大きいと考えられる。

**3-4 問題点及び問題を惹起した要因**

実施プロセスに関し、いくつか問題点が確認された。主な問題点は以下の通り。

- ・ 低い識字率・教育レベルはプロジェクトのスムーズな実施の障害となった。活動の多くはフランス語による書類事務作業が必要となっている。しかし、AUE 事務局メンバー、ポンプ修理工にはフランス語の読み書きが困難な人が多くこれら作業は容易ではなく、長期的な課題であることが確認された。
- ・ プロジェクト活動の対象者であるコミューンや村落住民のプロジェクト実施の理解を得る事が当初の想定よりも難しかったことが挙げられる。Reforme 制度は罰則を伴う契約・協定を締結することが求められているが、この新しいシステムの導入に反発する住民は当然おり、特に保守的な考え方の強い村落では反発が強かった。
- ・ 村落内地区同士の争い、反発の発生も課題となっていた。Reforme は上述の通り村落レベルでの包括的な給水施設の維持を目指す制度であるが、村落内での衝突はプロジェクト促進の課題となっている。
- ・ 対象 9 コミューンでの Reforme 推進活動が進み定着が図られる中で、AUE 未設立のプロジェクト非対象コミューン (11 コミューン) との間でギャップが生じている。AUE を中心に受益者負担による給水施設維持管理を進めている中で、従来通りの水場毎での維持管理を実施する AUE 未設立コミューンの住民の存在は対象 9 コミューンのみならず、非対象コミューンにおいても給水維持管理に関し混乱を生じさせる要因となっている。またポンプ修理工組合は県単位で設立されたが、AUE 未設立コミューンでのポンプ修理に関しては AUE との契約もなく従来通りの方法となっておりポンプ修理工への能力強化の効果が限定的となっている。更に AUE 未設立地域の存在はプロジェクトで進めているスペアパーツ金額や修理代金の県内統一化を阻む要因にもなっている。

**3-5 結論**

中央プラトー地方局を中心にブルキナファソ側の高いコミットメントが確認され、第 2 年次までの活動が順調に進められていることが確認された。全対象コミューンにおいて AUE が設立され、パイロットコミューンにおいては賦課金の納入、水料金の徴収が既に開始されている。プロジェクト目標の特に給水施設維持管理のコンポーネントに関し、達成可能性も高い。

他方で、衛生啓発・教育のコンポーネントに関しては、活動は順調に実施されているものの、プロジェクト目標の達成には課題がある。特に衛生行動の変容は決して短期間の活動で実現するものではない。モニタリングを実施しつつ、地道な活動の継続が必要である。

またプロジェクトの持続性について現時点では課題が多い。特にブルキナファソ側の組織的脆弱性(人材面、財政面)は課題である。

### 3-6 提言（当該プロジェクトに関する具体的な措置、提案、助言）

#### (1) 衛生行動改善のための活動について

評価の結果、衛生啓発・教育コンポーネントの持続性の担保についての課題が明らかになった。持続性の担保のために、実施者である行政機関の衛生担当者や教員等の人事異動を考慮した活動継続の枠組みの策定、住民アニメーターのモチベーション維持を行う必要がある。

この課題に対し、例えば、コミュニティや AUE の資金の活用やコミュニティを巻き込む学校運営委員会等との連携の可能性といった、持続性を確保するための検討が求められる。

#### (2) 対象コミュニティの拡大について

本プロジェクトでは、中央プラトー地方全 20 コミュニティのうち 9 コミュニティにおいて活動を展開しており、残り 11 の対象外コミュニティへの対応は、ブルキナファソ側の自助努力により進められることが前提となっている。しかし残り 11 コミュニティの Reforme の進捗は芳しくない。本プロジェクトを通して、Reforme には多大なコストと時間を要することが明らかになっており、ブルキナファソ側の財政事情や現場での実施を担う人材不足の現実を鑑みると、非常に困難な状況である。

そのため Reforme が導入されているコミュニティと未導入のコミュニティの間で、給水施設維持管理モデルを巡る対立や、県レベルで行っている修理工の育成、組合の組織化、修理代金の統一化等の県内の適用化が阻まれるなどの問題が生じている。

従って、プロジェクト対象外のコミュニティへの Reforme の導入が遅滞すればするほど、上記のような問題が大きくなり、コミュニティ間のギャップの拡大からプロジェクトで構築した運営維持管理体制崩壊の危険性も否めない。

また、給水施設維持管理の持続性を考えると、Reforme に沿った運営維持管理体制が構築され、一度構築された体制をいかに継続して機能させていくかという点が重要となってくる。

本プロジェクトでは、対象コミュニティにおいて体制の構築と、この体制が機能するよう支援を行っているが、対象外コミュニティにおいて Reforme が着手されず、地方・県レベルでの運営維持管理体制の統一が図られなければ、プロジェクトで実施した体制の機能化、つまり持続性の確保につながる取り組みの効果が弱まる懸念が生じる。

従って本プロジェクトによって着実に Reforme が進められて、プロジェクト目標の達成も見込まれている中、プロジェクトの成果を確実なものにするために、また中央プラトー地方における給水施設の持続的な維持管理、安全な水へのアクセスの保障のために、支援対象コミュニティを残り 11 コミュニティにも拡大し、地方・県レベルでの給水施設維持管理体制の確立が不可欠である。

プロジェクトの対象コミュニティ拡大に伴い、日本側は追加対象となる 11 コミュニティに対し、これまでの対象 9 コミュニティと同様の投入を行うとともに、ブルキナファソ側も対象コミュニティ拡大に伴う必要な投入を行うことを提言する。

#### (3) プロジェクト終了後の持続性の確保について（モニタリング・Reforme の促進および衛生行動改善活動の継続）

給水施設維持管理体制の定着、衛生行動改善への取り組みの継続のため、ブルキナファソ側は本プロジェクト終了後を見据えた具体的な措置をとることが求められる。例えば、モニタリング、Reforme の促進、衛生啓発活動の継続実施のための予算確保である。現在、プロジェクト終了後の持続性を維持することを考えた際のブルキナファソ側の問題は予算である。しかし PN-AEPA2010 年次レビューにおいて、Reforme 適用化は給水・衛生分野の優先課題として掲げられており、セクター財政支援 (ABS) の予算を Reforme に優先的に適応できるという状況の中、この ABS を活用して予算を確保し、Reforme に優先的に配分する計画を考えていく必要がある。

## 第1章 中間レビュー調査の概要

### 1-1 調査団派遣の経緯と目的

ブルキナファソ国政府は早期から貧困削減に取り組み、2003年6月には貧困削減戦略ペーパー（PRSP）が承認された。PRSPの中で「貧困者への基本的社会サービスへのアクセス向上」を重点課題の一つに掲げ、安全な飲料水供給の改善を含む、貧困者の生活環境改善を図るとしている。しかし「改善された水源を継続して利用できる人口」は61%（2004年人間開発報告書（UNDP））で、地域格差も大きい。給水率が低い村落部では、住民は河川、水溜り等を飲料水としており、ギニアウォーム、下痢等の水因性疾患罹患率が非常に高い。また、「改善された衛生設備を継続して利用できる人口」については13%（同）とサブサハラアフリカの平均を大きく下回り、上記疾患の発生を高める原因となっている。

これに対しブルキナファソ国政府は、2006年「飲料水・衛生供給国家計画（PN-AEPA）」を作成し、ミレニアム開発目標（MDGs）に従って、2005年時点で飲料水や衛生の供給を受けられない人々の割合を2015年までに半減させることを目標としている。この実現に向け、我が国に対し、これまで支援が実施されていなかった中央プラトーおよび南部中央地方の6県での水供給施設建設にかかる無償資金協力「中央プラトー・南部中央地方飲料水供給計画」を要請し、現在第一次計画を施工中、第二次計画の概略設計調査を実施中である。また、給水施設の維持管理上の課題である水利用者の組織化、料金徴収の実施、及び適切な施設運営を目的として、上記2地方において水利用者による維持管理システムの定着と保健衛生の促進のための技術協力支援を要請してきた。

これを受け、JICAは2007年7月に事前調査団を派遣し、討議議事録（R/D）案についてブルキナファソ国側と合意したが、本プロジェクトと連携が期待されていた上述の無償資金協力の枠組み修正等により2008年12月に再度事前調査を行い、2009年3月30日にR/D署名に至ってプロジェクトが開始された。2011年8月からは第3年次の専門家派遣を開始している。

今般、プロジェクト期間4年のうち2年が経過した現時点で、これまでのプロジェクトの進捗状況・成果を踏まえ、以下の目的により中間レビュー調査を実施することとなった。

- 技術協力の開始からこれまでの実績と実施プロセスを確認、プロジェクトの進捗をレビューし、その情報に基づいてプロジェクトの到達点を評価5項目（妥当性、有効性、効率性、インパクト、持続性）に基づき日本側・ブルキナファソ側合同で評価する。
- プロジェクト実施の促進要因および阻害要因を特定し、レビュー結果に基づきプロジェクトに提言を行う。
- プロジェクト・デザイン・マトリックス（PDM）と活動計画（PO）を必要に応じ改訂する。
- 2013年のプロジェクト終了を見据え、今後の円滑なプロジェクト運営、およびプロジェクト目標の確実な達成に向けて取るべき措置について協議を行いその結果をミニッツにて確認する。

### 1-2 調査団の構成と調査期間

合同レビュー調査団（調査団と略す）の構成は以下のとおりである。

調査は2010年9月10日～10月1日に実施され、調査日程は添付資料1のとおりである。

<ブルキナファソ側>

- 1) カルフォ・サンパナ（総括） 農業・水利省調査計画局（MAH-DEP）
- 2) ナポン・アブドゥラエ 農業・水利省調査計画局（MAH-DEP）

<日本側>

- 1) 涌井純二（総括） JICA 地球環境部水資源第二課 課長
- 2) 深林真理（協力企画） JICA 地球環境部水資源第二課
- 3) 井ノロー善（評価分析） 三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング
- 4) 安土和夫（通訳） 日本国際協力システム（JICE）

1-3 対象プロジェクトの概要

プロジェクトの概要は下表のとおり。また、評価時点のPDM（ver2）およびPO（ver1）は、添付資料3 合同中間レビュー報告書 Annex-4 および5を参照。

なお、省庁改編に伴い、実施機関の名称が「農業・水利・水産資源省（MAHRH）」から「農業・水利省（MAH）」に変更となった。このため、PDM（ver2）で例えば「DRAHRH」と記載されている県支局の現在の名称は、「DRAH」となる（水産資源 RH：Ressources Halieutiques 部分を削除）。

表 1 プロジェクトの概要

実施機関	農業・水利省（MAH） ・水資源総局（DGRE） ・衛生・汚水・廃棄物総局（DGAEUE） ・中央プラトー地方局（DRAH/PCL）
R/D 署名日	2009年3月30日
協力期間	2009年6月～2013年6月（4年間）
上位目標	中央プラトー地方における保健・衛生環境が改善される。
プロジェクト目標	対象コミューン（ウブリテンガ県全コミューン、ガンズルグ県とクルウェオゴ県のパイロットコミューン）の給水施設の維持管理状況及び住民の衛生行動が改善される。
成果	0. PDMの指標が確定する。 1. 対象コミューンで維持管理システムの改革に則った組織体制が整う。 2. 村落組織の給水施設運営維持管理能力が強化される。 3. 給水施設運営維持管理にかかるスペアパーツ供給及び修理体制が改善される。 4. 中央プラトー地方のパイロット3コミューンにおける村落住民の衛生行動が改善される。 5. 各県の県支局が給水及び衛生状況のモニタリング・評価を実施し、コミューンに対し支援が行えるようになる。

## 第2章 中間レビューの方法

### 2-1 中間レビューの手法

本レビュー調査は、JICA「新 JICA 事業評価ガイドライン 第1版」に基づき、ログフレームを用いた手法に沿って実施した。JICA 事業評価ガイドラインによる評価は、以下の手順で構成されている。

- ① プロジェクトの計画時に策定され、プロジェクトの目標、成果、活動、投入、進捗状況や達成度を把握する指標及び外部条件で構成される PDM を事業計画とし、評価デザイン（評価グリッド）を確定する。
- ② 資料精査、プロジェクト関係者への質問票配布による情報収集、関係者へのヒアリング調査を通じ入手した情報を基に、中間レビュー実施時の現状を実績・実施プロセス・因果関係の観点から把握・検証する。
- ③ 経済協力開発機構（OECD）開発援助委員会（DAC）評価 5 項目（「妥当性」、「有効性」、「効率性」、「インパクト」、「持続性」）の観点から、プロジェクトの成果をレビューする。
- ④ 上記①、②、③を通じ、プロジェクトの成否に影響を及ぼした要因の特定を試み、プロジェクトの残り期間の活動及び上位目標達成に対する提言を纏める。

表 2 PDM の構成要素

上位目標	プロジェクトを実施することによって期待される長期的な効果。 プロジェクト終了後 3~5 年程度で発現する効果。
プロジェクト目標	プロジェクト実施によって達成が期待される効果。
成果	プロジェクト目標達成のためにプロジェクトが生み出す財やサービス。
活動	成果を生み出す為に投入を用いて実施する具体的な行為・作業。
指標	成果、プロジェクト目標、上位目標の達成度を測るもの。客観的に検証できる基準。
指標データ入手	指標を検証するための情報源。
外部条件	プロジェクトでコントロールできないが、プロジェクトの成否に影響を与える外部要因。
前提条件	プロジェクトを開始するための必要条件。
投入	プロジェクトの成果を生み出すために必要な資源。

更に、本プロジェクトの中間レビューに適用される評価 5 項目の定義は以下表 3 の通りである。

表 3 レビュー5項目

項目	内容・評価の視点
妥当性	レビュー時点においての、プロジェクト目標、上位目標が妥当であるかどうか、及びブルキナファソ政府の政策、裨益者のニーズ、日本の援助政策との整合性の観点から検討する。
有効性	プロジェクトの成果の達成の度合い、及び成果がプロジェクト目標の達成度にどの程度結びついているかを検討する。
効率性	プロジェクトの投入から生み出される成果の程度は、タイミング、質、量の観点から妥当であったかどうかを分析する。
インパクト	プロジェクトが実施されたことにより生じる正・負の波及効果を、当初予期しなかった効果も含め検討する。
持続性	協力終了後、プロジェクトによってもたらされた成果や効果が持続されるか、あるいは拡大されていく可能性があるかどうかを予想するために、制度的（政策的）側面、財政的側面、技術的側面からプロジェクトの持続性を見込みを考察する。

## 2-2 主なレビュー調査項目・設問と必要な情報・評価指標

本レビュー調査においては、以下の評価設問を中心に調査を実施した。

- ① 2011年5月時点（プロジェクト第2年次終了時点）での投入、活動、成果、プロジェクト目標、上位目標に関する進捗あるいは達成可能性。
- ② 本プロジェクトで設定された上位目標、プロジェクト目標はブルキナファソ国のニーズ、政策及び我が国の援助政策に合致しているか。
- ③ プロジェクトの成果とプロジェクト目標の関係。
- ④ プロジェクトの投入と成果の関係。また投入の質の確認。
- ⑤ プロジェクト実施により発現されたインパクトの確認。またその因果関係の分析。
- ⑥ プロジェクト目標の達成は中間レビュー時点でどの程度見込めるのか。
- ⑦ 最後にプロジェクト及び各成果の持続性について、プロジェクト終了後もブルキナファソ側の自助努力で担保されるのかどうかを検証。

## 2-3 データ収集方法

評価グリッド（添付資料4）に基づいて以下の情報・データを収集し、レビュー分析を行った。

### (1) 文献・既存資料調査

レビューした主な資料は以下の通り。

#### 政策文書等

- 飲料水・衛生供給国家計画（PN-AEPA）
- 村落・準都市部の飲料水供給水利施設の管理システム改革方針（Reforme）（大統領令第514号）

## プロジェクト情報

- PDM (Ver.2) 及び PO (Ver.1)
- ブルキナファソ国中央プラトー地方給水施設管理・衛生改善プロジェクト中間報告書 (2011年5月)
- ブルキナファソ国中央プラトー地方給水施設管理・衛生改善プロジェクト月例報告 (2011年8月)
- 事業進捗報告書 1、2、3
- 第2回合同調整委員会報告書
- 第3回合同調整委員会報告書
- ブルキナファソ側の評価報告書 (Rapport d'évaluation de la partie burkinabè)

### (2) インタビュー調査

資料レビューに加え、本プロジェクト関係者へのインタビュー調査を実施した。事前に、カウンターパート機関である MAH (DGRE、DGAEUE、DRAH/PCL)、実際にプロジェクト活動を展開しているコミューン、(設立された) 水利用者組合 (AUE)、技術支援ゾーン (ZAT) /技術指導ユニット (UAT) 及びポンプ修理工、プロジェクトに従事する日本人専門家、ローカルコンサルタントを対象に質問票を作成し配布の上 (配布質問票数 300)、それを基にインタビュー調査を実施した。また、給水・衛生分野で活動する国連児童基金 (UNICEF) 及びドイツ国際協力公社 (GIZ)、学校運営委員会支援プロジェクト (PACOGES) 日本人専門家、青年海外協力隊員 (水の防衛隊) に対しても聞き取り調査を行った。

## 第3章 プロジェクトの実績・調査結果

### 3-1 投入実績

合同レビュー調査団は、R/D、PDM (ver.2) にしたがって、以下の通り概ね予定通り日本側、ブルキナファソ側双方が投入を行っていることを確認した。

なお、日本側投入については、R/D で約束された日本側コミットメント額（注：業務実施契約/専門家派遣経費を除く）630,520,000 セーファーフラン (FCFA) (2009年2月の換算レートで116,118,000円) に対し、第2年次終了時点での予算執行率は82.9%となっている（第2年次終了時点での日本側支出総額は96,350,859円）。

#### 3-1-1 専門家派遣

専門家派遣、および専門家の現地業務に関しては、概ね計画通り派遣され投入が実施された。詳細は添付資料3 合同中間レビュー報告書 Annex 6-a を参照頂きたい。

#### 3-1-2 国別研修

2009年度及び2010年度にカウンターパート (C/P) 計9名に対し下表4のとおり国別研修（本邦研修）を実施した。詳細は添付資料3 合同中間レビュー報告書 Annex 6-b の通り。

表4 国別研修一覧

研修名	人数	期間
平成21年度（国別）「給水・衛生管理」（ブルキナファソ）	2名	21日間
平成21年度（国別）「給水・衛生管理（高官）」（ブルキナファソ）	2名	9日間
平成22年度（国別）「給水・衛生管理」（ブルキナファソ）	5名	14日間

#### 3-1-3 供与機材・携行機材

13,550,750円（うち現地調達2,071,000FCFA）分の機材調達（供与機材・携行機材）が実施された。主な機材は車両、各コミュニケーション向けデスクトップコンピューター、無停電電源装置、オートバイ等である。詳細については、添付資料3 合同中間レビュー報告書報告書本文4-1-1-2 および Annex 6-c を参照頂きたい。

#### 3-1-4 在外事業強化費（現地業務費）

第2年次までに66,304,246円が現地業務費（在外事業強化費）として投入された。これは、供与機材・携行機材以外のプロジェクト支出経費に、ジニアレ事務所の整備費および車両・オートバイ保険料を足した金額である。詳細については、添付資料3 合同中間レビュー報告書本文4-1-1-2 および Annex 6-d を参照頂きたい。

#### 3-1-5 ブルキナファソ側負担事項

R/D に記されているブルキナファソ側の投入は以下の通りとなっている。

- ✓ C/P の配置
- ✓ 補助的人材（秘書、経理、ドライバー、ガードマン）等の雇用
- ✓ 日本人専門家の事務所スペース及び光熱費

- ✓ 資料・情報の提供
- ✓ 衛生設備に必要な一部資材

C/P として、MAH 本省の水資源総局長以下 5 名、地方局及び県支局に 42 名が配置されている。特筆すべきは、通常ブルキナファソでは活動の実質的 C/P として時限的「ナショナル・コーディネーター」を設置するが、本プロジェクトでは時限的な設置ではなく、本来業務として MAH の中央プラトー地方局長が兼任する体制となっている。

他方で、中央プラトー地方局水資源課職員がプロジェクト開始当初 4 名配置されていたが、第 2 年次開始時点で全員が異動・留学でプロジェクトを離れることとなった。更に、2009 年度のブルキナファソ側の C/P 予算については執行されなかった。これは予算要求時（2008 年）にプロジェクト R/D が未締結だったために予算要求できなかった事に起因している。この結果、補助的人材の経費は全て日本側で支払われている。詳細については、添付資料 3 合同中間レビュー報告書 Annex 6-d を参照頂きたい。

### 3-2 実施プロセス

プロジェクトの実施プロセスは良好である。合同調整委員会は過去 3 回開催されており、プロジェクトに関する最終意思決定機関として機能している。また PDM 変更等の重要事項の協議に関しては、別途タスクフォースチームを結成し検討を行うシステムとなっている。日本人専門家とブルキナファソ側 C/P 間、日本人専門家とローカルコンサルタント間のコミュニケーションは良好であり、問題発生時には迅速に対応する体制が整えられている。関係者の密なコミュニケーションが 2 年間という短時間で計 271 の AUE の設立に寄与したと考えられる。

ブルキナファソ側も高いオーナーシップでプロジェクトに取り組んでいる。特に給水問題は人々の生活に直結する課題であり、「PROGEA（本プロジェクトの略称）は我々のプロジェクトである」との意識のもと率先して各活動に貢献している。また、日本人専門家全員がブルキナファソをはじめ、西アフリカ仏語圏での業務経験を有しており、この事が今回の順調な活動に貢献している。

### 3-3 成果の達成状況

---

#### 成果 0 : PDM の指標が確定する

---

PDM の指標は確定している。

2010 年 9 月に開催された第 2 回合同調整委員会において、各成果の PDM 指標について議論が行われた。これを受け、タスクフォースが結成されそれまでに収集した給水・衛生関連情報、ベースライン調査の結果をもとに、プロジェクト活動の成果がより定量的かつ客観的に評価できるよう、PDM の指標の見直しが実施された。検討された PDM 改定案は JICA に提出され、JICA ブルキナファソ事務所と MAH の間で PDM 変更に関するミニッツが取り交わされた。

---

#### 成果 1 : 対象コミュニティで維持管理システムの改革に則った組織体制が整う

---

PDM で定義された本成果の指標は以下の通りとなっている。

- ✓ 対象コミュニティの 9 割以上の ZAT・UAT 普及員が研修を受講し、8 割以上の普及員が確認テ

ストに合格する。

- ✓ 2010年5月末までに、パイロット3コミュニティのAUEが形成される。
- ✓ 2011年2月までにパイロット3コミュニティと同コミュニティの8割のAUEとの間で、給水施設運営維持管理にかかる協定が締結される。
- ✓ 2011年6月までにウブリテンガ県のパイロットコミュニティ以外のコミュニティのAUEが形成される。
- ✓ 2012年2月までにウブリテンガ県のパイロットコミュニティ以外のコミュニティと同コミュニティの8割のAUEとの間で、給水施設運営維持管理にかかる協定が締結される。
- ✓ 2013年2月までに、対象コミュニティと同コミュニティの8割の給水ポンプ修理業者との間で、保守・点検にかかる委託契約が締結される。

以下で示す通り PDM で設定された目標指標を満たしており、成果1達成に向けて順調に活動が実施されている。成果1は ZAT 及び UAT 普及員の技能向上と共にパイロットコミュニティ及びパイロットコミュニティ以外のコミュニティ（対象6コミュニティ）における給水施設維持管理システムの制度構築に関するものである。実際の活動は2009年9月～2010年1月に実施されたベースライン調査の結果を受け、Dapelogo、Toeghin 及び Zorgho のパイロットコミュニティが選定され、2010年2月より活動が開始された。パイロットコミュニティ以外の対象6コミュニティ（全てウブリテンガ県に所在）については、2010年12月に実施された Reforme コミュニティワークショップより活動が開始された。

#### ZAT 及び UAT 普及員の技能向上

本プロジェクトで重要な役割を担う農業・水利省地方局（DRAH）の技術支援ユニットである ZAT 及び UAT の能力強化に関する活動である。両者とも給水・衛生分野の活動では不可欠な存在であり、その担うべき役割も重く、能力強化はプロジェクトの効果を発現する上で重要である。プロジェクトでは、第1年次には DRAH の給水管理担当官及び ZAT 職員を対象に、第2年次には UAT 職員にも拡大し Reforme 研修を実施した（それぞれ3日間、5日間）。以下は第1年次及び第2年次に実施した確認テストの結果である。プロジェクト内で設定された基準点（70点）を大きくクリアし、基準点を越えた普及員の割合も第1年次が70%、第2年次が85.5%であることが確認された<sup>1</sup>。

表 5 確認テストの受験者数及び結果

	第1年次	第2年次
受験者数	31	63
平均点	78	81.4

出典：事業進捗報告書及び中間報告書

#### パイロットコミュニティでの活動実績

下表は2年次終了時点で設立された AUE の数である。パイロット3コミュニティの全76村落で計80のAUEが設立された。AUE事務局メンバーは委員長他書記、会計、衛生担当、情報担当等で構成され、全員が無給のボランティアベースでの活動となる。事務局メンバー選出に関しては、利用者の信頼を得る為に無記名投票による民主的な方法を推奨し、その選出方法については各村落の決定に委ねられた。また、設立されたAUEに対しAUE認可証取得に向けた支援も実施され、2011年5月

<sup>1</sup> プロジェクト集計の確認テスト結果分析より

時点で計 79 の AUE に対して県知事より認可証が発行された<sup>2</sup>。

**表 6 パイロットコミュニティで設立された AUE 数**

コミュニティ	設立 AUE 数
Toeghin	18
Dapelogo	29
Zorgho	33

出典：中間報告書

またパイロットコミュニティにおける AUE とコミュニティ間の給水施設維持管理委託協定締結支援が行われ、Toeghin コミュニティ全 18AUE、Dapelogo コミュニティ全 29AUE、Zorgho コミュニティは Zempassogo 村を除く 32AUE で締結された。

**表 7 コミュニティ-AUE 間の給水施設維持管理委託協定締結状況**

	Toeghin	Dapelogo	Zorgho
AUE・コミュニティ間の給水施設維持管理委託協定締結	完了	完了	(1AUE 除き) 完了

出典：中間報告書

#### パイロットコミュニティ以外のコミュニティ（6 対象コミュニティ）での活動実績

2011 年 1 月から 5 月にかけてウブリンガ県の 6 対象コミュニティ（Ziniare、Absouya、Nagreongo、Zitenga、Ourgou-Manega 及び Loubilla）の全 191 対象村落において AUE 設立支援が行われた。ブルキナファソ国内の政情不安により、日本人専門家チームは 2011 年 4 月に国外退避となったが、現地活動の現地再委託契約先であるローカルコンサルタント及び C/P を中心に AUE 設立に関する活動が展開され、2011 年 5 月中には全コミュニティで AUE の設立が完了した。

**表 8 6 対象コミュニティで設立された AUE 数**

コミュニティ	設立 AUE 数
Ziniare	49
Absouya	19
Nagreongo	19
Zitenga	46
Ourgou-Manega	28
Loubilla	30

出典：中間報告書

対象 6 コミュニティでの給水施設維持管理委託協定の締結、及び対象コミュニティと同コミュニティの 8 割の給水ポンプ修理業者との間での保守・点検にかかる委託契約に関しては、成果達成に向けて、活動が実施されている。具体的には、第 2 年次に給水施設維持管理委託協定に関する研修を含む AUE 研修が実施された。また、第 3 年次には第 2 回、第 3 回 AUE 研修が 2011 年 10 月、2012 年 1 月に予定されている。

<sup>2</sup> Zorgho コミュニティの Zempassogo 村については、2011 年 5 月に AUE が設立され、現在認可取得申請中である。

---

## 成果 2 : 村落組織の給水施設運営維持管理能力が強化される

---

PDM で定義された本成果の指標は以下の通りとなっている。

- ✓ 2011 年 11 月末までに、ウブリテンガ県のパイロットコミュニティの 7 割以上の AUE がコミュニティに対し水料金の賦課金を支払えるようになり、7 割以上の水場委員会（CPE 等）が必要な水料金の 7 割を徴収できるようになる。
- ✓ プロジェクト終了時まで、パイロットコミュニティ以外のコミュニティの 7 割以上の AUE がコミュニティに対し水料金の賦課金を支払えるようになり、7 割以上の水場委員会が必要な水料金の 7 割を徴収できるようになる。

成果 2 は設立された AUE の給水施設維持管理能力強化に関する活動である。以下主な実績で記すとおり PDM で設定された目標指標達成に向けて着実に活動が実施されている。主な活動は、プロジェクトにおいてマニュアルや視聴覚教材などの AUE 啓発ツールが作成、これらを活用したパイロットコミュニティの AUE に対する研修（2010 年 11～12 月、2011 年 4～5 月と計 2 度）、6 対象コミュニティに対する AUE 研修の実施（2011 年 4～5 月）となっている。また同時に AUE の活動のモニタリング、フォローアップを地方、県の C/P が行う為の能力強化も実施された。

### 成果 2 に関する主な実績は以下の通り

- ✓ 各パイロットコミュニティにアニメーター 1 名を配置し、コミュニティレベルでの行政官と共に賦課金集金を含む給水施設維持管理活動の支援が行われている。
- ✓ 2011 年 5 月時点での賦課金（給水施設につき 10,000FCFA）納入を開始した AUE は計 21 にのぼる。特に Dapelogo は約 68% の AUE が既に賦課金納入を開始している。また、合同レビュー調査団は第 3 年次に入り、Toeghin、Zorgho でも賦課金の納入が進んでいることを確認した。以下は納入された賦課金の合計額である。

**表 9 賦課金の合計額(単位:FCFA)**

	Dapelogo	Toeghin	Zorgho
AUE からコミュニティに納入された賦課金の金額	1,060,000	620,000	950,000

出典：中間レビュー現地調査において入手した資料より

- ✓ 6 対象コミュニティについては、前述の通り第 2 年次までに全村落で AUE の設立を達成。第 3 年次には以下の活動が予定されており、これら活動を通して賦課金の支払い、水料金の徴収に関する活動が進められる予定となっている。
  - 対象コミュニティ第 2 回 AUE 研修
  - 対象コミュニティ第 3 回 AUE 研修
- ✓ 利用者からの水料金の支払いについては、Dapelogo 及び Toeghin コミュニティでは全 AUE が徴収を開始しており、Zorgho コミュニティについても、30AUE が開始している。

---

## 成果 3 : 給水施設運営維持管理にかかるスペアパーツ供給及び修理体制が改善される

---

PDM で定義された本成果の指標は以下の通りとなっている。

- ✓ 2012年10月までに、給水ポンプ修理業者がコミューンより要請された保守・点検件数の6割以上に対応できるようになる。
- ✓ スペアパーツの交換に必要な情報（店舗情報、発注手順）を全コミューンが所有している。
- ✓ 軽微な修理にかかる期間が1ヶ月以内に短縮される。

成果3は給水施設運営維持管理を達成する為に、その重要な役割を担うポンプ修理業者の能力・技能向上及びスペアパーツの供給体制の構築を目的としている。以下2011年5月時点での進捗を示す通り、成果発現に向けて順調に活動が展開されている。第1年次では、中央プラトー地方におけるスペアパーツの供給網の把握及びポンプ修理工に関する現状把握が実施された。第1年次に入手した情報、データを基に効果的なパーツ供給体制とポンプ修理工体制の構築に向けた活動計画が第2年次に策定された。ポンプ修理工を対象とした育成研修については、第2年次から開始された。

#### 成果3に関する2011年5月時点での進捗

- ✓ 保守・点検に関する指標に関し、第2年次終了時点での主な活動実績は以下の通りとなっている。
  - ポンプ・スペアパーツ・修理工に関する情報収集及び整理
  - ポンプ修理工対象のReformeワークショップの開催
  - ポンプ修理工の認可
  - 修理工組合の組織化・強化を含むポンプ修理工の能力強化研修
- ✓ スペアパーツに関する指標に関し、第2年次終了時点での主な活動実績は以下の通りとなっている。
  - ポンプ機種別スペアパーツ流通経路、販売店網、在庫保管等のデータ整理
  - スペアパーツ流通網のデータ更新と情報共有
  - パーツ供給網改善計画の検討

また成果3に関する活動の中で、以下の効果が確認された。

- ✓ ポンプ修理工は自身のビジネス拡大に直結する本プロジェクトの活動及びその成果に対し高い関心を示しており、積極的にプロジェクトに関与している。
- ✓ ポンプ修理工組合を組織・強化したことにより、ポンプ修理工同士の横の連携を生み出している。また技能レベル、所有する機材によってLevel 1とLevel 2と異なる営業認可をDRAH/PCLが付与することにより、Level 1とされた修理工の技能習得に対するモチベーションが生まれた。

なお、軽微な修理にかかる期間に関する指標については、具体的な活動は第3年次以降に予定されており、中間レビュー時点で評価対象の活動としない。

他方で長期的な課題として、ポンプ修理工の識字能力の向上が挙げられた。フランス語での読み書きに不自由する修理工が多く、多くのペーパーワークを伴う契約業務や簿記作業について対応できない修理工が確認された。ポンプ修理工自身もこの課題については認識している点である。プロジェクトでは、弟子にフランス語の読み書きができる人を雇用する等を奨励している。

---

#### 成果 4 : 中央プラトー地方のパイロット 3 コミューンにおける村落住民の衛生行動が改善される

---

PDM で定義された本成果の指標は以下の通りとなっている。

- ✓ 衛生改善の啓発・教育プログラム及びマニュアルが作成される。
- ✓ パイロット 3 コミューンの村落で衛生啓発・教育プログラムの実施者（教員、保健所員、行政機関の衛生担当者、住民アニメーター）が 600 名以上育成される。
- ✓ パイロット 3 コミューンの村落で衛生啓発・教育プログラムの実施者による衛生改善の啓発活動が毎年 6 回以上実施される。
- ✓ 公共衛生設備維持管理マニュアルが作成され、公共衛生設備・行動の管理システムが構築される。
- ✓ 公共衛生設備維持管理マニュアルに基づき、衛生設備・行動に係る、モニタリング・評価が各サイトにおいて年 2 回以上行われる。
- ✓ 公共衛生設備（学校等の公共トイレ）が住民自身によって維持管理される。

成果 4 は給水施設維持管理活動と並ぶ本プロジェクトの柱である衛生行動改善のコンポーネントに関する成果である。活動は 3 パイロットコミュニティのみを対象としているが、関係するステークホルダーは MAH に加えて、保健省、国民教育識字化省とより広がっている。活動の目的は、パイロットコミュニティにおける村落住民の衛生行動改善であり、主に啓発活動ツールの策定及び衛生啓発・教育研修の実施者の育成を行うこととしている。

以下 2011 年 5 月現在の進捗で詳しく解説している通り、活動は順調に実施されている。第 1 年次に衛生活動・教育教材の策定を行い、行政及び村落レベルでの人材育成を実施した。第 2 年次には、村落レベルでの衛生啓発・教育活動の実施・モニタリングが行われている。

#### 成果 4 に関する 2011 年 5 月時点での進捗

- ✓ 以下の衛生啓発・教育教材が策定された。
  - 衛生行政指導者用マニュアル
  - 住民衛生アニメーター及び教員用衛生啓発・教育活動実践ガイド
  - 啓発用ツールイメージ（参加型衛生改善（PHAST）カード）
  - 衛生行動・設備管理マニュアル
- ✓ これら策定された教材は第 1 年次終了後に利用者からのフィードバックを受け、適宜改訂が行われ第 2 年次に利用されている<sup>3</sup>。
- ✓ 人材育成に関してはカスケード方式で衛生啓発プログラムの実施者の育成が進められている。行政指導者研修において、行政スーパーバイザー（地方、県レベルの各省職員）、行政指導者（県、コミュニティの各省職員）に対し実施。研修を受けた行政指導者が住民衛生アニメーター研修及び衛生教育教員研修を実施した。2011 年 5 月時点で育成された人材は以下の通りである。

---

<sup>3</sup> 第 3 年次開始時にも第 2 年次の活動を通して浮き彫りになった課題や修正点のフィードバックが行われた。これらを修正したものが最終版となる予定である。

**表 10 衛生啓発・教育プログラムの実施者数**

衛生行政指導者	58
住民衛生アニメーター	430
小学校教員	400
合計	888

出典：中間報告書

- ✓ 研修を受けた住民アニメーター及び衛生教育教員は各村落、学校において衛生啓発・教育活動を実施している(2011年9月時点で、村落地域で合計参加人数14,268人を対象に436回、学校では309クラスを対象に388回実施されている<sup>4)</sup>。

合同レビュー調査団は、プロジェクトで開発された衛生啓発・教育教材が衛生活動の全国展開用教材としてブルキナファソ政府において認定され、今後活用されていくことを確認した<sup>5)</sup>。また初等教育では衛生教育は公民・道徳教育の一環として取り上げられている内容であり、2009年に策定された教科外教育の新設課題8テーマの1つとしても位置づけられており、そのカリキュラムの中に組み込むことから、持続性が担保されている可能性が高いと確認した。他方で、行政指導者には定期的な人事異動がある。また育成された衛生アニメーターは無給での活動となり、活動の持続性及び衛生アニメーターのモチベーションの確保の観点から課題を残している。

---

**成果5** : 各県のDPAHが給水及び衛生状況のモニタリング・評価を実施し、コミュニティに対し支援が行えるようになる

---

PDMで定義された本成果の指標は以下の通りとなっている。

- ✓ 2010年より年4回、各DPAHによる村落の給水施設稼働率、AUEの財務状況、水場委員会の水料金徴収率及び給水ポンプ修理業者の給水施設の保守・点検状況にかかるモニタリング・評価が実施される。
- ✓ 2010年より年4回、各DPAHによる衛生改善状況にかかるモニタリング・評価が実施される。
- ✓ モニタリング・評価の結果必要とされた支援・助言のうち7割が、各DPAHの指示に基づき実施される。

成果5は主にプロジェクト活動及びその成果の持続性の確保を目的とした活動である。地方行政機関が、コミュニティやAUEによる給水施設維持管理や衛生改善活動の状況を定期的に把握し、その進捗状況に応じた適切な支援をしていくための体制を構築する事を目指している。特にコミュニティ及びAUEの活動のモニタリング・支援を担う地方行政機関の能力強化、モニタリングシートの整備、持続可能なモニタリング、支援体制の構築を本プロジェクトでは進めている。

**成果5に関する2011年5月時点での進捗**

- ✓ 中央プラトー地方局職員を対象としたReforme研修の実施。成果1で示す通り、第1年次及び第2年次に実施した受講者の理解度確認テストの結果、設定した基準以上の成績であることが確認できた。

<sup>4)</sup> プロジェクト収集データより

<sup>5)</sup> 本情報は農業・水利省へのヒアリングにより入手。

- ✓ 持続可能なモニタリング体制の構築に係るコンポーネントは4つあるが、それぞれについて現状と課題、及び改善に向けた方策について整理が行われた。その内容は以下の通り。

**表 11 モニタリング体制構築に係る取組に向けた課題と方策**

コンポーネント	現状と課題	改善に向けた方策
DPAH、ZAT/UAT による AUE 活動のモニタリング・支援	ZAT/UAT の担当業務は水と衛生に関わるものだけでなく、農業や社会インフラ整備など多岐に亘る。年 4 回モニタリングを実施した場合、処理すべき情報が膨大・煩雑になる。また DPAH、ZAT/UAT 人員体制を考慮すると、年 4 回のモニタリング実施自体が困難である。このため、得られた情報をコミュニティと共有・分析し、フィードバックするまでに至らない可能性が非常に高い。	モニタリング実施の回数を年 2 回とする。これに関しては PDM の改訂が必要となるため、中間レビュー時において PDM を改訂できるよう協議を重ねていく。
	プロジェクト終了後も AUE が ZAT/UAT に定期的に報告を続けていくことを想定すると、モニタリングシートは可能な限り簡潔なものであることが望ましい。しかし、プロジェクトのインパクトを量るためには、ある程度詳細なデータの収集が必要となるため、どうしても内容が多くなってしまう。	モニタリング項目を財務状況とハンドポンプの維持管理状況に絞り、どちらも簡易な内容とする。これらはプロジェクト終了後も AUE によって継続される。他方、プロジェクトのインパクトを量るための情報収集は、専用のシートを作成し、現地コンサルタントのアニメーターが実施する。
	給水施設管理委託協定はコミュニティと AUE の間で締結される。また、原則として全てのハンドポンプはコミュニティに帰属するため、コミュニティ自身が AUE の給水施設維持管理活動状況をしっかりと把握する必要がある。	年に 2 回、財務状況とハンドポンプの維持管理状況をコミュニティに提出することを、AUE とコミュニティとの契約内容に盛り込む。
DPAH、ZAT/UAT によるコミュニティの活動のモニタリング・支援	ポンプ修理工とコミュニティとの契約が締結に至っていないため、未実施。3 年次の初めから開始予定。	—
ポンプ修理業者によるポンプ維持管理状況のモニタリング・支援	ポンプ修理業者対象の研修などの機会を通じて、非識字者が多いことが判明した。	ポンプ修理業者がコミュニティに提出する巡回レポートの作成に当たっては、非識字者に留意した内容とする。
住民衛生アニメーター及び教員による衛生改善活動のモニタリング・支援	ZAT/UAT の担当業務は水と衛生に関わるものだけでなく、農業や社会インフラ整備など多岐に亘る。年 4 回モニタリングを実施した場合、処理すべき情報が膨大・煩雑になるため、それらをコミュニティと共有・分析し、フィードバックするまでに至らない可能性が非常に高い。	モニタリング実施の回数を年 2 回とする。これに関しては PDM の改訂が必要となるため、中間レビュー時において PDM を改訂できるよう協議を重ねていく。
	衛生行政指導者が各村を巡回し、モニタリングを実施することは、彼らの人員体制や本来業務との兼ね合いから非常に困難である。	各村に存在する AUE は年に 2 回必ずコミュニティにレポートを提出し、その情報は ZAT/UAT、DPAH、DRAH/PCL に共有される。このルートを通じて、AUE レポートと一緒に衛生状況のモニタリング結果もコミュニティに提出するようにする。これにより、年に 2 回は必ず衛生啓発について考える機会が生まれるため、持続性の担保にも繋がる。学校に関しては、既存の教育支援システムの中に組み込む。

出典：中間報告書

- ✓ DPAH、ZAT/UAT の担当業務及びモニタリング業務の負荷を考慮し、年 4 回のモニタリングの実施は困難との認識から、年 2 回に変更する方向で調整が進んでいる。

### 3-4 プロジェクト目標の達成状況

プロジェクト目標	対象コミュニティ（ウブリテンガ県全コミュニティ、ガンズルグ県とクルウェオゴ県のパイロットコミュニティ）の給水施設の維持管理状況及び住民の衛生行動が改善される。
指標	<p>[指標 1] 対象 9 コミュニティ（ウブリテンガ県全コミュニティ、ガンズルグ県とクルウェオゴ県のパイロットコミュニティ）の給水施設の稼働率が現在の 7 割から 8 割に向上する。</p> <p>[指標 2] パイロット 3 コミュニティ（ウブリテンガ県、ガンズルグ県及びクルウェオゴ県のパイロットコミュニティ）の住民の水を取り巻く衛生行動（10 項目）の少なくとも 6 割が改善される。</p>

プロジェクト目標である、「対象コミュニティ（ウブリテンガ県全コミュニティ、ガンズルグ県とクルウェオゴ県のパイロットコミュニティ）の給水施設の維持管理状況及び住民の衛生行動が改善される」について、PDM の指標に基づいて分析したところ、以下の状況である。

指標 1：対象 9 コミュニティ（ウブリテンガ県全コミュニティ、ガンズルグ県とクルウェオゴ県のパイロットコミュニティ）の給水施設の稼働率が現在の 7 割から 8 割に向上する。

指標 1 の達成見込みは高い。給水施設の維持管理を行う AUE はパイロット/対象 9 コミュニティ全てで設立されており、特にパイロット 3 コミュニティでは「水料金、賦課金の設定・公布」、「コミュニティ・AUE 間の給水施設維持管理委託協定の締結」が全 AUE で完了している。今後は対象 6 コミュニティに対し、パイロットコミュニティと同様の給水施設維持管理の具体的な活動（資金の積み立て、賦課金の納入、修理業者との契約等）を進めていく計画となっている。またポンプ故障時に連携するポンプ修理業者への研修及びポンプ修理工組合の組織化も第 2 年次までに完了している。

指標 2：パイロット 3 コミュニティ（ウブリテンガ県、ガンズルグ県及びクルウェオゴ県のパイロットコミュニティ）の住民の水を取り巻く衛生行動（10 項目）の少なくとも 6 割が改善される。

衛生行動変容に関する活動は順調に実施されている。衛生啓発に関するマテリアルはプロジェクトにおいて開発された。衛生啓発・教育分野における研修は、2 段階で実施され、行政指導者を対象とした行政指導者研修、住民アニメーターと教員を対象とした育成研修があり、それぞれ完了している。研修を受けた住民アニメーター及び教員は村落、小学校において衛生啓発・教育活動を行っている。また、モニタリングを行う為の基本データの整備が進行中であり、今後モニタリングに関する具体的な活動を実施予定となっている。既述のように、学校での衛生教育活動について、初等教育では衛生教育は公民・道徳教育の一環として取り上げられている内容であり、プロジェクト終了後も活動が継続される可能性がある。他方で、住民アニメーターは無給での活動となっており、村落レベルでの衛生啓発活動に対するモチベーションの維持や活動の定着は今後の要検討課題となっている。

### 3-5 上位目標の達成見込み

上位目標	： 中央プラトー地方における保健・衛生環境が改善される。
指標	： [指標 1] 2015 年までに改善された水源を継続的に利用できる人口の割合が現在の 7 割から 8 割以上になる。 [指標 2] 2015 年までに給水施設の常時稼働率が現在の 7 割から 8 割以上になる。 [指標 3] 2015 年までに住民の水を取り巻く衛生行動が改善される。

以下の理由から上位目標の指標 1 及び 2 の達成可能性はあると判断した。

指標 1 について、改善された水源を継続的に利用できる人口の増加には給水施設の建設が必要となっている。国家計画である PN-AEPA で推進されている給水施設建設計画が全国的に順調に進んでおり、中央プラトー地方においても、水のアクセス率は 2009 年の 69.9%から 2010 年には 71.45%と改善されており、今後も 2015 年のターゲットを目指して改善されていくことが予想される<sup>6</sup>。

指標 2 については、日本以外にも中央プラトー地方での AUE 設立を含む Reforme 支援が実施・検討されており、達成可能性はあると判断される。具体的には SOS-Sahel はクルウェオゴ県において AUE 設立を支援しており、またフランス・リムーザン地方自治体の協力である FASOLIM はウブリテンガ県を対象とした給水支援を実施予定であり、オランダの大手 NGO である SNV も中央プラトー地方での支援を検討している。以下は本プロジェクトで対象とされている 9 コミューンの水給水施設稼働率の推移を示したものである。プロジェクト開始の 2009 年以降改善していることが分かる。

表 12 給水稼働率の推移（プロジェクト 9 コミューン）（2008-2010）

	単位：%		
	2008	2009	2010
Zorgho	84.45	92.69	93.33
Toeghin	89.74	93.90	96.70
Dapelogo	82.27	82.04	80.18
Ziniare	73.60	76.35	76.90
Absouya	78.63	81.15	87.40
Loumbila	82.96	84.89	83.56
Nagreongo	78.26	78.33	87.40
Ourgou-Mangeda	75.89	80.87	78.76
Zitenga	70.41	81.07	81.25

出典：給水施設インベントリーデータベース（INOH）（2011）

これらに加えて、ブルキナファソ側も本プロジェクトを Reforme 推進のパイロットプロジェクトとして位置づけており、その成果の確認後に拡大・展開方法、整備不備の是正等の検討を進めることになっており、これも指標 2 について達成可能性が高いと判断した理由の 1 つである。

他方で、現時点では中央プラトー地方全 20 コミューンのうち、Reforme が実際に導入されているのは本プロジェクトを実施している 9 コミューンのみに留まっていること、またブルキナファソ側で全国展開に向けた展開計画や予算措置について現時点で定まっていないことは課題と考えられる。加えて MAH をはじめ、地方局、コミュニティの組織体制は人員面（スタッフ数、Reforme 及び衛生に関する知識・技能）、財政面とも脆弱であり、特に現場での活動（技術支援やモニタリング）の実施を

<sup>6</sup> DGRE, DGAEUE, ONEA : Programme National d'Approvisionnement en Eau Potable et d'Assainissement à l'horizon 2015 (PN-AEPA 2015), Rapport Bilan Annuel au 31 décembre 2010.

担う人員不足は深刻となっている。プロジェクト終了後の成果の継続については、課題がある。

指標 3 については、モニタリングは 3 年次以降の活動であり、現時点で評価不能である。ただし、既述の通り特に村落での活動について持続性が担保されておらず、関係者による検討が必要である。

## 第4章 レビュー結果

### 4-1 評価 5 項目のレビュー結果

DAC5 項目によるレビュー結果を表 13 に示す。レビュー結果は 5 段階で評価を行っている (High が最も高く、次いで Relatively High、Moderate、Relatively low と続き、low が最も低い)。

表 13 DAC5 項目によるレビュー結果

項目	レビュー結果	概要
妥当性	High	<ul style="list-style-type: none"> <li>ブルキナファソ側の国家計画である PN-AEPA 及び「村落・準都市部の飲料水供給水利施設の管理システム改革 (Reforme)」が打ち出している AUE の形成、給水担当者の能力強化等に変更はない。</li> <li>また JICA 国別事業実施計画とも合致している。</li> <li>中央プラトー地方をプロジェクト対象地域としたことは、我が国の無償資金協力による給水施設建設及び日本政府出資の UNICEF プログラムが共に同地方で実施されていたことから適切。</li> <li>給水施設維持管理活動に関して、本プロジェクトを通し本省から村落レベルまで、ブルキナファソ側の高いオーナーシップが示されている。</li> <li>既に政策化している Reforme に沿う形でプロジェクトが形成され、活動が実施された事が促進要因の 1 つとなったと考えられる。</li> <li>給水施設維持管理活動及び衛生行動の改善は「人づくりプロジェクト」であり、課題を現場レベルで少しずつ解決・克服するものであり、本プロジェクトのように現場レベルに日本人専門家が入り込んで行う意義は高い。</li> </ul>
有効性	High	<ul style="list-style-type: none"> <li>PDM で定義された成果の達成に向けて順調に活動は実施されている。</li> <li>給水施設稼働率の改善に関するプロジェクト目標が達成される可能性は高い。</li> <li>Reforme という国家政策に沿ったプロジェクトであり、C/P を含め「ブルキナファソのプロジェクトである」との認識が高い。</li> <li>他方で衛生活動の改善については、村落・学校レベルにおける住民の衛生行動の変容を実現し、定着させるために一層の工夫が期待される。特にプロジェクト終了後の活動の継続性について対策が求められる。</li> </ul>
効率性	Relatively High	<ul style="list-style-type: none"> <li>ブルキナファソ、日本双方とも合意した投入をほぼ予定通り行った。</li> <li>業務実施契約型で支援が行われ、日本人専門家の高いプロ意識により活動は順調に進んでいる。</li> <li>現地再委託契約を行ったことで、効率的な技術移転が実現している。</li> <li>国別研修のほか、課題別研修枠にてプロジェクト関係者が本邦研修に参加。帰国後より積極的にプロジェクトに関与していることが確認された。</li> <li>ブルキナファソ側の 2009 年度予算が執行されなかった。この結</li> </ul>

		<p>果、補助的人材の person 費についてはプロジェクト予算で賄うこととなった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>第2年次開始時に C/P 職員が大幅に入れ替わる事態となった。</li> </ul>
インパクト	Moderate	<ul style="list-style-type: none"> <li>プロジェクト目標の達成可能性は高い（特に給水施設維持管理のコンポーネント）。</li> <li>給水施設維持管理の役割を担う AUE が本プロジェクト対象の全コミューンで設立され、機能する為の取組が進められている。</li> <li>研修を通して地方局、コミューンの Reforme 推進に関する行政能力は向上している。</li> <li>9 対象コミューン以外にコミューンからの Reforme 適用化への要望が高まっている。</li> <li>プロジェクト対象地域は限定的であり、中央プラトー地方全域の保健、衛生環境改善については、ブルキナファソ側の活動継続に関する強いコミットメント（含む予算措置）が必要。</li> <li>Reforme 推進を目的とした予算措置の必要がある。</li> <li>課題はあるが、上位目標の達成可能性はある。</li> </ul>
持続性	Moderate	<ul style="list-style-type: none"> <li>PN-AEPA は 2015 年まで変更されない。</li> <li>Reforme 適用化に関する技術は日本人専門家から行政担当官に移転している。</li> <li>ブルキナファソ側の行政の組織的基盤は脆弱。</li> <li>コミューンは 2006 年に設立されたばかりであり、陣容、予算共に不十分であり能力強化が必要。</li> <li>衛生啓発・教育活動に関しては、プロジェクト終了後の活動予算措置が必要。</li> <li>長期的な課題として、衛生アニメーターは無給のボランティアでの活動であり、プロジェクト終了後の継続性に懸念がある。衛生アニメーターのモチベーション向上の枠組み構築を検討すべきである。</li> </ul>

#### 4-2 効果発現の貢献・阻害要因

##### (1) 効果発現に貢献した要因の分析

活動実施促進の要因として以下の2点が挙げられる。

第一に、プロジェクトの活動内容が完全にブルキナファソ側が進める政策・Reforme 適用化と合致していることである。プロジェクト目標及び活動がブルキナファソ政府の方針と整合している為に、プロジェクト及び各活動に対して中央から地方及びコミューンレベルに至るまで C/P や関係者の理解や同意を比較的容易に得ることが可能となっている。またこの事がブルキナファソ側の高いオーナーシップを引き出す要因の1つにもなっていると考えられる。特に本プロジェクトでは、同国で通常採られている様なナショナル・コーディネーターをプロジェクト用に任命するのではなく、中央プラトー地方局長がナショナル・コーディネーターを兼務する形で実施されており、一層オーナーシップを高めている。

第二に、プロジェクトチーム（日本人専門家）と C/P（行政）、コミューン等の関係者及び現地再委託契約先との緊密な連携がある。通常の定期コミュニケーションに加え、特に現場レベルでの活動の中で生じる様々な問題解決に際し、関係者間で連携し解決策の模索を行う等、プロジェクト推進に大きく寄与した。これには、ブルキナファソにおいて豊富な業務経験を有する総括を

中心に、アフリカ諸国で現場経験を有しフランス語も堪能なメンバーで構成された日本人専門家の貢献が大きいと考えられる。

## (2) 効果発現を阻害した要因の分析

他方で、実施プロセスに関し、以下の課題・阻害要因が確認された。

第一に、低い識字率・教育レベルはプロジェクトのスムーズな実施の障害となった。AUE の設立、行政による承認の取得、会計管理、報告書作成、ポンプ修理工の登録等、本プロジェクトの活動の多くはフランス語による書類事務作業が必要となっている。しかし、AUE 事務局メンバー、ポンプ修理工にはフランス語の読み書きが困難な人が多くこれら作業は容易ではなく、プロジェクトにより現地語への通訳・翻訳、代理記入等支援が必要であった。現地インタビューにおいても、AUE 事務局スタッフやポンプ修理工自身がこれら課題について指摘しており、長期的な課題であることが確認された。

第二に、プロジェクト活動の対象者であるコミューンや村落住民のプロジェクト実施の理解を得る事が当初の想定よりも難しかったことが挙げられる。従来の水場委員会（CPE）による給水施設維持管理システムに対し、Reforme は村落単位でより包括的に給水施設の維持管理を行うものである。また、より多くのステークホルダーを巻き込み、罰則を伴う契約・協定を締結することが求められているが、この新しいシステムの導入に反発する住民は当然おり、特に保守的な考え方の強い村落では反発が強かった。依然として給水については「基本的に政府が担保するもの」という通念が根強く残っており、利用者自身が維持管理活動に参加した同時に受益者負担も求められる Reforme の制度について、理解と協力を得るにはまだ時間が必要な状況であった。

第三に、村落内地区同士の争い、反発の発生がある。Reforme は上述の通り村落レベルでの包括的な給水施設の維持管理を目指す制度であるが、村落内での衝突はプロジェクト促進の課題となっている。衝突の本質はケースバイケースであり、長年に渡る対立もあれば、個人的な感情のしこりもある。プロジェクトでは、問題発生の都度 C/P、コミューン、現地再委託契約先と協議し問題の解決に取り組んでおり、その解決方法及び結果については報告書に取り纏めていくことを予定している。

最後に、対象9 コミューンでの Reforme 推進活動が進み定着が図られる中で、AUE 未設立のプロジェクト非対象コミューン（11 コミューン）との間でギャップが生じている。AUE を中心に受益者負担による給水施設維持管理を進めている中で、従来通りの水場毎での維持管理を実施するAUE 未設立コミューンの住民の存在は対象9 コミューンのみならず、非対象コミューンにおいても給水施設維持管理に関し混乱を生じさせる要因となっている。またポンプ修理工組合は県単位で設立されたが、AUE 未設立コミューンでのポンプ修理に関しては AUE との契約もなく従来通りの方法となっており、ポンプ修理工への能力強化の効果が限定的となっている。更に AUE 未設立地域の存在はプロジェクトで進めているスペアパーツ金額や修理代金の県内統一化を阻む要因にもなっている。

## 4-3 結論（レビュー結果総括）

MAH 中央プラトー地方局を中心にブルキナファソ側の高いコミットメントが確認され、第2年次までの活動が順調に進められていることが確認された。特に対象全9 コミューンにおいて AUE が設

立され、パイロット3 コミューンにおいては賦課金の納入、水料金の徴収が既に開始されている。また、PDM で合意したプロジェクト成果を達成すべく、日本人専門家を中心に関係者が協働して活動を進めて行く基盤がある事も確認した。実施プロセスに大きな課題はない。特に給水施設維持管理のコンポーネントに関してはプロジェクト目標の達成可能性も高い。

他方で、衛生啓発・教育のコンポーネントに関しては、活動は順調に実施されているものの、プロジェクト目標の達成には課題がある。特に衛生行動の変容は決して短期間の活動で実現するものではない。モニタリングを実施しつつ、地道な活動の継続が必要である。

またプロジェクトの持続性について課題が多い。特にブルキナファソ側の組織的脆弱性は課題である。人員体制面では多くのドナーからの支援（プロジェクト）を受けておりそちらへの人員割当もあり慢性的に人員不足にあること<sup>7</sup>、また地方局に関しても設立後 10 年程と若く、現場レベルで従事するスタッフも含めてスタッフ不足の状況にある。財政面でも、現時点でプロジェクト終了後の予算措置は検討されていない。セクター財政支援（ABS）の活用も含めプロジェクト終了後も活動が継続される為には、予算面でもブルキナファソ側の具体的な対策が必要である。

最後に中央プラトー地方内で AUE 設立と未設立の地域が誕生し、これにより給水施設維持管理方法について混乱が生じている村落が確認された（特に AUE 設立と未設立のコミューンが隣接する地域において）。また、ポンプ修理工への支援は中央プラトー地方横断的に実施されているが、その効果発現の為には AUE の設立が必要であり、中央プラトー地方全 20 コミューン中 9 コミューンのみが AUE を設立している現状ではポンプ修理工能力強化の効果は限定的となっている。コミューンでの混乱の解消とポンプ修理工への支援に関する効果の最大化を図る為にも、11 コミューンへのプロジェクト拡大の検討が必要となっている。

---

<sup>7</sup> MAH へのヒアリングでは、現在 45 のプロジェクトが実施中とのことである。

## 第5章 提言

### 5-1 提言

#### (1) 衛生行動改善のための活動について

中間レビューの結果、衛生啓発・教育コンポーネントの持続性の確保についての課題が明らかになった。すなわち、これらの活動を担う人材である行政機関の衛生担当者や教員等の異動、および無給で活動している住民アニメーターのモチベーションの欠如が持続性に影響を及ぼす可能性がある。そこで持続性を確保するための仕組みとして、例えば、コミューンや AUE に集まった賦課金の活用や、コミュニティを巻き込む学校運営委員会等との連携といった可能性を検討すべきである。

#### (2) 中央プラトー地方での対象コミューンの拡大について

本プロジェクトでは、中央プラトー地方全 20 コミューンのうち 9 コミューンにおいて活動を展開しており、残り 11 の対象外コミューンへの対応は、ブルキナファソ国側の自助努力により進められることが前提となっている。しかし残り 11 コミューンへの **Reforme** の適用進捗は芳しくない。本プロジェクトを通して、**Reforme** には多大なコストと時間を要することが明らかになっており、ブルキナファソ国側の財政事情や現場での実施を担う人材不足の現実を鑑みると、非常に困難な状況である。

そのため **Reforme** が導入されているコミューンと未導入のコミューンの間で、給水施設維持管理モダリティを巡る対立や、県レベルで行っているポンプ修理工の育成、組合の組織化、修理代金の統一化等の県内の適用化が阻まれるなどの問題が生じている。プロジェクト対象外のコミューンへの **Reforme** の導入が遅滞すればするほど、このような問題が大きくなり、コミューン間のギャップの拡大からプロジェクトで構築した運営維持管理体制崩壊の危険性も否めない。

また、給水施設維持管理の持続性を考えると、**Reforme** に沿った運営維持管理体制が構築され、一度構築された体制をいかに継続して機能させていくかという点が重要となってくる。本プロジェクトでは、対象 9 コミューンにおいて体制の構築と、この体制が機能するよう支援を行っているが、対象外 11 コミューンにおいて **Reforme** が着手されず、地方・県レベルでの運営維持管理体制の統一が図られなければ、プロジェクトで実施した体制の機能化、つまり持続性の確保につながる取り組みの効果が弱まる懸念が生じる。

従って本プロジェクトによって着実に **Reforme** が進められ、プロジェクト目標の達成も見込まれている中、プロジェクトによって構築された **Reforme** に基づく運営維持管理体制を確固たるものとし、プロジェクトの成果を中央プラトー地方全体で持続的に発現させるために、また中央プラトー地方における給水施設の持続的な維持管理、安全な水へのアクセスの保障のために、支援対象コミューンを残り 11 コミューンにも拡大し、地方・県レベルでの給水施設維持管理体制の確立が不可欠である。

ブルキナファソ側だけでこれを実施できる見通しは現状では厳しいため、日本側は追加対象となる 11 コミューンに対し、これまでの対象 9 コミューンと同様の投入を行うとともに、ブルキナ

ファソ側も対象コミュニティ拡大に伴う必要な投入を行うことを提案する。なお、プロジェクトでは、養成された ZAT/UAT が各村落において AUE の設立や衛生啓発研修を実施していくことが期待されているが、ZAT/UAT は他にも業務を抱える中、相当数の村落をカバーするのは現実には困難である。このため現在は、現地再委託契約先（ローカルコンサルタント）と協力し、AUE の設置や各種研修を行っている。対象コミュニティの拡大に当たっても、ZAT/UAT のみで追加の 530 強の村落に対応することは不可能であり、引き続きローカルコンサルタントの投入を検討する。

対象コミュニティ拡大を想定した改訂 PDM 案および改訂 PO 案は添付資料 3 合同中間レビュー報告書 Annex 7 および 8 の通りである。

### (3) プロジェクト終了後の持続性の確保について（モニタリング、Reforme の促進および衛生行動改善活動の継続）

構築された Reforme 体制に基づく給水施設運営維持管理は、継続的にモニタリングされ、適切に機能するよう指導監督される必要がある。また衛生改善への取り組みも持続性が課題となっている。ブルキナファソ国側は本プロジェクト終了後を見据えた具体的な措置をとることが求められる。例えば、モニタリング、Reforme の促進、衛生啓発活動の継続実施のための予算確保である。

現在、プロジェクト終了後の持続性を維持することを考えた際のブルキナファソ国側の問題は予算である。幸い、PN-AEPA2010 年年次レビューにおいて、Reforme 適用化は給水・衛生分野の優先課題として掲げられており、ABS の予算を Reforme に優先的に適応できるとされている。プロジェクト終了までに、モニタリングなど必要な活動への予算の支出、またドナーの支援がない地域で ABS を活用してブルキナファソ側が本プロジェクトの成果を拡大するなど期待される。そのための枠組み作り等、ABS を活用して予算を確保し、Reforme に優先的に配分する計画を考えるなど具体的な措置が求められる。プロジェクト終了後滞りなく活動が継続されるためには、2013 年度には必要な手続きが行われなければならない。

## 5-2 PDM、PO の改訂案

上述のとおり、プロジェクト対象コミュニティの拡大を想定した改訂 PDM および PO のドラフトを作成し、合同中間レビュー報告書 Annex 7 および 8 に添付した。今後、C/P と日本人専門家で組織されるタスクフォースにより、改訂内容が確定される。併せて、現在の PDM（Ver.2）では成果 5 において年 4 回のモニタリング活動が行われることになっていたものを、ブルキナファソ側のリソースを勘案、無理なく継続できることを重視し、年 2 回に修正する。

## 5-3 その他の特記事項

衛生啓発・教育コンポーネントに関して、本プロジェクトで作成された教材・マニュアル類が、農業・水利省によって全国展開のモデルとして認定された。今後は他ドナーや NGO が衛生啓発活動を行う上で、本プロジェクトの活動やマニュアルが基準となる。政策レベルで採用されることは非常に大きな成果と言え、着実に実施されるよう注視していくことが望まれる。

## 調査日程

	日付 (2011年)	調査行程
1	9月10日	Narita 21:55 -->
2	9月11日	Paris 04:15 (AF277) Paris 11:00 --> Ouagadougou 16:40 (AF548)
3	9月12日	08:00 JICA事務所打ち合わせ 09:00 専門家チーム打ち合わせ 16:00 UNICEF
4	9月13日	08:00 DGRE 16:00 DGAEUE
5	9月14日	07:30 DGRE/DEP 10:45 DRAH/PCL, DPAH-Oubliténga, -Kourweogo et -Ganzourgou 14:00 DRS, DREBA 16:00 ローカルコンサルタント (ANTEA)
6	9月15日	09:30 Commune (Zorgho/Oubritenga) 11:00 AUE, 修理工組合-Zorgho/Ganzourgou 14:30 AUE-Ganzourgou
7	9月16日	08:30 Commune, ZAT- Dapelogo (Ganzourgou) 10:15 AUE-Dapelogo 11:20 修理工
8	9月17日	資料整理
9	9月18日	資料整理
10	9月19日	09:00 Commune Toeghin (Kourweogo) 10:00 AUE (Kourweogo) 11:00 DRS, DREBA, SRE/DPAH 13:45 修理工
11	9月20日	09:15 AUE, Zitenga (Oubritenga) 11:10 Commune Zitenga (Oubritenga) 15:15 GIZ
12	9月21日	13:15-15:45 小野総括 (PROGEA/PCL専門家) 17:00-18:00 中沢専門家 (PACOGES専門家) 18:30-19:00 角田隊員 (volontaire japonais dans le domaine d'AEPA)
13	9月22日	資料整理
14	9月23日	資料整理
15	9月24日	団内打ち合わせ (調査結果の確認)
16	9月25日	団内打ち合わせ
17	9月26日	08:30 合同レビュー調査団打ち合わせ (調査結果の確認) 15:30 プロジェクト専門家・カウンターパートとの協議
18	9月27日	調査結果およびミニッツドラフト協議 プロジェクト第3年次・4年次の活動にかかる協議
19	9月28日	09:00 合同調整委員会 (JCC) à Ziniaré
20	9月29日	09:00 ミニッツ署名 (合同レビュー報告書含む) 11:00 JICA事務所報告 Ouagadougou 20:15 -->
21	9月30日	Paris 06:05 (AF547), Paris 11:00 -->
22	10月1日	Haneda 06:00 (AF282)

PROGEA/PCL 中間レビュー調査 面談者リスト

農業・水利省

Mr. Adama COMPAORE 農業・水利省 次官

調査・計画局

Mr. KARFO Sampana 計画化/モニタリング/評価課長

Mr. NAOPON Abdoulaye モニタリング/評価担当顧問

Mr. SAVADOGO Boukary 職員

水資源総局

Mr. BINGBOURE Jean Mathieu 飲料水供給局長

Mr. BONKOUNGOU Ousmane 飲料水供給局 SDI 課長

Mr. OUBDA Jean 飲料水供給局 SPAT 職員

衛生・汚水・廃棄物総局

Ms. SONDO/SAVADOGO Denis Marie 衛生・汚水・廃棄物総局長

Ms. OUEDRAOGO Baro Josephine 局長

中央プラトー地方局

Ms. TAPSOBA Gisèle 中央プラトー地方局長

Mr. TENSABA Amadou François 中央プラトー地方局水資源課長

Mr. NIKIEMA Barraby 中央プラトー地方局給水課長

Ms. TRAORE Ouou Denise 中央プラトー地方局水資源課社会学担当者

Mr. GNANKINI Moctar 中央プラトー地方局支援担当者

Mr. ILBOUDO P. Bartlielemy ウブリテンガ県農業水利局長

Mr. Nakoulma Boukare クルウェオゴ県農業水利局長

Mr. LAMIEM Banou クルウェオゴ県農業水利局水資源課長

Mr. OUEDRAOGO Eugène ガンズルグ県農業水利局長

Mr. OUEDRAOGO Alaye ガンズルグ県農業水利局水資源課長

経済財務省

Mr. KABRE B. Raphael 協力総局

保健省

Mr. BANON Siaka 公衆衛生・保健教育局

Mr. Compacre Mathieu 中央プラトー地方局課長

国民教育省

Mr. KABORE R. Etienne 調査計画局、中央プラトー初等教育地方局

Mr. DIABOUGA Yabré Joseph 中央プラトー地方局

ローカルコンサルタント（現地再委託契約先：ANTEA 社）

Mr. KI Jean Christophe、ANTEA ブルキナファソ事務所代表者

Ms. Sylviane SOULAMA、ソーシャルエコノミスト

Mr. ZERGO Elie、ANTEA チーム長

Mr. M'BARA Ibraahim、ANTEA ベース長

Mr. KABORE Adama、SOS Sahel コーディネータ

Ms. ZONGO Pascaline、SOS Sahel アニメータ

Mr. Ilboudo D. Edouard、SOS Sahel アニメータ

現場インタビュー：2011年9月15日（木）

9h30～11h00 ZORGO コミュニオン会議室

Mr. SANOU Ludoire、助役

Mr. Soudré Alassane、ZORGO コミュニオン評議員

Mr. YAMWEMBA André、会計担当、ZORGO コミュニオン

Mr. Ouedraogo Alaye、水資源課長

Ms. ILBOUDO Martine、ZAT 長、ガンズルグ水資源地方局

11h00～12h00 AUE 事務局メンバーと会談（コミュニオン ZORGO 会議室にて）

Ms. Congo Victorine、トロド UAT 長、DPAH

Mr. KABORE AMADOU、ゾルゴ南 UAT 長、DPAH

Mr. Pamtaba Souleymane、AUE ボグレ 委員長

Mr. Pamtaba Ablassé、秘書 AUE ボグレ

Ms. Sigbeogo Eveline、経理担当 AUE ボグレ

Mr. Tapsoba Ousmane、AUE バングビリ 委員長

Mr. Tapsoba Harouna、AUE バングビリ、秘書

Mr. Tiemtoré Irissa、AUE バングビリ、経理

Mr. Kaboré Yamba Emmanuel、AUE ディグレ、秘書

Mr. Kaboré Pamoussa、AUE ディグレ、経理

Mr. Simporé N. Marcel、AUE ダベガ、委員長

Mr. Kaboré Pierre、AUE ダベガ、秘書

12h00～13h00 ZORGO ポンプ修理工（コミュニオン ZORGO 会議室にて）

Mr. Balkoulga N. Mathias、ZORGO ポンプ修理工

Mr. El Adj Kaboré Soulemane、ZORGO ポンプ修理工

Mr. Kaboré Saydou、ZORGO ポンプ修理工

14h30～16h00 ガンズルグ県ポンプ修理工組合（農業水利中央プラトー地方局にて）

Mr. Koanda Sagibou、組合委員長  
Mr. Paéré Ni Hamada、事務局長  
Mr. Sédogo Abdoulassé、経理担当  
Mr. Ouédraogo Ladjé、会計  
Mr. SORE Monrijamba、情報担当  
Mr. Guédraogo Y. Jean-Paul、研修責任者  
Mr. Sanfo Séni、組合員  
Mr. Tapsoba Tassere、組合員  
Mr. Zongo Barké Paul、組合員  
Mr. Sawadogo Omére、組合員  
Mr. Pacéré Alphonse、組合員  
Mr. Sawadogo Bouréma、顧問  
Mr. Tapsoba Seni、組合員  
Mr. Zongo Adama Gabriel、組合員  
Mr. Tassebedo Moussa、組合員  
Mr. Tapsoba Seni、組合員  
Mr. Tapsoba Boureima、組合員  
Mr. Snsimbo Hamidou、組合員

現場インタビュー：2011年9月16日（金）

8h30～9h30 DAPELOGO コミュニオン会議室

Mr. OUEDRAOGO Adama、ダペロゴ保健・社会的地位向上センター・保健巡回員  
Mr. SANGNA Idrissa、ZAT 長、DPAH  
Mr. NACOULMA Y. Blaise、小学校視学官

10h15～11h15 DAPELOGO コミュニオン会議室

Mr. OUEDRAOGO Moussa、ダペロゴ SectNo2 AUE 委員長  
Mr. NIKIEMO Robert N.、ダペロゴ SectNo2 AUE 管理人  
Mr. OUEDRAOGO L. Alexandre、ダペロゴ Sect2AUE  
Mr. COMPAORE Boniface、トンポセリ AUE 委員長  
Mr. KIEMTORE Ali、クイラ AUE 委員長  
Mr. SAMPEBGO Noufou、クイラ AUE 秘書  
Ms. SORE Mariam、クイラ AUE 経理  
Mr. OUEDRAOGO Moussa、スーカ AUE 委員長  
Mr. OUEDRAOGO P. Ousmane、スーカ AUE 経理  
Mr. COMPAORE Noaga、ナヤンプセ AUE 委員長

Mr. OUEDRAOGO Adama、ナヤンブセ AUE  
Mr. OUEDRAOGO Halimata、ナヤンブセ AUE  
Mr. TRAORE Issa、UAT 長

11h20～12h00 DAPELOGO コミュニオン会議室

Mr. KOANDA Sayibou、ポンプ修理工（ダペッロゴ）、ウブリテンガ県ポンプ修理工組合  
Mr. SORE Horyamba Salam、ポンプ修理工（ウルグ・マネガ）、ウブリテンガ県ポンプ修理工組合

現場インタビュー：2011年9月19日（月）

9h00～9h45 TOEGHIN コミュニオン市長

Mr. SAWADOCO Michel トエギンコミューン市長  
Ms. SAWADOCO Aoua、事務室長  
Mr. OUEDRAOGO Anotole、会計

10h00～11h00 TOEGHIN コミュニオン会議室（AUE へのヒアリング）

Mr. COMPAORE Zackari、トエギン・コミューン次官  
Mr. SANON Luceau、クルウエオゴ県農業水利局トエギン・コミューン ZTA 長  
Mr. SAWADOCO P. Saxouba、カングレ AUE 委員長  
Mr. SAWADOCO Toundassida、カングレ (KANGRE) AUE 秘書  
Mr. BANKOUNGOU Augustine、カングレ AUE 経理  
Mr. SINARE Haoua、カングレ AUE 情報担当  
Ms. SAWADOCO Sacre、カングレ AUE 衛生アニメーター  
Mr. SAWADOCO Luciennie、ゼギデギン AUE 経理  
Mr. SAWADOCO Amie、ゼギデギン AUE 管理  
Mr. TABSOBA Issaka、ユグバ AUE 委員長  
Mr. OUEDRAOGO Sonaga、ゴグセ AUE 秘書  
Mr. OUEDRAOGO Wenloslida、ゴグセ AUE 情報担当  
Mr. OUEDRAOGO Sonaga、ゴグセ AUE 情報担当  
Mr. TABSOBA Lassane、ゴグセ AUE 経理  
Mr. TABSOBA Adama、ユグバ AUE 秘書  
Mr. OUEDRAOGO Ouamnoaga、ユグバ AUE 経理  
Mr. CAPSOBA Gibili Nominik、ユグバ AUE 経理  
Mr. SAMPEBGO Abdoulaye、ベンドゴ AUE 経理  
Mr. BAGA Adama、トエギン AUE 委員長  
Mr. SAWADOGO Noel、トエギン AUE 秘書  
Mr. DEMIAN Haoua、トエギン AUE 経理  
Mr. SAWADOGO Rasmani、トエギン AUE 情報担当

Mr. SAWADOGO Jean Paul、トエギン AUE 副委員長  
Mr. GUELBOGO Raswane、トエギン AUE 衛生アニメータ  
Mr. BAGA Zainata、トエギン AUE ハンドポンプ管理人  
Mr. GOMYOORE Ganebenongué、ゼゲンギン AUE 委員長  
Mr. TAPSOABA G. Michel、ゼゲンギン AUE 秘書  
Mr. OUEDRAOGO Lassaueni、ゼゲンギン AUE 管理人  
Mr. OUEDRAOGO N. Albert、ゼゲンギン AUE 管理人  
Mr. OUEDRAOGO K. Jean Pierre、ゼゲンギン AUE 経理補佐  
Mr. NONGEUERMA Joseph、トエギン警察署警察官

11h00～11h40 TOEGHIN コミュニオン会議室（ポンプ修理工へのヒアリング）

Mr. TAPSOBAN N. Idrissa、トエギンコミュニオン、ポンプ修理工  
Mr. TAPSOBAN T. Salam、トエギンコミュニオン、ポンプ修理工

11h00～11h40 TOEGHIN コミュニオン会議室（研修講師へのヒアリング）

Mr. KONDOMBO N. Vincent de Paul、基礎教育学区長  
Mr. OUALI Michel、クルウェオゴ県農業水利局ナハテンガ UTA 長  
Mr. IAMINEN Bonou、SRE/DPAH トエギン水資源課長  
Mr. OUEDRAOGO S. Sylvain、トエギン保健区衛生行政指導者

13h45～14h30 BOUSSE コミュニオン会議室（ブッセコミュニオン・ポンプ修理工組合へのヒアリング）

Mr. BARRE Koudouyou François、ポンプ修理工、ビムヤコームポンプ修理工組合員  
Mr. OUEDRAOGO Mohamadi、ポンプ修理工、ビムヤコームポンプ修理工組合委員長  
Mr. OUEDRAOGO P. Boureima、ポンプ修理工、ビムヤコームポンプ修理工組合経理  
Mr. OUEDRAOGO T. Saidou、ポンプ修理工、ビムヤコームポンプ修理工組合監査委員  
Mr. SAWADOGO Kouko、ビムヤコームポンプ修理工組合員  
Mr. KAPUEMBEPA W. Amidou、ビムヤコームポンプ修理工組合員  
Mr. SAWADOGO K.、ビムヤコームポンプ修理工組合員  
Mr. OUEDRAOGO P. Cissé、ポンプ修理工、ビムヤコームポンプ修理工組合監査委員  
Mr. KABORE Barre Bonoit、ビムヤコームポンプ修理工組合組織化担当  
Mr. OUEDRAOGO Z. Amadé、ビムヤコームポンプ修理工組合副委員長  
Mr. SANKARA Issiaba、ビムヤコームポンプ修理工組合  
Mr. TAPSOBA G. Alexis、クルウェオゴ県農業水利局  
Mr. NAKOULMA Boukaré、クルウェオゴ県農業水利局  
Mr. IAMINE Bonou、クルウェオゴ県農業水利局、水資源課

現場インタビュー：2011年9月20日（火）

9h15～11h00 ジテンガ・コミュニオン会議室（AUE、評議員）

Mr. TENSABA Amadore François, Chef SRE/DPAH  
Mr. ZOUNDAL S. Jean Paul, ZAT/Zitenga  
Mr. BADIAL Salfe, UAT/Zitenga  
Mr. SAWADOGO Edmond, UAT/Tankounga  
Mr. SINARE O. Sommaïla, Maire Zitenga  
Mr. KILMA Thérèse, Secrétaire Général, Mairie Zitenga  
Mme BALMA Bintou, Trésorière, AUE Zitenga  
Mr. ZOMADO Nantimba, Gestionnaire, AUE Ouatinoma  
Mme. CARABIRI Rokiatou, Chef SRE/DRAH-PCL  
Mme. SOALA Colette, Conseillère, Ouatinoma  
Mme, BALMA Bintou, Conseillère, AUE ヤンガ  
Mme, BALMA Bintou, Conseillère, AUE ヤンガ  
Mme. SOALA Colette, Conseillère, Ouatinoma  
Mme. COMPAORE Sandta, Conseillère, Nagtoali  
Mme. BONKOUNGON Brita, Conseillère, Dayagnetenga  
Mme. BABRAWA Aligeta, Trésorière, AUE Nagtoali  
Mme. BIKIENGA Fati, Trésorière, AUE Dayagretenga  
Mr. SINARE Mohamoudou, Gestinaire, AUE Yanga  
Mr. SINARE Ablassé, Trésorier, AUE Yanga  
Mr. SINARE Hamada, Conseiller, AUE Yanga  
Mr. ZOUNDI Issaka, Président AUE Dayagretenga  
Mr. CONSIGUI Salfo, Secrétaire Adjoint AUE Ouatinema  
Mr. NASSA Issaka, Conseiller Dayagretenga  
Mr. OUEDRAOGO Hamado, Trésorier, AUE Ouatinema  
Mr. KOULBEGA Harouna, Secrétaire, UE Dayagretenga  
Mr. OUEDRAOGO Saidou, Conseiller Nagtoali  
Mr. COMPAORE Tayimbresom, Président, AUE Ouatinema  
Mr. YAMEOGO Eric, Conseiller, Ouatinoma  
Mr. OUEDRAOGO Rasmané, Président, AUE Nagtoali  
Mr. OUEDRAOGO Bibata, Secrétaire, AUE Nagtoali  
Mr. COMPAORE Rihanata, 1<sup>er</sup> adjoint

11h10~12h00 ジテンガ市長室

Mr. SINARE O. Sommaïla, Maire Zitenga ジテンガ市長  
Mr. KILMA Thérèse, Secrétaire Général, Mairie Zitenga  
Mr. COMPAORE Rihanata, 1<sup>er</sup> adjoint  
Mr. ILBOUDO Lassané, Comptable、会計

**UNICEF**

Mr. Jean-Paul OUEDRAOGO プログラム担当

Ms. TRAORE Mariam プログラム担当

**GIZ**

Mme. Désirée NANA 小中都市水・衛生プログラム担当

**JICA 支援案件関係者**

Mme. NAKAZAWA Junko PACOGES プロジェクトマネージャー

Mme. TSUNODA Shikiho 青年海外協力隊員（水の防衛隊）

**PROGEA/PCL（プロジェクト）**

Mr. ONO Takeshi 総括/村落給水/組織能力強化 1

Mr. NISHIYAMA Noriyuki 衛生改善計画・教育 2

Ms. TAPSOBA Rosine 秘書/会計

**在ブルキナファソ日本国大使館**

Ms. HARADA Norie 在ブルキナファソ日本国大使館二等書記官、経済協力・政務担当

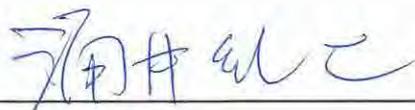
**JICA ブルキナファソ事務所**

Mr. KAGEYAMA Tadashi 次長

Mr. GANSORE Cheic A. M プログラム担当

PROCES VERBAL DES DISCUSSIONS  
ENTRE  
L'EQUIPE DE JICA POUR LA REVUE À MI-PAROURS  
ET  
LE MINISTRE DE L'AGRICULTURE ET DE L'HYDRAULIQUE DU  
GOUVERNEMENT DU BURKINA FASO  
SUR  
LE PROJET DE COOPERATION TECHNIQUE  
POUR  
LE RENFORCEMENT DE LA GESTION DES INFRASTRUCTURES  
HYDRAULIQUES D'APPROVISIONNEMENT EN EAU POTABLE ET DE  
PROMOTION DE L'HYGIENE ET DE L'ASSAINISSEMENT DANS LE PLATEAU  
CENTRAL (PROGEA /PCL)

Ouagadougou, le 29 septembre 2011



M. Junji WAKUI  
Chef de Mission  
Équipe de revue à mi-parcours  
Agence Japonaise de Coopération International  
Japon



M. Adama COMPAORE  
Secrétaire Général  
Ministère de l'Agriculture et de l'Hydraulique  
Burkina Faso

Le Gouvernement du Burkina Faso et l'Agence Japonaise de Coopération Internationale (ci-après désignée "JICA") ont conjointement organisé une équipe de revue à mi-parcours (ci-après désignée "l'Équipe") du projet de coopération technique intitulé "le projet du renforcement de la gestion des infrastructures hydrauliques d'approvisionnement en eau potable et de promotion de l'hygiène et de l'assainissement dans le Plateau Central" (ci-après désigné "le Projet"). Cette mission a été conduite par M. KARFO Sampana et M. WAKUI Junji. L'Équipe a mené une étude intensive d'état de mis en œuvre des activités du projet et conformément au PDM. À cet effet, elle a préparé un rapport de revue conjointe à mi-parcours en annexe (ci-après désigné "le Rapport") qui a été présenté au Comité de Pilotage (JCC) tenu le 28 septembre 2011.

À la suite des discussions, le Comité de Pilotage a accepté le Rapport et pris bonne note des recommandations. Les représentants de la partie japonaise et ceux burkinabè se sont mis d'accord pour présenter le Rapport à leurs autorités respectives concernées pour que celles-ci puissent prendre les mesures nécessaires à une exécution conséquente et fructueuse du Projet.

1. Les conclusions de la revue sont les suivantes,

(1) Aperçu générale du résultat de la revue :

Les activités prévues pour la 1<sup>ère</sup> année et la 2<sup>ème</sup> année du projet ont été mises en œuvre d'une manière satisfaisante. Il est très possible que l'objectif du projet concernant l'amélioration du taux de fonctionnement des PMH s'accomplisse. Par contre, pour ce qui concerne la durabilité du Projet, elle est un défi auquel on doit faire face.

(2) Résultat de la revue en fonction de cinq critères d'évaluation :

- ✓ Pertinence : haute
- ✓ Efficacité : haute
- ✓ Efficience : relativement haute
- ✓ Impact : modéré
- ✓ Durabilité : modérée

2. Les recommandations de l'Équipe sont les suivantes ;

(1) Activités pour l'amélioration du comportement en matière d'hygiène et d'assainissement

Pour assurer la durabilité du programme de sensibilisation et d'éducation en

47

hygiène et en assainissement, l'Équipe recommande de mener une réflexion et d'explorer les possibilités suivantes pour la prise en charge des activités d'animation ;

- Utilisation du fonds de la commune et/ou de l'AUE,
- Collaboration avec les Comités de Gestion Scolaire (COGES) développés par le MENA.

(2) Extension des communes cibles dans la région du Plateau Central

L'Équipe a constaté des déséquilibres entre les communes cibles du projet et celles non cibles dans la modalité de gestion et de maintenance des infrastructures hydrauliques, et des difficultés de généralisation ou d'application du système de réparation des PMH au niveau de la région. Dans les soucis de réduire cette disparité entre les communes, il est nécessaire d'élargir les activités du projet sur 11 communes qui ne sont pas prises en compte pour assurer un bon impact du projet dans la région.

Dans ce sens, la partie japonaise mobilisera des intrants pour les 11 communes équivalents à ceux mobilisés pour les 9 communes. En conséquence, elle propose à la partie burkinabè de mobiliser les ressources complémentaires.

(3) Maintien de la durabilité après l'achèvement du projet.

Pour assurer la continuité des activités de monitoring, de la Réforme et de l'amélioration du comportement en matière d'hygiène et d'assainissement, il est recommandé que ces activités soient financées par le budget de l'État burkinabè. À cet effet, des dispositions devraient être prises pour une inscription budgétaire des 2013.

Document en annexe : Rapport de revue conjointe à mi-parcours

Document en annexe

**RAPPORT DE REVUE CONJOINTE À MI-PARCOURS**

**COOPERATION TECHNIQUE JAPONAISE**

**LE PROJET DE RENFORCEMENTS DES INFRASTRUCTURES  
HYDRAULIQUES D'APPROVISIONNEMENT EN EAU POTABLE ET DE  
PROMOTION DE L'HYGIENE ET D'ASSAINISSEMENT  
DANS LE PLATEAU CENTRAL**

**Agence Japonaise de Coopération Internationale  
et  
Ministère de l'Agriculture et de l'Hydraulique  
du Gouvernement du Burkina Faso**

**Septembre 2011**

## Table des matières

1. Introduction
  - 1-1 Objectif de la revue
  - 1-2 Membres de l'Équipe de revue conjointe à mi-parcours
  - 1-3 Calendrier de la revue à mi-parcours
2. Description du Projet
  - 2-1 Arrière-plan du Projet
  - 2-2 Résumé du Projet
3. Méthodologie de la revue
  - 3-1 Cadre de la revue
  - 3-2 Système de mise en œuvre de la revue
  - 3-3 Méthode de la revue
4. Constat de la situation relative aux résultats
  - 4-1 Constats de la situation relative aux résultats
    - 4-1-1 Intrants mobilisés
      - 4-1-1-1 Intrants mobilisés de la partie burkinabè
      - 4-1-1-2 Intrants mobilisés de la partie japonaise
    - 4-1-2 Résultats des activités
    - 4-1-3 État d'accomplissement des résultats
    - 4-1-4 État d'accomplissement des objectifs du Projet (perspective)
    - 4-1-5 État d'accomplissement du but global (perspective)
    - 4-1-6 Constatation du processus de mise en œuvre du Projet
5. Résultats de la revue
  - 5-1 Résultats de la revue
    - 5-1-1 Revue en fonction de 5 critères
    - 5-1-2 Facteurs favorisant et gênant le Projet
  - 5-2 Conclusions (synthèses de la revue)
6. Recommandations

### Annexes

- Annexe-1... Calendrier de la revue à mi-parcours
- Annexe-2... Liste des personnes rencontrées
- Annexe-3... Indicateurs de l'achèvement du Projet  
(Grille d'Évaluation avec les constatations de l'évaluation)
- Annexe-4... Cadre Logique du Projet (PDM ver.2)

Annexe-5...Plan d'Opération modifié (PO ver.1)

Annexe-6... (Intrants mobilisés)

-6a...Liste des experts japonais envoyés du Japon

-6b...Liste des homologues et ceux qui ont reçu le stage au Japon

-6c...Liste des équipements fournis par la partie japonaise

-6d...Frais locaux couverts par la partie burkinabè et la partie japonaise

Annexe-7...Cadre Logique du Projet (PDM ver.3)

Annexe-8...Plan d'Opération modifié (PO ver.2)

## **1. Introduction**

### **1.1 Objectif de la revue (l'évaluation) à mi-parcours**

La revue à mi-parcours (ci-après désignée "Revue") a pour objectif d'examiner les 4 points suivants.

- 1) Apprécier l'avancement du Projet et évaluer les indicateurs de progrès du Projet en fonction de 5 critères d'évaluation (pertinence, efficacité, efficience, impact et durabilité),
- 2) Identifier les facteurs favorisant et défavorisant la mise en œuvre du projet et formuler au Projet des recommandations sur la base du résultat de la Revue,
- 3) Réviser le Cadre Logique du Projet (PD M) et le Plan d'Opération (PO) si nécessaire et
- 4) Faire des recommandations nécessaires à la bonne conduite du projet et à l'atteinte des objectifs du projet dans la perspective de l'achèvement du projet prévu pour 2013.

### **1.2 Membres de l'Équipe de revue conjointe à mi-parcours**

La revue est réalisée par l'Équipe composée de membres suivants :

#### **【Partie burkinabè】**

- M. KARFO Sampana, (Chef de mission de l'équipe burkinabè) : Chef de Service SPSE/DEP/MAH
- M. NAPON Abdoulaye, (Analyse d'évaluation) : Conseiller des Affaires SSE DEP/MAH

#### **【Partie japonaise】**

- M. WAKUI Junji, (Chef de mission) : Directeur, Division II des Ressources en eau, Département de l'Environnement Global, JICA
- Mme. FUKABAYASHI Mari, (Coopération et Planning) : Division II des Ressources en eau, Département de l'Environnement Global, JICA
- M. INOKUCHI Kazuyoshi, (Analyse d'évaluation) : Mitsubishi UFJ Research & Consulting
- M. ANDO Kazuo, (Interprète) : Japan International Cooperation Center (JICE)

### **1.3 Calendrier de la Revue à mi-parcours**

Voir l'annexe-3.

## **2. Description du Projet**

### **2.1 Contexte et justification du Projet**

En réponse à la requête du Gouvernement du Burkina Faso, l'Agence Japonaise de Coopération Internationale (JICA) mandatée par le Gouvernement du Japon a

commencé en 2009 à mettre en œuvre le projet de coopération technique pour “le renforcement de la gestion des infrastructures hydrauliques d’approvisionnement en eau potable et de promotion de l’hygiène et de l’assainissement dans le Plateau Central” (ci-après désigné “le Projet”).

Le Gouvernement du Burkina Faso a élaboré en juin 2003 le Document de Stratégie pour la Réduction de la Pauvreté (DSRP). Le secteur d’eau, d’hygiène et d’assainissement est un des secteurs prioritaires fixés par le DRSP dans le cadre de sa politique pour améliorer l’accès des pauvres aux services sociaux de base. En effet, d’après la statistique 2004, la proportion de la population ayant accès à l’eau potable est de 61% de la population totale et celle ayant accès à l’assainissement n’est que de 13%. Ces difficultés sont accentuées en milieu rural. Pour faire face à ce problème, le Gouvernement du Burkina Faso a élaboré en 2006 le Programme National d’Approvisionnement en Eau Potable et d’Assainissement (PN-AEPA) visant à réduire de moitié la proportion de la population n’ayant pas d’accès à l’eau potable, à l’hygiène et à l’assainissement de base avant 2015.

Le Projet a pour but d’améliorer l’environnement en matière de santé, d’hygiène et d’assainissement dans la région du Plateau Central à travers le renforcement des capacités organisationnelles des Services administratifs et des communautés dans la gestion et la maintenance des infrastructures hydrauliques (IH) d’approvisionnement en eau potable (AEP) et l’amélioration de l’hygiène et de l’assainissement, et ce conformément à la politique burkinabè de la Réforme. A la fin de la première moitié de la période du Projet, la JICA a envoyé une mission de revue à mi-parcours en vue de vérifier l’avancement et les indicateurs de progrès du Projet conjointement avec la partie burkinabè.

## 2.2 Résumé du Projet

Organisme d’exécution	Ministère de l’Agriculture et de l’Hydraulique (MAH) - Direction Générale des Ressources en Eau (DGRE) - Direction Générale de l’Assainissement, des Eaux Usées et Excrétas (DGAEUE) - Direction Régionale de l’Agriculture et de l’Hydraulique du Plateau Central (DRAH/PCL)
Date de signature du PV	Le 30 mars 2009
Période de coopération	De juin 2009 à juin 2013 (4 ans)
But global	Dans la région du Plateau Central, l’environnement en

	matière de santé, d'hygiène et d'assainissement est amélioré.
Objectifs du Projet	La gestion et la maintenance des IH et le comportement en matière d'hygiène et d'assainissement des populations sont améliorés dans les communes cibles (toutes les communes de l'Oubritenga et les communes pilotes du Ganzourgou et du Kourwéogo).
Résultats	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Le système de gestion et de maintenance des IH est établi dans les communes cibles conformément à la Réforme.</li> <li>2. Les capacités des organisations villageoises dans la gestion et la maintenance des IH sont renforcées.</li> <li>3. En ce qui concerne la gestion et la maintenance des IH, le système d'approvisionnement en pièces détachées et celui de réparation sont améliorés.</li> <li>4. Dans les 3 communes cibles du Plateau Central, le comportement en matière d'hygiène et d'assainissement des populations sont améliorées.</li> <li>5. Dans les 3 communes cibles du Plateau Central, le comportement en matière d'hygiène et d'assainissement des populations sont améliorées.</li> </ol>

Le Cadre Logique du Projet révisé (PD M ver.2) et le Plan d'Opération modifié (PO ver.1) sont respectivement indiqués en Annexe-4 et en Annexe-5.

### 3. Méthodologie de la revue

#### 3.1 Cadre de la revue

L'étude d'évaluation a été menée conformément aux "Lignes directives de la JICA pour l'évaluation des projets". Nous avons revu le présent Projet par l'application de la méthode de la gestion du cycle de projet (PCM) sur la base du PDM ver.2 (daté du 1<sup>er</sup> octobre 2009) (voir l'Annexe-4 du Rapport).

Nous avons analysé des informations et données collectées suivant les questions évaluatives correspondant aux items d'évaluation préalablement déterminés et établi la grille d'évaluation qui sert à la base de l'évaluation. Les items d'évaluation sont : "Résultats du Projet", "Processus du Projet" et "Cinq (5) critères d'évaluation". Pour le détail des items d'évaluation, se référer à la grille d'évaluation (Annexe-3). Pour les 5 critères d'évaluation, nous avons utilisé ceux déterminés par le Comité d'Aide au Développement (CAD) de l'Organisation de Coopération et de Développement Économique (OCDE). (Voir le tableau ci-dessous.)

Tableau 1. Cinq (5) critères d'évaluation

Items	Contenu
Pertinence	Examiner la pertinence du but global et des objectifs du Projet au moment de l'évaluation à mi-parcours en rapport de la conformité avec la politique du Gouvernement du Burkina Faso, la nécessité des bénéficiaires et les orientations de la coopération du Japon.
Efficacité	Examiner les progrès accomplis vers l'atteinte des résultats du Projet et le lien entre les résultats accomplis et la réalisation des objectifs du Projet.
Efficiences	Analyser l'efficacité des résultats produits à partir des intrants du Projet en fonction du moment, de la qualité et de la quantité.
Impact	Examiner les effets positifs et négatifs (comprenant ceux imprévus) produits par la mise en œuvre du Projet.
Durabilité	Examiner la durabilité du Projet sous les aspects institutionnels (politiques), financiers et techniques après son achèvement.

#### 3.2 Système de mise en œuvre de la revue

Une équipe de revue conjointe à mi-parcours (Équipe) a été mise en place et comprenait les membres de la partie japonaise et de la partie burkinabè. L'Équipe a collecté des informations et données principalement au niveau des sites, tenu une

série des réunions concernant le rapport de revue conjointe à mi-parcours (ci-après désigné "Rapport") et élaboré le draft du Rapport. Ce draft a été présenté à Monsieur le Secrétaire Général du MAH et aux membres du Comité de Pilotage et accepté par ce dernier.

### **3.3 Méthode de la revue**

Suivant la forme de la grille d'évaluation, nous avons collecté et analysé les informations suivantes.

#### **(1) Enquête des documents et données existants**

Les documents principaux que nous avons consultés sont les suivants :

##### Documents politiques

- Le PN-AEPA
- Décret (n°2000-514/PRES/PM/MEE) portant la Réforme, la principale réglementation sur les adductions d'eau est celle concernant la réforme du système de maintenance des infrastructures hydrauliques en milieu rural et semi-urbain

##### Informations sur le Projet

- PDM, PO
- Rapport intermédiaire du PROGEA/PCL
- Rapport mensuel du PROGEA/PCL (août 2011)
- Rapport sur l'état d'avancement établi par les experts japonais
- Compte-rendu de la 2<sup>ème</sup> session du Comité de Pilotage
- Compte-rendu de la 3<sup>ème</sup> session du Comité de Pilotage
- Rapport d'évaluation de la partie burkinabè (Rencontre de travail du groupe 1 dans le cadre de l'évaluation des projets et programmes sous tutelle technique du MAH/09 au 10 juin 2011)

#### **(2) Enquête par interview**

En plus de la revue des documents, l'Équipe a mené une enquête par interview auprès des intéressés par le Projet. Pour ce faire, elle a préalablement distribué les questionnaires (300 exemplaires de questionnaires en tout) aux parties prenantes : les structures de la contrepartie telles que le MAH, la DRGA/PCL, les communes d'intervention du Projet, les AUE mises en place, les ZAT/UAT, les maintenanciers, les experts japonais, le bureau d'étude local etc. En outre, elle a rencontré également les responsables de l'UNICEF, de GIZ, un expert japonais du PACOGES,

une volontaire japonaise pour la coopération à l'étranger pour le domaine d'AEPA etc.

#### 4. Constats de la situation relative aux résultats

##### 4.1 Constats de la situation relative aux résultats

###### 4.1.1 Intrants mobilisés

Les intrants de la partie burkinabè et de la partie japonaise sont investis presque conformément au plan des intrants et ont permis de produire des effets. Cependant, le budget de contrepartie pour 2009 n'a pas été exécuté, car l'entente de coopération n'était pas signée au moment de l'arbitrage du budget en 2008 pour le budget 2009.

###### 4.1.1.1 Intrants mobilisés par la partie burkinabè

Les intrants mobilisés par la partie burkinabè enregistrés dans le Rendu-Compte de la Discussion étaient comme ce qui suit :

- ✓ Disposition des homologues
- ✓ Bureaux pour les experts japonais et frais d'éclairage et de chauffage
- ✓ Fourniture des données et documents
- ✓ Une partie des matériaux nécessaires à l'arrangement des installations sanitaires

Les résultats des intrants des deux parties par rapport au PDM sont indiqués dans le tableau ci-dessous. Pour le détail, il faut se référer à la grille d'évaluation (Annexe-6 du présent rapport). Il a été constaté que les intrants de la partie burkinabè sont investis conformément à l'entente mutuelle.

Intrants mobilisés de la partie burkinabè

Élément d'intrant	Intrants mobilisés	
Disposition des C/P (Annexe-6b)	<u>Homologues : 47</u> Au niveau central (MAH) : 5 Au niveau du DRAH/PCL : 42	
Frais locaux (Annexe-6d)	Montant investi de la partie burkinabè : 19.470.942FCFA	
	Item	Montant
	Charge de personnel	10.800.000
	Acquisition de fournitures du bureau	4.883.142
	Matériels Informatiques	3.787.800
	Total	19.470.942

Bureaux pour les experts japonais et frais d'éclairage et de chauffage	Les bureaux du projet sont mis en place au sein de la DGEUE (à Ouagadougou) et au sein de la DRAH/PCL (à Ziniaré). Les frais d'éclairage et de chauffage sont payés sur le budget de la partie burkinabè.
Fourniture des données et documents	La base de données des IH (INOH), les données démographiques, les différents documents relatifs à la Réforme, les guides et/ou manuels d'éducation d'hygiène existants ont été fournis aux experts japonais.
Une partie des matériaux nécessaires à l'arrangement des installations sanitaires	En ce qui concerne la réalisation des infrastructures d'assainissement, la partie burkinabè a aménagé les latrines publiques et domestiques dans les villages situés dans les 3 provinces cibles.

#### 4.1.1.2 Intrants mobilisés par la partie japonaise

La partie japonaise a pris en charge des frais liés à la mise à disposition des experts, à la fourniture des équipements nécessaires et à la mise en œuvre des activités.

##### Intrants mobilisés de la partie japonaise

Élément d'intrant	Intrants mobilisés			
Mise à disposition des experts et H/M	- Cette mise à disposition a été faite comme indiqué ci-dessous.			
	Charge	1 <sup>ère</sup> année	2 <sup>ème</sup> année	Total
	Chef de l'équipe / Renforcement de Capacité d'Organisation 1 / AEP en milieu rural	7,5	7,3	14,8
	Éducation en hygiène 1	3,1	5,6	8,7
	Éducation en hygiène 2	2,8		2,8
	Gestion et Maintenance des IH d'AEP 1	2,0	2,0	4,0
	Gestion et Maintenance des IH d'AEP 2	1,0	1,0	2,0
	Coordinateur Administratif	2,0		2,0
	Coordinateur Administratif/ Renforcement de Capacité d'Organisation2		2,0	2,0
	Total des H/M	18,4	17,9	36,3
Intrants liés à la mise	- Le taux d'exécution du budget au moment de			

<p>en œuvre des activités (1 yen =5 FCFA)</p>	<p>l'achèvement de la 2<sup>ème</sup> année est d'environ 82,9%<sup>1</sup>.</p> <p>- Les intrants liés à la mise en œuvre des activités de la partie japonaise sont indiqués ci-dessous.</p> <table border="1" data-bbox="584 405 1362 1240"> <thead> <tr> <th>Item</th> <th>Montant (yens) 1<sup>ère</sup> année</th> <th>Montant (yens) 2<sup>ème</sup> année</th> <th>Total (1<sup>ère</sup> et 2<sup>ème</sup> années)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Frais de personnel</td> <td>3.030.058</td> <td>2.756.221</td> <td>5.786.279</td> </tr> <tr> <td>Gestion et entretien des équipements</td> <td>426.423</td> <td>440.488</td> <td>866.911</td> </tr> <tr> <td>Consommables</td> <td>1.490.426</td> <td>1.418.445</td> <td>2.908.871</td> </tr> <tr> <td>Frais de déplacement</td> <td>627.288</td> <td>1.842.035</td> <td>2.469.323</td> </tr> <tr> <td>Communication, transport</td> <td>97.449</td> <td>156.085</td> <td>253.534</td> </tr> <tr> <td>Préparation documents</td> <td>727.958</td> <td>2.321.474</td> <td>3.049.432</td> </tr> <tr> <td>Frais de location</td> <td>1.093.635</td> <td>225.480</td> <td>1.319.115</td> </tr> <tr> <td>Drais de formations au BF</td> <td>546.607</td> <td>4.284.812</td> <td>4.831.419</td> </tr> <tr> <td>Frais divers</td> <td>56.989</td> <td>50.630</td> <td>107.619</td> </tr> <tr> <td>Achat équipements fournis et emmenés</td> <td>4.248.460</td> <td>183.000</td> <td>4.431.460</td> </tr> <tr> <td>Préparation rapports</td> <td>300.000</td> <td>620.000</td> <td>920.000</td> </tr> <tr> <td>Contrat de prestation des services (bureau local)</td> <td>11.942.426</td> <td>29.753.894</td> <td>41.696.320</td> </tr> <tr> <td>Frais de réunions</td> <td>24.120</td> <td>46.342</td> <td>70.462</td> </tr> <tr> <td><b>Total (en yens)</b></td> <td><b>24.611.839</b></td> <td><b>44.098.906</b></td> <td><b>68.710.745</b></td> </tr> </tbody> </table>	Item	Montant (yens) 1 <sup>ère</sup> année	Montant (yens) 2 <sup>ème</sup> année	Total (1 <sup>ère</sup> et 2 <sup>ème</sup> années)	Frais de personnel	3.030.058	2.756.221	5.786.279	Gestion et entretien des équipements	426.423	440.488	866.911	Consommables	1.490.426	1.418.445	2.908.871	Frais de déplacement	627.288	1.842.035	2.469.323	Communication, transport	97.449	156.085	253.534	Préparation documents	727.958	2.321.474	3.049.432	Frais de location	1.093.635	225.480	1.319.115	Drais de formations au BF	546.607	4.284.812	4.831.419	Frais divers	56.989	50.630	107.619	Achat équipements fournis et emmenés	4.248.460	183.000	4.431.460	Préparation rapports	300.000	620.000	920.000	Contrat de prestation des services (bureau local)	11.942.426	29.753.894	41.696.320	Frais de réunions	24.120	46.342	70.462	<b>Total (en yens)</b>	<b>24.611.839</b>	<b>44.098.906</b>	<b>68.710.745</b>
Item	Montant (yens) 1 <sup>ère</sup> année	Montant (yens) 2 <sup>ème</sup> année	Total (1 <sup>ère</sup> et 2 <sup>ème</sup> années)																																																										
Frais de personnel	3.030.058	2.756.221	5.786.279																																																										
Gestion et entretien des équipements	426.423	440.488	866.911																																																										
Consommables	1.490.426	1.418.445	2.908.871																																																										
Frais de déplacement	627.288	1.842.035	2.469.323																																																										
Communication, transport	97.449	156.085	253.534																																																										
Préparation documents	727.958	2.321.474	3.049.432																																																										
Frais de location	1.093.635	225.480	1.319.115																																																										
Drais de formations au BF	546.607	4.284.812	4.831.419																																																										
Frais divers	56.989	50.630	107.619																																																										
Achat équipements fournis et emmenés	4.248.460	183.000	4.431.460																																																										
Préparation rapports	300.000	620.000	920.000																																																										
Contrat de prestation des services (bureau local)	11.942.426	29.753.894	41.696.320																																																										
Frais de réunions	24.120	46.342	70.462																																																										
<b>Total (en yens)</b>	<b>24.611.839</b>	<b>44.098.906</b>	<b>68.710.745</b>																																																										
<p>Stages des C/P au Japon</p>	<p>- Les stages des C/P au Japon ont été exécutés en 2009 et en 2010. Le détail des stages est indiqué ci-dessous.</p> <table border="1" data-bbox="584 1339 1362 1756"> <thead> <tr> <th>Intitulé du stage</th> <th>Nombre</th> <th>Période</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>« Gestion de l'Approvisionnement en eau potable et de l'Assainissement » (Burkina Faso) 2009</td> <td>2 personnes</td> <td>21 jours</td> </tr> <tr> <td>Stage du Japon (Autorités) « Gestion de l'Approvisionnement en eau potable et de l'Assainissement » (Burkina Faso) 2009</td> <td>2 personnes</td> <td>9 jours</td> </tr> <tr> <td>« Gestion de l'Approvisionnement en eau potable et de l'Assainissement » (Burkina Faso)</td> <td>5 personnes</td> <td>14 jours</td> </tr> </tbody> </table>	Intitulé du stage	Nombre	Période	« Gestion de l'Approvisionnement en eau potable et de l'Assainissement » (Burkina Faso) 2009	2 personnes	21 jours	Stage du Japon (Autorités) « Gestion de l'Approvisionnement en eau potable et de l'Assainissement » (Burkina Faso) 2009	2 personnes	9 jours	« Gestion de l'Approvisionnement en eau potable et de l'Assainissement » (Burkina Faso)	5 personnes	14 jours																																																
Intitulé du stage	Nombre	Période																																																											
« Gestion de l'Approvisionnement en eau potable et de l'Assainissement » (Burkina Faso) 2009	2 personnes	21 jours																																																											
Stage du Japon (Autorités) « Gestion de l'Approvisionnement en eau potable et de l'Assainissement » (Burkina Faso) 2009	2 personnes	9 jours																																																											
« Gestion de l'Approvisionnement en eau potable et de l'Assainissement » (Burkina Faso)	5 personnes	14 jours																																																											

<sup>1</sup> Le montant (A), 630.520.000 FCFA (correspond à 116.118.000 yens japonais converti en utilisant le taux de change en février 2009), est une addition du montant pour les intrants liés à la mise en œuvre des activités et de celui pour l'appui par le siège de la JICA et le bureau de la JICA au Burkina Faso. On a calculé le taux d'exécution par comparaison dudit montant avec le montant total investi de la partie japonaise à la fin de la 2<sup>ème</sup> année, soit 96.350.859 yens (68.710.745 + 27.640.114 yens).

	2010 :																										
Fourniture des équipements (Ordinateurs, imprimantes etc.) <sup>2</sup>	<p>- Fourniture des équipements : 2.071.000FCFA (4.240.000 yens japonais)</p> <p>8 ordinateurs de bureau 8 onduleurs 1 ordinateur portable 3 imprimantes couleur à laser 5 imprimantes noir-blanc à laser 1 photocopieuse 1 projecteur 9 motos</p> <p>- Le résultat d'appui par le siège de la JICA et par le Bureau de la JICA au BF est indiqué ci-dessous.</p>																										
Appui par le siège de la JICA et le bureau de la JICA au Burkina Faso	<p>Appui par le siège de la JICA et le bureau de la JICA au Burkina Faso (en yens)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>Appui</th> <th>Source (JICA)</th> <th>Montant</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">1<sup>ère</sup> année</td> <td>Stage C/P au Japon (général)</td> <td>Siège JICA</td> <td>5 157 806</td> </tr> <tr> <td>Stage C/P au Japon (2 hauts fonctionnaires)</td> <td>Siège JICA</td> <td>3 775 204</td> </tr> <tr> <td>Équipements (2 véhicules)</td> <td>Bureau au BF</td> <td>9 119 290</td> </tr> <tr> <td>Arrangement du bureau à Ziniaré</td> <td>Bureau au BF</td> <td>1 648 435</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">2<sup>ème</sup> année</td> <td>Stage C/P au Japon (général)</td> <td>Siège JICA</td> <td>7 562 853</td> </tr> <tr> <td>Entretien et assurance de véhicules et motos</td> <td>Bureau au BF</td> <td>376 526</td> </tr> </tbody> </table>				Appui	Source (JICA)	Montant	1 <sup>ère</sup> année	Stage C/P au Japon (général)	Siège JICA	5 157 806	Stage C/P au Japon (2 hauts fonctionnaires)	Siège JICA	3 775 204	Équipements (2 véhicules)	Bureau au BF	9 119 290	Arrangement du bureau à Ziniaré	Bureau au BF	1 648 435	2 <sup>ème</sup> année	Stage C/P au Japon (général)	Siège JICA	7 562 853	Entretien et assurance de véhicules et motos	Bureau au BF	376 526
	Appui	Source (JICA)	Montant																								
1 <sup>ère</sup> année	Stage C/P au Japon (général)	Siège JICA	5 157 806																								
	Stage C/P au Japon (2 hauts fonctionnaires)	Siège JICA	3 775 204																								
	Équipements (2 véhicules)	Bureau au BF	9 119 290																								
	Arrangement du bureau à Ziniaré	Bureau au BF	1 648 435																								
2 <sup>ème</sup> année	Stage C/P au Japon (général)	Siège JICA	7 562 853																								
	Entretien et assurance de véhicules et motos	Bureau au BF	376 526																								

#### 4.1.2 Résultat des activités

Nous avons vérifié les activités exécutés correspondant à chaque résultat en fonction des indicateurs déterminés par le PDM (Ver.2) et des items des activités ainsi que le niveau d'atteinte des résultats. Nous avons également vérifié l'état d'avancement des activités en fonction du PO.

#### 4.1.3 État d'accomplissement des résultats

<sup>2</sup> "Fourniture des équipements" est le contenu de l'un article figurant dans le tableau pour les Intrants liés à la mise en œuvre des activités.

---

**Résultat 0 : Les indicateurs du PDM sont définis.**

---

Les indicateurs du PDM sont définis.

Au cours de la 2ème session du comité de pilotage tenue en septembre 2010, les indicateurs du Cadre Logique du projet (PDM) ont été remis en question. Par conséquent, un groupe de travail a été mis en place en vue de revoir les indicateurs du PDM qui puissent permettre une évaluation des résultats du Projet sur la base des données quantitatives et qualitatives et des informations disponibles relatives à l'AEP, à l'hygiène et à l'assainissement et de l'état des lieux. Le PDM ainsi révisé a été signé par le MAH et le Bureau de la JICA au BF.

---

**Résultat 1 : Le système de gestion et de maintenance des IH est établi dans les communes cibles conformément à la Réforme.**

---

Les indicateurs du Résultat 1 déterminés dans le PDM sont les suivants :

- ✓ Plus de 90% d'agents des ZAT et UAT des communes cibles suivent la formation. Plus de 80% d'eux réussissent au test de confirmation.
- ✓ Les Associations des Usagers de l'Eau (AUE) sont constituées dans tous les villages des 3 communes pilotes avant la fin de mai 2010.
- ✓ La convention relative à la gestion et la maintenance des IH est signée entre les 3 communes pilotes et 80% de leurs AUE avant février 2011.
- ✓ Les AUE des communes de l'Oubritenga excepté la commune pilote sont constituées avant juin 2011.
- ✓ La convention relative à la gestion et la maintenance des IH est signée entre les communes de l'Oubritenga excepté la commune pilote et 80% de leurs AUE avant février 2012.
- ✓ Le contrat relatif à la maintenance et aux tournées de suivi des IH est passé entre les communes cibles et 80% de leurs maintenanciers avant février 2013.

Les indicateurs cibles sont atteints pour une grande part comme montré ci-dessous et on peut constater que les activités s'avancent régulièrement pour atteindre le Résultat 1. Celui-ci concerne le renforcement des capacités des animateurs des ZAT/UAT et l'établissement du système de gestion et de maintenance des IH des communes pilotes et cibles. Avant la mise en œuvre des activités, les 3 communes pilotes de Depelogo, de Toeghin et de Zorgho ont été sélectionnées suivant le résultat de l'état des lieux mené de septembre 2009 à janvier 2010. L'exécution des activités a commencé depuis février 2010. Pour ce qui concerne les 6 communes cibles d'Oubritenga, l'exécution des activités a démarré par un atelier d'information sur la

Réforme en décembre 2010.

### **Renforcement des capacités des animateurs des ZAT/UAT**

Il s'agit des activités pour le renforcement des capacités des animateurs des ZAT/UAT qui sont les unités d'appui technique de la DRAH dont le rôle est très important dans le Projet. Vu que les activités de ces deux unités, ZAT et UAT, sont indispensables à la pérennisation des acquis du domaine d'AEPA, le renforcement de leurs capacités est primordial pour que le Projet produise des effets. À cet effet, le Projet a organisé une formation en faveur du personnel chargé de la gestion d'AEPA de la DRAH et des ZAT au cours de la 1<sup>ère</sup> année du projet et une autre formation élargie en faveur du personnel des UAT au cours de la 2<sup>ème</sup> année, respectivement pendant 3 jours et 5 jours. Une évaluation des acquis de la formation a été menée. Comme le résultat de cette évaluation est indiqué ci-dessous, il a été constaté que les participants ont eu les notes largement supérieures à la note de référence (70 points). Le pourcentage des participants ayant réussi au test était de 70% pour la 1<sup>ère</sup> année et de 85,5% pour la 2<sup>ème</sup> année<sup>3</sup>.

#### **Résultat d'évaluation des acquis de formation**

	1 <sup>ère</sup> année	2 <sup>ème</sup> année
Participants	31	63
Note moyenne	78	81,4

Source : Rapport d'avancement et rapport intermédiaire

### **Résultat des activités dans les communes pilotes**

Le tableau ci-dessous indique le nombre des AUE mises en place avant la fin de la 2<sup>ème</sup> année du Projet. On compte 80 AUE mises en place au total dans tous les 76 villages des Communes pilotes. Le bureau exécutif de l'AUE est généralement composé par le président, le secrétaire, le trésorier, les responsables en hygiène et le responsable d'information etc. qui déploient leurs activités volontairement. En ce qui concerne la désignation des membres du bureau exécutif, le mode de désignation est laissé à chaque village, bien que le projet recommande une élection démocratique par le vote au bulletin secret. Le projet appuie aux AUE ainsi mises en place pour obtenir leurs récépissés. Et 79 récépissés d'AUE ont été délibérés aux AUE par la préfecture en mai 2011<sup>4</sup>.

<sup>3</sup> Résultat de l'analyse de l'évaluation des acquis de la formation

<sup>4</sup> L'AUE du village Zempassogo de la commune de Zorgho a été mise en place en mai 2011. Elle a déposé une demande de la reconnaissance à la commune (en attente de la délibération par le Conseil communal.)

### Nombre des AUE mises en place dans les communes pilotes

Commune	Nombre des AUE mises en place
Toeghin	18
Dapelogo	29
Zorgho	33

Source : Rapport intermédiaire

Le projet a appuyé et appuie toujours les AUE pour l'aboutissement de la convention de la délégation de gestion des PMH entre les communes pilotes et les AUE. Ainsi, tous les 184 AUE de la commune de Toeghin, tous les 29 AUE de la commune de Dapelogo et les 32 AUE de la commune de Zorgho excepté une AUE de village de Zempassogo ont signé les conventions avec les communes.

### Situation de la contractualisation des conventions de la délégation de gestion des PMH entre la commune et les AUE

	Toeghin	Dapelogo	Zorgho
Contractualisation des conventions de la délégation de gestion des PMH entre la commune et les AUE	Achevée	Achevée	Achevée (excepté 1 AUE)

### Résultat des activités dans les communes cibles (autres que celles cibles)

Le projet a appuyé tous les 191 villages de 6 communes cibles de l'Oubritenga (Ziniare, Absouya, Nagreongo, Zitenga, Ourgou- Manega et Lounbila) durant la période de janvier à mai 2011 pour la mise en place des AUE. Bien que l'équipe d'experts japonais ait quitté le Burkina en avril 2011 au regard de la crise sociale qu'a connue ce pays, les C/P et les animateurs du bureau d'étude local ont continué les activités de mise en place des AUE et achevé leur mise en place dans toutes les communes en mai 2011.

### Nombre des AUE mises en place dans les 6 communes cibles

Commune	Nombre des AUE mises en place
Ziniare	49
Absouya	19
Nagreongo	19
Zitenga	46
Ourgou-Manega	28
Lounbila	30

Source : Rapport intermédiaire

En ce qui concerne l'indicateur se rapportant à la mise en œuvre des conventions de

délégation de gestion des PMH entre les 6 communes cibles et les AUE et celui concernant les contrats de gestion et de maintenance des IH entre communes-maintenanciers (80%), les activités qui se poursuivent permettent d'atteindre l'objectif. En effet, les formations en faveur des AUE telles que la formation sur la convention de délégation de gestion des PMH entre communes et AUE sont organisées au cours de la 2<sup>ème</sup> année du projet. Et au cours de la 3<sup>ème</sup> année, il est prévu de tenir les 2<sup>ème</sup> et 3<sup>ème</sup> formations respectivement en octobre 2011 et en janvier 2012.

---

**Résultat 2 : Les capacités des organisations villageoises dans la gestion et la maintenance des IH sont renforcées.**

---

Les indicateurs du Résultat 2 déterminés dans le PDM sont les suivants :

- ✓ Plus de 70% des AUE des communes pilotes de l'Oubritenga arrivent à payer la redevance aux communes et plus de 70% des gestionnaires (CPE etc.) parviennent à effectuer le recouvrement à 70% avant la fin de novembre 2011.
- ✓ Plus de 70% des AUE des communes pilotes de l'Oubritenga arrivent à payer la redevance aux communes et plus de 70% des gestionnaires parviennent à effectuer le recouvrement à 70% avant la fin de projet.

La Résultat 2 concerne les capacités de gestion et d'entretien des IH d'AEP des AUE mises en place. Comme écrit ci-dessous, les activités s'exécutées d'une manière satisfaisante vers l'atteinte cible déterminé par le PDM. Il s'agit principalement des activités d'élaboration des outils audiovisuels et manuels pour la sensibilisation des AUE, de l'organisation des formations en faveur des AUE des communes pilotes au moyen desdits outils et manuels (2 fois de novembre à décembre 2010 et d'avril à mai 2011) et de 6 communes cibles (d'avril à mai 2011). Également, le projet a renforcé les capacités des C/P de la DRAH et des DPAH qui sont chargés du suivi des activités des AUE.

Résultat des activités relatives au Résultat 2

- ✓ Un animateur est affecté à chaque commune pilote. En collaboration avec les agents au niveau communal, le projet appuie aux activités de gestion des PMH menées par l'AUE et de recouvrement et versement de la redevance aux communes.
- ✓ En mai 2011, on compte 21 AUE qui ont commencé le versement de la redevance. À noter qu'environ 68% des AUE ont commencé le versement à Dapelogo. L'équipe conjointe d'évaluation à mi-parcours a confirmé que le versement de redevance s'effectue assez bien depuis le début de la 3<sup>ème</sup> année du projet dans les 2

communes de Toeghin et de Zorgho. Le tableau ci-dessous indique la somme versée aux communes en septembre 2011.

<b>Somme versée aux communes (unité : FCFA)</b>			
	Dapelogo	Toeghin	Zorgho
Somme versée à la commune	1.060.000	620.000	950.000

Source : Rapport intermédiaire

- ✓ Dans les 6 communes cibles, les AUE ont été mises en place dans tous les villages avant la fin de la 2<sup>ème</sup> année du projet. Il est prévu à partir de la 3<sup>ème</sup> année d'organiser les formations suivantes avant de procéder au paiement des redevances et au recouvrement des prix d'eau.
  - 2<sup>ème</sup> formation des AUE des communes cibles
  - 3<sup>ème</sup> formation des AUE des communes cibles
- ✓ Pour ce qui concerne le recouvrement du prix d'eau auprès des usagers, toutes les AUE ont commencé le recouvrement à Depelogo et à Toeghin et 30 AUE à Zorgho. La somme recouvrée auprès des usagers est indiquée dans le tableau ci-dessous.

---

**Résultat 3 : En ce qui concerne la gestion et la maintenance des IH, le système d'approvisionnement en pièces détachées et celui de réparation sont améliorés.**

---

Les indicateurs du Résultat 3 déterminés dans le PDM sont les suivants :

- ✓ Les maintenanciers arrivent à répondre à plus de 60% des besoins de maintenance et de tournées de suivi demandés par les communes avant octobre 2012.
- ✓ Toutes les communes possèdent les informations nécessaires pour le remplacement de pièces détachées (magasins, procédure de commande, etc.)
- ✓ Le délai de réparations simples est réduit à moins d'un mois.

Le Résultat 3 vise à renforcer les capacités et les techniques des maintenanciers qui jouent un rôle important pour la gestion et la maintenance des IH d'AEP et à établir le système d'approvisionnement en pièces détachées. Les activités sont exécutées satisfaisante et ont permis de produire des effets. Au cours de la 1<sup>ère</sup> année, le projet a réalisé une étude sur les réparateurs artisans et les réseaux d'approvisionnement en pièces détachées dans la région du PCL. À la 2<sup>ème</sup> année, le plan d'action pour établir le système d'approvisionnement effectif en pièces détachées et le système d'entretien et de réparation par les maintenanciers a été élaboré sur la base des données obtenues au cours de la 1<sup>ère</sup> année. D'ailleurs, la formation des maintenanciers a été commencée à partir de la 2<sup>ème</sup> année.

Situation de réalisation des activités du Résultat 3 en mai 2011

- ✓ Pour l'indicateur relatif à la gestion et à la maintenance, les activités principales suivantes ont été exécutées à l'issue des deux années du projet.
  - Collecte et capitalisation des informations sur les pompes, les pièces détachées et les artisans réparateurs (AR)

- Organisation des formations sur la réforme en faveur des AR
- Agrément des maintenanciers
- Formations et renforcement des capacités des maintenanciers (comprenant la mise en place des associations des maintenanciers)
- ✓ Pour l'indicateur relatif à l'approvisionnement en pièces détachées, les activités principales suivantes ont été exécutées à l'issue des deux années du projet.
  - Collecte des données concernant le circuit des pièces détachées par type de pompe, les magasins, la gestion de stock etc.)
  - Mise à jour et partage des données du réseau de distribution des pièces détachées
  - Étude d'amélioration de l'approvisionnement en pièces détachées.

Nous avons constaté les effets suivants en rapport avec le Résultat 3.

- ✓ Les maintenanciers se préoccupent de la réussite du Projet dont dépend le développement de leurs affaires et s'impliquent pour cela très fortement dans la mise en œuvre des activités du Projet.
- ✓ La mise en place et le renforcement des associations des maintenanciers ont favorisé l'émergence d'un sentiment de solidarité entre eux. La délivrance des agréments Niveau 1 et Niveau 2 par la DRAH/PCL aux maintenanciers selon leurs compétences et matériels en possession les ont encouragés beaucoup et ceux de Niveau 1 sont motivés et s'efforcent à obtenir l'agrément Niveau 2.

En ce qui concerne l'indicateur relatif au délai de réparations simples, étant donné qu'il est prévu de faire les activités relatives à cet indicateur à la 3ème année du projet, ces activités ne font pas l'objet de l'évaluation à mi-parcours.

Par ailleurs, le problème d'alphabétisation des maintenanciers constitue un défi à long terme. Vu que la plupart des maintenanciers ne savent ni lire, ni écrire en français, il a été constaté qu'il existe de nombreux maintenanciers qui ont des difficultés de traiter des affaires contractuelles et de tenir une comptabilité qui nécessite le remplissage de documents.

---

**Résultat 4 : Dans les 3 communes cibles du Plateau Central, les comportements en matière d'hygiène et d'assainissement des populations sont améliorés.**

---

Les indicateurs du Résultat 4 déterminés dans le PDM sont les suivants :

- ✓ Le programme et les manuels de sensibilisation et d'éducation en matière d'hygiène et d'assainissement sont élaborés.
- ✓ Dans les villages des 3 communes pilotes, plus de 600 agents s'occupant du programme de promotion de l'hygiène et de l'assainissement ou celui de l'enseignement (enseignants, agents du centre de santé, agents chargés de

l'hygiène et de l'assainissement aux services techniques, animateurs villageois) sont formés.

- ✓ Dans les villages des 3 communes pilotes, les activités de sensibilisation sont mises en œuvre au moins 6 fois par an par les agents s'occupant du programme de promotion de l'hygiène et de l'assainissement ou celui de l'enseignement.
- ✓ Le guide pour le monitoring des activités en hygiène et l'entretien des infrastructures sanitaires (latrines) est élaboré et le système de gestion des infrastructures sanitaires (d'assainissement) publiques est mis en place.
- ✓ Sur la base du guide pour le monitoring des activités en hygiène et l'entretien des infrastructures sanitaires, le suivi-évaluation sur la gestion des infrastructures sanitaires et le comportement en matière d'hygiène et d'assainissement est mené à chaque site au moins 2 fois par an.
- ✓ Les infrastructures sanitaires publiques (latrines scolaires etc.) sont gérées par les populations.

Le Résultat 4 concerne les activités d'amélioration du comportement en matière d'hygiène et d'assainissement. Les acteurs sont plus nombreux: le MAH, le MS et le MENA. L'objectif des activités est d'améliorer le comportement en matière d'hygiène et d'assainissement des villageois et les activités consistent en élaboration des outils de sensibilisation et en formation des formateurs et enseignants chargés de sensibilisation. Comme il a été indiqué en détail ci-dessus, les activités s'exécutent d'une manière satisfaisante. Au cours de la 1<sup>ère</sup> année, le manuel pour la formation des formateurs administratifs de PHA a été élaboré. Au moyen de ce manuel, les formations ont été tenues pour former les formateurs administratifs et les animateurs villageois. À la 2<sup>ème</sup> année, on a mené les activités de sensibilisation ainsi que celles de suivi.

#### État d'avancement des Résultats 4 en mai 2011

- ✓ Les manuels de la sensibilisation et de l'éducation en matière de l'amélioration d'hygiène et d'assainissement suivants sont élaborés.
  - Manuel pour la formation des formateurs en matière d'hygiène et d'assainissement
  - Guide pour les animateurs villageois à l'hygiène et les enseignants
  - Boîte à image de SARAR/PHAST
  - Guide pour le monitoring des activités en hygiène et l'entretien des infrastructures sanitaires
- ✓ Ces manuels ont été révisés suivant le feedback des utilisateurs à la fin de la 1<sup>ère</sup> année du projet. À partir de la 2<sup>ème</sup> année, les manuels révisés sont utilisés.
- ✓ La formation des agents s'occupant du programme de promotion de l'hygiène et de l'assainissement est mise en œuvre en cascade. La formation des formateurs administratifs est mise en œuvre en faveur des superviseurs administratifs (au niveau provincial et régional de chaque ministère) et des formateurs administratifs (au niveau provincial et communal de chaque ministère) pendant 5 jours. Les formateurs administratifs ont mis en œuvre les formations en faveur des animateurs villageois à l'hygiène et des enseignants pendant 2 jours.

<b>Formation des agents s'occupant du programme de promotion d'hygiène et d'assainissement</b>	
Formateurs administratifs à l'hygiène	58
Animateurs villageois à l'hygiène	430
Enseignants de base	400
Total	888

- ✓ Les animateurs villageois à l'hygiène et enseignants formés mèneront les activités de sensibilisation à chaque village ou à chaque école ( 436 fois pour 14.268 participants dans les villages et 388 fois pour 309 classes dans les écoles jusqu'en septembre 2011).

L'équipe de revue conjoint a confirmé que les outils pour l'animation et l'éducation en hygiène et en assainissement élaborés par le Projet ont été officiellement approuvés comme outils de vulgarisation à l'échelle nationale et seront donc utilisés dorénavant<sup>5</sup>. Par ailleurs, dans le curriculum de l'enseignement primaire au Burkina Faso, l'éducation en hygiène est inscrite dans le cadre de l'éducation civique et morale, en plus elle est considérée comme un parmi les 8 thèmes émergents qui ont été élaborés en 2009. Nous avons constaté que la durabilité des activités de promotion en matière d'hygiène et d'assainissement est bien assurée, comme elles sont intégrées dans les programmes scolaires. Par contre, les formateurs administratifs sont généralement soumis au mouvement ou à la mutation du personnel et les animateurs villageois à l'hygiène formés participent volontairement aux activités, ce qui pose problème du point de vue de la durabilité, ceux qui constituent un défi du point de vue de la durabilité et du maintien de leur motivation.

---

**Résultat 5 : Chaque Direction Provinciale de l'Agriculture, de Hydraulique et des Ressources Halieutiques (DPAHRH) arrive à : effectuer le suivi-évaluation de l'état d'approvisionnement en eau, d'hygiène, et d'assainissement : accorder des appui-conseils aux communes.**

---

Les indicateurs du Résultat 5 déterminés dans le PDM sont les suivants :

- ✓ Le suivi-évaluation sur les éléments suivants sont effectués 4 fois par an par chaque DPAHRH à partir de 2010 : le taux de fonctionnement des IH, l'état financier des AUE, le taux de recouvrement par les gestionnaires, l'état de maintenance et de gestion des IH par les maintenanciers.
- ✓ Le suivi-évaluation sur l'état d'hygiène et d'assainissement est effectué 4 fois par an par chaque DPAHRH à partir de 2010.
- ✓ À la suite du suivi-évaluation, 70% d'appui-conseils nécessaires sont accordés suivant les moyens de chaque DPAHRH.

Le Résultat 5 concerne les activités visant à assurer la durabilité des activités et effets

---

<sup>5</sup> L'information a été obtenue lors de la rencontre des responsables du MAH.

du projet. Il consiste à assurer que les services administratifs apportent l'appui/conseil aux communes et aux AUE en faisant le monitoring périodique la situation de gestion et de maintenance des IH d'AEP et d'activités d'amélioration du comportement en matière d'hygiène et d'assainissement par ces dernières. Pour ce faire, le projet met l'accent en particulier sur le renforcement des capacités des structures administratives qui s'occupent de l'appui/conseil aux communes et AUE, l'élaboration des fiches du suivi, l'établissement du système durable de monitoring et d'appui.

#### État d'avancement des activités du Résultat 5 en mai 2011

- ✓ Mise en œuvre de la formation de la Réforme des agents administratifs la région du PCL. Il a été constaté que les agents administratifs ont eu de bonnes notes à l'issue de l'évaluation des acquis de la formation.
- ✓ L'établissement du système de monitoring/suivi est constitué de quatre (4) composants. La situation actuelle de chaque composante se résume comme suit :

#### Problèmes et mesures dans l'établissement de monitoring/suivi

Composante	Situation actuelle / problème	Mesure d'amélioration
Suivi-monitoring des activités de l'AUE par DPAH, ZAT/UAT	La mission de la ZAT/UAT concerne non seulement l'eau et l'hygiène, mais aussi des domaines variés, tels que l'agriculture, l'infrastructure sociale. Si le monitoring est mené 4 fois / an, les informations à traiter sont trop énormes et complexes. Qui plus est, au regard du dispositif personnel de la DPAH et de la ZAT/UAT, 4 monitoring par an est difficile en raison du manque d'effectif. À ce titre, il est très probable que les informations recueillies ne font pas l'objet du partage, de l'analyse, du feedback, etc.	Le Projet propose 2 fois / an de monitoring. À cet effet, il faut réviser le Cadre Logique. Pour cela, la décision pourrait être prise lors de l'évaluation à mi-parcours ou au plus tard au début de la 3ème année.
	Pour encourager la transmission d'un compte-rendu régulier de l'AUE auprès de la ZAT/UAT après l'achèvement du projet, les Fiches de suivi doivent être aussi concises que possible. Cependant, il vaut mieux collecter aussi nombreuses que possible les données pour mieux évaluer l'impact des activités, cela nécessite malheureusement des Fiches assez complexes.	Élaborer les Fiches de suivi qui n'auront que deux rubriques avec contenu simple : la situation financière et la gestion des PMH. L'AUE s'approprie de ces Fiches après la fin du projet. D'autre part, une autre Fiche est préparée pour collecter les données et d'évaluer l'impact du projet. Celle-ci est renseignée par l'animateur du prestataire local.
	La Convention de la délégation de	La soumission du rapport sur la

	gestion avec l'AUE est conclue entre la commune et l'AUE. En principe, toutes les PMH relèvent de la commune. De ce fait, la commune doit suivre elle-même les activités de gestion des installations menées par l'AUE.	situation financière et la gestion des PMH à raison de 2 fois par an sera inscrite dans le Contrat entre l'AUE et la commune.
Suivi-monitoring des activités de communes par DPAH, ZAT/UAT	Le Contrat n'est pas encore signé entre les maintenanciers et la commune. Pour cette raison, le monitoring/suivi n'est pas mené. Il est prévu à partir du début de la 3ème année.	-
Suivi-monitoring de gestion des PMH par Mainteneanciers	À travers la formation des Mainteneanciers, il s'est avéré que beaucoup de Mainteneanciers sont analphabètes.	Le rapport de tournée de suivi élaboré par les Mainteneanciers pour soumettre à la commune doit prendre en compte des analphabètes.
Suivi-monitoring des activités de l'hygiène par animateurs villageois en hygiène	La mission de la ZAT/UAT concerne non seulement l'eau et l'hygiène, mais aussi des domaines variés, tels que l'agriculture, l'hydraulique etc. Si le monitoring est mené 4 fois / an, les informations à traiter sont trop énormes et complexes. À ce titre, il est très probable que les informations recueillies ne fassent pas l'objet du partage, de l'analyse, du feedback, etc.	Le Projet propose 2 fois / an de monitoring. À cet effet, il faut réviser le Cadre Logique. Pour cela, la décision pourrait être prise lors de l'évaluation à mi-parcours ou au plus tard au début de la 3ème année.
	La tournée de suivi et de monitoring par les formateurs administratifs est très difficile par leur faible effectif et leurs tâches propres.	L'AUE de chaque village soumet un rapport à la commune 2 fois / an, dont les informations sont partagées avec ZAT/UAT, DAPHRH et DRAH. En empruntant cette voie, les résultats du suivi en hygiène seront soumis à la commune avec le rapport de l'AUE. Par ce biais, les formateurs administratifs auront l'occasion de réflexion 2 fois / an sur la sensibilisation en hygiène, ceci assure la pérennisation des activités. Les activités de l'éducation en matière d'hygiène au niveau des écoles sont intégrées dans le système éducatif existant.

- ✓ Constaté qu'il est difficile d'effectuer le monitoring 4 fois par an en tenant compte de la charge importante des travaux de la DPAH et les ZAT/UAT, il est raisonnable de ramener le nombre de monitoring à 2 fois par an.

#### 4.1.4 État d'accomplissement des objectifs du Projet (perspective)

Objectifs du : L'état de gestion et de maintenance des IH et le comportement en matière d'hygiène et d'assainissement des populations sont améliorés dans les

projet	communes cibles (toutes les communes de l'Oubritenga et les communes pilotes du Ganzourgou et du Kourwéogo).
Indicateurs	<p>[Indicateur 1] Le taux de fonctionnement des IH dans les 9 communes cibles (toutes les communes de l'Oubritenga et les communes pilotes du Ganzourgou et du Kourwéogo) progresse de 70% à 80%.</p> <p>[Indicateur 2] Le comportement des populations des communes pilotes sur les pratiques en matière de l'approvisionnement en eau potable, d'hygiène et d'assainissement (10 articles) est amélioré au moins 60%</p>

Nous avons analysé, en fonction des indicateurs du PDM, les circonstances en rapport avec "l'objectif du projet", c'est-à-dire "*l'état de gestion et de maintenance des IH et le comportement en matière d'hygiène et d'assainissement des populations sont améliorés dans les communes cibles (toutes les communes de l'Oubritenga et les communes pilotes du Ganzourgou et du Kourwéogo)*". Les circonstances peuvent être résumées comme ce qui suit :

Indicateur 1 : Le taux de fonctionnement des IH dans les 9 communes cibles (toutes les communes de l'Oubritenga et les communes pilotes du Ganzourgou et du Kourwéogo) progresse de 70% à 80%.

Dans les communes pilotes, toutes les AUE qui s'occupent de la gestion et de la maintenance des IH ont été mises en place. Les procédures nécessaires telles que "la fixation et la délibération du prix d'eau et de la redevance" et "la signature de la convention de délégation de gestion des PMH entre commune-AUE" ont été achevées dans toutes les AUE des communes pilotes. Ce faisant, le projet peut dorénavant exécuter des activités d'appui concrètes aux communes cibles pour la gestion et la maintenance des IH, à savoir la mise en réserve des fonds, le versement des redevances, la signature des contrats de suivi et d'entretien entre communes-maintenanciers. Aussi, la formation des maintenanciers qui seront chargés de l'entretien et de la réparation des PMH et l'organisation des associations des maintenanciers sont achevées avant la fin de la 2<sup>ème</sup> année.

Indicateur 2 : Le comportement des populations des communes pilotes sur les pratiques en matière de l'approvisionnement en eau potable, d'hygiène et d'assainissement (10 articles) est amélioré au moins 60 %.

Les activités de l'amélioration du comportement en matière d'hygiène et d'assainissement sont menées jusqu'ici d'une manière régulière. Les outils pour la sensibilisation en matière d'hygiène sont exploités par le projet. La formation dans le

domaine de sensibilisation en matière d'hygiène et d'éducation a été exécutée en s'échelonnant sur deux étapes : d'abord la formation des formateurs administratifs, en suite la formation des animateurs villageois d'hygiène et des enseignants. Les formateurs administratifs formés déploient les activités de sensibilisation dans les villages et les enseignants formés sensibilisent les élèves dans les écoles en matière d'hygiène et d'assainissement. Comme les données de base pour le monitoring sont actuellement en élaboration, il est prévu de procéder aux activités concrètes de suivi / monitoring. Comme décrit ci-dessus, dans le curriculum de l'enseignement primaire au Burkina Faso, l'éducation en hygiène est inscrite dans le cadre de l'éducation civique et morale, il est bien possible d'assurer la continuité des activités d'éducation en matière d'hygiène et d'assainissement dans les écoles même après l'achèvement du Projet. D'ailleurs, étant donné que les animateurs villageois travaillent volontairement, le maintien de leur motivation et l'enracinement des activités des animateurs villageois constituent un défi à considérer dès maintenant.

#### 4.1.5 État d'accomplissement du but global (perspective)

---

But global : Dans la région du Plateau Central, l'environnement en matière de santé, d'hygiène et d'assainissement est amélioré

---

Indicateurs : [Indicateur 1] La proportion de population pouvant se servir durablement de points d'eau améliorés passe de 70% à 80% avant 2015.  
 [Indicateur 2] Le taux de fonctionnement des infrastructures hydrauliques(IH) passe de 70% à 80% avant 2015.  
 [Indicateur 3] La situation sur l'approvisionnement en eau potable, l'hygiène et l'assainissement des populations est améliorée avant 2015.

---

Nous considérons que pour les raisons suivantes il est possible d'accomplir les indicateurs 1 et 2 du but global.

Concernant l'indicateur 1, le plan de réalisation des IH d'AEP inscrit dans le PN-AEPA s'exécute convenablement et des IH d'AEP ont été réalisées dans la région du PCL permettant de porter le taux d'accès à l'eau potable de 69,9% en 2009 à 71,45% en 2011<sup>6</sup>. Il est attendu que ce taux s'améliorera pour atteindre le but à l'horizon 2015.

Pour ce qui concerne l'indicateur 2, d'autres partenaires de développement autre que le Japon accordent et/ou envisagent des appuis pour la promotion de la Réforme comprenant la mise en place des AUE dans la région du PCL. Par exemple, le SOS-Sahel appuie actuellement pour la mise en place des AUE dans la province de Kourwéogo. Le programme Burkina Faso–Limousin (France) en abrégé FASOLIM envisage une opération de coopération pour l'approvisionnement en eau potable dans

---

<sup>6</sup> Source : DGRE, DGAEUE, ONEA : Programme National d'Approvisionnement en Eau Potable et d'Assainissement à l'horizon 2015 (PN-AEPA 2015), Rapport Bilan Annuel au 31 décembre 2010.

la province de l'Oubritenga. Également, la SNV qui est une ONG internationale siégeant aux Pays-Bas, envisage une coopération dans la région du PCL. Par conséquent, il est attendu que le taux de fonctionnement des PMH s'améliore par la mise en place des AUE fonctionnelles.

Le tableau suivant indique l'évolution du taux de fonctionnalité des PMH des 9 communes cibles. Il montre que le taux s'est amélioré depuis le début du Projet en 2009.

Évolution du taux de fonctionnalité des PMH (2008 à 2010)

	2008	2009	2010
Zorgho	84,45	92,69	93,33
Toeghin	89,74	93,9	96,7
Dapelogo	82,27	82,04	80,18
Ziniare	73,6	76,35	76,9
Absouya	78,63	81,15	87,4
Loumbila	82,96	84,89	83,56
Nagreongo	78,26	78,33	87,4
Ourgou-Mangeda	75,89	80,87	78,76
Zitenga	70,41	81,07	81,25

Source: Base de données de l'inventaire des IH d'AEP (INOH) (2011)

En outre, la partie burkinabè considère le présent projet comme un projet pilote pour la promotion de la Réforme et a l'intention d'envisager une approche d'extension et de développement de la Réforme en tenant compte des améliorations etc. après avoir vérifié les résultats du présent projet. De ce fait, nous avons constaté qu'il est bien possible d'atteindre l'indicateur 2.

À noter que les communes qui ont introduit pratiquement la Réforme parmi les 20 communes de la région du PCL sont seulement les 9 communes qui mettent en œuvre le présent projet et que le plan d'action pour la promotion de la Réforme à l'échelle nationale avec les mesures budgétaires n'est pas encore élaboré, ce qui constitue un défi. En outre, les ressources humaines et financières (le nombre du personnel, les connaissances, les techniques et le budget) du MAH, de la DRAH et des communes restent cependant faibles. Surtout le personnel chargé des activités d'appui technique et de suivi au niveau des sites est gravement manquant. Cela pose un problème de la durabilité des activités après l'achèvement du Projet.

Pour ce qui concerne l'indicateur 3, comme les activités de suivi/monitoring sont prévues pour la 3<sup>ème</sup> année, il est impossible pour l'instant de l'évaluer. Cependant, les activités de sensibilisation par les animateurs villageois n'étant pas bien assurées comme décrit ci-dessus, il faut trouver une solution à cette question en impliquant les intéressés.

#### **4.1.6 Constatation du processus de mise en œuvre du Projet**

Nous constatons que le processus de mise en œuvre du Projet est très bon. La session du Comité de Pilotage a été tenue trois fois jusqu'ici. Ce comité fonctionne bien comme l'instance prenant la décision finale. En ce qui concerne la délibération sur les points

importants tels que la modification du PDM etc., il faut mettre en place un groupe de travail. La communication entre les experts japonais et les C/P burkinabè et entre ces premiers et les consultants du bureau d'étude local est également bonne de telle façon que le système permettant de faire face à des problèmes est bien établi. Autrement dit, la bonne communication entre les intéressés a contribué beaucoup à la mise en place des AUE au nombre de 271 au total au cours de deux (2) ans.

Il faut noter que la partie burkinabè déploie des efforts pour faire avancer les activités en s'appropriant le Projet. Étant entendu que l'accès à l'eau potable est un problème vital pour les villageois, la partie burkinabè accorde une importance à une bonne exécution des activités. D'autre part, tous les experts japonais parlent couramment le français et ont beaucoup d'expériences dans les pays francophones d'Afrique d'Ouest, ce qui a contribué au bon déroulement du Projet.

## 5. Résultats de la revue

### 5.1 Résultats de la revue

#### 5.1.1 Revue en fonction de cinq (5) critères

Les résultats de la revue en fonction de cinq critères sont résumés dans le tableau ci-dessous. L'évaluation a été faite en 5 degrés (haut, relativement haut, médiocre, relativement bas et bas).

Item	Constatation	Aperçu
Pertinence	Haute	<ul style="list-style-type: none"> <li>- Le PN-AEPA (Programme national d'approvisionnement en eau potable et d'assainissement) vise à constituer les AUE et à renforcer la capacité des agents chargés de la mise en place des AUE et la politique de la réforme des IH en milieu rural et semi-urbain restent inchangés.</li> <li>- Elle est conforme au plan de mise en œuvre des projets par pays de la JICA.</li> <li>- Toutes les parties prenantes intéressées à tous les niveaux allant des ministères concernés jusqu'aux villages ont un bon sentiment d'appropriation du projet surtout en matière des activités de gestion et de maintenance des IH d'AEP à travers le Projet.</li> <li>- Le projet a été formulé et mis en œuvre suivant la politique bien établi de la Réforme, ce qui est un des facteurs favorisant l'avancement du Projet.</li> <li>- Comme les activités de gestion et d'entretien des PMH</li> </ul>

		<p>et d'amélioration du comportement en matière d'hygiène et d'assainissement constituent "un projet d'organisation personnelle", on peut réaliser l'objectif en surmontant petit-à-petit mais assurément des problèmes/difficultés. L'intervention des experts japonais même au niveau des sites dans le cadre du présent projet est hautement significative.</p>
Efficacité	Haute	<ul style="list-style-type: none"> <li>- Les activités s'exécutent d'une manière satisfaisante vers l'atteinte des cibles déterminés dans le PDM.</li> <li>- Il est très possible que l'objectif du projet concernant l'amélioration du taux de fonctionnement des IH soit atteint.</li> <li>- Comme il s'agit d'un projet conforme à la politique du pays surtout à celle de la mise en œuvre de la Réforme, tout le monde comprenant les C/P sont très conscients que le PROGEA/PCL est un projet burkinabè très important.</li> <li>- Pour ce qui concerne l'amélioration du comportement en matière d'hygiène et d'assainissement et l'enracinement des activités dans les villages et dans les établissements scolaires, il est souhaitable qu'on s'ingénie à trouver un moyen pour améliorer le comportement en matière d'hygiène et d'assainissement. Il est nécessaire de prendre des mesures adéquates pour la continuité des activités.</li> </ul>
Efficiences	Relativement haute	<ul style="list-style-type: none"> <li>- Les intrants des deux parties ont été mobilisés presque conformément au plan accordé.</li> <li>- Les activités sont conduites d'une manière satisfaisante grâce au bon professionnalisme des experts japonais en collaboration avec le bureau d'étude locale de sous-traitance.</li> <li>- La sous-traitance des services avec le bureau d'étude local a contribué à la réalisation du transfert des technologies.</li> <li>- Il a été constaté que les homologues qui ont participé aux stages thématiques au Japon s'engagent plus dynamiquement aux activités du projet après le retour du Japon.</li> <li>- Le budget 2009 de la partie burkinabè pour le projet n'a pas exécuté. Par ailleurs, un grand nombre des C/P ont été renouvelés au début de la 2<sup>ème</sup> année du projet.</li> </ul>
Impact	Modéré	<ul style="list-style-type: none"> <li>- Il est très possible que l'objectif du projet soit atteint. (Composante de gestion et de maintenance des IH.)</li> <li>- Les AUE qui s'occupent de la gestion et de la maintenance des PMH ont été mises en place dans toutes les communes faisant l'objet du projet. Les</li> </ul>

		<p>activités de dynamisation des AUE sont en cours.</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- Les capacités administratives relatives à la promotion de la Réforme de la DRAH ont été renforcées par la formation.</li> <li>- D'autres communes que les 9 communes cibles souhaitent fortement l'application de la Réforme.</li> <li>- Comme la zone d'intervention du projet est limitée, l'engagement fort de la partie burkinabè en rapport avec la continuité des activités (comprenant la prise des mesures budgétaires) pour l'amélioration de l'environnement de la santé et de l'hygiène de toute la région du PCL est nécessaire.</li> <li>- Il faut prendre des mesures budgétaires pour la promotion de la Réforme.</li> <li>- Malgré qu'il y ait des problèmes, il est possible que le but global soit atteint.</li> </ul>
Durabilité	Modérée	<ul style="list-style-type: none"> <li>- La politique de la promotion de la Réforme restera inchangée jusqu'à 2015.</li> <li>- Les savoir-faire de l'application de la Réforme sont bien transférés des experts japonais aux administrateurs concernés.</li> <li>- Les ressources humaines et financières de la partie burkinabè sont insuffisantes. Les fondements organisationnels administratifs de la partie burkinabè sont faibles.</li> <li>- Comme les communes ont été créées en 2006, il leur manque de moyens financiers et humains. Le renforcement des capacités est nécessaire.</li> <li>- Pour ce qui concerne les activités de sensibilisation et d'éducation en matière d'hygiène et d'assainissement, il faut prendre des mesures budgétaires pour les activités à mener après l'achèvement du projet.</li> <li>- Les animateurs villageois à l'hygiène formés participent volontairement aux activités, ce qui pose problème à long terme du point de vue de la durabilité. Il est nécessaire d'envisager un mécanisme de motivation des animateurs villageois.</li> </ul>

### 5.1.2 Facteurs favorisant et défavorisant le Projet

#### (1) Analyse des facteurs favorisant l'apparition des effets

On peut énumérer les deux points suivants comme facteur favorisant la réalisation des activités.

Primo, le contenu des activités du Projet se conforme parfaitement à la politique de la

promotion de la Réforme de la partie burkinabè. Étant donné que les objectifs et activités du projet sont conformes avec les orientations du Gouvernement du Burkina Faso, ceci favorise beaucoup dans le partage des vues avec les C/P, les agents au niveau des Directions centrales, régionales et des communes. C'est un des facteurs qui ont également favorisé l'émergence d'un sentiment d'appropriation appréciable du projet de la partie burkinabè. Il est à souligner que dans le cadre du projet, la Directrice Régionale de l'Agriculture et de l'Hydraulique du PCL a été nommée cumulativement avec ses fonctions, coordonnatrice nationale au lieu de la nomination unique de coordinateur national généralement appliquée. Elle a donc un sentiment d'appropriation bien apprécié.

Secundo, il s'agit de la bonne communication entre l'équipe japonaise (experts japonais) et les homologues (administration), les communes et le bureau d'étude local. En plus des rencontres périodiques ordinaires, ils collaborent pour résoudre divers problèmes rencontrés dans la mise en œuvre des activités surtout au niveau des sites. Cette étroite de collaboration a contribué à l'avancement du projet. La contribution de l'équipe d'experts japonais qui parlent couramment le français et ont beaucoup d'expérience de travail au Burkina Faso et dans d'autres pays francophone d'Afrique de l'Ouest est considérablement importante.

## (2) Analyse des facteurs défavorisant l'émergence des effets

Il a été constaté quelques facteurs défavorisant l'émergence des effets en rapport avec le processus de mise en œuvre du projet.

Primo, le taux d'alphabétisation et le niveau d'éducation peu élevés des villageois également ont empêché la mise en œuvre régulière du projet. Car les activités du projet nécessitent le remplissage de documents pour la mise en place des AUE, la demande de la reconnaissance des AUE à déposer aux autorités, la comptabilité, la rédaction des rapports, l'enregistrement des maintenanciers etc. Ce travail est tout à fait difficile pour la plupart des membres des AUE et maintenanciers qui ne savent ni écrire, ni lire. Le projet a appuyé pour la traduction en langues locales, le remplissage de documents et formulaires par remplaçant etc. Au cours des rencontres par interview (pour la revue à mi-parcours), les membres des AUE et maintenanciers ont souligné telles difficultés. Il a été donc constaté que le problème du taux d'alphabétisation peu élevé constitue un défi à long terme.

Secundo, la compréhension des villageois par rapport à l'introduction du nouveau système était très difficile contrairement à ce qu'on avait attendu. En comparaison avec le système conventionnel du CPE, le système intégral de la Réforme consiste en

la gestion et la maintenance des PME par village. Étant donné qu'il est nécessaire d'impliquer de nombreuses parties prenantes pour la signature des conventions, contrats comprenant les clauses pénales, il y a eu certainement des villageois qui ne voulaient pas accepter l'introduction d'un nouveau système, surtout ceux des villages plus conservateurs. Un nombre très important des villageois pensent que l'AEP doit être essentiellement assuré par le gouvernement. Telle notion commune est très persistante. Faire comprendre le système de la Réforme qui demande aux bénéficiaires de participer aux activités de gestion et de maintenance et aux charges nécessite encore beaucoup de temps.

Tertio, il se provoquerait de conflits et répulsions entre les quartiers de village. Comme il est décrit ci-dessus, la Réforme envisage la gestion intégrale des PME au niveau des villages. Cependant, le conflit ou le désaccord dans un village ou entre villages empêche la promotion du projet et est un des problèmes majeurs. Le problème de ce genre est diversifié et différent au cas par cas, et peut être expliqué soit un conflit qui dure longtemps, soit des animosités entre individus. En tout cas, il a été constaté que les experts, les homologues, les consultants locaux ont consacré beaucoup d'efforts pour faire face à des problèmes ou pour trouver les solutions jusqu'ici. Il est à remarquer que le projet prévoit de recueillir des exemples de difficultés, solutions, mesures à prendre dans un document.

En dernier lieu, il a été constaté qu'il s'est produit un fossé entre les 9 communes cibles et celles qui ne font pas d'objet du projet (au nombre de 11). Pour les 9 communes cibles, les AUE ont été mises en place grâce aux activités d'introduction et d'enracinement du système de la Réforme qui consiste en la gestion des IH par la participation physique et financière des bénéficiaires. Mais il existe des villageois utilisant les PME non organisés suivant la Réforme, ce qui provoquerait des désordres en rapport avec la gestion des IH non seulement dans les 9 communes cibles, mais aussi dans les communes qui ne font pas d'objet du projet. En ce qui concerne les associations des maintenanciers, elles sont mises en places par province. Et la réparation des PMH dans les communes qui n'ont pas encore organisé les AUE est exécutée suivant la procédure conventionnelle, c'est-à-dire sans contrat avec les AUE de telle façon que les effets du renforcement des capacités des maintenanciers sont limitatifs. L'existence des zones où les AUE ne sont pas mises en place constitue un facteur gênant la généralisation des prix fixés des pièces détachées et des réparations que le projet a introduites.

## **5.2 Conclusions (synthèse de la revue)**

Nous avons bien constaté l'engagement élevé de la partie burkinabè, notamment celui de la DRAH/PCL ainsi que le bon déroulement des activités de la 1<sup>ère</sup> année et de la 2<sup>ème</sup> année. En effet, les AUE ont été mises en place dans l'ensemble des zones cibles. D'autre part, les communes pilotes ont commencé le versement des redevances et le recouvrement des prix d'eau. Il a été constaté que sur la base de la concertation entre les acteurs intéressés avec l'initiative des experts japonais, le système de mise en œuvre du projet est bien établi. Il n'y a pas de problème majeur en rapport avec le processus de mise en œuvre du projet. Pour ce qui concerne la composante de la gestion et de la maintenance des IH, l'atteinte de l'objectif du projet est très possible.

Par contre, en ce qui concerne la composante de l'amélioration du comportement en matière d'hygiène et d'assainissement, il y a des problèmes à surmonter pour réaliser l'objectif du projet. Il n'est généralement pas possible d'avoir dans un court temps un résultat tangible des activités de l'amélioration du comportement en matière d'hygiène et d'assainissement. Il est important de continuer les activités avec ténacité.

Concernant la durabilité, on trouve de nombreux problèmes. D'abord, on doit énumérer entre autres l'insuffisance des ressources humaines et financières de la partie burkinabè. Le Gouvernement du Burkina Faso reçoit un nombre important de coopération des partenaires de développement. Pour mettre en œuvre et suivre les projets de coopération, il manque chroniquement du personnel. Au niveau de la région, la DRAH/PCL a été créée, il y a environ 10 ans. Le réseau d'encadrement n'est pas bien fourni pour mener les activités sur le terrain. Concernant l'analyse sous l'angle financier, les mesures budgétaires pour les activités après l'achèvement du projet ne sont pas encore envisagées. La partie burkinabè devra prendre des mesures budgétaires concrètes y compris l'utilisation de l'ABS pour pouvoir continuer les activités même après l'achèvement du projet.

Pour terminer, nous décrivons un problème particulier. Étant donné que dans la région du PCL il existe des villages où les AUE sont mises en place et des villages voisins où il n'y a pas d'AUE. De ce fait, il a été constaté qu'il y a des villages qui ont enregistré des conflits au regard du mode de gestion et de maintenance des IH. (Il s'agit des villages limitrophes en rapport avec les AUE.) D'autre part, le projet appuie les maintenanciers transversalement dans la région du PCL. Pour avoir les effets, la mise en place des AUE est indispensable. Actuellement les AUE sont mises en place seulement dans les 9 communes, de telle façon que les effets du renforcement des maintenanciers sont limitatifs. Il est nécessaire d'envisager une extension du projet pour les 11 communes pour résoudre ledit problème dans les communes et pour avoir

les effets maximaux des activités d'appui aux maintenanciers.

## **6. Recommandations**

### **6.1 Activités pour l'amélioration du comportement en matière d'hygiène et d'assainissement**

La revue a permis de relever des inquiétudes concernant la durabilité des activités de promotion en matière d'hygiène et d'assainissement. Nous recommandons donc de prendre les mesures suivantes pour assurer la durabilité :

- Mettre en œuvre un système qui garantit la poursuite des activités en cas de départ ou de mutation des agents administratifs et enseignants chargés de la promotion d'hygiène et d'assainissement et
- Maintenir la motivation des animateurs villageois.

La durabilité des activités de sensibilisation et d'éducation en hygiène et en assainissement peut être assurée par l'utilisation du fonds de la commune et/ou de l'AUE, ou à travers la collaboration avec les Comités de Gestion Scolaire (COGES) qui ont une approche d'exécution des activités impliquant les communautés etc.

### **6.2 Extension des communes cibles**

Le présent projet développe ses activités dans les 9 communes sur les 20 communes de la région du PCL et prévoit que la partie burkinabè se charge d'introduire la Réforme dans les 11 communes restantes par ses propres efforts. Cependant le l'avancement des activités dans les 11 communes est pour l'instant peu satisfaisant. À travers le projet, il a été constaté que l'introduction de la Réforme nécessite du temps considérable et d'importants moyens financiers. Par conséquent, il est très difficile de développer les activités de la Réforme dans la zone d'extension avec les ressources budgétaires et humaines mobilisées actuellement par la partie burkinabè, surtout avec le personnel réduit qui doit s'occuper des activités d'animation sur le terrain.

À noter qu'il y a des conflits entre les communes cibles du projet et celles qui ne sont pas couvertes par le Projet du fait des modalités différentes de gestion et de maintenance des IH et des problèmes empêchant la formation des maintenanciers au niveau de la province, la mise en place des associations des maintenanciers, la généralisation des prix fixés de réparation etc.

Plus l'introduction des activités dans les 11 communes prend du retard, plus le fossé entre les communes cibles et celles non cibles s'agrandit. En fin de compte, il risque

de détruire le système de gestion et de maintenance des IH que le projet a construit. Pour la durabilité de gestion et de maintenance des IH, il est primordial de maintenir continuellement le fonctionnement du système de gestion et de maintenance des IH une fois établi conformément à la Réforme.

Cependant, si la Réforme n'est pas introduite dans les 11 communes et si le système de gestion et de maintenance des IH n'est pas généralisé dans l'ensemble des provinces et de la région, les effets de nos efforts pour rendre opérationnel le système c'est-à-dire assurer la durabilité pourraient être substantiellement réduits.

Comme le projet s'est exécuté convenablement jusqu'ici selon le programme et comme nous avons la conviction que les objectifs du projet s'accomplissent, nous pensons que l'extension des activités aux 11 communes est nécessaire pour enraciner les résultats du projet, pour améliorer la gestion et la maintenance des IH et pour assurer l'accès à l'eau potable.

Dans ce sens, la partie japonaise mobilisera les ressources pour l'extension des activités dans les 11 communes à la hauteur de celles mobilisés pour les 9 communes. Par ailleurs, elle propose à la partie burkinabè de mobiliser les ressources additionnelles nécessaires à l'extension des activités dans les 11 communes.

Le draft du PDM et le draft du P/O à modifier pour l'extension des communes cibles sont respectivement indiqués en Annexe-7 et Annexe-8.

### **6.3 Maintien de la durabilité après l'achèvement du projet**

Pour l'enracinement du système de gestion et de maintenance des IH et la continuité des activités pour l'amélioration du comportement en matière d'hygiène et d'assainissement, nous proposons à la partie burkinabè de prendre les mesures appropriées dans la perspective de l'achèvement du projet. Il s'agira par exemple de la préparation d'un budget pour la promotion des activités de monitoring et de la Réforme et la poursuite des activités d'animation en matière d'hygiène et d'assainissement. La difficulté actuelle de la partie burkinabè pour pérenniser les activités après l'achèvement du projet est d'ordre financier. Cependant la revue annuelle du PN-AEPA 2010 souligne que l'application de la Réforme est prioritaire dans le domaine d'AEPA. Par conséquent, il y a la possibilité d'utiliser l'ABS pour l'application de la Réforme. Nous proposons à la partie burkinabè de prendre les dispositions nécessaires pour allouer une part conséquente de l'ABS aux activités de promotion de la Réforme.

## de la revue à mi-parcours du PROGEA/PCL (équipe JICA)

Annexe-1

	Date	
1	Samdi 10 septembre	Narita 21:55 -->
2	Dim. 11 septembre	Paris 04:15 (AF277) Paris 11:00 --> Ouagadougou 16:40 (AF548)
3	Lundi 12 septembre	08:00 Rencontre à la JICA 09:00 Réunion avec l'expert 16:00 Rencontre UNICEF
4	Mardi 13 septembre	08:00 Visite de courtoisie: DGRE 16:00 DGAEUE
5	Merc. 14 septembre	07:30 DGRE/DEP 10:45 DRAH/PCL, DPAH-Oubliténga, -Kourweogo et -Ganzourgou 14:00 DRS, DREBA 16:00 Bureau d'étude local (ANTEA)
6	Jeudi 15 septembre	09:30 Commune (Zorgho/Oubritenga) 11:00 AUE, maintenanciers-Zorgho/Ganzourgou 14:30 AUE-Ganzourgou
7	Vend. 16 septembre	08:30 Commune, ZAT- Dapelogo (Ganzourgou) 10:15 AUE-Dapelogo 11:20 Maintenanciers
8	Samedi 17 septembre	Analyse des données
9	Dim. 18 septembre	Analyse des données
10	Lundi 19 septembre	09:00 Commune Toeghin (Kourweogo) 10:00 AUE (Kourweogo) 11:00 DRS, DREBA, SRE/DPAH 13:45 Maintenanciers
11	Mardi 20 septembre	09:15 AUE, Zitenga (Oubritenga) 11:10 Commune Zitenga (Oubritenga) 15:15 Rencontre GIZ
12	Merc. 21 septembre	13:15-15:45 Entretien avec M.ONO (Expert PROGEA/PCL) 17:00-18:00 Entretien avec Mme NAKAZAWA (Expert PACOGES) 18:30-19:00 : Entretien avec Mme KAKUTA (volontaire japonais dans le domaine d'AEPA)
13	Jeudi 22 septembre	Analyse des données
14	Vend. 23 septembre	Analyse des données
15	Samedi 24 septembre	Rencontre interne (Résultat d'évaluation à mi-parcours)
16	Dim. 25 septembre	Rencontre interne (Résultat d'évaluation à mi-parcours)
17	Lundi 26 septembre	08:30 Rencontre Equipe de revue conjointe (échanges des vues sur les résultats de l'évaluation) 15:30 Entretien avec les experts et le personnel de la contrepartie nationale
18	Mardi 27 septembre	Discussion sur les résultats de l'évaluation, le draft du PV (avec Rapport de la revue) etc. Discussion sur le déroulement ultérieur du projet (3ème et 4ème années du projet)
19	Merc. 28 septembre	09:00 Comité de Pilotage du Projet (JCC) à Ziniaré
20	Jeudi 29 septembre	09:00 Signature du PV (avec Rapport de la revue conjointe à mi-parcours) Compte rendu au bureau de la JICA Ouagadougou 20:15 -->
21	Vend. 30 septembre	Paris 06:05 (AF547), Paris 11:00 -->
22	Samedi 1er octobre	Haneda 06:00 (AF282)

Liste des personnes rencontrées  
(Revue à mi-parcours du PROGEA/PCL)

Ministère de l'Agriculture et de l'Hydraulique

DGRE

M. BINGBOURE Jean Mathieu, Directeur de la DAEP

DGAEUE

Mme. SONDO/SAVADOGO Denis Marie, Directrice de la DGAEUE

DRAH/PCL

Mme. TAPSOBA Gisèle : Directrice Régionale du Plateau Central (DRAH/PCL)

M. TENSABA Amadou François, Chef SRE/DPAH-OTG

M. NIKIEMA Barrahy, Chef SQEPQ/DRAH-PCL

Mme. TRAORE Ouo Denise, Sociologue/SRE/DRAH-PCL

M. GNANKINI Moctar, Agent d'appui/SRE/DRAH-PCL

M. ILBOUDO P. Bartlielemy, Directeur provincial OTG

M. Nakoulma Boukare, Directeur provincial KWG

M. LAMIEM Banou, Chef/SRE/DPAH-KWG

M. OUEDRAOGO Eugène, Directeur provincial Ganzourgou

M. CARABIRI Rokiato, Chef SRE/DRAH-OTG

DPAH-GNZ

M. Ouedraogo Alaye, Chef SREI, DPAH-GNZ

Mme. ILBOUDO Martine, Chef ZAT/Zorgo, DPAH-GNZ

Mme. Congo Victorine, Chef UAT/TORODO, DPAH

M. KABORE AMADOU, Chef UAT/Zorgo-Sud, DPAH

Mme. Congo Victorine, Chef UAT, Torodo, DPAH

DPAH-OUBRITENGA

M. SANGNA Idrissa, Chef ZAT, DAPELOGO, DPAH

M TENSABA Amadore François, Chef SRE/DPAH

M. ZOUNDAL S. Jean Paul, ZAT/Zitenga

M. BADIAL Salfe, UAT/Zitenga

M. SAWADOGO Edmond, UAT/Tankounga

DPAH-KOURWEOGO

M. TAPSOBA G. Alexis, SAPA/DPAH

M. NAKOULMA Boukaré, DPAH

M. IAMINE Bonou, Chef de SRE/DPAH

Mr. OUALI Michel, Chef d'UTA de Nahatenga, Toeghin

Mr. SANON Lucien, Chef ZAT, Toeghin

Ministère de la Santé

DRS

M. COMPAORE Mathieu, Chef de Service, DRS/PCL

M. OUEDRAOGO Adama, Agent itinérant de santé, CSPS-DAPELOGO, DREBA/PCL

M. OUEDRAOGO S. Sylvain, AIS/Santé, CSPS de Toeghin, Kourweogo

### Ministère de l'Éducation Nationale

M. DIABOUGA Yabré Joseph, Chef de Service, DREBA/PCL  
M. NACOUUMA Y. Blaise, Inspecteur, Enseignement de Base, DAPELOGO  
Mr. KONDOMBO N. Vincent de Paul, Représentant, chef CEB, Toeghin, Kourweogo, DREBA/PCL

### Commune ZORGO

M. SANOU Ludoire, Secrétaire Général  
M. Soudré Alassane, Conseiller Municipal  
M. YAMWEMBA André, Comptable

### Commune Toeghin

M. SAWADOCO Michel, Maire Toeghin  
Mme. SAWADOCO Aoua, SG  
M. OUEDRAOGO Anotole, Comptable  
M. COMPAORE Zackari, 1er adjoint

### Commune Zitenga

M. SINARE O. Sommaïla, Maire Zitenga  
M. KILMA Thérèse, Secrétaire Général, Mairie Zitenga  
M. ILBOUDO Lassané, Comptable  
M. BOUKOUNGON Bnita, Conseiller  
Mme. SOALA Colette, Conseillère, Ouatinoma  
Mme. COMPAORE Sandta, Conseillère, Nagtoali  
Mme, BALMA Bintou,

### ANTEA (avec SOS Sahel)

M. KI Jean Christophe, représentant, ANTEA Burkina  
Mme. Sylviane SOULAMA, social-économiste, ANTEA  
M. ZERGO Elie, chef d'équipe, ANTEA  
M. M'BARA Ibraahim, chef de base, ANTEA  
M. KABORE Adama, coordonnateur, SOS Sahel  
Mme. ZONGO Pascaline, animateur, SOS Sahel  
M. Ilboudo D. Edouard, animateur, SOS Sahel

### AUE-Oubliténga

M. OUEDRAOGO Moussa, Président de AUE Sect N2 Dapelogo  
M. NIKIEMO Robert N., Gestionnaire de AUE Sect N2 Dapelogo  
M. OUEDRAOGO L. Alexandre, Secrétaire de AUE Sect N2 Dapelogo  
M. COMPAORE Boniface, Président de AUE de Tompoceri  
M. KIEMTORE Ali, Président de AUE de Kouilla  
M. SAMPEBGO Noufou, Secrétaire de AUE de Kouilla  
Mme. SORE Mariam, Trésorière, de AUE de Kouilla,  
M. OUEDRAOGO Moussa, Président de AUE de Souka  
M. OUEDRAOGO P. Ousmane, Trésorier de AUE de Souka  
M. COMPAORE Noaga, Président de AUE de Nayamsé  
M. OUEDRAOGO Adama, Gestionnaire de AUE de Nayamsé  
Mme. OUEDRAOGO Halimata, Secrétaire de AUE de Nayamsé  
Mme BALMA Bintou, Trésorière, AUE Zitenga  
Mme, BALMA Bintou, Conseillère, AUE Yanga

Mme, BALMA Bintou, Conseillère, AUE Yanga  
M. SINARE Mohamoudou, Gestinaire, AUE Yanga  
M. SINARE Ablassé, Trésorier, AUE Yanga  
M. SINARE Hamada, Conseiller , AUE Yanga  
Mme. SOALA Colette, Conseillère, Ouatinoma  
M. OUEDRAOGO Rasmané, Président, AUE Nagtoali  
Mme. COMPAORE Sandta, Conseillère, Nagtoali  
Mme. BABRAWA Aligeta, Trésorière, AUE Nagtoali  
M. OUEDRAOGO Saidou, Conseiller Nagtoali,  
M. OUEDRAOGO Bibata, Secrétaire, AUE Nagtoali  
M. ZOUNDI Issaka, Président AUE Dayagretenga  
Mme. BONKOUNGON Brita, Conseillère, Dayagnetenga  
Mme. BIKIENGA Fati, Trésorière, AUE Dayagretenga  
M. NASSA Issaka, Conseiller Dayagretenga  
M. COMPAORE Tayimbresom, Président, AUE Ouatinema,  
M. KOULBEGA Harouna, Secrétaire, UE Dayagretenga  
M. CONSIGUI Salfo, Secrétaire Adjoint AUE Ouatinema,  
M. OUEDRAOGO Hamado, Trésorier, AUE Ouatinema,  
M. YAMEOGO Eric, Conseiller, Ouatinoma,  
M. ZOMADO Nantimba, Gestionnaire, AUE Ouatinoma

#### AUE-Ganzourgou

M.Pamtaba Souleymane, Président, AUE-Bogré  
M. Pamtaba Ablassé, Secrétaire, AUE-Bogré  
Mme. Sigbeogo Eveline, Trésorier, AUE- Bogré  
M. Tapsoba Ousmane, Président, AUE-Bangbily  
M. Tapsoba Harouna, Secrétaire, AUE-Bangbily  
M. Tiemtoré Irissa, Trésorier, AUE-Bangbily  
M. Kaboré Yamba Emmanuel, Secrétaire, AUE-Digré  
M. Kaboré Pamoussa, Trésorier, AUE-Digré  
M. Simporé N. Marcel, Président, AUE-Dabèga  
M. Kaboré Pierre, Secrétaire, AUE-Dabèga

#### AUE-Kourweogo

M. SAWADOCO P. Saxouba, Président, AUE Kangre  
M. SAWADOCO Toundassida, Secrétaire, AUE Kangre  
Mme. BANKOUNGOU Augustine, Trésorière, AUE Kangre  
M. SINARE Haoua, Information, AUE Kangre  
M. SAWADOCO Sacre, Hygiéniste, AUE Kangre  
M. OUEDRAOGO Sonaga, Secrétaire, AUE Gogse  
M. OUEDRAOGO Wenloslida, Information, AUE Gogse  
M. OUEDRAOGO Sonaga, Information, AUE Gogse  
Mme. TABSOBA Lassane, Trésorière, AUE Gogse  
M. TABSOBA Issaka, Président, AUE Youbga  
M. TABSOBA Adama, Secrétaire, AUE Yubga  
Mme. OUEDRAOGO Ouamnoaga, Trésorière, AUE Yubga  
Mme. CAPSOBA Gibili Nominik, Trésorière, AUE Yubga  
M. SAMPEBGO Abdoulaye, Trésorière, AUE Bendogo  
M. BAGA Adama, Président, AUE Toeghin

M. SAWADOGO Noel, Secrétaire, AUE Toeghin  
Mme. DEMIAN Haoua, Trésorière, AUE Toeghin  
M. SAWADOGO Rasmani, Information, AUE Toeghin  
M. SAWADOGO Jean Paul, Vice-président, AUE Toeghin  
M. GUELBOGO Raswane, Hygiéniste, AUE Toeghin  
M. BAGA Zainata, Gestionnaire, AUE Toeghin  
M. GOMYOORE Ganebenongué, Président, AUE Zequideghin  
M. TAPSOABA G. Michel, Secrétaire, AUE Zequideghin  
M. OUEDRAOGO Lassaueni, Gestionnaire, AUE Zequideghin  
M. OUEDRAOGO N. Albert, Gestionnaire, AUE Zequideghin  
M. OUEDRAOGO K. Jean Pierre, Trésorier adjoint, AUE Zequideghin  
Mme. SAWADOCO Luciennie, Trésorière, AUE Zequideghin  
M. SAWADOCO Amie, Gestionnaire, AUE Zequideghin

Association des maintenanciers Oublitenga

M. Koanda Sagibou, Président  
M. Paéré Ni Hamada, Secrétaire général  
M. Sédogo Abdoulassé, Trésorier  
M. Ouédraogo Ladj, Trésorier  
M. SORE Monrijamba, Information  
M. Guédraogo Y. Jean-Paul, Responsable à la formation  
M. Sanfo Sény, membre  
M. Tapsoba Tassere,  
M. Zongo Barké Paul, membre  
M. Sawadogo Omère, membre  
M. Pacéré Alphonse, membre  
M. Sawadogo Bourèma, Conseiller  
M. Tapsoba Seni, membre  
M. Zongo Adama Gabriel, membre  
M. Tassebedo Moussa, membre  
M. Tapsoba Seni, membre  
M. Tapsoba Boureima, membre  
M. Snsimbo Hamidou, membre

Association des maintenanciers Ganzourgou

M. Koanda Sagibou, Président  
M. Paéré Ni Hamada, Secrétaire Général  
M. Sawadogo Bourèma, Conseiller  
M. Sédogo Abdoulassé, Trésorie  
M. Ouédraogo Ladj, Comptable  
M. SORE Monrijamba, Information  
M. Guédraogo Y. Jean-Paul, Responsable à la formation  
M. Sanfo Sény, Membre  
M. Tapsoba Tassere, Membre  
M. Zongo Barké Pau, Membre  
M. Sawadogo Omère, Membre  
M. Pacéré Alphonse, Membre  
M. Tapsoba Seni, Membre  
M. Zongo Adama Gabriel, Membre

M. Tassebedo Moussa, Membre  
M. Tapsoba Seni, Membre  
M. Tapsoba Boureima, Membre  
M. Snsimbo Hamidou, Membre

**Association des maintenanciers Kourweogo**

M. BARRE Koudouyou François, membre  
M. OUEDRAOGO Mohamadi, président  
M. OUEDRAOGO P. Boureima, trésorier  
M. OUEDRAOGO T. Saidou, member du comité de contrôle  
M. SAWADOGO Kouko, membre  
M. KAPUEMBEPA W. Amidou, membre  
M. SAWADOGO K., membre  
M. OUEDRAOGO P. Cissé, comité de contrôle  
M. KABORE Barre Bonoit, organisation  
M. OUEDRAOGO Z. Amadé, vice-président  
M. SANKARA Issiaba, membre

**Maintenanciers ZORGHO**

M. Balkoulga N. Mathias, Mainteneur  
M. El Adj Kaboré Soulemane, Mainteneur  
M. Kaboré Saydou Mainteneur

**UNICEF**

M. Jean-Paul OUEDRAOGO, chargé de programme  
Mme. TRAORE Mariam, chargée de programme

**GIZ**

Mme. Désirée NANA, Programme Eau et Assainissement des petites et moyennes villes

**Bureau de la JICA au Burkina Faso**

M. KAGEYAMA Tadashi, Adjoint au représentant résident

**Experts japonais**

M. ONO Takeshi : Expert japonais, Chef du PROGEA/PCL, chargé de Gestion de l'AEP  
Mme. NAKAZAWA Junko, Expert japonais, Chef du PACOGES

**Volontaire japonais**

Mme. TSUNODA Shikiho, Volontaire japonais dans le domaine d'AEPA

## Grille d'évaluation

1. Constatation des résultats et du processus de mise en œuvre		
Item	Critères d'évaluation	Constatation (○: positive, ■: défi)
Possibilité (ou prévision) de l'accomplissement du but global		
Dans la région du Plateau Central, l'environnement en matière de santé, d'hygiène et d'assainissement est amélioré	<ul style="list-style-type: none"> <li>· La proportion de population pouvant se servir durablement de points d'eau améliorés passe de 70% à 80% avant 2015.</li> <li>· Le taux de fonctionnement des infrastructures hydrauliques(IH) passe de 70% à 80% avant 2015.</li> <li>· La situation sur l'approvisionnement en eau potable, l'hygiène et l'assainissement des populations est améliorée avant 2015.</li> </ul>	<p>○ L'atteinte du but global est possible pour les raisons suivantes :</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- Le plan de construction des IH d'AEP inscrit dans le PN-AEPA s'avance régulièrement. Le taux d'accès à l'eau potable s'est amélioré (de 69,9% en 2009 à 71,45% en 2011) dans la région du PCL.</li> <li>- Il est possible que la partie burkinabè mette en œuvre des projets de promotion de la Réforme en collaboration avec d'autres partenaires de développement dans les zones qui ne font pas d'objet du présent projet.</li> <li>- Le présent projet étant considéré comme un projet pilote, après avoir vérifié les résultats du projet, la partie burkinabè établira un plan de généralisation de la Réforme à l'échelle nationale tout en cherchant les améliorations possibles.</li> <li>- En ce qui concerne l'amélioration du comportement en matière d'hygiène et d'assainissement, il est possible de s'attendre à ce que la durabilité soit assurée par le développement des activités de sensibilisation dans les établissements scolaires.</li> </ul> <p>■ Par ailleurs, le plan de développement des résultats du projet à l'échelle nationale n'est pas encore établi.</p> <p>■ Étant donné que le présent projet déploie les activités</p>

		seulement dans les 9 communes sur les 20 communes du PCL, ses effets sont limités.
Possibilité (ou prévision) de l'accomplissement des objectifs du Projet		
L'état de gestion et de maintenance des IH et le comportement en matière d'hygiène et d'assainissement des populations sont améliorés dans les communes cibles (toutes les communes de l'Oubritenga et les communes pilotes du Ganzourgou et du Kourwéogo).	<ul style="list-style-type: none"> <li>- Le taux de fonctionnement des IH dans les 9 communes cibles (toutes les communes de l'Oubritenga et les communes pilotes du Ganzourgou et du Kourwéogo) progresse de 70% à 80%.</li> <li>- Le comportement des populations des communes pilotes sur les pratiques en matière de l'approvisionnement en eau potable, d'hygiène et d'assainissement (10 articles) est amélioré au moins 60%.</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ Il est très possible que l'objectif du projet concernant l'amélioration du taux du fonctionnement des IH s'accomplisse pour les raisons suivantes. <ul style="list-style-type: none"> <li>- Pour ce qui concerne la gestion des IH, les activités pratiques (la mise en réserve des fonds, le versement des redevances, la signature des contrats de suivi et d'entretien entre communes-maintenanciers) sont presque achevées dans les communes pilotes.</li> </ul> </li> <li>○ Les activités à mener lors de la panne d'une pompe prévues dans le document de la Réforme ont été exécutées. Dans la 3<sup>ème</sup> année, on vise à enraciner le système de gestion et de maintenance des IH établi par les homologues etc.</li> <li>○ L'état des lieux concernant le comportement en matière d'hygiène et d'assainissement a été déjà constaté. On est en train de mettre en ordre les données obtenues. Il est prévu de mener les activités de monitoring (en 10 articles) à partir de la 3<sup>ème</sup> année du projet. <ul style="list-style-type: none"> <li>■ Le maintien de la motivation des animateurs villageois et la continuité de leurs activités constituent un problème à examiner.</li> </ul> </li> </ul>
Degré d'accomplissement des résultats attendus		
Résultat 0. Les indicateurs du PDM sont définis.		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ Au cours de la 2<sup>ème</sup> session du comité de pilotage tenue en septembre 2010, les indicateurs du Cadre Logique du projet (PDM) ont été remis en question. À travers les discussions du groupe de travail, les indicateurs surtout ceux du comportement en matière d'hygiène et d'assainissement et de l'éducation ont été relus.</li> </ul>
Résultat 1. Le système de	【Indicateur du PDM】	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ Après la session de formation pour les agents de ZAT/UAT</li> </ul>

gestion et de maintenance des IH est établi dans les communes cibles conformément à la Réforme.	1) Plus de 90% d'agents des ZAT et UAT des communes cibles suivent la formation. Plus de 80% d'eux réussissent au test de confirmation.	<p>de la DRAH, une évaluation des acquis de la formation a été menée.</p> <p>○ Le résultat de cette évaluation était apprécié, car les agents de ZAT et UAT ont eu les notes largement supérieures à la note de référence (70 points). Le tableau ci-dessous indique les moyennes des notes des participants.</p> <p>Résultat d'évaluation des acquis de formation</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>1<sup>ère</sup> année</th> <th>2<sup>ème</sup> année</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Participants</td> <td>31</td> <td>63</td> </tr> <tr> <td>Note moyenne</td> <td>78</td> <td>81,4</td> </tr> </tbody> </table>		1 <sup>ère</sup> année	2 <sup>ème</sup> année	Participants	31	63	Note moyenne	78	81,4
		1 <sup>ère</sup> année	2 <sup>ème</sup> année								
	Participants	31	63								
Note moyenne	78	81,4									
2) Les Associations des Usagers de l'Eau (AUE) sont constituées dans tous les villages des 3 communes pilotes avant la fin de mai 2010.	<p>○ À l'issue des deux années du projet, quatre-vingt (80) AUE dans tous les 76 villages ont été mises en place dans les communes pilotes. La répartition des AUE mises en place par commune est indiquée ci-dessous.</p> <p>Nombre des AUE mises en place dans les communes pilotes</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>Commune</th> <th>Nombre des AUE</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Toeghin</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>Dapelogo</td> <td>29</td> </tr> <tr> <td>Zorgho</td> <td>33</td> </tr> </tbody> </table> <p>○ On trouve en mai 2011 que les 79 AUE au total ont été officiellement reconnues et reçu les récépissés délivrés par les préfets conformément au Code du Travail.</p>	Commune	Nombre des AUE	Toeghin	18	Dapelogo	29	Zorgho	33		
Commune	Nombre des AUE										
Toeghin	18										
Dapelogo	29										
Zorgho	33										
3) La convention relative à la gestion et la maintenance des IH est signée entre les 3 communes pilotes et 80% de leurs AUE avant février 2011.	<p>○ Toutes les AUE excepté le village de Zempassogo de la Commune de Zorgho ont contracté la convention de délégation de gestion des PMH avec les communes avant mars 2011.</p> <p>○ Toutes les AUE de la Commune de Toeghin ont ouvert leurs comptes bancaires à la BTEC.</p>										

	<p>4) Les AUE des communes de l'Oubritenga excepté la commune pilote sont constituées avant juin 2011.</p>	<p>○ Les activités d'appui à la mise en place des AUE dans tous les 190 villages des communes cibles (excepté la commune pilote) ont été achevées. Le nombre des AUE mises en place par commune est indiqué ci-dessous.</p> <p>Nombre des AUE mises en place par commune cible</p> <table border="1" data-bbox="1406 416 1917 762"> <thead> <tr> <th>Commune</th> <th>Nombre des AUE</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Ziniaré</td> <td>49</td> </tr> <tr> <td>Absouya</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td>Nagrenga</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td>Zitenga</td> <td>46</td> </tr> <tr> <td>Ourgou-Manega</td> <td>28</td> </tr> <tr> <td>Loumbilla</td> <td>30</td> </tr> </tbody> </table> <p>○ Malgré qu'il y ait eu des difficultés pour la mise en place des AUE, les experts, les homologues et les bureaux d'étude locaux les ont résolus en collaboration avec les communes.</p> <p>○ Après l'évacuation des experts japonais due à l'instabilité politique en avril 2011, la DRAH/PCL en collaboration avec l'équipe du bureau d'étude local ont continué ces activités et mis en place les AUE dans tous les villages en mi-mai 2011.</p>	Commune	Nombre des AUE	Ziniaré	49	Absouya	19	Nagrenga	19	Zitenga	46	Ourgou-Manega	28	Loumbilla	30
Commune	Nombre des AUE															
Ziniaré	49															
Absouya	19															
Nagrenga	19															
Zitenga	46															
Ourgou-Manega	28															
Loumbilla	30															
	<p>5) La convention relative à la gestion et la maintenance des IH est signée entre les communes de l'Oubritenga excepté la commune pilote et 80% de leurs AUE avant février 2012.</p>	<p>○ Les activités sont en cours pour atteindre l'objectif. En effet, les formations en faveur des AUE telles que la formation sur la convention de délégation de gestion des PMH entre communes et AUE sont organisées dans toutes les communes cibles.</p> <p>○ Pour la sécurité des ressources en eau potable et l'entretien des PMH qui étaient problématiques, l'intérêt</p>														

		et l'attente du présent projet par les communes et les AUE sont très importants. Elles sont donc très motivées.																
Résultat 2. Les capacités des organisations villageoises dans la gestion et la maintenance des IH sont renforcées.	<p>6) Le contrat relatif à la maintenance et aux tournées de suivi des IH est passé entre les communes cibles et 80% de leurs maintenanciers avant février 2013.</p> <p>【Indicateur du PDM】</p> <p>1) Plus de 70% des AUE des communes pilotes de l'Oubritenga arrivent à payer la redevance aux communes et plus de 70% des gestionnaires parviennent à effectuer le recouvrement à 70% avant la fin de novembre 2011.</p>	<p>○ Les activités sont en cours pour atteindre l'objectif. Effectivement il est prévu de tenir la 1ère formation en octobre 2011, les 2ème et 3ème formations en janvier 2012 en faveur des AUE.</p> <p>○ Un animateur est affecté à chaque commune pilote. En collaboration avec les agents au niveau communal, le projet appuie aux activités de gestion des PMH menées par l'AUE comprenant le versement de la redevance.</p> <p>○ En mai 2011, on compte 21 AUE qui ont commencé le versement de la redevance. À noter qu'environ 68% des AUE ont commencé le versement à Dapelogo. L'équipe conjointe d'évaluation à mi-parcours a confirmé que le versement de redevance s'avance bien depuis le début de la 3ème année du projet dans les 2 communes de Toeghin et de Zorgho. Le tableau ci-dessous indique la somme versée aux communes en septembre 2011.</p> <p style="text-align: center;">Somme versée aux communes (unité : FCFA)</p> <table border="1" data-bbox="1274 884 2051 1002"> <thead> <tr> <th></th> <th>Dapelogo</th> <th>Toeghin</th> <th>Zorgho</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Somme versée à la commune</td> <td>1.060.000</td> <td>620.000</td> <td>950.000</td> </tr> </tbody> </table> <p>○ Pour ce qui concerne le recouvrement du prix d'eau auprès des usagers, toutes les AUE ont commencé le recouvrement à Dapelogo et à Toeghin et 30 AUE à Zorgho. La somme recouvrée auprès des usagers est indiquée dans le tableau ci-dessous.</p> <p style="text-align: center;">Somme recouvrée du prix d'eau (unité : FCFA)</p> <table border="1" data-bbox="1296 1262 2051 1374"> <thead> <tr> <th></th> <th>Dapelogo</th> <th>Toeghin</th> <th>Zorgho</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Somme recouvrée auprès des usagers</td> <td>5.523.425</td> <td>4.633.500</td> <td>4.203.375</td> </tr> </tbody> </table>		Dapelogo	Toeghin	Zorgho	Somme versée à la commune	1.060.000	620.000	950.000		Dapelogo	Toeghin	Zorgho	Somme recouvrée auprès des usagers	5.523.425	4.633.500	4.203.375
	Dapelogo	Toeghin	Zorgho															
Somme versée à la commune	1.060.000	620.000	950.000															
	Dapelogo	Toeghin	Zorgho															
Somme recouvrée auprès des usagers	5.523.425	4.633.500	4.203.375															

	<p>2) Plus de 70% des AUE des communes pilotes de l'Oubritenga arrivent à payer la redevance aux communes et plus de 70% des gestionnaires parviennent à effectuer le recouvrement à 70% avant la fin de projet.</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ La mise en place des AUE est achevée dans tous les villages avant la fin de la 2<sup>ème</sup> année du projet. À partir de la 3<sup>ème</sup> année, il est prévu de mettre en œuvre la formation des AUE : <ul style="list-style-type: none"> <li>- 2<sup>ème</sup> session dans les communes cibles</li> <li>- 3<sup>ème</sup> session dans les communes cibles</li> </ul> </li> <li>○ À travers les activités mentionnées ci-dessus, on mènera celles relatives au recouvrement du prix d'eau.</li> </ul>
<p>Résultat 3. En ce qui concerne la gestion et la maintenance des IH, le système d'approvisionnement en pièces détachées et celui de réparation sont améliorés.</p>	<p><b>【Indicateur du PDM】</b></p> <p>1) Les maintenanciers arrivent à répondre à plus de 60% des besoins de maintenance et de tournées de suivi demandés par les communes avant octobre 2012.</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ Les activités sont en cours et s'avancent régulièrement pour atteindre l'objectif.</li> <li>○ À l'issue des deux années du projet, les activités suivantes ont été achevées. <ul style="list-style-type: none"> <li>- Collecte et capitalisation des informations sur les pompes, les pièces détachées et les artisans réparateurs (AR)</li> <li>- Organisation des formations sur la réforme en faveur des AR</li> <li>- Agrément des maintenanciers</li> <li>- Formations et renforcement des capacités des maintenanciers (comprenant la mise en place des associations des maintenanciers)</li> </ul> </li> <li>○ Il a été constaté que les maintenanciers sont motivés et très impliqués dans le projet. Par ailleurs, ils s'intéressent fortement aux résultats et effets du projet.</li> <li>○ À travers les formations, les maintenanciers ont appris les techniques de fixation du prix et de calcul du prix d'offre. Ils ont pratiqué le calcul du prix relatif à la tournée de suivi préventif et à la réparation.</li> <li>○ La mise en place et le renforcement des associations des maintenanciers ont favorisé l'émergence d'un sentiment de solidarité entre eux.</li> <li>○ La délivrance des agréments Niveau 1 et Niveau 2 par la</li> </ul>

		<p>DRAH/PCL aux maintenanciers selon leurs compétences et matériels en possession les ont encouragés beaucoup et ceux de Niveau 1 sont motivés pour s'efforcer d'obtenir l'agrément Niveau 2.</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ La plupart des maintenanciers ne savent ni lire, ni écrire, ni calculer, ce qui constitue un défi à long terme.</li> <li>■ Dans les communes où les AUE ne sont pas encore mises en place, les effets positifs sur les activités des maintenanciers ne se produisent pas, en plus il se peut que le désordre s'introduise.</li> </ul>
	2) Toutes les communes possèdent les informations nécessaires pour le remplacement de pièces détachées (magasins, procédure de commande, etc.)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ Les activités prévues à mener pendant les deux premières années dans les communes pilotes sont exécutées régulièrement. <ul style="list-style-type: none"> <li>- Mise en ordre des données concernant le circuit des pièces détachées par type de pompe, les magasins, la gestion de stock etc.)</li> <li>- Mise à jour et partage des données du réseau de distribution des pièces détachées</li> <li>- Étude d'amélioration de l'approvisionnement en pièces détachées.</li> </ul> </li> </ul>
	3) Le délai de réparations simples est réduit à moins d'un mois.	Comme il est prévu de faire les activités relatives à cet indicateur à la 3 <sup>ème</sup> année du projet, on ne peut pas l'évaluer à l'heure actuelle.
Résultat 4. Dans les 3 communes cibles du Plateau Central, le comportement en matière d'hygiène et d'assainissement des populations sont améliorées.	<p>【Indicateur du PDM】</p> <p>1) Le programme et les manuels de la sensibilisation et de l'éducation en matière de l'amélioration d'hygiène et d'assainissement sont élaborés.</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ Il a été constaté lors de l'enquête par interview sur place que les manuels préparés par le projet sont bien mis en œuvre. Les participants aux formations apprécient l'utilisation de la boîte à image SARAT/PHAST (formation sur l'hygiène et l'assainissement) conçue en tenant compte du taux d'alphabétisation peu élevé des populations.</li> <li>○ Le manuel pour la formation des formateurs administratifs de PHA a été élaboré. Après l'utilisation, ce manuel a été révisé suivant le feedback des utilisateurs à</li> </ul>

		<p>la fin de la 1<sup>ère</sup> année du projet. À partir de la 2<sup>ème</sup> année, on utilise le manuel révisé.</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ Le guide pour les animateurs villageois à l'hygiène et les enseignants a été élaboré. Après l'utilisation, ce guide a été révisé suivant le feedback des utilisateurs à la fin de la 1<sup>ère</sup> année du projet. À partir de la 2<sup>ème</sup> année, on utilise le guide révisé.</li> <li>○ Le guide pour le monitoring des activités en hygiène et l'entretien des infrastructures sanitaires a été élaboré. Il a été révisé à la fin de la 1<sup>ère</sup> année du projet. À partir de la 2<sup>ème</sup> année, on utilise le guide révisé.</li> <li>○ La boîte à image de SARAR/PHAST a été élaborée et révisée à la fin de la 1<sup>ère</sup> année du projet. À partir de la 2<sup>ème</sup> année, on utilise la boîte à image révisée.</li> </ul>				
	<p>2) Dans les villages des 3 communes pilotes, plus de 600 agents s'occupant du programme de promotion de l'hygiène et de l'assainissement ou celui de l'enseignement (enseignants, agents du centre de santé, agents chargés de l'hygiène et de l'assainissement aux services techniques, animateurs villageois) sont formés.</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ La formation des agents s'occupant du programme de promotion de l'hygiène et de l'assainissement est mise en œuvre en cascade.</li> <li>○ La formation des formateurs administratifs sont mise en œuvre en faveur des superviseurs administratifs (au niveau provincial et régional de chaque ministère) et des formateurs administratifs (au niveau provincial et communal de chaque ministère) pendant 5 jours.</li> <li>○ Les formateurs administratifs ont mis en œuvre les formations en faveur des animateurs villageois à l'hygiène et des enseignants pendant 2 jours.</li> <li>○ Le tableau ci-dessous indique les nombres des agents formés.</li> </ul> <p style="text-align: center;">Formation des agents s'occupant du programme de promotion d'hygiène et d'assainissement</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>Formateurs administratifs à l'hygiène</td> <td style="text-align: center;">58</td> </tr> <tr> <td>Animateurs villageois à l'hygiène</td> <td style="text-align: center;">430</td> </tr> </table>	Formateurs administratifs à l'hygiène	58	Animateurs villageois à l'hygiène	430
Formateurs administratifs à l'hygiène	58					
Animateurs villageois à l'hygiène	430					

		<table border="1" data-bbox="1312 159 2011 256"> <tr> <td data-bbox="1312 159 1859 207">Enseignants de base</td> <td data-bbox="1859 159 2011 207">400</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1312 207 1859 256">Total</td> <td data-bbox="1859 207 2011 256">888</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ Étant donné que les formateurs administratifs sont généralement soumis au mouvement ou à la mutation du personnel, il est désirable d'envisager un système assurant la durabilité des activités.</li> <li>○ Dans le curriculum de l'enseignement primaire au Burkina Faso, l'éducation en hygiène est inscrite dans le cadre de l'éducation civique et morale, en plus elle est considérée comme un parmi les 8 thèmes émergents qui ont été élaborés en 2009. Comme elle est intégrée dans les programmes scolaires, la durabilité d'éducation en hygiène peut être bien assurée.</li> <li>■ Les animateurs villageois à l'hygiène formés participent volontairement aux activités, ce qui pose problème du point de vue de la durabilité.</li> </ul>	Enseignants de base	400	Total	888
Enseignants de base	400					
Total	888					
	<p>3) Dans les villages des 3 communes pilotes, les activités de sensibilisation sont mises en œuvres au moins 6 fois par an par les agents s'occupant du programme de promotion de l'hygiène et de l'assainissement ou celui de l'enseignement.</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ Les animateurs villageois à l'hygiène et enseignants formés mèneront les activités de sensibilisation à chaque village ou à chaque école (436 fois pour 14.268 participants au total dans les villages et 388 fois pour 309 classes dans les écoles effectuées jusqu'en septembre 2011).</li> <li>○ Les activités de sensibilisation en milieu scolaire pour la promotion de l'hygiène et de l'assainissement ont été entamées. Les inspecteurs pédagogiques et les enseignants font la tournée des écoles pour le suivi de ces activités.</li> <li>○ Les formateurs administratifs exécutent le suivi des activités des animateurs villageois pour maintenir la qualité des activités. (3 fois de suivi par mois)</li> <li>■ Les problèmes constatés à travers les activités de sensibilisation sont les suivants.</li> </ul>				

		<ul style="list-style-type: none"> <li>- Difficulté du maintien de la motivation des animateurs villageois</li> <li>- Intérêt faible des villageois pour l'hygiène et l'assainissement (surtout des hommes)</li> <li>- Difficulté de mise en œuvre des activités de sensibilisation en matière d'hygiène et d'assainissement dans les quartiers ou villages qui sont dépourvus de forage et/ou de latrine.</li> <li>- Niveau faible des connaissances et techniques d'une partie des animateurs villageois</li> </ul>
	4) Le guide pour le monitoring des activités en hygiène et l'entretien des infrastructures sanitaires est élaboré et le système de gestion des infrastructures sanitaires publiques est mis en place.	○ Le guide pour le monitoring des activités en hygiène et l'entretien des infrastructures sanitaires a été élaboré en avril 2010. Ce guide s'adresse aux superviseurs et formateurs administratifs formés (qui sont des agents de la Direction Régional et de la Direction Provinciale du MAH, du MS et du MENA.
	5) Sur la base du guide pour le monitoring des activités en hygiène et l'entretien des infrastructures sanitaires, le suivi-évaluation sur la gestion des infrastructures sanitaires et le comportement en matière d'hygiène et d'assainissement est mené dans chaque site au moins 2 fois par an.	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ Comme le guide a été déjà élaboré, il est prévu d'établir le système du suivi-évaluation à partir de la 3<sup>ème</sup> année du projet.</li> <li>○ L'établissement de la base des données en commun s'avance au niveau de la région et de la province.</li> </ul>
	6) Les infrastructures sanitaires publiques (latrines scolaires etc.= sont gérées par les populations.	Comme il est prévu de faire les activités relatives à cet indicateur à la 3 <sup>ème</sup> année du projet, on ne peut pas l'évaluer à l'heure actuelle.
Résultat 5. Chaque Direction Provinciale de l'Agriculture, de Hydraulique et des Ressources Halieutiques (DPAHRH)	<p><b>【Indicateur du PDM】</b></p> <p>1) Le suivi-évaluation sur les éléments suivants sont effectués 4 fois par an par chaque DPAHRH à partir de 2010 : le taux de fonctionnement des IH, l'état financier</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ Pour établir le système de monitoring durable, on envisage l'introduction d'une méthode de suivi plus adaptable aux réalités. Effectivement, les deux approches suivantes sont actuellement étudiées. <ul style="list-style-type: none"> <li>- Rapport des AUE à la commune et à la ZAT/UAT sur la gestion des IH</li> </ul> </li> </ul>

arrive à : effectuer le suivi-évaluation de l'état d'approvisionnement en eau, d'hygiène, et d'assainissement : accorder des appui-conseils aux communes.	des AUE, le taux de recouvrement par les gestionnaires, l'état de maintenance et de gestion des IH par les maintenanciers.	<ul style="list-style-type: none"> <li>- Établissement du réseau de communication entre les AUE, les agents administratifs et les maintenanciers au moyen de téléphones portables lors de problème relatif aux activités des AUE.</li> <li>○ Les items de monitoring sont limités à "l'état financier de l'AUE" et à "celui de gestion et d'entretien des IH". Et la collecte des informations concernant l'impact est confiée au bureau d'étude local. D'ailleurs, ce sont principalement les agents des ZAT/UAT qui l'exécute</li> <li>○ nt à partir de la 3<sup>ème</sup> année.</li> <li>○ Constaté qu'il est difficile d'effectuer le monitoring 4 fois par an en tenant compte de la charge importante des travaux de la DPAH et les ZAT/UAT, on fait actuellement des arrangements pour fixer la fréquence plus pratique, soit 2 fois par an.</li> </ul>
	2) Le suivi-évaluation sur l'état d'hygiène et d'assainissement est effectué 4 fois par an par chaque DPAHRH à partir de 2010.	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ Pour établir le système de monitoring durable, une méthode de suivi plus adaptable aux réalités est envisagée.</li> <li>○ Dans la 3<sup>ème</sup> année, il est prévu d'effectuer les activités de monitoring et d'évaluation bimensuellement aux villages et 4 fois par an aux écoles.</li> </ul>
	3) À la suite du suivi-évaluation, 70% d'appui-conseils nécessaires sont accordés suivant les moyens de chaque DPAHRH.	Comme il est prévu de faire les activités relatives à cet indicateur à la 3 <sup>ème</sup> année du projet, on ne peut pas l'évaluer à l'heure actuelle.
<b>Résultat des intrants</b>		
Intrants de la partie japonaise	(Plan) Envoi des experts japonais (conseiller en chef, expert en génie sanitaire, expert en gestion et maintenance des infrastructures hydraulique d'AEP etc.) Fourniture des équipements (véhicules,	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ Les intrants de la partie japonaise ont été investis conformément au plan.</li> <li>○ Pour ce qui concerne les experts japonais, 7 experts japonais comprenant le conseiller en chef ont mené leurs activités aux sites. Le tableau suivant indique les hommes/mois des experts japonais envoyés au Burkina</li> </ul>

	motocycles, matériels informatiques et autres)	<p>Faso.</p> <p>Hommes/mois des experts japonais (H/M)</p> <table border="1" data-bbox="1429 240 1995 344"> <tr> <td></td> <td>1<sup>ère</sup> année</td> <td>2<sup>ème</sup> année</td> </tr> <tr> <td>Résultat</td> <td>18,4</td> <td>17,6</td> </tr> </table> <p>○ L'effet de la réduction de la période des activités professionnelles par les experts japonais en avril 2011 due à leur évacuation temporaire au Japon par la suite de la détérioration de la sécurité publique était limité.</p> <p>○ Les équipements dont le montant total s'élève à 2.071.000 FCFA (4.240.000 yens japonais) ont été fournis. (Voir le tableau ci-dessous.) Ils sont bien exploités.</p> <p>Liste des équipements fournis</p> <table border="1" data-bbox="1352 727 2089 1375"> <thead> <tr> <th>Équipement</th> <th>Q'té</th> <th>Destination</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="6">Ordinateur du bureau + onduleur</td> <td>2</td> <td>Bureau PROGEA</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>DRAH/PCL</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>DPAH/OTG</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>DPAH/KWG</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>DPAH/GNZ</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>DGRE/DAEP</td> </tr> <tr> <td>Ordinateur portable</td> <td>1</td> <td>DRAH/PCL</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">Imprimante couleur à laser</td> <td>1</td> <td>Bureau PROGEA</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>DRAH/PCL</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>DGRE/DAEP</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">Imprimante noir-blanc à laser</td> <td>2</td> <td>DRAH/PCL</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>DPAH/OTG</td> </tr> </tbody> </table>		1 <sup>ère</sup> année	2 <sup>ème</sup> année	Résultat	18,4	17,6	Équipement	Q'té	Destination	Ordinateur du bureau + onduleur	2	Bureau PROGEA	2	DRAH/PCL	1	DPAH/OTG	1	DPAH/KWG	1	DPAH/GNZ	1	DGRE/DAEP	Ordinateur portable	1	DRAH/PCL	Imprimante couleur à laser	1	Bureau PROGEA	1	DRAH/PCL	1	DGRE/DAEP	Imprimante noir-blanc à laser	2	DRAH/PCL	1	DPAH/OTG
	1 <sup>ère</sup> année	2 <sup>ème</sup> année																																					
Résultat	18,4	17,6																																					
Équipement	Q'té	Destination																																					
Ordinateur du bureau + onduleur	2	Bureau PROGEA																																					
	2	DRAH/PCL																																					
	1	DPAH/OTG																																					
	1	DPAH/KWG																																					
	1	DPAH/GNZ																																					
	1	DGRE/DAEP																																					
Ordinateur portable	1	DRAH/PCL																																					
Imprimante couleur à laser	1	Bureau PROGEA																																					
	1	DRAH/PCL																																					
	1	DGRE/DAEP																																					
Imprimante noir-blanc à laser	2	DRAH/PCL																																					
	1	DPAH/OTG																																					

		<table border="1"> <tr> <td></td> <td>1</td> <td>DPAH/KWG</td> </tr> <tr> <td></td> <td>1</td> <td>DPAH/GNZ</td> </tr> <tr> <td>Photocopieuse</td> <td>1</td> <td>DRAH/PCL</td> </tr> <tr> <td>Projecteur</td> <td>1</td> <td>DRAH/PCL</td> </tr> <tr> <td>Moto</td> <td>9</td> <td>9 communes (ZAT)</td> </tr> </table> <p>○ Le résultat d'appui par le siège de la JICA et le bureau de la JICA au Burkina Faso est indiqué dans le tableau ci-dessous.</p> <p style="text-align: center;">Appui par le siège de la JICA et le bureau de la JICA au Burkina Faso (en yens)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>Appui</th> <th>Source (JICA)</th> <th>Montant</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">1<sup>ère</sup> année</td> <td>Stage C/P au Japon (général)</td> <td>Siège JICA</td> <td>5 157 806</td> </tr> <tr> <td>Stage C/P au Japon (2 hauts fonctionnaires)</td> <td>Siège JICA</td> <td>3 775 204</td> </tr> <tr> <td>Equipements (2 véhicules, 3 motos)</td> <td>Bureau au BF</td> <td>9 119 290</td> </tr> <tr> <td>Arrangement du bureau à Ziniaré</td> <td>Bureau au BF</td> <td>1 648 435</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">2<sup>ème</sup></td> <td>Stage C/P au Japon (général)</td> <td>Siège JICA</td> <td>7 562 853</td> </tr> <tr> <td>Entretien et assurance de véhicules et motos</td> <td>Bureau au BF</td> <td>376 526</td> </tr> </tbody> </table>		1	DPAH/KWG		1	DPAH/GNZ	Photocopieuse	1	DRAH/PCL	Projecteur	1	DRAH/PCL	Moto	9	9 communes (ZAT)		Appui	Source (JICA)	Montant	1 <sup>ère</sup> année	Stage C/P au Japon (général)	Siège JICA	5 157 806	Stage C/P au Japon (2 hauts fonctionnaires)	Siège JICA	3 775 204	Equipements (2 véhicules, 3 motos)	Bureau au BF	9 119 290	Arrangement du bureau à Ziniaré	Bureau au BF	1 648 435	2 <sup>ème</sup>	Stage C/P au Japon (général)	Siège JICA	7 562 853	Entretien et assurance de véhicules et motos	Bureau au BF	376 526
	1	DPAH/KWG																																							
	1	DPAH/GNZ																																							
Photocopieuse	1	DRAH/PCL																																							
Projecteur	1	DRAH/PCL																																							
Moto	9	9 communes (ZAT)																																							
	Appui	Source (JICA)	Montant																																						
1 <sup>ère</sup> année	Stage C/P au Japon (général)	Siège JICA	5 157 806																																						
	Stage C/P au Japon (2 hauts fonctionnaires)	Siège JICA	3 775 204																																						
	Equipements (2 véhicules, 3 motos)	Bureau au BF	9 119 290																																						
	Arrangement du bureau à Ziniaré	Bureau au BF	1 648 435																																						
2 <sup>ème</sup>	Stage C/P au Japon (général)	Siège JICA	7 562 853																																						
	Entretien et assurance de véhicules et motos	Bureau au BF	376 526																																						
Intrants de la partie burkinabè	(Plan) <ul style="list-style-type: none"> <li>- Disposition des homologues</li> <li>- Recrutement du personnel d'appui (secrétaire, comptable, chauffeur, gardien etc.)</li> <li>- Bureaux pour les experts japonais et frais d'éclairage et de chauffage</li> </ul>	<p>○ Les intrants de la partie burkinabè ont été investis presque conformément au plan.</p> <p>○ Concernant la disposition des homologues (C/P), 5 C/P sont disposés aux Directions centrales du MAH, 20 C/P à la Direction Régionale du PCL et 4 C/P aux directions régionales du PCL des ministères concernés.</p> <p>○ Le tableau ci-dessous indique le budget pour l'année 2010.</p>																																							

- Fourniture des données et documents
- Une partie des matériaux nécessaires à l'arrangement des installations sanitaires

Budget exécuté de la partie burkinabè  
pour l'année 2011 (en FCFA)

Article	Montant
Frais de personnel (indemnités etc.)	10.800.000
Matériels de bureau	4.883.142
Matériels informatiques	3.787.800
Total	19.470.942

- Pour ce qui concerne la disposition du personnel d'appui, ce personnel est alloué par le Projet à cause d'un problème d'exécution budgétaire de la partie burkinabè.
- Les bureaux du projet sont mis en place au sein de la DGEUE (à Ouagadougou) et au sein de la DRAH/PCL (à Ziniaré).
- La base de données des IH (INOH), les données démographiques, les documents différents relatifs à la Réforme, les guides et/ou manuels d'éducation d'hygiène existants ont été fournis aux experts japonais.
- Malgré avec un peu de retard dans l'exécution du budget, ils sont faits presque conformément au plan.
- Certaines personnes ont été parties de leur poste suivant la mutation au niveau de la Direction Régionale du PCL (il s'agit du personnel du service des ressources en eau). Malgré cela, il n'y avait pas d'effet négatif sur la mise en œuvre du projet, car les successeurs appropriés ont été placés.
- En ce qui concerne l'aménagement des installations sanitaires, la partie burkinabè a aménagé les latrines publiques et domestiques dans les villages situés dans les 3 provinces cibles.

Processus de la mise en œuvre	
Avancement des activités	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ Les activités planifiées pour la 1<sup>ère</sup> année et la 2<sup>ème</sup> année du projet sont menées dans l'ensemble d'une manière régulière.</li> <li>○ On peut citer entre autres les facteurs favorisant la promotion du projet comme suit : <ul style="list-style-type: none"> <li>- Communication étroite entre l'équipe du projet et les homologues (C/O)</li> <li>- Vu que la Directrice régionale du PCL est nommée coordinatrice nationale, le sentiment d'appropriation du projet est bien ancré.</li> <li>- Les activités du projet sont elles-mêmes parfaitement conformes à la politique nationale relative à l'application de la Réforme.</li> <li>- Le contrat de prestation des services a été signé avec le bureau d'étude local qui avait participé à l'élaboration de la Réforme.</li> <li>- Collaboration entre les experts, les agents administratifs, les consultants locaux au niveau des sites</li> </ul> </li> </ul>
Système de gestion du projet	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ La session du comité de pilotage a été tenue 3 fois jusqu'ici. Le comité de pilotage fonctionne bien comme organisme prenant la décision finale.</li> <li>■ Concernant le montant des intrants de la partie japonaise pour chaque année fiscale, comme la partie burkinabè ne participe pas au processus de détermination du montant, elle en a exprimé son mécontentement.</li> </ul>
Transfert des techniques	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ Les techniques concernant la promotion de la Réforme sont bien transférées aux agents administratifs (principalement ceux de la DRAH/PCL et des communes).</li> </ul>
Engagements et appropriation du MAH et d'autres contreparties	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ La DRAH/PCL qui est la contrepartie (C/P) effective pour la mise en œuvre du projet a un bon sentiment d'appropriation du projet.</li> <li>○ Du point de vue de la mise en œuvre de la politique nationale, le MAH s'applique hautement au projet qui est un projet pilote de l'application de la Réforme et partage étroitement des informations avec l'équipe d'experts japonais.</li> <li>○ La DRAH/PCL, en tant que C/P pour la mise en œuvre du projet, contribue dynamiquement au projet avec l'esprit conscient : "le PROGEA/PCL est notre projet".</li> </ul>
Implication d'autres parties prenantes et leur compréhension du projet	<p>Une collectivité locale de la France exécute les activités d'éducation d'hygiène et d'assainissement en utilisant les guides et manuels préparés par le PROGEA/PCL et en appliquant la méthode du PROGEA/PCL dans les 3 communes de la province de l'Oubritenga.</p>
Facteurs favorisant et/ou gênant la mise en œuvre du	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ Comme les experts japonais sont versés en français et ont beaucoup d'expériences de travail dans les pays francophones d'Afrique d'Ouest, la communication entre les experts japonais et les homologues est très</li> </ul>

projet	<p>bien assurée, ce qui constitue un des facteurs effectifs.</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ Le dynamisme et l'initiative des activités des experts japonais surtout sur le terrain sont bien appréciés au niveau des sites.</li> <li>○ Le bureau d'étude local auquel on a confié les activités suivant le contrat de prestation des services a contribué beaucoup à l'avancement du projet. On considère que c'était un facteur très favorisant la promotion des activités au niveau des sites.</li> <li>■ Le renouvellement de la plupart des homologues au début de la 2<sup>ème</sup> année du projet et la réduction d'un mois de la période des activités sur les sites pour la 2<sup>ème</sup> année ont donné un effet léger sur le projet. .</li> </ul>
Coopération et appuis au développement / donateurs	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ En ce qui concerne la sensibilisation en matière d'hygiène et d'assainissement, les 2 volontaires japonais pour la coopération à l'étranger (JOCV) dans le domaine d'AEPA déploient leurs activités en collaboration avec le PROGEA/PCL.</li> <li>○ Également, une collaboration est maintenue avec le PACOGES (Projet d'Appui aux Comités de Gestion d'Écoles) pour la région du PCL parmi les zones faisant l'objet dudit projet.</li> </ul>

2. Évaluations en fonction de 5 critères		
Item	Indicateurs	Constatation (○: positive, ■: défi)
Pertinence : haute		
Cohérence avec la politique nationale		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ Le PN-AEPA (Programme national d'approvisionnement en eau potable et d'assainissement) vise à constituer les AUE et à renforcer la capacité des agents chargés de la mise en place des AUE et la politique de la réforme des IH en milieu rural et semi-urbain restent inchangés.</li> <li>○ La réunion annuelle du PN-AEPA est tenue tous les ans pour délibérer sur l'avancement, les problèmes etc.</li> <li>○ La DRAH du Plateau Central qui est une région faisant l'objet du projet /PCL, a un bon sentiment d'appropriation du projet avec l'esprit conscient : "le PROGEA/PCL est notre projet".</li> </ul>
Approche appropriée	Le présent projet est-il un moyen approprié pour améliorer la gestion et l'entretien des PMH et le comportement en matière d'hygiène et d'assainissement ?	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ Comme les activités de gestion et d'entretien des PMH et d'amélioration du comportement en matière d'hygiène et d'assainissement constituent "un projet d'organisation personnelle", on peut réaliser l'objectif en surmontant petit-à-petit mais assurément des problèmes/difficultés.</li> <li>○ Vu que la compréhension des villageois est un élément clé pour le succès du projet, on peut considérer que l'orientation du projet est correcte.</li> </ul>
	Le processus de mise en place des AUE est-il approprié ?	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ Il est jugé que les activités menées pour la mise en place des AUE sont appropriées en tenant compte des circonstances locales et des particularités du projet.</li> <li>○ Les activités par la sous-traitance des services au bureau d'étude local qui est très au courant des circonstances locales ont évité le désordre inutile, la répulsion incompréhensible etc.</li> <li>○ Les problèmes et difficultés sont différents pour chaque commune. L'équipe d'experts, les homologues, les agents communaux, les consultants locaux etc. se sont collaborés</li> </ul>

		et ont discuté jusqu'ici pour faire face à ces problèmes et difficultés.
	La sélection des communes cibles est-elle pertinente ?	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ Étant donné que la région du Plateau Centrale faisait l'objet d'un projet de coopération financière non remboursable du Japon et en tenant compte de la coopération avec le programme de l'UNICEF auquel le gouvernement du Japon a financé, la sélection de cette zone (région du Plateau Central) était pertinente.</li> <li>○ Comme les caractéristiques des communes, les situations et les conditions des villages sont diversifiées, la sélection des communes cibles était appropriée, car il est possible d'étudier de différentes approches correspondant aux particularités des sites.</li> </ul>
Cohérence avec la politique de la coopération du gouvernement japonais et de la JICA pour le Burkina Faso	Le projet est-il cohérent avec les thèmes prioritaires de l'aide officielle au développement (AOD) du Japon à l'égard du Burkina Faso ?	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ La politique de l'AOD du Japon reste inchangée.</li> <li>○ Le but global du projet est cohérent avec la direction de coopération de la JICA pour le Burkina Faso.</li> </ul>
Autres	La démarcation de la coopération entre les donateurs et entre les projets de la JICA est-elle clairement établie ?	○ Au niveau du PN-AEPA, le zonage des projets d'appui a été fait par l'initiative du MAH. La partie burkinabè souhaite au Japon une coopération dans les régions du Plateau Central et du Centre-Sud.
	Changement du milieu où le projet est situé, tel que le milieu politique, celui économique ou social	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ Il n'y a pas de changement de la politique nationale. D'autre part, la mise en œuvre de la Réforme est une politique prioritaire parmi les politiques du MAH.</li> <li>■ Par la suite des désordres en février 2011, les experts japonais sont évacués à l'extérieur du pays.</li> </ul>
Efficacité : haute		
Possibilité d'accomplissement des objectifs du projet	L'objectif du projet est-il accompli avant la fin du projet ?	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ Il est hautement possible d'accomplir l'objectif du projet concernant l'amélioration du taux du fonctionnement des IH.</li> <li>○ Pour ce qui concerne la gestion des IH, les AUE ont été</li> </ul>

		<p>mises en place dans presque toutes les villages des communes pilotes et les activités pratiques (la mise en réserve des fonds, le versement des redevances, la signature des contrats de suivi et d'entretien entre communes-maintenanciers) sont presque achevées. La sélection des maintenanciers a été achevée.</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ Au cours de la 3ème année et de la 4ème année, il est prévu de mener les activités de suivi et d'évaluation en vue de systématiser et d'enraciner les activités de gestion et d'entretien des PMH.</li> <li>○ La coopération avec les maintenanciers est avancée d'une manière régulière.</li> <li>■ Les effets attendus de la sensibilisation pour l'amélioration du comportement en matière d'hygiène et d'assainissement apparaissent difficilement. Il est primordial de continuer les activités de sensibilisation d'une manière consistante. On espère que les activités de la 3ème année et 4ème année apporteront des résultats tangibles.</li> <li>■ Tous les intéressés confirment que le maintien de la motivation des animateurs villageois et la continuité de leurs activités constituent un problème à examiner.</li> </ul>
	<p>Quels sont les facteurs favorisant l'accomplissement des objectifs du projet ?</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ Comme il s'agit d'un projet conforme à la politique du pays surtout à la mise en œuvre de la Réforme, tout le monde comprenant les C/P sont très conscients que le PROGEA/PCL est un projet très important et propre au Burkina Faso.</li> <li>○ Le système d'exécution du projet est bien établi en mettant au centre la Directrice Régionale du PCL en tant que responsable. Il est à noter que la partie burkinabè est résolue à s'engager.</li> <li>○ Comme les experts japonais sont versés en français et ont beaucoup d'expériences dans les pays francophones</li> </ul>

		<p>d'Afrique d'Ouest, la communication entre les experts japonais et les homologues est très bien assurée, ce qui constitue un des facteurs effectifs.</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ La performance des services du bureau d'étude local (ANTEA) qui avait participé à l'élaboration de la Réforme et qui a déployé ses activités au niveau des sites dans le cadre du présent projet est bien appréciée.</li> </ul>
	Quels sont les facteurs gênant l'accomplissement des objectifs du projet ?	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ Les problèmes et obstacles particuliers ne sont pas reconnus.</li> <li>■ Par contre, quelques difficultés ont été rencontrées au niveau des villages lors des activités de mise en place des AUE. En effet, une forte répulsion vis-à-vis de l'introduction d'un nouveau système était marquée dans les villages où l'ancien système du CPE était fonctionnel.</li> </ul>
Relations causales entre les résultats et les objectifs du projet	Le niveau des résultats est-il assez élevé ?	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ Le projet est en bonne voie d'accomplir les objectifs.</li> <li>○ Il est très possible d'accomplir les objectifs si l'on continue, avec la dynamique actuelle et le système de mise en œuvre du projet, les activités prévues pour la 3ème et la 4ème année telles que le renforcement des AUE des 6 communes cibles, les pratiques de réparation par les maintenanciers, l'établissement du système d'approvisionnement en pièces détachées etc.</li> </ul>
	Les résultats produits sont-ils suffisants pour accomplir les objectifs du projet.	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ Par la continuation des activités, il est possible d'accomplir l'objectif concernant l'amélioration de l'état de gestion et de maintenance des IH.</li> <li>■ Pour ce qui concerne l'amélioration du comportement en matière d'hygiène et d'assainissement, il est souhaitable qu'on s'ingénie à trouver un expédient pour l'amélioration du comportement en matière d'hygiène et d'assainissement. La continuation des activités après l'achèvement du projet est soignée.</li> </ul>
Changement et influence des	Identification des effets des conditions	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ La plupart des administrateurs qui ont appris les techniques travaillent continuellement.</li> </ul>

conditions préalables et extérieures	préalables et extérieures sur le projet. Impacts actuels des conditions préalables et extérieures.	<input type="radio"/> Les administrateurs qui ont participé aux formations continuent à intervenir aux activités du projet. <input type="radio"/> La propriété des IH a été cédée par le préfet provincial à la commune en janvier 2009.
Efficience : relativement haute		
Relations causales entre les intrants de la partie japonaise et les activités et les résultats du projet	Le nombre des experts est-il approprié ? Sont-ils compétents ? Le moment et la période de l'envoi des experts sont-ils appropriés ?	<input type="radio"/> Le nombre et le moment d'envoi des experts ne posent aucun problème. <input type="radio"/> Le moment et la période d'envoi des experts étaient déterminés pour assurer les activités d'appui effectives. Par exemple, ils ne sont pas envoyés pendant l'hivernage (de juin à août) où l'exécution des activités est difficile. <input checked="" type="checkbox"/> Il a été constaté un mécontentement de la part burkinabè concernant l'envoi d'autres experts que le consultant en chef dont la partie burkinabè n'est préalablement pas informée du moment, de la période d'envoi, du contenu de leurs activités etc.
	Les équipements fournis sont-ils dans l'ensemble suffisants ?	<input type="radio"/> Les équipements fournis dans le cadre du projet étaient suffisants.
	Les stages au Japon sont-ils menés d'une manière appropriée ?	<input type="radio"/> Les 4 C/O et en suite les 5 C/O ont été envoyés respectivement en 2009 et en 2010 au Japon pour participer aux stages dans lesquels ils ont visité les installations d'AEP, d'hygiène et d'assainissement, les collectivités locales, rencontrés avec les administrateurs gestionnaires d'AEP, d'hygiène et d'assainissement, et échangé des vues avec eux. <input type="radio"/> Les C/O envoyés au Japon étaient les hauts fonctionnaires du MAH comprenant la coordonnatrice nationale. Il a été constaté qu'ils ont compris le projet mieux qu'avant la participation aux stages et montrent leur sentiment de collaboration avec le projet. <input type="radio"/> Dans le cadre du stage par thème, les 4 agents de la DRAH/PCL et les 4 agents de la DGRÉ ont participé aux

		<p>stages au Japon, soit au total 8 agents jusqu'ici. Il a été constaté qu'ils s'engagent activement au projet après le retour au Burkina Faso.</p>
	L'échelle du budget du projet est-elle appropriée ?	<p><input type="radio"/> Aucun problème en relation avec le budget n'est reconnu.</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> Comme la partie burkinabè n'est ni informée <sup>préalablement</sup>, ni consulté sur le montant du budget annuellement accordé par la partie japonaise, elle en a exprimé son mécontentement fort.</p>
Relations causales entre les intrants de la partie burkinabè et les activités et les résultats du projet	La disposition des C/O est-elle appropriée ?	<p><input checked="" type="checkbox"/> Au début de la 2<sup>ème</sup> année du projet, un grand nombre des C/P ont été renouvelés, certains par la suite d'une mutation et d'autres pour aller étudier à l'étranger.</p> <p><input type="radio"/> Mais après, sans changement des C/P, les activités sont menées régulièrement et le transfert des technologies est bien fait.</p>
	L'exécution du budget de la partie burkinabè est-elle appropriée ?	<p><input checked="" type="checkbox"/> (Étant donné que le PV n'était pas signé,) le budget pour le projet n'a pas été demandé pour 2009, ni exécuté.</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> Pour ce qui concerne le budget pour 2010 (allocation des C/P, frais du combustible, frais d'entretien des voitures, achat des produits etc.), il est exécuté, mais avec un retard.</p>
	La disposition logistique pour la formation et l'atelier de travail était-elle appropriée ?	<p><input type="radio"/> Les sessions de formation et d'atelier de travail ont été bien organisées et préparées.</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> Il y a eu quelques cas où la session a été rapportée pour la raison de participants peu nombreux à cause des marchés hebdomadaires, des travaux agricoles, de l'information mal faite etc.</p>
Conditions extérieures pour obtenir les résultats	Est-ce qu'il y a des conditions extérieures favorisant l'accomplissement des résultats ?	<input type="radio"/> L'engagement fort de la DRAH/PCL a contribué à l'accomplissement des résultats.
Impact : modéré		
Perspectives de l'accomplissement du but	Le but global sera-t-il accompli dans 2 à 3 ans après l'achèvement du projet ?	<p><input type="radio"/> La politique de la promotion de la Réforme restera inchangée jusqu'à 2015.</p> <p><input type="radio"/> L'avancement de la construction des IH d'AEP et la prise</p>

global		des mesures budgétaires pour la Réforme favorisent considérablement l'accomplissement du but global (surtout celui d'approvisionnement en eau potable).
	Facteurs gênant l'accomplissement du but global	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ L'ABS (appuis budgétaire sectoriel) doit être réparti à la promotion de la Réforme.</li> <li>■ Le MAH devra reconnaître correctement les savoir-faire et les connaissances/techniques acquis et avancer les activités de généralisation à l'échelle nationale.</li> </ul>
Relation causales	Dissociation entre le but global et les objectifs du projet	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ L'accomplissement des objectifs du projet contribue à celle du but global.</li> <li>■ Comme la zone d'intervention du projet est limitée, l'engagement fort de la partie burkinabè en rapport avec la continuité des activités (comprenant la prise des mesures budgétaires) pour l'amélioration de l'environnement de la santé et de l'hygiène de toute la région du PCL est nécessaire.</li> </ul>
Effets imprévus positifs et négatifs	Effets imprévus positifs	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ Les communes autres que les 9 communes cibles souhaitent fortement l'application de la Réforme.</li> <li>○ La SNV (ONG) qui envisage la mise en œuvre d'un projet d'application de la Réforme dans les 5 communes situées dans les environs d'Ouagadougou et dans d'autres 5 communes situées dans les environs de Bobo-Dioulasso a proposé au PROGEA/PCL une coopération.</li> </ul>
	Effets imprévus négatifs	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ Dans les villages qui partagent les IH avec d'autres villages où la Réforme n'est pas appliquée, le désordre s'est introduit en rapport de la gestion des IH entre les villageois.</li> <li>■ Étant donné que le nombre des communes où les AUE sont mises en place est limité, soit 9 communes, les effets de l'appui à la formation des maintenanciers sont limitatifs.</li> </ul>
Durabilité : modérée		
Fondements	Position du projet en relation avec la politique	○ La politique de la promotion de la Réforme restera

	du Burkina Faso et institution	inchangée jusqu'à 2015. ○ La revue annuelle du PN-AEPA 2010 souligne que l'application de la Réforme est prioritaire dans le domaine d'hygiène et d'assainissement.
Aspect organisationnel	Fondements organisationnels favorisant le développement et la durabilité du projet	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ Les fondements organisationnels de la partie burkinabè sont faibles. Les points indiqués ci-dessous sont des défis. <ul style="list-style-type: none"> <li>· Les ressources humaines sont manquantes : les 40 agents s'occupent d'animation de 500 villages, etc.</li> <li>· De nombreux donateurs accordent en même temps leurs appuis à de nombreux projets, soit 45 environ en cours d'exécution. Il en résulte que le déficit en personnel est chronique.</li> <li>· La DRAH/PCL a été placée, il y a environ 10 ans. La structure du personnel n'est pas encore bien aménagée.</li> </ul> </li> <li>■ À noter que les communes ont été créées en 2006. Il leur manque de moyens financiers et humains. Les agents communautaires (y compris les maires de commune) déploient de nombreuses activités sur une base volontaire, ce qui constitue un défi du point de vue de la pérennisation des activités.</li> <li>■ Le système des activités de sensibilisation d'hygiène et d'assainissement au niveau des villages n'est pas bien établi.</li> <li>○ En ce qui concerne l'éducation scolaire en matière d'hygiène et d'assainissement, il est bien possible de continuer et de développer les activités de sensibilisation en collaboration avec les conseils d'administration des établissements scolaires.</li> </ul>
Aspect technique	Les technologies transférées sont introduites au Burkina Faso et diffusées dans le pays.	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ Les savoir-faire de l'application de la Réforme sont bien transférés des experts japonais aux administrateurs concernés.</li> <li>■ Il a été constaté que la plupart des administrateurs</li> </ul>

		concernés considèrent les activités comme celles insérées dans le projet. Lorsqu'ils quittent leurs postes par la mutation, ils ne supposent pas la continuité des activités à leurs nouveaux postes.
	Facteurs favorisant ou gênant les effets du projet	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ L'engagement fort de la DRAH/PCL et le professionnalisme des experts japonais et du bureau d'étude local qu'on doit apprécier hautement contribuent à l'apparition d'effets du projet.</li> <li>○ L'accès à l'eau potable est un élément vital pour les villageois. Plus la zone est rurale, plus le problème s'aggrave. En effet, il y a des villages qui ne sont pas disposés de ressource d'eau de remplacement comme la commune de Toeghin, là où tous les villageois comprenant le maire montrent leur engagement fort.</li> </ul>
Aspect financier	Fondements financiers favorisant la durabilité et le développement du projet	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ Au cours de la période de mise en œuvre du projet, la partie burkinabè devra prendre des mesures budgétaires pour la continuation des activités après l'achèvement du projet. (Pour mener les activités à partir de 2013, il faut faire une demande de budgétisation en 2013.</li> <li>○ La possibilité de mise en valeur de l'ABS pour l'application de la Réforme est élevée.</li> </ul>

Résumé narratif du Projet	Indicateur	Moyens de vérification	Hypothèses importantes
<p><b>(But Global)</b> Dans la région du Plateau Central, l'environnement en matière de santé, d'hygiène et d'assainissement est amélioré</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Le taux de population pouvant se servir durablement de points d'eau améliorés passe de 70% à 80% avant 2015.</li> <li>• Le taux de fonctionnement des infrastructures hydrauliques(IH) passe de 70% à 80% avant 2015</li> <li>• La situation sur l'approvisionnement en eau potable, l'hygiène et l'assainissement des populations est améliorée avant 2015.</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Rapport sur la Réforme du système de gestion des infrastructures hydrauliques</li> <li>• Inventaires de la Direction Générale des Ressources en Eau(DGRE) et de la Direction Générale de l'Assainissement des Eaux Usées et Excrétas (DGAEUE).</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Les points d'eau actuels sont fonctionnels .</li> <li>• Le niveau de la capacité des infrastructures hydrauliques ne baisse pas par rapport au celui actuel.</li> <li>• Les Directions Provinciales de l'Agriculture, de l'Hydraulique et des Ressources Halieutiques (DPAHRH) et les communes assurent le personnel pour la sensibilisation et le système budgétaire en collaboration avec les ZAT et UAT.</li> </ul>
<p><b>(Objectif du Projet)</b> L'état de gestion et de maintenance des IH et le comportement en matière d'hygiène et d'assainissement des populations sont améliorés dans les communes cibles (toutes les communes de l'Oubritenga et les communes pilotes du Ganzourgou et du Kourwèogo).</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Le taux de fonctionnement des IH dans les 9 communes cibles (toutes les communes de l'Oubritenga et les communes pilotes du Ganzourgou et du Kourwèogo) progresse de 70% à 80%.</li> <li>• Le comportement des populations des communes pilotes sur les pratiques en matière de l'approvisionnement en eau potable, d'hygiène et d'assainissement (10 articles) est amélioré au moins 60%.</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Inventaire Nationale des Ouvrages Hydrauliques (INOH)</li> <li>• Fiches du suivi</li> <li>• Rapports du Projet</li> <li>• Fiches du suivi</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Les agents ayant acquis les techniques continuent leur travail.</li> </ul>
<p><b>(Résultats)</b> 0. Les indicateurs du PDM sont définis.</p>			
<p>1. Le système de gestion et de maintenance des IH est établi dans les communes cibles conformément à la Réforme.</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Plus de 90% de agents des ZAT et UAT des communes cibles suivent la formation. Plus de 80% d'eux réussissent au test de confirmation.</li> <li>• Les Associations des Usagers de l'Eau (AUE) sont constituées dans tous les villages des 3 communes pilotes avant la fin de mai 2010.</li> <li>• La convention relative à la gestion et la maintenance des IH est signée entre les 3 communes pilotes et 80% de leurs AUE avant février 2011.</li> <li>• Les AUE des communes de l'Oubritenga excepté la commune pilote sont constituées avant juin 2011.</li> <li>• La convention relative à la gestion et la maintenance des IH est signée entre les communes de l'Oubritenga excepté la commune pilote et 80% de leurs AUE avant février 2012.</li> <li>• Le contrat relatif à la maintenance et aux tournées de suivi des IH est passé entre les communes cibles et 80% de leurs maintenanciers avant février 2013.</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Rapports de la formation</li> <li>• Récépissés de la reconnaissance des AUE</li> <li>• Conventions de délégation de gestion des infrastructures hydrauliques d'AEP entre les communes et les AUE</li> <li>• Récépissés de la reconnaissance des AUE</li> <li>• Conventions de délégation de gestion des infrastructures hydrauliques d'AEP entre les communes et les AUE</li> <li>• Contrat de suivi et d'entretien préventif des IH entre la commune et les maintenanciers</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Les agents ayant acquis les techniques continuent leur travail.</li> <li>• Les agents ayant suivi la formation sont impliqués continuellement dans les actions du Projet.</li> <li>• Les compétences et les ressources de l'Etat dans le domaine de l'approvisionnement en eau potable et de l'assainissement sont transférées aux communes.</li> </ul>
<p>2. Les capacités des organisations villageoises dans la gestion et la maintenance des IH sont renforcées.</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Plus de 70% des AUE des communes pilotes arrivent à payer la redevance aux communes et plus de 70% des gestionnaires parviennent à effectuer le recouvrement à 70% avant la fin de novembre 2011.</li> <li>• Plus de 70% des AUE des communes cibles de l'Oubritenga arrivent à payer la redevance aux communes et plus de 70% des gestionnaires parviennent à effectuer le recouvrement à 70% avant la fin de projet.</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Rapport sur les actions mises en place dans le Projet</li> <li>• Enquête auprès des vulgarisateurs ayant suivi la formation TOT.</li> <li>• Rapport sur le suivi-évaluation</li> </ul>	

<p>3. En ce qui concerne la gestion et la maintenance des IH, le système d'approvisionnement en pièces détachées et celui de réparation sont améliorés.</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Les maintenanciers arrivent à répondre à plus de 60% des besoins de maintenance et de tournées de suivi demandés par les communes avant octobre 2012.</li> <li>• Toutes les communes possèdent les informations nécessaires pour le remplacement de pièces détachées (magasins, procédure de commande, etc.)</li> <li>• Le délai de réparations simple est réduit à moins d'un mois.</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Rapports sur le suivi-évaluation</li> <li>• Rapports sur le suivi-évaluation</li> </ul>	
<p>4. Dans les 3 communes cibles du Plateau Central, le comportement en matière d'hygiène et d'assainissement des populations sont améliorés.</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Le programme et les manuels de la sensibilisation et de l'éducation en matière de l'amélioration d'hygiène et d'assainissement sont élaborés.</li> <li>• Dans les villages des 3 communes pilotes, plus de 600 agents s'occupant du programme de promotion de l'hygiène et de l'assainissement ou celui de l'enseignement (enseignants, agents du centre de santé, agents chargés de l'hygiène et de l'assainissement aux services techniques, animateurs villageois) sont formés.</li> <li>• Dans les villages des 3 communes pilotes, les activités de sensibilisation sont mises en œuvre au moins 6 fois par an par les agents s'occupant du programme de promotion de l'hygiène et de l'assainissement ou celui de l'enseignement.</li> <li>• Le guide pour le monitoring des activités en hygiène et l'entretien des infrastructures sanitaires est élaboré et le système de gestion des infrastructures sanitaires publiques est mis en place.</li> <li>• Sur la base du guide pour le monitoring des activités en hygiène et l'entretien des infrastructures sanitaires, le suivi-évaluation sur la gestion des infrastructures sanitaires et le comportement en matière d'hygiène et d'assainissement est mené dans chaque site au moins 2 fois par an.</li> <li>• Les infrastructures sanitaires publiques sont gérées par les populations.</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Rapports du projet</li> <li>• Manuels et outils élaborés</li> <li>• Rapports de la formation</li> <li>• Fiches du suivi</li> <li>• Guide élaboré</li> <li>• Fiches du suivi</li> <li>• Rapports du projet</li> <li>• Fiches du suivi</li> </ul>	
<p>5. Chaque Direction Provinciale de l'Agriculture, de Hydraulique et des Ressources Halieutiques (DPAHRH) arrive à : effectuer le suivi-évaluation de l'état d'approvisionnement en eau, d'hygiène, et d'assainissement : accorder des appui-conseils aux communes.</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Le suivi-évaluation sur les éléments suivants sont effectués 4 fois par an par chaque DPAHRH à partir de 2010 : le taux de fonctionnement des IH, l'état financier des AUE, le taux de recouvrement par les gestionnaires, l'état de maintenance et de gestion des IH par les maintenanciers.</li> <li>• Le suivi-évaluation sur l'état d'hygiène et d'assainissement est effectué 4 fois par an par chaque DPAHRH à partir de 2010.</li> <li>• A la suite du suivi-évaluation, 70% d'appui-conseils nécessaires sont accordés suivant les moyens de chaque DPAHRH.</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Rapports du projet</li> <li>• Fiches du suivi</li> <li>• Rapports du projet</li> <li>• Fiches du suivi</li> <li>• Rapports du projet</li> <li>• Fiches du suivi</li> </ul>	

(Activité)	(Intrants)	
<p>0-1)Effectuer l'étude préliminaire pour confirmer le taux d'accès à l'eau., celui de fonctionnement des IH, celui de couverture des infrastructures sanitaires(IS) et l'état de préparation de manuels au commencement du projet dans les 3 provinces cibles.</p> <p>1-1)En tenant compte du résultat de l'étude mentionnée à 0-1), la Direction Régionale de l'Agriculture, de l'Hydraulique et des Ressources Halieutiques du Plateau Central (DRAHRH) planifie la formation des agents des ZAT et UAT.</p> <p>1-2)En se basant sur le planning de formation, réviser les manuels existants en cas de besoin.</p> <p>1-3)La DPAHRH organise la formation pour le renforcement des capacités de gestion et de maintenance des IH auprès des agents des ZAT et UAT qui travaillent dans les 3 provinces.</p> <p>1-4)La PAHRH effectue le test de confirmation de la formation auprès des agents des ZAT et UAT.</p> <p>1-5)Sélectionner une commune pilote par province.</p> <p>1-6)Les agents des ZAT et UAT, etc. appuient la sensibilisation sur les principes de gestion et de maintenance des IH.</p> <p>1-7)Les agents des ZAT et UAT, etc. des communes pilotes appuient la constitution des AUE.</p> <p>1-8)Dans les communes pilotes, les agents des ZAT et UAT, etc. favorisent la signature de la convention entre les communes et les AUE ainsi que la conclusion du contrat entre les communes et les maintenanciers.</p> <p>1-9)Dans les communes de l'Oubritenga excepté la commune pilote, les agents des ZAT et UAT, etc. appuient la constitution des AUE.</p> <p>1-10)Dans les communes de l'Oubritenga excepté la commune pilote, les agents des ZAT et UAT, etc. favorisent la signature de la convention entre les communes et les AUE ainsi que la conclusion du contrat entre les communes et les maintenanciers.</p>	<p>Partie japonais</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>· Envoi d'experts</li> <li>1. Conseiller en chef (renforcement des capacités d'organisation / approvisionnement en eau potable dans les zones rurales)</li> <li>2. Expert en génie sanitaire</li> <li>3. Expert en gestion et maintenance des infrastructures hydrauliques d'AEP</li> </ul> <p>· Contrats avec des bureaux d'étude locaux ou des ONG (activités pour accélérer la formation des organisation villageoises en collaboration avec les agents ZAT et UAT).</p> <p>· Fourniture d'équipements: véhicules, motocycles, équipements informatiques etc.</p> <p>· Frais nécessaires aux activités: l'étude préliminaire, la constitution des AUE, la</p>	<p>Partie burkinabé</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Mise à disposition du personnel homologue (salaires et indemnités)</li> <li>2. Affectation du personnel d'appui (secrétaire, comptable, chauffeur, gardien, etc.)</li> <li>3. Locaux pour le bureau des experts et des agents pour le Projet, l'électricité, le gaz, et l'eau courant.</li> <li>4. Fourniture de documents et d'information</li> <li>5. Une partie de matériels nécessaires à l'aménagement des installations sanitaire.</li> </ol>
<p>2-1)Les agents des ZAT et UAT, etc. des communes pilotes appuient la gestion de comptabilité et de finances auprès des AUE et le recouvrement auprès des gestionnaires.</p> <p>2-2)Les agents des ZAT et UAT, etc. des communes autres que les communes pilotes appuient la gestion de comptabilité et de finances auprès des AUE et le recouvrement auprès des gestionnaires.</p>		
<p>3-1)Chaque DPAHRH fait l'état des lieux des magasins de pièces détachées de pompes par modèle ainsi que leur stock. Et elle relève des problèmes en matière d'approvisionnement en pièces détachées.</p> <p>3-2)Sur la base des mesures d'amélioration contre les problèmes d'approvisionnement en pièces détachées, chaque DPAHRH fait le point des informations et des procédures nécessaires pour l'achat de pièces et les diffusent à toutes les communes.</p> <p>3-3)Chaque DPAHRH organise la formation de réparation de pompes auprès des maintenanciers.</p>		
<p>4-1)La DGAEUE du MAHRH élabore, en collaboration avec les Direction Régionales du Ministère de la Santé (MS) et du Ministère de l'Enseignement de Base et de l'Alphabétisation (MEBA), le programme et les outils de sensibilisation et d'éducation en matière de promotion de l'hygiène et de l'assainissement en se référant au programme ou au système existants.</p> <p>4-2)Les Directions Régionale du MS et du MEBA organisent la formation en se basent sur les outils élaborés et mentionnés au 4-1) auprès des agents chargés de la sensibilisation et de l'éducation en matière d'hygiène et d'assainissement (enseignants, agents des centres de santé, agents chargés d'hygiène et d'assainissement aux services techniques et animateurs villageois) dans les communes pilotes.</p> <p>4-3)Les agents chargés de la sensibilisation et de l'éducation en matière d'hygiène et d'assainissement mettent en œuvre le programme de sensibilisation et d'éducation dans les villages des communes pilotes.</p>		

4-4)Elaborer le manuel de gestion et de maintenance des infrastructures sanitaires publiques (ISP) avec les Directions Régionales du MS et MEBA (à l'aide de ce manuel, établir le système de vérification en matière de gestion des infrastructures sanitaires.

4-5)Les agents chargés de sensibilisation et d'éducation en matière d'hygiène et d'assainissement accordent un soutien à la formation des organisations villageoises faisant la gestion et la maintenance des ISP.

5-1)Chaque DPAHRH établit une liste des éléments nécessitant les informations concernant l'approvisionnement en eau et l'état d'amélioration en matière d'hygiène et d'assainissement ainsi qu'un formulaire afin de remplir ces données.

5-2)Les communes faisant l'objet du Projet recueillissent les informations concernant l'approvisionnement en eau et l'état d'amélioration en matière d'hygiène et d'assainissement de la part des AUE et les transmettent à la DPAHRH.

5-3)Chaque DPAHRH établit le système d'appui auprès des organismes concernés qui fournissent les informations fur le plan technique ou envoient des techniciens.



## Liste des experts japonais envoyés du Japon

## (PROGEA/PCL)

	Charge	Nom et Prénom	Période d'intervention	H/M *
1 <sup>ère</sup> Année (Août 2009 au Mai 2010)	Chef de l'équipe / Renforcement de Capacité d'Organisation / AEP en milieu rural	ONO Takeshi	01 Août -13 Décembre 2009	7,5
			12 Janvier – 15 Mars 2010	
			12 Avril – 26 Mai 2010	
	Education en hygiène (1)	OHNO Akiko	01 Octobre 2009 – 19 Mai 2010	3,1
	Education en hygiène (2)	SUGIMOTO Kikue	12 Août – 10 Octobre 2009	2,8
			12 Avril – 05 Mai 2010	
	Gestion et Maintenance des IH d'AEP (1)	TAKAMIZAWA Kiyoko	25 Janvier – 23 Février 2010	2,0
25 Avril – 24 Mai 2010				
Gestion et Maintenance des IH d'AEP (2)	SUEHIRO Naoko	24 Novembre – 23 Décembre 2009	1,0	
Coordinateur Administratif	ESASHI Kazuhiro	01 Août – 13 Décembre 2009	2,0	
Total H/M dans la 1 <sup>ère</sup> année				18,4
2 <sup>ème</sup> Année (Août 2009 au Mai 2010)	Chef de l'équipe / Renforcement de Capacité d'Organisation / AEP en milieu rural	ONO Takeshi	01 Août -29 Octobre 2010	7,3
			23 Novembre - 23 Décembre 2010	
			23 Janvier – 01 Mai 2011	
	Education en hygiène (1)	OHNO Akiko	23 Août - 02 Décembre 2010	5,6
			04 Janvier – 01 Mai 2011	
	Gestion et Maintenance des IH d'AEP (1)	TAKAMIZAWA Kiyoko	25 Septembre - 24 Octobre 2010	2,0
			06 Février – 07 Mars 2010	
Gestion et Maintenance des IH d'AEP (2)	SUEHIRO Naoko	26 Février – 12 Mars 2011	1,0	
		31 Mars – 14 Avril 2011		
Coordinateur Administratif / Renforcement de Capacité d'Organisation (2)	TOMIZUKA Takanori	01 Août - 10 Novembre 2010	2,0	
		04 Janvier – 02 Février 2011		
		20 Mars – 30 Avril 2011		
Total H/M dans la 2 <sup>ème</sup> année				17,9
Total H/M dans les 1 <sup>ère</sup> et 2 <sup>ème</sup> année				36,3

H/M \* : Hommes/mois

## Annexe-6.b

### Liste des homologues et ceux qui ont reçu le stage au Japon

#### Directions Centrales du Ministère de l'Agriculture et de l'Hydraulique (MAH)

Direction	Nom et Prénom	Poste
Direction Générale des Ressources en Eau (DGRE)	Mr. THANOU Ousséini	Directeur Général (DGRE)
Direction Générale des Ressources en Eau (DGRE) / Direction de l'Approvisionnement en Eau Potable (DAEP)	Mr. BINGBOURE Jean-Mathieu	Directeur (DAEP)
Direction Générale de l'Assainissement, des Eaux Usées et Excrétas (DGAEUE)	Mrs. SONDO Denis Marie	Directrice Générale (DGAEUE)
Direction Générale de l'Assainissement, des Eaux Usées et Excrétas (DGAEUE) / Direction de Développement des Technologies et Ouvrages d'Assainissement (DDTOA)	Mrs. OUEDRAOGO Josephine	Directrice (DDTOA)
Direction Générale de l'Assainissement, des Eaux Usées et Excrétas (DGAEUE) / Direction de la Lutte contre les Pollutions Eaux et Liquides Dangereux (DL/PELD)	Mr. PALENFO Fousséni	Directeur (DL/PELD)

#### Direction Régionale de l'Agriculture et de l'Hydraulique du Plateau Central (DRAH/PCL)

	Nom et Prénom	Poste
Direction Régionale du Plateau Central (DRAH/PCL) : Unité de Coordination du Projet	Mrs. TAPSOBA Gisèle	Directrice Régionale (DRAH/PCL)
	Mr. NIKIEMA Barnaby	Service des Ressources en Eau (SRE)
	Mrs. TRAORE Denise	Service des Ressources en Eau (SRE)
	Mr. GNANKINI Moctar	Service des Ressources en Eau (SRE)
	Mrs. CARABIRI Rokiatou	Service des Ressources en Eau (SRE)
Direction Provinciale d' Oubritenga (DPAH/OTG)	Mr. ILBOUDO P. Barthélemy	Directeur Provincial (DPAH/OTG)
	Mr. TENSABA Amadou François	Service des Ressources en Eau (SRE)
	Mr. SAGNA Idrissa	Chef ZAT / Dapélogo
	Mr. ZONGO R. Richard	Chef ZAT / Absouya
	Mr. OUATTARA Mori	Chef ZAT / Nagreongo
	Mr. MINOUNGOU Drissa	Chef ZAT / Loumbila
	SAMTOUMA B. Stranilas	Chef ZAT / Ourgou-Manéga
	Mr. ZOUNDOU Jean-Paul	Chef ZAT / Zitenga
	Mr. NIKIEMA Etienne	Chef ZAT / Ziniaré
Direction Provinciale du Kourwéogo (DPAH/KWG)	Mr. NAKOULMA Boukaré	Directeur Provincial (DPAH/KWG)
	Mr. LAMIEN Banou	Service des Ressources en Eau (SRE)
	Mr. SANON Lucien	Chef ZAT / Toéghin
Direction Provinciale du Ganzourgou (DPAH/GNZ)	Mr. OUEDRAOGO Eugène	Directeur Provincial (DPAH/GNZ)
	Mr. OUEDRAOGO Alaye	Service des Ressources en Eau (SRE)
	Mrs. ILBOUDO Martine	Chef ZAT / Zorgho

Autres Directions Régionales du Plateau Central concernées

Direction Régionale de la Santé du Plateau Central (DRS/PCL)	Mr. COMPAORE Mathurin	Chef de Service Sanitaire et Assainissement
Direction Régionale de l'Enseignement de Base et de l'Alphabétisation du Plateau Central (DREBA/PCL)	Mr. DIABOUGA Yabré Joseph	Point Focal

**Liste des homologues nationaux du projet formés en stage au Japon**

Intitulé du stage	Nom et prénom / Poste	Période du stage
Stage du Japon « Gestion de l'Approvisionnement en eau potable et de l'Assainissement » (Burkina Faso) 2009 : PROGEA/PCL	Mme.OUEDRAOGO Joséphine Directrice de Développement des Technologies et Ouvrages d'Assainissement (DDTOA), Direction DGAEUE, MAH	25/01/2010 à 14/02/2010 (21 Jours)
	Mme.LOMPO Joanna Marie Delphine Chef de Service des Ressources en Eau et des Ressources Halieutiques (SREH), DRAH/PCL, MAH	
Stage du Japon (Autorités) « Gestion de l'Approvisionnement en eau potable et de l'Assainissement » (Burkina Faso) 2009 : PROGEA/PCL	M. COMPAORE Adama Secrétaire Général, MAH	29/01/2010 à 06/02/2010 (9 jours)
	M. OUEDRAOGO M. Robert Directeur Général de la Production Végétale, MAH	
« Gestion de l'Approvisionnement en eau potable et de l'Assainissement » (Burkina Faso) 2010 : PROGEA/PCL	M.BINGBOURE Jean Mathieu Directeur de l'Approvisionnement en Eau Potable (DAEP), Direction Générale des Ressources en Eau (DGRE), MAH	09/01/2011 à 22/01/2011 (14 jours)
	Mme TAPSOBA Gisèle Directrice Régionale de l'Agriculture, de l'Hydraulique, des Ressources Halieutiques du Plateau Central (DRAH/PCL) (Elle est en même temps la Coordinatrice Nationale du PROGEA/PCL), MAH	
	M. MAIGA Moussa Directeur des Etudes et de la Planification (DEP), MAH	
	M. PALENFO Fousséni Directeur de la Lutte contre les Pollutions Eaux et Liquides Dangereux (DL/PELD), Direction Générale de l'Assainissement, des Eaux Usées et Excrétas (DGAEUE), MAH	
	M. NAKOULMA Boukaré Directeur Provincial de l'Agriculture, de l'Hydraulique, des Ressources Halieutiques du Kourwéogo (DPAH/KWG)	

## Liste des équipements fournis par la partie japonaise

(PROGEA/PCL)

N°	Équipement	Q'té	Destination	Fournisseur	État
1	Ordinateur de bureau (HP COMPAQ) + Onduleur (Mercury)	2	Bureau du PROGEA	BESSEL	Installés, en bon état
		2	DRAH/PCL	BESSEL	Installés, en bon état
		1	DPAH/OTG	BESSEL	Installé, en bon état
		1	DPAH/KWG	BESSEL	Non installé*
		1	DPAH/GNZ	BESSEL	Installés, en bon état
		1	DGRE/DAEP	BESSEL	Installés, en bon état
2	Ordinateur portable (TOSHIBA)	1	DRAH/PCL	BESSEL	Installé, en bon état
3	Imprimante couleur à laser (HP Laserjet couleur 4650 A3)	1	Bureau du PROGEA	BESSEL	Installé, en bon état
		1	DRAH/PCL	BESSEL	Installé, en bon état
		1	DGRE/DAEP	BESSEL	Installé, en bon état
4	Imprimante noir-blanc à laser (HP Laserjet P 2015)	2	DRAH/PCL	BESSEL	Installés, en bon état
		1	DPAH/OTG	BESSEL	Installé, en bon état
		1	DPAH/KWG	BESSEL	Non installé *
		1	DPAH/GNZ	BESSEL	Installé, en bon état
5	Photocopieuse (Canon IR 2016)	1	DRAH/PCL	BESSEL	Installé, en bon état
6	Projecteur (EPSON EB-X6)	1	DRAH/PCL	BESSEL	Installé, en bon état
7	Moto (YAMAHA YBR 125)	9	9 communes (ZAT)	CFAO Burkina	Installés, en bon état

Note \* : Étant donné que les travaux d'alimentation en électricité ne sont pas achevés à la DPAH/KWG, un ordinateur du bureau et une imprimante noir-blanc destinés à ladite direction ne sont pas encore installés.

## Annexe-6.d

### Frais locaux couverts par la partie burkinabè et la partie japonaise

#### 1. Partie Japonaise (1<sup>ère</sup> et 2<sup>ème</sup> année : d'Août 2009 au Mai 2011)

Désignation	Montant (1 <sup>ère</sup> année, JPY)	Montant (2 <sup>ème</sup> année, JPY)	TOTAL (1 <sup>ère</sup> et 2 <sup>ème</sup> année, JPY)
Personnels	3 030 058	2 756 221	5 786 279
Entretien et Maintenance des équipements du projet	426 423	440 488	866 911
Fonctionnement et Consommables	1 490 426	1 418 445	2 908 871
Frais de Mission	627 288	1 842 035	2 469 323
Frais de Communication	97 449	156 085	253 534
Elaboration des Documents, Manuels et Supports	727 958	2 321 474	3 049 432
Location des Véhicules	1 093 635	225 480	1 319 115
Formations	546 607	4 284 812	4 831 419
Divers	56 989	50 630	107 619
Equipements et Matériels	4 248 460	183 000	4 431 460
Rapports	300 000	620 000	920 000
Prestation de Service	11 942 426	29 753 894	41 696 320
Cadre de Coordination (Comité de Pilotage)	24 120	46 342	70 462
<b>TOTAL (JPY)</b>	<b>24 611 839</b>	<b>44 098 906</b>	<b>68 710 745</b>

#### Experts Japonais

Charge	1 <sup>ère</sup> année (H/M)	2 <sup>ème</sup> année (H/M)	TOTAL
Chef de l'équipe / Renforcement de Capacité d'Organisation / AEP en milieu rural	7,5	7,3	14,8
Education en hygiène (1)	3,1	5,6	8,7
Education en hygiène (2)	2,8		2,8
Gestion et Maintenance des IH d'AEP (1)	2,0	2,0	4,0
Gestion et Maintenance des IH d'AEP (2)	1,0	1,0	2,0
Coordinateur Administratif	2,0		2,0
Coordinateur Administratif / Renforcement de Capacité d'Organisation (2)	2,0		2,0
	18,4	17,9	36,3

#### Stage au Japon

Intitulé du stage	Nombre	Durée
Stage du Japon « Gestion de l'Approvisionnement en eau potable et de l'Assainissement » (Burkina Faso) 2009 : PROGEA/PCL	2	21 jours
Stage du Japon (Autorités) « Gestion de l'Approvisionnement en eau potable et de l'Assainissement » (Burkina Faso) 2009 : PROGEA/PCL	2	9 jours
« Gestion de l'Approvisionnement en eau potable et de l'Assainissement » (Burkina Faso) 2010 : PROGEA/PCL	5	14 jours

#### 2. Partie Burkinabé (1<sup>ère</sup> et 2<sup>ème</sup> année : Contrepartie Nationale d'Août 2009 au Mai 2011)

Désignation	Montant (2009, FCFA)	Montant (2010, FCFA)	TOTAL (2009 et 2010, FCFA)
Acquisition de fournitures de bureau		4 883 142	4 883 142
Acquisition de consommables informatiques et péri informatiques		3 787 800	3 787 800
Achat de carburant		1 000 000	1 000 000
Entretien et maintenance tout matériel de transport		5 847 667	5 847 667
Charge de personnel		10 800 000	10 800 000
TOTAL (FCFA)		26 318 609	26 318 609

#### Les Homologues Nationaux du PROGEA/PCL

Structures	Poste	Nombre
Direction Régionale de l'Agriculture et de l'Hydraulique du Plateau Central (DRAH/PCL)	Directrice Régionale (Coordinatrice nationale du projet)	1
	Service des Ressources en Eau (Unité de Coordination du projet)	5
Direction Provinciale de l'Agriculture et de l'Hydraulique d'Oubritenga (DPAH/OTG)	Directeur Provincial	1
	Chef du Service des Ressources en Eau	1
	Chefs ZAT	7
	Agents UAT	13
Direction Provinciale de l'Agriculture et de l'Hydraulique du Kourwéogo (DRAH/KWG)	Directeur Provincial	1
	Chef du Service des Ressources en Eau	1
	Chef ZAT	1
	Agent UAT	1
Direction Provinciale de l'Agriculture et de l'Hydraulique du Ganzourgou (DRAH/GNZ)	Directeur Provincial	1
	Chef du Service des Ressources en Eau	1
	Chef ZAT	1
	Agents UAT	2
Direction Générale des Ressources en Eau (DGRE)	Directeur de l'Approvisionnement en Eau Potable (DAEP)	1
Direction Générale de l'Assainissement, des Eaux Usées et Excrétas (DGAEUE)	Directrice de Développement des Technologies et Ouvrages d'Assainissement (DDTOA)	1
	Directeur de la Lutte contre les Pollutions Eaux et Liquides Dangereux (DL/PELD)	1
Direction Régionale de la Santé (DRS /PCL)	Chef de Service Sanitaire et Assainissement (SESA)	1
Direction Régionale de l'Enseignement de Base et de l'Alphabétisation du Plateau Central (DREBA/PCL)	Point Focal	1

## Cadre logique provisoire du Projet (ver.3)

<p><b>(But Global)</b> Dans la région du Plateau Central, l'environnement en matière de santé, d'hygiène et d'assainissement est amélioré</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Le taux de population pouvant se servir durablement de points d'eau améliorés passe de 70% à 80% avant 2015.</li> <li>• Le taux de fonctionnement des infrastructures hydrauliques(IH) passe de 70% à 80% avant 2015</li> <li>• La situation sur l'approvisionnement en eau potable, l'hygiène et l'assainissement des populations est améliorée avant 2015.</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Rapport sur la Réforme du système de gestion des infrastructures hydrauliques</li> <li>• Inventaires de la Direction Générale des Ressources en Eau(DGRE) et de la Direction Générale de l'Assainissement des Eaux Usées et Excrétas (DGAEUE).</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Les points d'eau actuels sont fonctionnels .</li> <li>• La politique en matière de la Réforme de gestion des infrastructures hydrauliques d'approvisionnement en eau potable n'est pas changée.</li> <li>• Le niveau de la capacité des infrastructures hydrauliques ne baisse pas par rapport au celui actuel.</li> <li>• Les Directions Provinciales de l'Agriculture et de l'Hydraulique (DPAH) et les communes assurent le personnel pour la sensibilisation et le</li> </ul>
<p><b>(Objectif du Projet)</b> L'état de gestion et de maintenance des IH et le comportement en matière d'hygiène et d'assainissement des populations sont améliorés dans les communes cibles (toutes les communes de l'Oubritenga et les communes pilotes du Ganzourgou et du Kourwéogo).</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Le taux de fonctionnement des IH dans les 9 communes cibles (toutes les communes de l'Oubritenga et les communes pilotes du Ganzourgou et du Kourwéogo) progresse de 70% à 80%.</li> <li>• Le système de la gestion des IH conformément à la Réforme est mis en place dans les 11 communes supplémentaires (7 communes de la province du Ganzourgou et 4 communes de la province du Kourwéogo).</li> <li>• Le comportement des populations des communes pilotes sur les pratiques en matière de l'approvisionnement en eau potable, d'hygiène et d'assainissement (10 articles) est amélioré au moins 60%.</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Rapports du Projet</li> <li>• Inventaire Nationale des Ouvrages Hydrauliques (INOH)</li> <li>• Fiches du suivi</li> <li>• Rapports du Projet</li> <li>• Fiches du suivi</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Les agents ayant acquis les techniques continuent leur travail.</li> </ul>
<p><b>(Résultats)</b> 0. Les indicateurs du PDM sont définis.</p>			
<p>1. Le système de gestion et de maintenance des IH est établi dans les communes cibles conformément à la Réforme.</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Plus de 90% de agents des ZAT et UAT des communes cibles suivent la formation. Plus de 80% d'eux réussissent au test de confirmation.</li> <li>• Les Associations des Usagers de l'Eau (AUE) sont constituées dans tous les villages des 3 communes pilotes avant la fin de mai 2010.</li> <li>• La convention relative à la gestion et la maintenance des IH est signée entre les 3 communes pilotes et 80% de leurs AUE avant février 2011.</li> <li>• Les AUE des communes de l'Oubritenga excepté la commune pilote sont constituées avant juin 2011.</li> <li>• La convention relative à la gestion et la maintenance des IH est signée entre les communes de l'Oubritenga excepté la commune pilote et 80% de leurs AUE avant février 2012.</li> <li>• Les Associations des Usagers de l'Eau (AUE) sont constituées dans tous les villages des 11 communes supplémentaires avant la fin de mai 2012.</li> <li>• La convention relative à la gestion et la maintenance des IH est signée entre les communes supplémentaires et les AUE avant décembre 2012.</li> <li>• Le contrat relatif à la maintenance et aux tournées de suivi des IH est passé entre les communes cibles et 80% de leurs maintenanciers avant février 2013.</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Rapports de la formation</li> <li>• Récépissés de la reconnaissance des AUE</li> <li>• Conventions de délégation de gestion des infrastructures hydrauliques d'AEP entre les communes et les AUE</li> <li>• Récépissés de la reconnaissance des AUE</li> <li>• Conventions de délégation de gestion des infrastructures hydrauliques d'AEP entre les communes et les AUE</li> <li>• Récépissés de la reconnaissance des AUE</li> <li>• Conventions de délégation de gestion des infrastructures hydrauliques d'AEP entre les communes et les AUE</li> <li>• Contrat de suivi et d'entretien préventif des IH entre la commune et les maintenanciers</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Les agents ayant acquis les techniques continuent leur travail.</li> <li>• Les agents ayant suivi la formation sont impliqués continuellement dans les actions du Projet.</li> <li>• Les compétences et les ressources de l'Etat dans le domaine de l'approvisionnement en eau potable et de l'assainissement sont transférés aux communes.</li> </ul>

<p>2. Les capacités des organisations villageoises dans la gestion et la maintenance des IH sont renforcées.</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Plus de 70% des AUE des communes pilotes arrivent à payer la redevance aux communes et plus de 70% des gestionnaires parviennent à effectuer le recouvrement à 70% avant la fin de novembre 2011.</li> <li>• Plus de 70% des AUE des communes cibles de l'Oubritenga arrivent à payer la redevance aux communes et plus de 70% des gestionnaires parviennent à effectuer le recouvrement à 70% avant la fin de projet.</li> <li>• Plus de 70% des AUE des communes supplémentaires démarrent leurs activités telles que le recouvrement de frais d'eau et la gestion financière avant la fin de projet.</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Rapport sur les actions mises en place dans le Projet</li> <li>• Enquête auprès des vulgarisateurs ayant suivi la formation TOT.</li> <li>• Rapport sur le suivi-évaluation</li> <li>• Rapports des activités des AUE soumis aux communes</li> </ul>	
<p>3. En ce qui concerne la gestion et la maintenance des IH, le système d'approvisionnement en pièces détachées et celui de réparation sont améliorés.</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Les maintenanciers arrivent à répondre à plus de 60% des besoins de maintenance et de tournées de suivi demandés par les communes avant octobre 2012.</li> <li>• Toutes les 20 communes de la région du Plateau Central possèdent les informations nécessaires pour le remplacement de pièces détachées (magasins, procédure de commande, etc.)</li> <li>• Le délai de réparations simple est réduit à moins d'un mois.</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Rapports sur le suivi-évaluation</li> <li>• Rapports sur le suivi-évaluation</li> <li>• Rapports des maintenanciers soumis aux communes</li> </ul>	
<p>4. Dans les 3 communes cibles du Plateau Central, le comportement en matière d'hygiène et d'assainissement des populations sont améliorés.</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Le programme et les manuels de la sensibilisation et de l'éducation en matière de l'amélioration d'hygiène et d'assainissement sont élaborés</li> <li>• Dans les villages des 3 communes pilotes, plus de 600 agents s'occupant du programme de promotion de l'hygiène et de l'assainissement ou celui de l'enseignement (enseignants, agents du centre de santé, agents chargés de l'hygiène et de l'assainissement aux services techniques, animateurs villageois) sont formés.</li> <li>• Dans les villages des 3 communes pilotes, les activités de sensibilisation sont mises en œuvre au moins 6 fois par an par les agents s'occupant du programme de promotion de l'hygiène et de l'assainissement ou celui de l'enseignement.</li> <li>• Le guide pour le monitoring des activités en hygiène et l'entretien des infrastructures sanitaires est élaboré et le système de gestion des infrastructures sanitaires publiques est mis en place.</li> <li>• Sur la base du guide pour le monitoring des activités en hygiène et l'entretien des infrastructures sanitaires, le suivi-évaluation sur la gestion des infrastructures sanitaires et le comportement en matière d'hygiène et d'assainissement est mené dans chaque site au moins 2 fois par an.</li> <li>• Les infrastructures sanitaires publiques sont gérées par les populations.</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Rapports du projet</li> <li>• Manuels et outils élaborés</li> <li>• Rapports de la formation</li> <li>• Fiches du suivi</li> <li>• Guide élaboré</li> <li>• Fiches du suivi</li> <li>• Rapports du projet</li> <li>• Fiches du suivi</li> </ul>	
<p>5. Chaque Direction Provinciale de l'Agriculture et de Hydraulique (DPAH) arrive à : effectuer le suivi-évaluation de l'état d'approvisionnement en eau, d'hygiène, et d'assainissement : accorder des appui-conseils aux communes.</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Le suivi-évaluation sur les éléments suivants sont effectués 2 fois par an par chaque DPAHRH à partir de 2010 : le taux de fonctionnement des IH, l'état financier des AUE, le taux de recouvrement par les gestionnaires, l'état de maintenance et de gestion des IH par les maintenanciers.</li> <li>• Le suivi-évaluation sur l'état d'hygiène et d'assainissement est effectué 2 fois par an par chaque DPAH à partir de 2010.</li> <li>• A la suite du suivi-évaluation, 70% d'appui-conseils nécessaires sont accordés suivant les moyens de chaque DPAH.</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Rapports du projet</li> <li>• Fiches du suivi</li> <li>• Rapports du projet</li> <li>• Fiches du suivi</li> <li>• Rapports du projet</li> <li>• Fiches du suivi</li> </ul>	

(Activité)	(Intrants)	
<p>0-1)Effectuer l'étude préliminaire pour confirmer le taux d'accès à l'eau., celui de fonctionnement des IH, celui de couverture des infrastructures sanitaires(IS) et l'état de préparation de manuels au commencement du projet dans les 3 provinces cibles.</p> <p>1-1)En tenant compte du résultat de l'étude mentionnée à 0-1), la Direction Régionale de l'Agriculture et de l'Hydraulique du Plateau Central (DRAH/PCL) planifie la formation des agents des ZAT et UAT.</p> <p>1-2)En se basant sur le planning de formation, réviser les manuels existants en cas de besoin.</p> <p>1-3)La DPAH organise la formation pour le renforcement des capacités de gestion et de maintenance des IH auprès des agents des ZAT et UAT qui travaillent dans les 3 provinces.</p> <p>1-4)La DPAH effectue le test de confirmation de la formation auprès des agents des ZAT et UAT.</p> <p>1-5)Sélectionner une commune pilote par province.</p> <p>1-6)Les agents des ZAT et UAT, etc. appuient la sensibilisation sur les principes de gestion et de maintenance des IH.</p> <p>1-7)Les agents des ZAT et UAT, etc. des communes pilotes appuient la constitution des AUE.</p> <p>1-8)Dans les communes pilotes, les agents des ZAT et UAT, etc. favorisent la signature de la convention entre les communes et les AUE ainsi que la conclusion du contrat entre les communes et les maintenanciers.</p> <p>1-9)Dans les communes de l'Oubritenga excepté la commune pilote, les agents des ZAT et UAT, etc. appuient la constitution des AUE.</p> <p>1-10)Dans les communes de l'Oubritenga excepté la commune pilote, les agents des ZAT et UAT, etc. favorisent la signature de la convention entre les communes et les AUE ainsi que la conclusion du contrat entre les communes et les maintenanciers.</p> <p>1-11)Les agents des ZAT et UAT, etc. des communes supplémentaires appuient la constitution des AUE.</p> <p>1-12)Dans les communes supplémentaires pilote, les agents des ZAT et UAT, etc. favorisent la signature de la convention entre les communes et les AUE ainsi que la conclusion du contrat entre les communes et les maintenanciers.</p>	<p>Partie japonaise</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>· Envoi d'experts</li> <li>1. Conseiller en chef (renforcement des capacités d'organisation / approvisionnement en eau potable dans les zones rurales)</li> <li>2. Expert en génie sanitaire</li> <li>3. Expert en gestion et maintenance des infrastructures hydrauliques d'AEP</li> <li>· Contrats avec des bureaux d'étude locaux ou des ONG (activités pour accélérer la formation des organisations villageoises en collaboration avec les agents ZAT et UAT).</li> <li>· Fourniture d'équipements: véhicules, motocycles, équipements informatiques etc.</li> <li>· Frais nécessaires aux activités: l'étude préliminaire, la constitution des AUE, la</li> </ul>	<p>Partie burkinabé</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Mise à disposition du personnel homologue (salaires et indemnités)</li> <li>2. Affectation du personnel d'appui (secrétaire, comptable, chauffeur, gardien, etc.)</li> <li>3. Locaux pour le bureau des experts et des agents pour le Projet, l'électricité, le gaz, et l'eau courant.</li> <li>4. Fourniture de documents et d'information</li> <li>5. Une partie de matériels nécessaires à l'aménagement des installations sanitaires.</li> </ol>
<p>2-1)Les agents des ZAT et UAT, etc. des communes pilotes appuient la gestion de comptabilité et de finances auprès des AUE et le recouvrement auprès des gestionnaires.</p>		
<p>2-2)Les agents des ZAT et UAT, etc. des communes autres que les communes pilotes appuient la gestion de comptabilité et de finances auprès des AUE et le recouvrement auprès des gestionnaires.</p>		
<p>2-3)Les agents des ZAT et UAT, etc. des communes autres que les communes supplémentaires appuient la gestion de comptabilité et de finances auprès des AUE et le recouvrement auprès des gestionnaires.</p>		
<p>3-1)Chaque DPAH fait l'état des lieux des magasins de pièces détachées de pompes par modèle ainsi que leur stock. Et elle relève des problèmes en matière d'approvisionnement en pièces détachées.</p>		
<p>3-2)Sur la base des mesures d'amélioration contre les problèmes d'approvisionnement en pièces détachées, chaque DPAH fait le point des informations et des procédures nécessaires pour l'achat de pièces et les diffuse à toutes les communes.</p>		
<p>3-3)Chaque DPAH organise la formation de réparation de pompes auprès des maintenanciers.</p>		
<p>4-1)La DGAEUE du MAH élabore, en collaboration avec les Directions Régionales du Ministère de la Santé (MS) et du Ministère de l'Education Nationale et de l'Alphabétisation (MENA), le programme et les outils de sensibilisation et d'éducation en matière de promotion de l'hygiène et de l'assainissement en se référant au programme ou au système existants.</p>		
<p>4-2)Les Directions Régionales du MS et du MENA organisent la formation en se basant sur les outils élaborés et mentionnés au 4-1) auprès des agents chargés de la sensibilisation et de l'éducation en matière d'hygiène et d'assainissement (enseignants, agents des centres de santé, agents chargés d'hygiène et d'assainissement aux services techniques et animateurs villageois) dans les communes pilotes.</p>		

4-3) Les agents chargés de la sensibilisation et de l'éducation en matière d'hygiène et d'assainissement mettent en œuvre le programme de sensibilisation et d'éducation dans les villages des communes pilotes.

4-4) Elaborer le manuel de gestion et de maintenance des infrastructures sanitaires publiques (ISP) avec les Directions Régionales du MS et MENA (à l'aide de ce manuel, établir le système de vérification en matière de gestion des infrastructures sanitaires).

4-5) Les agents chargés de sensibilisation et d'éducation en matière d'hygiène et d'assainissement accordent un soutien à la formation des organisations villageoises faisant la gestion et la maintenance des ISP.

5-1) Chaque DPAH établit une liste des éléments nécessitant les informations concernant l'approvisionnement en eau et l'état d'amélioration en matière d'hygiène et d'assainissement ainsi qu'un formulaire afin de remplir ces données.

5-2) Les communes faisant l'objet du Projet recueillissent les informations concernant l'approvisionnement en eau et l'état d'amélioration en matière d'hygiène et d'assainissement de la part des AUE et les transmettent à la DPAH.

5-3) Chaque DPAH établit le système d'appui auprès des organismes concernés qui fournissent les informations sur le plan technique ou envoient des techniciens.



中間レビュー調査団ミニッツ（和訳）

ブルキナファソ国

中央プラトー地方給水施設管理・衛生改善プロジェクト

中間レビューに関する

国際協力機構（JICA）中間レビュー調査団とブルキナファソ政府農業・水利省

の協議議事録

ワガドゥグ、2011年9月29日

---

M. Junji WAKUI  
Leader,  
Mid-Term Review Team,  
Agence Japonaise de Coopération International  
Japan

---

M. Adama COMPAORE  
Secrétaire Général  
Ministere de L'Agriculture et de L'Hydraulique  
Burkina Faso

ブルキナファソ政府と国際協力機構（JICA と略す）は、合同で、「中央プラトー地方給水施設管理・衛生改善プロジェクト」と称する技術協力プロジェクト（プロジェクトと略す）の合同中間レビュー調査団（調査団と略す）を組織した。この調査団は、カルフォ・サンパナ氏と涌井純二氏を団長とする。調査団は、プロジェクトの活動と到達点について集中的に調査と分析を行い、ここに添付する合同中間レビュー報告書（報告書と略す）を作成した。また、報告書を 2011 年 9 月 28 日に開催された合同調整委員会（JCC）で報告した。

報告書で指摘された主要な点（後述）につき協議の結果、JCC は報告書を承認しその提言について理解した。日本側とブルキナファソ側の代表者は、今後のプロジェクトの円滑で問題のない実施のため、それぞれの関連機関に対し、必要な措置が取られるように報告書で指摘されている内容を報告することで合意した。

1. 調査団は添付の報告書に基づき、中間レビューの結果を以下のようにまとめた。

(1) レビュー結果全体概要

1 年次、2 年次に計画された各活動は順調に進んでおり、給水施設の稼働率の改善に関するプロジェクト目標の達成見込みは非常に高い。一方、プロジェクトの持続性については課題となっている。

(2) 評価 5 項目による結果

- 妥当性：High
- 有効性：High
- 効率性：Relatively high
- インパクト：Moderate
- 持続性：Moderate

2. 調査団の提言は以下の通りである。

(1) 衛生行動改善のための活動について

衛生啓発・教育プログラムの持続性の確保に向けて、調査団は衛生啓発活動を確保するべく以下の可能性につき検討することを提言した。

- ・コミュニケーション及び/又は AUE の資金の活用
- ・ MENA (国民教育省) が展開している学校管理委員会 (COGES) との連携

(2) 中央プラトー地方での対象コミュニティの拡大について

調査団は、給水施設維持管理体制に関するプロジェクト対象コミュニティと対象外コミュニティとの間の不均衡や県レベルで実施しているハンドポンプ修理体制の適用や普及の困難さを確認した。このようなコミュニティ間の不均衡を軽減するため、

地方におけるプロジェクトの成果を確実なものとするためにもプロジェクトの活動を 11 コミューンに拡大する必要がある。

それに伴い、日本側は、9 コミューンに行った投入と同じ投入を 11 コミューンに対して行う。その結果、日本側はブルキナファソ側に補完的資源を投入するよう提案する。

(3) プロジェクト終了後の持続性の確保について

モニタリング活動やリフォームの促進、衛生行動改善への取り組みの継続のため、ブルキナファソ国家予算から活動の資金を出すことが提言される。そのため、2013 以後、予算措置をしなければならない。

以上

添付資料：合同中間レビュー報告書

**合同中間レビュー報告書**

**中央プラトー地方給水施設管理・衛生改善プロジェクト**

**国際協力機構  
ブルキナファソ政府農業・水利省**

**2011年9月**

## 目 次

1. 序論
    - 1-1 中間レビューの目的
    - 1-2 合同レビュー調査団の団員構成
    - 1-3 調査スケジュール
  2. プロジェクトの概要
    - 2-1 プロジェクトの背景・経緯
    - 2-2 プロジェクトの要約
  3. レビューの手法
    - 3-1 レビューのフレームワーク
    - 3-2 レビューの実施体制
    - 3-3 レビューの実施方法
  4. 実績の確認
    - 4-1 実績の確認
      - 4-1-1 投入実績
        - 4-1-1-1 ブルキナファソ側投入実績
        - 4-1-1-2 日本側投入実績
      - 4-1-2 活動実績
      - 4-1-3 成果達成状況
      - 4-1-4 プロジェクト目標達成状況（見込み）
      - 4-1-5 上位目標達成状況（見込み）
      - 4-1-6 プロジェクトの実施プロセスの検証
  5. レビュー結果
    - 5-1 レビュー結果
      - 5-1-1 DAC5 項目によるレビュー
      - 5-1-2 阻害・貢献要因
    - 5-2 結論（レビュー結果総括）
  6. 提言
- 添付資料
- Annex-1...調査団日程表（省略）
  - Annex-2...面談者リスト（省略）
  - Annex-3...評価グリッド（省略）
  - Annex-4...PDM ver.2
  - Annex-5...PO ver.1
  - Annex-6...プロジェクトの投入実績
    - a. 日本人専門家投入実績リスト

- b. カウンターパートおよび国別研修参加者リスト
- c. 日本側の供与機材・携行機材リスト
- d. 活動実施に係る投入

Annex-7 PDM 案 ver.3

Annex-8 PO 案 ver.2

## 第1章 序論

### 1-1 中間レビューの目的

中間レビュー（レビューと略す）は以下の4つを目的とする。

- 1) プロジェクトの進捗をレビューし、プロジェクトの到達点を評価5項目（妥当性、有効性、効率性、インパクト、持続性）に基づき評価する。
- 2) プロジェクト実施の促進要因および阻害要因を特定し、レビュー結果に基づきプロジェクトに提言を行う。
- 3) プロジェクト・デザイン・マトリックス (PDM) と活動計画 (PO)を必要に応じ改訂する。
- 4) 2013年のプロジェクト終了に向けて、プロジェクト目標の達成と円滑なプロジェクト運営のために必要な取り組みを協議する。

### 1-2 合同レビュー調査団の団員構成

レビューとプロジェクトへの提言は、合同レビュー調査団（調査団と略す）の以下の団員により実施された。

<ブルキナファソ側>

- 1) カルフォ・サンパナ（総括） 農業・水利省調査計画局（MAH -DEP）
- 2) ナボン・アブドゥラエ 農業・水利省調査計画局（MAH -DEP）

<日本側>

- 1) 涌井純二（総括） JICA 地球環境部水資源第二課 課長
- 2) 深林真理（協力企画） JICA 地球環境部水資源第二課
- 3) 井ノロー善（評価分析） 三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング
- 4) 安土和夫（通訳） 日本国際協力システム（JICE）

### 1-3 調査スケジュール

添付資料 - 1 参照。

## 第2章 プロジェクトの概要

### 2-1 プロジェクトの背景・経緯

ブルキナファソ政府からの要請を受け、日本政府は2009年に国際協力機構（JICA）の実施による技術協力プロジェクト「中央プラトー地方給水施設管理・衛生改善プロジェクト（PROGEA/PCL）」（プロジェクトと略す）を開始した。

ブルキナファソ政府は、2003年6月に貧困削減戦略文書（PRSP）を策定した。水と衛生はPRSPの「貧困層の基礎的サービスへのアクセスの向上」に則した重点分野のひとつとされている。実際、2004年の統計では、持続的に安全な水にアクセスできる人口は全人口の61%であり、基礎的な衛生設備はわずか13%に過ぎなかった。状況は地方部で特に深刻である。この状況を改善するため、ブルキナファソ政府は2006年に「国家給水衛生計画（PN-AEPA）」を策定し、2015年までに安全な水と基礎的な衛生にアクセスできない人口の割合を半減することを目指している。

プロジェクトは、ブルキナファソの **Reforme** 政策に則し、行政機関・コミュニティの給水施設の維持管理と衛生の向上に関する能力開発を通して、中央プラトー地方の保健・衛生環境を改善することを目的として開始された。プロジェクト期間も半分が過ぎた機会をとらえ、ブルキナファソ政府と合同でプロジェクトの進捗と到達点を確認するために、JICAは中間レビュー調査団を派遣した次第である。

### 2-2 プロジェクトの要約

実施機関	農業・水利省（MAH） ・水資源総局（DGRE） ・衛生・汚水・廃棄物総局（DGAEUE） ・中央プラトー地方局（DRAH/PCL）
R/D 署名日	2009年3月30日
協力期間	2009年6月～2013年6月（4年間）
上位目標	中央プラトー地方における保健・衛生環境が改善される。
プロジェクト目標	対象コミュニティ（ウブリテンガ県全コミュニティ、ガンズルグ県とクルウェオゴ県のパイロットコミュニティ）の給水施設の維持管理状況及び住民の衛生行動が改善される。
成果	1. 対象コミュニティで維持管理システムの改革に則った組織体制が整う。 2. 村落組織の給水施設運営維持管理能力が強化される。 3. 給水施設運営維持管理にかかるスペアパーツ供給及び修理体制が改善される。 4. 中央プラトー地方のパイロット3コミュニティにおける村落住民の衛生行動が改善される。 5. 各県の DPAHRH が給水及び衛生状況のモニタリング・評価を実施し、コミュニティに対し支援が行えるようになる。

## 第3章 レビューの方法

### 3-1 レビューのフレームワーク

本レビュー調査は、JICA「新 JICA 事業評価ガイドライン 第1版」に基づき実施した。レビューの対象とするプロジェクトの基本計画は、PDM 第2版（2009年10月1日付）（ANNEX 4 参照）とし、Project Cycle Management (PCM) 手法を用いて本プロジェクトのレビューを行った。

レビューの基本計画としてレビュー項目および各レビュー項目に対する設問、収集する情報・データ等を取りまとめ、評価グリッドを作成した。レビュー項目は、「プロジェクトの実績」、「プロジェクトの実施プロセス」、「レビュー5項目」であり、詳細なレビュー項目は評価グリッド（ANNEX 3）を参照されたい。「レビュー5項目」は、経済協力開発機構開発援助委員会（Development Assistance Committee : DAC）が定めるレビュー5項目「妥当性」「有効性」「効率性」「インパクト」「持続性」を用いた（下表参照）。

レビュー5項目

項目	内容・評価の視点
妥当性	レビュー時点においても、プロジェクト目標、上位目標が妥当であるかどうかを、ブルキナファソ政府の政策、裨益者のニーズ、日本の援助政策との整合性の観点から検討する。
有効性	プロジェクトのアウトプットの達成の度合い、及びアウトプットがプロジェクト目標の達成度にどの程度結びついているかを検討する。
効率性	プロジェクトの投入から生み出される成果の程度は、タイミング、質、量の観点から妥当であったかどうかを分析する。
インパクト	プロジェクトが実施されたことにより生じる波及効果の正・負の効果を、当初予期しなかった効果も含め検討する。
持続性	協力終了後、プロジェクトによってもたらされた成果や効果が持続されるか、あるいは拡大されていく可能性があるかどうかを予想するために、制度的（政策的）側面、財政的側面、技術的側面からプロジェクトの持続性を見込みを考察する。

### 3-2 レビュー実施体制

レビュー実施にあたって、ブルキナファソ側、日本側双方で構成される合同レビュー委員会を設置した。合同レビュー委員は、現地において聞き取りを中心とする情報収集作業を合同で行ったほか、合同レビューレポートに関する協議に参加し、合同レビュー報告書（案）を作成し、MAH 次官及び合同調整委員会メンバーに説明し了解を得た。

### 3-3 レビュー実施方法

評価グリッドに基づいて以下の情報・データを収集し、レビュー分析を行った。

## (1) 文献・既存資料調査

レビューした主な資料は以下の通り。

### 政策文書等

- ・ 飲料水・衛生供給国家計画 (PN-AEPA)
- ・ 村落・準都市部の飲料水供給水利施設の管理システム改革方針 (大統領令第 514 号)

### プロジェクト情報

- ・ PDM, PO
- ・ ブルキナファソ国中央プラトー地方給水施設管理・衛生改善プロジェクト中間報告書
- ・ ブルキナファソ国中央プラトー地方給水施設管理・衛生改善プロジェクト月例報告 (2011 年 8 月)
- ・ 日本人専門家作成プロGRESS・レポート
- ・ 第 2 回合同調整委員会報告書
- ・ 第 3 回合同調整委員会報告書
- ・ ブルキナファソ側の評価報告書 (Rapport d'évaluation de la partie burkinabè)

## (2) インタビュー調査

資料レビューに加え、本プロジェクト関係者へのインタビュー調査を実施した。事前にカウンターパート機関である、農業・水利省、農業・水利省中央プラトー地方局、実際にプロジェクト活動を展開しているコミューン、(設立された) AUE、ZAT/UAT 及びポンプ修理工、プロジェクトに従事する日本人専門家、ローカルコンサルタントを対象に質問票を作成し配布の上 (配布質問票数 300)、それを基にインタビュー調査を実施した。また、給水・衛生分野で活動する UNICEF 及びドイツ国際技術協力機関 (GIZ)、ブルキナファソ国学校運営委員会支援プロジェクト (PACOGES) 日本人専門家、青年海外協力隊隊員 (水の防衛隊) に対しても聞き取り調査を行った。

## 第4章 実績の確認

### 4-1 実績の確認

#### 4-1-1 投入実績

日本側、ブルキナファソ側双方の投入はほぼ計画通り実施され、成果の発現に貢献している。ただし、2009年度のブルキナファソ側のカウンターパート予算について執行が行われなかった。これは予算要求時（2008年）にプロジェクト R/D が未締結だったために予算要求できなかった事に起因している。

#### 4-1-1-1 ブルキナファソ側投入実績

協力合意書（R/D）に記されているブルキナファソ側の投入は以下の通り。

- ✓ カウンターパートの配置
- ✓ 補助的人材（秘書、経理、ドライバー、ガードマン）等の雇用
- ✓ 日本人専門家の為の事務所スペース及び光熱費
- ✓ 資料・情報の提供
- ✓ 衛生設備に必要な一部資材

PDM で計画された投入に対する双方の実績は下表のとおり。投入実績の詳細は付属資料（ANNEX 6）を参照のこと。ブルキナファソ側投入に関して、合意通りに履行されていることが確認された。

#### ブルキナファソ側投入実績

投入要素	実績										
カウンターパートの配置	カウンターパート：47名 中央レベル(MAH): 5名 中央プラトー地方局: 42名										
ローカルコスト負担	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2009年度は予算執行されず。</li> <li>・ブルキナファソ側投入額: 計 19,470,942FCFA</li> </ul> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>金額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人件費（手当て等）</td> <td>10,800,000</td> </tr> <tr> <td>事務用機器</td> <td>4,883,142</td> </tr> <tr> <td>情報機器</td> <td>3,787,800</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>19,470,942</td> </tr> </tbody> </table>	項目	金額	人件費（手当て等）	10,800,000	事務用機器	4,883,142	情報機器	3,787,800	合計	19,470,942
項目	金額										
人件費（手当て等）	10,800,000										
事務用機器	4,883,142										
情報機器	3,787,800										
合計	19,470,942										
日本人専門家の為の事務所スペース及び光熱費	DGEUE（ワガドゥグ）及び DRAH/PCL 事務所（ジニアレ）内にプロジェクトオフィスが設置され、光熱費等がブルキナファソ側の予算から支払われている。										
補助的人材（秘書、経理、ドライバー、ガードマン）等の雇用	2009年に予算執行されなかったことから、補助的人材に関する人件費も執行されなかった。補助的人材に関しては日本側負担で雇用。										
資料・情報の提供	給水施設インベントリーデータベース（INOH）や人口統計データ、リフォームに関する各種ドキュメント、既存の衛生教育マニュアル・教材が日本人専門家に提供された。										
衛生設備に必要な一部資材	衛生設備整備については、プロジェクト対象 3 県の各村に家庭用及び公共トイレの整備を行った。										

#### 4-1-1-2 日本側投入

他方、日本側の投入は専門家派遣、必要機材、活動実施に係る経費の支出が行われた。

#### 日本側投入実績

投入要素	実績			
専門家派遣及びそのM/M	<ul style="list-style-type: none"> <li>以下の通り専門家派遣が行われた。</li> </ul>			
	担当	第1年次 M/M	第2年次 M/M	計
	総括／組織能力強化 1／ 村落給水	7.5	7.3	14.8
	衛生改善計画・教育 1	3.1	5.6	8.7
	衛生改善計画・教育 2	2.8		2.8
	給水施設運営維持管理 1	2.0	2.0	4.0
	給水施設運営維持管理 2	1.0	1.0	2.0
	業務調整	2.0		2.0
	業務調整/組織能力強化 2		2.0	2.0
		18.4	17.9	36.3
活動実施にかかる投入	<ul style="list-style-type: none"> <li>第2年次終了時点での予算執行率は約82.9%となっている<sup>1</sup>。</li> <li>以下の通り日本側の投入が行われた。</li> </ul>			
	項目	金額 (第1年次 JPY)	金額 (第2年次 JPY)	計 (第1・2年次 JPY)
	備人費	3,030,058	2,756,221	5,786,279
	機材保守・管理 費	426,423	440,488	866,911
	消耗品	1,490,426	1,418,445	2,908,871
	旅費・交通費	627,288	1,842,035	2,469,323
	通信運搬費	97,449	156,085	253,534
	資料等作成費	727,958	2,321,474	3,049,432
	借料損料	1,093,635	225,480	1,319,115
	現地研修費	546,607	4,284,812	4,831,419
	雑費	56,989	50,630	107,619
	供与機材・携行 機材購入費	4,248,460	183,000	4,431,460
	報告書作成費	300,000	620,000	920,000
	ローカルコンサル タント契約	11,942,426	29,753,894	41,696,320
	会議費	24,120	46,342	70,462
計 (JPY)	24,611,839	44,098,906	68,710,745	
C/Pの本邦研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>2009年度、2010年度にC/P計9名に対し本邦研修を実施した。研修名、研修期間等の詳細は以下の通りである。</li> </ul>			
	研修名	研修員人数	研修期間	
	平成21年度(国別)「給水・衛生管理」(ブルキナファソ)	2名	21日間	
	平成21年度「ブルキナファソ国 中央プレート地方給水施設管理・衛生改善プロジェクト」(ブルキナファソ国別研修)「給水・衛生管理(高官)」	2名	9日間	
平成22年度(国別)「給水・衛生管理」(ブルキナファソ)	5名	14日間		

<sup>1</sup> R/Dで約束された日本側コミットメント額630,520,000FCFA(2009年2月の換算レートで116,118,000円)は「活動実費にかかる投入」及び「JICA本部及びブルキナファソ事務所による支援」を合算したものととなる。これと第2年次終了時点での日本側支出総額(96,350,859円(68,710,745円+27,640,114円))を比較し予算執行率を算出。

	ナファソ)																										
機材供与 <sup>2</sup> (車両、パソコン、プリンタ等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・供与機材：2,071,000FCFA (邦貨：4,240,000 円)</li> <li>デスクトップパソコン 8 台</li> <li>無停電電源装置 8 台</li> <li>ノートブックパソコン 1 台</li> <li>カラーレーザープリンター 3 台</li> <li>モノクロレーザープリンター 5 台</li> <li>コピー機 1 台</li> <li>ビデオプロジェクター 1 台</li> <li>オートバイ 9 台</li> </ul>																										
JICA 本部及びブルキナファソ事務所による支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ JICA 本部及びブルキナファソ事務所による支援実績は以下の通りとなっている。</li> </ul> <p style="text-align: center;">JICA 本部及びブルキナファソ事務所による支援</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th></th> <th>摘要</th> <th>支出元</th> <th>金額 (円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">1 年次</td> <td>C/P 日本研修 (一般)</td> <td>JICA 本部</td> <td>5,157,806</td> </tr> <tr> <td>C/P 日本研修 (高官 2 名)</td> <td>JICA 本部</td> <td>3,775,204</td> </tr> <tr> <td>供与機材 (車両 2 台)</td> <td>JICA 事務所</td> <td>9,119,290</td> </tr> <tr> <td>ジニアレ事務所整備費</td> <td>JICA 事務所</td> <td>1,648,435</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">2 年次</td> <td>C/P 日本研修 (一般)</td> <td>JICA 本部</td> <td>7,562,853</td> </tr> <tr> <td>車両・バイク保険料・維持管理費</td> <td>JICA 事務所</td> <td>376,526</td> </tr> </tbody> </table>				摘要	支出元	金額 (円)	1 年次	C/P 日本研修 (一般)	JICA 本部	5,157,806	C/P 日本研修 (高官 2 名)	JICA 本部	3,775,204	供与機材 (車両 2 台)	JICA 事務所	9,119,290	ジニアレ事務所整備費	JICA 事務所	1,648,435	2 年次	C/P 日本研修 (一般)	JICA 本部	7,562,853	車両・バイク保険料・維持管理費	JICA 事務所	376,526
	摘要	支出元	金額 (円)																								
1 年次	C/P 日本研修 (一般)	JICA 本部	5,157,806																								
	C/P 日本研修 (高官 2 名)	JICA 本部	3,775,204																								
	供与機材 (車両 2 台)	JICA 事務所	9,119,290																								
	ジニアレ事務所整備費	JICA 事務所	1,648,435																								
2 年次	C/P 日本研修 (一般)	JICA 本部	7,562,853																								
	車両・バイク保険料・維持管理費	JICA 事務所	376,526																								

#### 4-1-2 活動実績

PDM (第 2 版) に規定された指標、活動項目に沿って各成果に対する活動実績及び成果目標の達成度を確認した。また、PO に沿い活動の進捗についても確認を行った。

#### 4-1-3 成果達成状況

**成果 0 : PDM の指標が確定する。**

PDM の指標は確定している。

2010 年 9 月に開催された第 2 回合同調整委員会において、各成果の PDM 指標について議論が行われた。これを受け、タスクフォースが結成されこれまでに収集した給水・衛生関連情報、ベースライン調査の結果をもとに、プロジェクト活動の成果がより定量的かつ客観的に評価できるよう、PDM の指標の見直しが実施された。検討された PDM 改定案は JICA に提出され、JICA ブルキナファソ事務所と MAH の間で PDM 変更に関するミニッツが取り交わされた。

**成果 1 : 対象コミュニティで維持管理システムの改革に則った組織体制が整う。**

PDM で定義された本成果の指標は以下の通りとなっている。

<sup>2</sup> 「活動実費にかかる投入」の項目「供与機材・携行機材購入費」で投入された機材リストの一覧

- ✓ 対象コミュニティの9割以上のZAT・UAT普及員が研修を受講し、8割以上の普及員が確認テストに合格する。
- ✓ 2010年5月末までに、パイロット3コミュニティのAUEが形成される。
- ✓ 2011年2月までにパイロット3コミュニティと同コミュニティの8割の水利用者組合(AUE)との間で、給水施設運営維持管理にかかる協定が締結される。
- ✓ 2011年6月までにウブリテンガ県のパイロットコミュニティ以外のコミュニティのAUEが形成される。
- ✓ 2012年2月までにウブリテンガ県のパイロットコミュニティ以外のコミュニティと同コミュニティの8割のAUEとの間で、給水施設運営維持管理にかかる協定が締結される。
- ✓ 2013年2月までに、対象コミュニティと同コミュニティの8割の給水ポンプ修理業者との間で、保守・点検にかかる委託契約が締結される。

以下で示す通り PDM で設定された目標指標を満たしており、成果 1 達成に向けて順調に活動が実施されている。成果 1 は ZAT 及び UAT 普及員の技能向上と共にパイロットコミュニティ及びパイロットコミュニティ以外のコミュニティにおける給水施設維持管理システムの制度構築に関するものである。実際の活動は 2009 年 9 月～2010 年 1 月に実施されたベースライン調査の結果を受け、Dapelogo、Toeghin 及び Zorgho のパイロットコミュニティが選定され、2010 年 2 月より活動が開始された。パイロットコミュニティ以外の 6 コミュニティ (全てウブリテンガ県に所在) については、2010 年 12 月に実施された Reforme コミュニティワークショップより活動が開始された。

### ZAT 及び UAT 普及員の技能向上

本プロジェクトで重要な役割を担う農業・水利省地方局 (DRAH) の技術支援ユニットである ZAT 及び UAT の能力強化に関する活動である。両者とも給水・衛生分野の活動では不可欠な存在であり、その担うべき役割も重く、能力強化はプロジェクトの効果を発現する上で重要である。プロジェクトでは、第 1 年次には DRAH の給水管理担当官及び ZAT 職員を対象に、第 2 年次には UAT 職員にも拡大し Reforme 研修を実施した (それぞれ 3 日間、5 日間)。以下は第 1 年次及び第 2 年次に実施した確認テストの結果である。プロジェクト内で設定された基準点 (70 点) を大きくクリアし、基準点を越えた普及員の割合も第 1 年次が 70%、第 2 年次が 85.5%であることが確認された<sup>3</sup>。

#### 確認テストの受験者数及び結果

	第 1 年次	第 2 年次
受験者数	31	63
平均点	78	81.4

出典：プログレスレポート及び中間報告書

<sup>3</sup> プロジェクト集計の確認テスト結果分析より

### パイロットコミュニティでの活動実績

下表は2年次終了時点で設立されたAUEの数である。パイロットコミュニティの全76村落で計80のAUEが設立された。AUE事務局メンバーは委員長他書記、会計、衛生担当、情報担当等で構成され、全員が無給のボランティアベースでの活動となる。事務局メンバー選出に関しては、利用者の信頼を得る為は無記名投票により民主的な方法を推奨し、その選出方法については各村落の決定に委ねられた。また、設立されたAUEに対しAUE認可証取得に向けた支援も実施され、2011年5月時点で計79に対して県知事より認可証が発行された<sup>4</sup>。

コミュニティ	設立AUE数
Toeghin	18
Dapelogo	29
Zorgho	33

出典：中間報告書

またパイロットコミュニティにおけるAUEとのコミュニティ間の給水施設維持管理委託協定締結支援が行われ、Toeghinコミュニティ全18AUE、Dapelogoコミュニティ全29AUE、ZorghoコミュニティはZempassogo村を除く全32AUEで締結された。

	Toeghin	Dapelogo	Zorgho
AUE・コミュニティ間の給水施設維持管理委託協定締結	完了	完了	(1AUE除き) 完了

出典：中間報告書

### パイロットコミュニティ以外のコミュニティでの活動実績

2011年1月から5月にかけてウブリテンガ県の6対象コミュニティ(Ziniare、Absouya、Nagreongo、Zitenga、Ourgou-Manega及びLounbila)の全191対象村落においてAUE設立支援が行われた。ブルキナファソ国内の政情不安により、日本人専門家チームは2011年4月に国外退避となったが、現地活動の再委託先であるローカルコンサルタント及びC/Pを中心にAUE設立に関する活動が展開され、2011年5月中には全コミュニティでAUEの設立が完了した。

<sup>4</sup> ZorghoコミュニティのZempassogo村については、2011年5月にAUEが設立され、現在認可取得申請中である。

### 6 対象コミュニティでの設立された AUE 数

コミュニティ	設立 AUE 数
Ziniare	49
Absouya	19
Nagreongo	19
Zitenga	46
Ourgou-Manega	28
Loumbilla	30

出典：中間報告書

対象 6 コミュニティでの給水施設維持管理委託協定の締結、及び対象コミュニティと同コミュニティの 8 割の給水ポンプ修理業者との間での保守・点検にかかる委託契約に関しては、成果達成に向けて活動が実施されている。具体的には、第 2 年次に給水施設維持管理協定に関する研修を含む AUE 研修が実施された。また、第 3 年次には第 2 回、第 3 回 AUE 研修が 2011 年 10 月、2012 年 1 月に実施が予定されている。

---

#### 成果 2 : 村落組織の給水施設運営維持管理能力が強化される。

---

PDM で定義された本成果の指標は以下の通りとなっている。

- ✓ 2011 年 11 月末までに、ウブリテンガ県のパイロットコミュニティの 7 割以上の AUE がコミュニティに対し水料金の賦課金を支払えるようになり、7 割以上の水場委員会（CPE 等）が必要な水料金の 7 割を徴収できるようになる。
- ✓ プロジェクト終了時までには、パイロットコミュニティ以外のコミュニティの 7 割以上の AUE がコミュニティに対し水料金の賦課金を支払えるようになり、7 割以上の水場委員会が必要な水料金の 7 割を徴収できるようになる。

成果 2 は設立された AUE の給水施設維持管理能力強化に関する活動である。以下主な実績で記すとおり PDM で設定された目標指標達成に向けて着実に活動が実施されている。主な活動は、プロジェクトにおいてマニュアルや視聴覚教材などの AUE 啓発ツールを作成、これらを活用しパイロットコミュニティの AUE に対する研修(2010 年 11 月～12 月、2011 年 4 月～5 月と計 2 度)、6 対象コミュニティに対する AUE 研修の実施(2011 年 4 月～5 月)となっている。また同時に AUE の活動のモニタリング、フォローアップを地方、県の C/P が行う為の能力強化も実施された。

成果 2 に関する主な実績は以下の通り

- ✓ 各パイロットコミュニティにアニメーター 1 名を配置し、コミュニティレベルでの行政官と共に賦課金集金を含む給水施設維持管理活動の支援が行われている。

- ✓ 2011年5月時点での賦課金（給水施設につき10,000FCFA）納入を開始したAUEは計21にのぼる。特にDapelogoは約68%のAUEが既に賦課金納入を開始している。また、合同レビューチームは第3年次に入り、Toeghin、Zorghoでも賦課金の納入が進んでいることを確認した。以下は納入された賦課金の合計額である。

**賦課金の合計額（単位：FCFA）**

	Dapelogo	Toeghin	Zorgho
AUEからコミュニティに納入された賦課金の金額	1,060,000	620,000	950,000

出典：中間レビュー現地調査において入手した資料より

- ✓ 6対象コミュニティについては、上述の通り第2年次までに全村落でAUEの設立を達成。第3年次には以下の活動が予定されており、これら活動を通して賦課金の支払い、水料金の徴収に関する活動が進められる予定となっている。
  - 対象コミュニティ第2回AUE研修
  - 対象コミュニティ第3回AUE研修
- ✓ 利用者からの水料金の支払いについては、Dapelogo及びToeghinコミュニティでは全AUEが徴収を開始しており、Zorghoコミュニティについても、30AUEが開始している。

---

**成果3：給水施設運営維持管理にかかるスペアパーツ供給及び修理体制が改善される**

---

PDMで定義された本成果の指標は以下の通りとなっている。

- ✓ 2012年10月までに、給水ポンプ修理業者がコミュニティより要請された保守・点検件数の6割以上に対応できるようになる。
- ✓ スペアパーツの交換に必要な情報（店舗情報、発注手順）を全コミュニティが所有している。
- ✓ 軽微な修理にかかる期間が1ヶ月以内に短縮される。

成果3は給水施設維運営維持管理を達成する為に、その重要な役割を担うポンプ修理業者の能力・技能向上及びスペアパーツの供給体制の構築を目的としている。以下2011年5月時点での進捗で示す通り、成果発現に向けて順調に活動が展開されている。第1年次では、中央プラトー地方におけるスペアパーツの供給網の把握及びポンプ修理工に関する現状把握が実施された。第1年次に入手した情報、データを基に効果的なパーツ供給体制とポンプ修理工体制の構築に向けた活動計画が第2年次に策定された。ポンプ修理工を対象とした育成研修については、第2年次から開始された。

### 成果3に関する2011年5月時点での進捗

- ✓ 保守・点検に関する指標に関し、第2年次終了時点での主な活動は以下の通りとなっている。
  - ポンプ・スペアパーツ・修理工に関する情報収集及び整理
  - ポンプ修理工対象の **Reforme** ワークショップの開催
  - ポンプ修理工の認可
  - 修理工組合の組織化・強化を含むポンプ修理工の能力強化研修
- ✓ スペアパーツに関する指標に関し、第2年次終了時点での主な活動は以下の通りとなっている。
  - ポンプ機種別スペアパーツ流通経路、販売店網、在庫保管等のデータ整理。
  - スペアパーツ流通網のデータ更新と情報共有
  - パーツ供給網改善計画の検討

また成果3に関する活動の中で、以下の効果が確認された。

- ✓ ポンプ修理工は自身のビジネス拡大に直結する本プロジェクトの活動及びその成果に対し高い関心を示しており、積極的にプロジェクトに関与している。
- ✓ ポンプ修理工組合を組織・強化したことにより、ポンプ修理工同士の横の連携を生み出している。また技能レベル、所有する機材によって **Level 1** と **Level 2** と異なる営業認可を **DRAH/PCL** が付与することにより、**Level 1** とされた修理工の技能習得に対するモチベーションが生まれた。

なお、軽微な修理にかかる期間に関する指標については、具体的な活動は第3年次以降に予定されており、中間レビュー時点で評価しない。

他方で長期的な課題として、ポンプ修理工の識字能力の向上が挙げられた。フランス語での読み書きに不自由する修理工が多く、多くのペーパーワークを伴う契約業務や簿記作業について対応できない修理工が確認された。ポンプ修理工自身もこの課題については認識している点である。プロジェクトでは、弟子にフランス語の読み書きができる人を雇用する等を奨励している。

---

### 成果4 : 中央プラトー地方のパイロット3 コミューンにおける村落住民の衛生行動が改善される

---

PDM で定義された本成果の指標は以下の通りとなっている。

- ✓ 衛生改善の啓発・教育プログラム及びマニュアルが作成される
- ✓ パイロット3 コミューンの村落で衛生啓発・教育プログラムの実施者（教員、保健所員、行政機関の衛生担当者、住民アニメーター）が600名以上育成される。

- ✓ パイロット 3 コミュニティの村落で衛生啓発・教育プログラムの実施者による衛生改善の啓発活動が毎年 6 回以上実施される。
- ✓ 公共衛生設備維持管理マニュアルが作成され、公共衛生設備・行動の管理システムが構築される。
- ✓ 公共衛生設備維持管理マニュアルに基づき、衛生施設・行動に係る、モニタリング・評価が各サイトにおいて年 2 回以上行われる。
- ✓ 公共衛生設備（学校等の公共トイレ）が住民自身によって維持管理される。

成果 4 は給水施設維持管理活動と並ぶ本プロジェクトの柱である衛生行動改善のコンポーネントに関する成果である。活動に係るステークホルダーも MAH に加えて、保健省、国民教育識字化省とより広がっている。活動の目的は、パイロットコミュニティにおける村落住民の衛生行動改善であり、主に啓発活動ツールの策定及び衛生啓発・教育研修の実施者の育成を行うこととしている。以下 2011 年 5 月現在の進捗で詳しく解説している通り、活動は順調に実施されている。第 1 年次に衛生活動・教育教材の策定を行い、行政及び村落レベルでの人材育成を実施した。第 2 年次には、村落レベルでの衛生啓発・教育活動の実施・モニタリングが行われている。

#### 成果 4 に関する 2011 年 5 月時点での進捗

- ✓ 以下の衛生啓発・教育教材が策定された。
  - 衛生行政指導者用マニュアル
  - 住民衛生アニメーター及び教員用衛生啓発・教育活動実践ガイド
  - 啓発用ツールイメージ（PHAST カード）
  - 衛生行動・施設管理マニュアル
- ✓ これら策定された教材は第 1 年次終了後に利用者からのフィードバックを受け、適宜改訂が行われ第 2 年次に利用されている<sup>5</sup>。
- ✓ 人材育成に関してはカスケード方式で衛生啓発プログラムの実施者の育成が進められている。行政指導者研修において、行政スーパーバイザー（地方、県レベルの各省職員）、行政指導者（県、コミュニティの各省職員）に対し実施。研修を受けた行政指導者が住民衛生アニメーター用研修及び衛生教育教員研修を実施した。2011 年 5 月時点で育成された人材は以下の通りとなっている。

#### 衛生啓発・教育プログラムの実施者数

衛生行政指導者	58
住民衛生アニメーター	430
小学校教員	400
合計	888

出典：中間報告書

<sup>5</sup> 第 3 年次開始時にも第 2 年次の活動を通して浮き彫りになった課題や修正点のフィードバックが行われた。これらを修正したものが最終版となる予定である。

- ✓ 研修を受けた住民アニメーター及び衛生教育教員は各村落、学校において衛生啓発・教育活動を実施している（2011年9月時点で村落地域で合計参加人数 14,268 人を対象に 436 回、学校では 309 クラスを対象に 388 回実施されている<sup>6)</sup>）。

合同レビューチームは、プロジェクトで開発された衛生啓発・教育教材が衛生活動の全国展開用教材としてブルキナファソにおいて認定され、今後活用されていくことを確認した<sup>7)</sup>。また初等教育では衛生教育は公民・道徳教育の一環として取り上げられている内容であり 2009 年に策定された教科外教育の新設課題 8 テーマの 1 つとしても位置づけられておりそのカリキュラムの中に組み込むこと、持続性が担保されている可能性が高い事を確認した。他方で、行政指導者には定期的な人事異動がある。また育成された衛生アニメーターは無償での活動となり、活動の持続性及び衛生アニメーターのモチベーションの確保の観点から課題を残している。

---

**成果 5 : 各県の DPAHRH が給水及び衛生状況のモニタリング・評価を実施し、コミュニティに対し支援が行えるようにする**

---

PDM で定義された本成果の指標は以下の通りとなっている。

- ✓ 2010 年より年 4 回、各 DPAHRH による村落の給水施設稼働率、AUE の財務状況、水場委員会の水料金徴収率及び給水ポンプ修理業者の給水施設の保守・点検状況にかかるモニタリング・評価が実施される。
- ✓ 2010 年より年 4 回、各 DPAHRH による衛生改善状況にかかるモニタリング・評価が実施される。
- ✓ モニタリング・評価の結果必要とされた支援・助言のうち 7 割が、各 DPAHRH の指示に基づき実施される。

成果 5 は主にプロジェクト活動及びその成果の持続性の確保を目的とした活動である。地方行政機関が、コミュニティや AUE による給水施設維持管理や衛生改善活動の状況を定期的に把握し、その進捗状況に応じた適切な支援をしていくための体制を構築する事を目指している。特にコミュニティ及び AUE の活動のモニタリング・支援を担う地方行政機関の能力強化、モニタリングシートの整備、持続可能なモニタリング、支援体制の構築を本プロジェクトでは進めている。

成果 5 に関する 2011 年 5 月時点での進捗

- ✓ 中央プラトー地方局職員を対象とした Reforme 研修の実施。成果 1 で示す通り、受講者が実施した研修後の確認試験では基準を越え理解度の確認ができた。

---

<sup>6)</sup> プロジェクト収集データより

<sup>7)</sup> 本情報は農業・水利省へのヒアリングにより入手。

- ✓ 持続可能なモニタリング体制の構築に係るコンポーネントは 4 つあるが、それぞれについて現状と課題、及び改善に向けた方策について整理が行われた。その内容は以下の通り。

### モニタリング体制構築に係る取組に向けた課題と方策

コンポーネント	現状と課題	改善に向けた方策
DPAH、ZAT/UAT による AUE 活動のモニタリング・支援	ZAT/UAT の担当業務は水と衛生に関わるものだけでなく、農業や社会インフラ整備など多岐に亘る。年 4 回モニタリングを実施した場合、処理すべき情報が膨大・煩雑になる。また DPAH、ZAT/UAT 人員体制を考慮すると、年 4 回のモニタリング実施自体が困難である。このため、得られた情報をコミュニティと共有・分析し、フィードバックするまでに至らない可能性が非常に高い。	モニタリング実施の回数を年 2 回とする。これに関しては PDM の改訂が必要となるため、3 年次初めに予定されている中間レビュー時において PDM を改訂できるよう協議を重ねていく。
	プロジェクト終了後も AUE が ZAT/UAT に定期的に報告を続けていくことを想定すると、モニタリングシートは可能な限り簡潔なものであることが望ましい。しかし、プロジェクトのインパクトを量るためには、ある程度詳細なデータの収集が必要となるため、どうしても内容が多くなってしまう。	モニタリング項目を財務状況と PMH の維持管理状況に絞り、どちらも簡易な内容とする。これらはプロジェクト終了後も AUE によって継続される。他方、プロジェクトのインパクトを量るため情報の収集は、専用のシートを作成し、現地コンサルタントのアナレーターが実施する。
	給水施設管理委託協定はコミュニティと AUE の間で締結される。また、原則として全ての PMH はコミュニティに帰属するため、コミュニティ自身が AUE の給水施設維持管理活動状況をしっかりと把握する必要がある。	年に 2 回、財務状況と PMH の維持管理状況をコミュニティに提出することを、AUE とコミュニティとの契約内容に盛り込む。
DPAH、ZAT/UAT によるコミュニティの活動のモニタリング・支援	ポンプ修理工とコミュニティとの契約が締結に至っていないため、未実施。3 年次の初めから開始予定。	—
ポンプ修理業者によるポンプ維持管理状況のモニタリング・支援	ポンプ修理業者対象の研修などの機会を通じて、非識字者が多いことが判明した。	ポンプ修理業者がコミュニティに提出する巡回レポートの作成に当たっては、非識字者に留意した内容とする。
住民衛生アナレーター及び教員による衛生改善活動のモニタリング・支援	ZAT/UAT の担当業務は水と衛生に関わるものだけでなく、農業や社会インフラ整備など多岐に亘る。年 4 回モニタリングを実施した場合、処理すべき情報が膨大・煩雑になるため、それらをコミュニティと共有・分析し、フィードバックするまでに至らない可能性が非常に高い。	モニタリング実施の回数を年 2 回とする。これに関しては PDM の改訂が必要となるため、3 年次初めに予定されている中間レビュー時において PDM を改訂できるよう協議を重ねていく。
	衛生行政指導者が各村を巡回し、モニタリングを実施することは、彼らの人員体制や本来業務との兼ね合いから非常に困難である。	各村に存在する AUE は年に 2 回必ずコミュニティにレポートを提出し、その情報は ZAT/UAT、DAPHRH、DRAH/PCL に共有される。このレポートを通じて、AUE レポートと一緒に衛生状況のモニタリング結果もコミュニティに提出するようにする。これにより、年に 2 回は必ず衛生啓発について考える機会が生まれるため、持続性の担保にも繋がる。 学校に関しては、既存の教育支援システムの中に組み込む。

出典：中間報告書

- ✓ DPAH、ZAT/UAT の担当業務及びモニタリング業務の負荷を考慮し、年 4 回のモニタリングの実施は困難との認識から、年 2 回に変更する方向で調整が進んでいる。

#### 4-1-4 プロジェクト目標達成状況（見込み）

プロジェクト 目標	対象コミュニティ（ウブリテンガ県全コミュニティ、ガンズルグ県とクルウェオゴ県のパイロットコミュニティ）の給水施設の維持管理状況及び住民の衛生行動が改善される。
指標	<p>[指標 1] 対象 9 コミュニティ（ウブリテンガ県全コミュニティ、ガンズルグ県とクルウェオゴ県のパイロットコミュニティ）の給水施設の稼働率が現在の 7 割から 8 割に向上する。</p> <p>[指標 2] パイロット 3 コミュニティ（ウブリテンガ県、ガンズルグ県及びクルウェオゴ県のパイロットコミュニティ）の住民の水を取り巻く衛生行動（10 項目）の少なくとも 6 割が改善される。</p>

プロジェクト目標である、「対象コミュニティ（ウブリテンガ県全コミュニティ、ガンズルグ県とクルウェオゴ県のパイロットコミュニティ）の給水施設の維持管理状況及び住民の衛生行動が改善される。」について、PDM の指標に基づいて分析したところ、以下の状況である。

指標 1：対象 9 コミュニティ（ウブリテンガ県全コミュニティ、ガンズルグ県とクルウェオゴ県のパイロットコミュニティ）の給水施設の稼働率が現在の 7 割から 8 割に向上する。

給水施設の維持管理を行う AUE はパイロットコミュニティ全てで設立されており、特にパイロットコミュニティでは「水料金、賦課金の設定・公布」、「コミュニティ・AUE 間の給水施設維持管理委託協定の締結」が全 AUE で完了している。今後は対象 6 コミュニティに対し、パイロットコミュニティと同様の給水施設維持管理の具体的な活動（資金の積み立て、賦課金の納入、修理業者との契約等）を進めていく計画となっている。またポンプ故障時に連携するポンプ修理業者への研修及びポンプ修理工組合の組織化も第 2 年次までに完了している。

指標 2：パイロット 3 コミュニティ（ウブリテンガ県、ガンズルグ県及びクルウェオゴ県のパイロットコミュニティ）の住民の水を取り巻く衛生行動（10 項目）の少なくとも 6 割が改善される。

衛生行動変容に関する活動は順調に実施されている。衛生啓発に関するマテリアルはプロジェクトにおいて開発された。衛生啓発・教育分野における研修は、2 段階で実施され、行政指導者を対象とした行政指導者研修、住民アニメーターと衛生教員を対象とした育成研修があり、それぞれ完了している。研修を受けた住民アニメーター及び衛生教員は村落、小学校において衛生啓発・教育活動を行っている。また、モニタリングを行う為の基本データの整備が実施中であり、

今後モニタリングに関する具体的な活動が実施予定となっている。上述のように、学校レベルでの衛生教育活動については、初等教育では衛生教育は公民・道徳教育の一環として取り上げられている内容であり、プロジェクト終了後も活動が継続される可能性がある。他方で、住民アニメーターは無給での活動となっており、村落レベルでの衛生啓発活動に対するモチベーションの維持や活動の定着は今後の要検討課題となっている。

#### 4-1-5 上位目標達成状況（見込み）

上位目標	： 中央プラトー地方における保健・衛生環境が改善される。
指標	： [指標 1] 2015 年までに改善された水源を継続的に利用できる人口の割合現在の 7 割から 8 割以上になる。 [指標 2] 2015 年までに給水施設の常時稼働率が現在の 7 割から 8 割以上になる。 [指標 3] 2015 年までに住民の水を取り巻く衛生行動が改善される。

以下の理由から上位目標の指標 1 及び 2 の達成可能性はあると判断した。

指標 1 については、給水施設建設が水源を継続的に利用できる人口の改善に必要となっている。国家計画である PN-AEPA で推進されている給水施設建設計画が全国的に順調に進んでおり、中央プラトー地方においても、水のアクセス率は 2009 年の 69.9%から 2010 年には 71.45%と改善されており、今後も 2015 年のターゲットを目指して改善されていくことが予想される<sup>8</sup>。

指標 2 については、日本以外にも中央プラトー地方での AUE 設立を含む Reforme 支援を実施・検討している。具体的には SOS-Sahel はクルウェオゴ県において AUE 設立を支援しており、またフランス・リムーザン地方の協力である FASOLIM はウブリテンガ県を対象とした給水支援を実施予定し、オランダの大手 NGO である SNV も中央プラトー地方での支援を検討している。以下は対象 9 コミュニティの給水施設稼働率の推移を示したものである。プロジェクト開始の 2009 年以降改善していることが分かる。

給水稼働率の推移（2008-2010）

	2008	2009	2010
Zorgho	84.45	92.69	93.33
Toeghin	89.74	93.9	96.7
Dapelogo	82.27	82.04	80.18
Ziniare	73.6	76.35	76.9
Absouya	78.63	81.15	87.4
Loumbila	82.96	84.89	83.56
Nagreongo	78.26	78.33	87.4
Ourgou-Mangeda	75.89	80.87	78.76
Zitenga	70.41	81.07	81.25

出典：給水施設インベントリーデータベース（INOH）（2011）

<sup>8</sup> DGRE, DGAEUE, ONEA : Programme National d'Approvisionnement en Eau Potable et d'Assainissement à l'horizon 2015 (PN-AEPA 2015), Rapport Bilan Annuel au 31 décembre 2010.

これらに加えて、ブルキナファソ側も本プロジェクトを **Reforme** 推進のパイロットプロジェクトとして位置づけており、その成果の確認後に拡大・展開方法、整備不備の是正等の検討を進めることになっていることから指標 2 についても達成可能性が高いと判断した。他方で、現時点では中央プラトー地方全 20 コミューンのうち、**Reforme** が実際に導入されているのは本プロジェクトを実施している 9 コミューンに留まっていること、またブルキナファソ側で全国展開に向けた展開計画や予算措置について現時点で定まっていない事は課題と考えられる。加えて MAH をはじめ、地方局、コミュニティの組織体制は人員面（スタッフ数、**Reforme** 及び衛生に関する知識・技能）、財政面とも脆弱であり、特に現場での活動（技術支援やモニタリング）の実施を担う人員不足は深刻となっている。プロジェクト終了後の成果の継続については、課題がある。

指標 3 については、モニタリングは 3 年次以降の活動であり、現時点で評価不能である。ただし、既述の通り特に村落での活動について持続性が担保されておらず、関係者による検討が必要である。

#### 4-1-6 プロジェクトの実施プロセスの検証

プロジェクトの実施プロセスは良好である。合同調整委員会は過去 3 回開催されており、プロジェクトに関する最終意思決定機関として機能している。また PDM 変更等の重要事項の協議に関しては、別途タスクフォースチームを結成し検討を行うシステムとなっている。日本人専門家とブルキナファソ側 C/P 間、日本人専門家とローカルコンサルタント間のコミュニケーションは良好であり、問題発生時には迅速に対応する体制が整えられている。関係者の密なコミュニケーションが 2 年間という短期間で計 271 の AUE の設立に寄与したと考えられる。

ブルキナファソ側も高いオーナーシップでプロジェクトに取り組んでいる。特に給水問題は人々の生活に直結する課題であり、「PROGEA は我々のプロジェクトである」との意識のもと率先して各活動に貢献している。また、日本人専門家全員がブルキナファソをはじめ、西アフリカ仏語圏での業務経験を有しており、この事が今回の順調な活動に貢献している。

## 第5章 中間レビュー結果

### 5-1 中間レビュー結果

#### 5-1-1 DAC5 項目によるレビュー

以下は DAC5 項目によるレビュー結果である。レビュー結果に関しては 5 段階で評価を行っている（High が最も高く、次いで Relatively High、Moderate、Relatively low と続き、low が最も低い）。

項目	レビュー結果	概要
妥当性	High	<ul style="list-style-type: none"> <li>ブルキナファソ側の国家計画である「飲料水・衛生供給国家計画（PN-AEPA）」及び「村落・準都市部の飲料水供給水利施設の管理システム改革」が打ち出している AUE の形成、給水担当者の能力強化等に変更はない。</li> <li>また JICA 国別事業実施計画とも合致している。</li> <li>給水施設維持管理活動に関して、本プロジェクトを通し本省から村落レベルまで、高いオーナーシップが示されている。</li> <li>既に政策化している Reforme に沿う形でプロジェクトが形成され、活動が実施された事が促進要因の 1 つとなったと考えられる。</li> <li>給水維持活動及び衛生行動の改善は「人づくりプロジェクト」であり、課題を現場レベルで少しずつ解決・克服するものであり、本プロジェクトのように現場レベルに日本人専門家が入り込んで行う意義は高い。</li> </ul>
有効性	High	<ul style="list-style-type: none"> <li>PDM で定義された成果の達成に向けて順調に活動は実施されている。</li> <li>給水施設稼働率の改善に関するプロジェクト目標が達成される可能性は高い。</li> <li>Reforme という国家政策に沿ったプロジェクトであり、C/P を含め「ブルキナファソのプロジェクトである」との認識が高い。</li> <li>他方で衛生活動の改善については、村落・学校レベルにおける住民の衛生行動の変容を実現し、定着させるために一層の工夫が期待される。特にプロジェクト終了後の活動の継続性について対策が求められる。</li> </ul>
効率性	Relatively High	<ul style="list-style-type: none"> <li>ブルキナファソ、日本双方に合意した投入をほぼ予定通り行った。</li> <li>業務委託型で支援が行われ、日本人専門家の高いプロ意識により活動は順調に進んでいる。</li> <li>現地再委託を行ったことで、効率的な技術移転が実現している。</li> <li>JICA 課題別研修枠にてプロジェクト関係者が研修に参加。帰国後より積極的にプロジェクトに関与していることが確認された。</li> <li>ブルキナファソ側の 2009 年度予算が執行されなかった。また第 2 年次開始時に C/P 職員が大幅に入れ替わる事態となった。</li> </ul>

インパクト	Moderate	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ プロジェクト目標の達成可能性は高い（特に給水施設維持管理のコンポーネント）。</li> <li>・ 給水施設維持管理の役割を担う AUE が本プロジェクト対象の全コミューンで設立され、機能する為の取組が進められている。</li> <li>・ 研修を通して地方局、コミューンの Reforme 推進に関する行政能力は向上している。</li> <li>・ 9 対象コミューン以外にコミューンからの Reforme 適用化への要望が高まっている。</li> <li>・ プロジェクト対象地域は限定的であり、中央プラトー地方全域の保健、衛生環境改善については、ブルキナファソ側の活動継続に関する強いコミットメント（含む予算措置）が必要。</li> <li>・ Reforme 推進を目的に予算措置に必要がある。</li> <li>・ 課題はあるが、上位目標の達成可能性はある。</li> </ul>
持続性	Moderate	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ PN-AEPA は 2015 年まで変更されない。</li> <li>・ Reforme 適用化に関する技術移転は日本人専門家から行政担当官に移転している。</li> <li>・ ブルキナファソ側の行政の組織的基盤は脆弱。</li> <li>・ コミューンは 2006 年に設立されたばかりであり、陣容、予算共に不十分であり能力強化が重要。</li> <li>・ 衛生啓発・教育活動に関しては、プロジェクト終了後の活動予算措置が必要。</li> <li>・ 長期的な課題として、衛生アニメーターは無給のボランティアでの活動であり、プロジェクト終了後の継続性に疑義がある。衛生アニメーターのモチベーション向上の枠組み構築を検討すべきである。</li> </ul>

## 5-1-2 阻害・貢献要因

### (1) 効果発現に貢献した要因の分析

活動実施促進の要因として以下の 2 点が挙げられる。

第一に、プロジェクトの活動内容が完全にブルキナファソ側が進める政策・Reforme 適用化と合致していることである。プロジェクト目標及び活動がブルキナファソ政府の方針と整合している為に、プロジェクト及び各活動に対して中央から地方及びコミューンレベルに至るまで C/P や関係者の理解や同意を容易に得ることが可能となっている。またこの事がブルキナファソ側の高いオーナーシップを引き出す要因の 1 つにもなっていると考えられる。特に本プロジェクトでは、同国で通常採られている様なナショナルコーディネーターをプロジェクト用に任命するのではなく、中央プラトー地方局長をナショナルコーディネーターが兼務する形で実施されており、一層オーナーシップを高めている。

第二に、プロジェクトチーム（日本人専門家）と C/P（行政）、コミューン等の関係者及び現地再委託先との緊密な連携がある。通常の定期コミュニケーションに加え、特に現場レベルでの活動の中で生じる様々な問題解決に際し、関係者間で連携し解決策の模索を行う等、プロジェクト推進に大きく寄与した。これには、ブルキナファソにおいて豊富な業務経験を有する総括を中心に、アフリカ諸国で現場経験を有しフランス語も堪能なプロジェクトメンバーで構成された日

本人専門家の貢献が大きいと考えられる。

## (2) 効果発現を阻害した要因の分析

他方で、実施プロセスに関し、以下の課題・阻害要因が確認された。

第一に、低い識字率・教育レベルはプロジェクトのスムーズな実施の障害となった。AUE の設立、行政による承認の取得、会計管理、報告書作成、ポンプ修理工の登録等、本プロジェクトの活動の多くはフランス語による書類事務作業が必要となっている。しかし、AUE 事務局メンバー、ポンプ修理工にはフランス語の読み書きが困難な人が多くこれら作業は容易ではなく、プロジェクトにより現地語への通訳・翻訳、代理記入等支援が必要であった。現地インタビューにおいても、AUE 事務局スタッフやポンプ修理工自身がこれら課題について指摘しており、長期的な課題であることが確認された。

第二に、プロジェクト活動の対象者であるコミューンや村落住民のプロジェクト実施の理解を得る事が当初の想定よりも難しかったことが挙げられる。従来の給水委員会（CPE）による給水維持管理システムに対し、**Reforme** は村落単位でより包括的に給水施設の維持管理を行うものである。また、より多くのステークホルダーを巻き込み、罰則を伴う契約・協定を締結することが求められているが、この新しいシステムの導入に反発する住民は当然おり、特に保守的な考え方の強い村落では反発が強かった。依然として給水については「基本的に政府が担保するもの」という通念が根強く残っており、利用者自身が維持管理活動に参加し、また同時に受益者負担も求められ **Reforme** の制度を理解し協力を得るにはまだ時間が必要な状況であった。

第三に、村落内地区同士の争い、反発の発生がある。**Reforme** は上述の通り村落レベルでの包括的な給水施設の維持を目指す制度であるが、村落内での衝突はプロジェクト促進の課題となっている。衝突の本質はケースバイケースであり、長年に渡る対立もあれば、個人的な感情のしこりもある。プロジェクトでは、問題発生の都度 C/P、コミューン、現地再委託先と協議に問題の解決に取り組んでおり、その解決方法及び結果については報告書に取り纏めていくことを予定している。

最後に、対象 9 コミューンでの **Reforme** 推進活動が進み定着が図られる中で、AUE 未設立のプロジェクト非対象コミューン（11 コミューン）との間でギャップが生じている。AUE を中心に受益者負担による給水施設維持管理を進めている中で、従来通りの水場毎での維持管理を実施する AUE 未設立コミューンの住民の存在は対象 9 コミューンのみならず、非対象コミューンにおいても給水施設維持管理に関し混乱を生じさせる要因となっている。またポンプ修理工組合は県単位で設立されたが、AUE 未設立コミューンでのポンプ修理に関しては AUE との契約もなく従来通りの方法となっておりポンプ修理工への能力強化の効果が限定的となっている。更に AUE 未設立地域の存在はプロジェクトで進めているスペアパーツ金額や修理代金の県内統一化を阻む要因にもなっている。

## 5-2 結論（レビュー結果総括）

中央プラトー地方局を中心にブルキナファソ側の高いコミットメントが確認され、第2年次までの活動が順調に進められていることが確認された。特に全対象コミュニティにおいて AUE が設立され、パイロットコミュニティにおいては賦課金の納入、水料金の徴収が既に開始されている。また、PDM で合意したプロジェクト成果を達成すべく、日本人専門家を中心に関係者が協働して活動を進めて行く基盤がある事も確認した。実施プロセスに大きな課題はない。特に給水施設維持管理のコンポーネントに関してはプロジェクト目標の達成可能性も高い。

他方で、衛生啓発・教育のコンポーネントに関しては、活動は順調に実施されているものの、プロジェクト目標の達成には課題がある。特に衛生行動の変容は決して短期間の活動で実現するものではない。モニタリングを実施しつつ、地道な活動の継続が必要である。

またプロジェクトの持続性について課題が多い。特にブルキナファソ側の組織的脆弱性は課題である。人員体制面では多くのドナーからの支援（プロジェクト）を受けておりそちらへの人員割当もあり慢性的に人員不足にあること<sup>9</sup>、また地方局に関しても設立後 10 年程と若く、現場レベルで従事するスタッフも含めてスタッフ不足の状況にある。財政面でも、現時点でプロジェクト終了後の予算措置は検討されていない。セクター財政支援（ABS）の活用も含めプロジェクト終了後も活動が継続される為には、予算面でもブルキナファソ側の具体的な対策が必要である。

最後に中央プラトー地方内で AUE 設立と未設立の地域が誕生し、これにより給水施設維持管理方法について混乱が生じている村落が確認された（特に AUE 設立と未設立のコミュニティが隣接する地域において）。また、ポンプ修理工への支援は中央プラトー地方横断的に実施されているが、その効果発現の為には AUE の設立が必要であり、中央プラトー地方全 20 コミュニティ中 9 コミュニティのみが AUE を設立している現状ではポンプ修理工能力強化の効果は限定的となっている。コミュニティでの混乱の解消とポンプ修理工への支援に関する効果の最大化を図る為にも、11 コミュニティへのプロジェクト拡大の検討が必要となっている。

---

<sup>9</sup> MAH へのヒアリングでは、現在 45 のプロジェクトが実施中とのことである。

## 第6章 提言

### 6-1 衛生行動改善のための活動について

評価の結果、衛生啓発・教育プログラムの持続性の担保についての課題が明らかになった。持続性の担保のために、実施者である行政機関の衛生担当者や教員等の人事異動を考慮した活動継続の枠組みの策定、住民アニメーターのモチベーション維持を行う必要がある。

この課題に対し、例えば、コミュニティや AUE の資金を活用やコミュニティを巻き込む学校運営委員会等との連携といった可能性といった持続性を確保するための検討が求められる。

### 6-2 対象コミュニティの拡大について

本プロジェクトでは、中央プラトー地方全 20 コミュニティのうち 9 コミュニティにおいて活動を展開しており、残り 11 コミュニティの対象外コミュニティへの対応は、ブルキナファソ国側の自助努力により進められることが前提となっている。しかし残り 11 コミュニティへのリフォームの進捗は芳しくない。本プロジェクトを通して、リフォームには多大なコストと時間を要することが明らかになっており、ブルキナファソ国側の財政事情や現場での実施を担う人材不足の現実を鑑みると、非常に困難な状況である。

そのためリフォームが導入されているコミュニティと未導入のコミュニティの間で、給水施設維持管理モダリティを巡る対立や、県レベルで行っている修理工の育成、組合の組織化、修理代金の統一化等の県内の適用化が阻まれるなどの問題が生じている。

従って、プロジェクト対象外のコミュニティへのリフォームの導入が遅滞すればするほど、上記のような問題が大きくなり、コミュニティ間のギャップの拡大からプロジェクトで構築した運営維持管理体制崩壊の危険性も否めない。

また、給水施設維持管理の持続性を考えると、リフォームに沿った運営維持管理体制が構築され、一度構築された体制をいかに継続して機能させていくかという点が重要となってくる。

本プロジェクトでは、対象コミュニティにおいて体制の構築と、この体制が機能するよう支援を行っているが、対象外コミュニティにおいてリフォームが着手されず、地方・県レベルでの運営維持管理体制の統一が図られなければ、プロジェクトで実施した体制の機能化、つまり持続性の確保につながる取り組みの効果が弱まる懸念が生じる。

従って本プロジェクトによって着実にリフォームが進められて、プロジェクト目標の達成も見込まれている中、プロジェクトの成果を確実なものにするために、また中央プラトー地方における給水施設の持続的な維持管理、安全な水へのアクセスの保障のために、支援対象コミュニティを残り 11 コミュニティにも拡大し、地方・県レベルでの給水施設維持管理体制の確立が不可欠である。

プロジェクトの対象コミュニティ拡大に伴い、日本側は追加対象となる 11 コミュニティに対し、これまでの対象 9 コミュニティと同様の投入を行うとともに、ブルキナファソ国側も対象コミュニティ拡大に伴う必要な投入を行うことを提案する。

対象コミュニティ拡大を想定した PDM 案および PO 案は Annex-7、8 の通りである。

### 6-3 プロジェクト終了後の持続性の確保について（モニタリング・リフォームの促進および衛生行動改善活動の継続）

給水施設維持管理体制の定着、衛生行動改善への取り組みの継続のため、ブルキナファソ国側は本プロジェクト終了後を見据えた具体的な措置をとることが求められる。例えば、モニタリング、リフォームの促進、衛生啓発活動の継続実施のための予算確保である。現在、プロジェクト終了後の持続性を維持することを考えた際のブルキナファソ国側の問題は予算である。しかし PN-AEPA 2010 年年間レビューにおいて、リフォーム適用化は給水・衛生分野の優先課題として掲げられており、ABS の予算 ( ) をリフォームに優先的に適応できるという状況の中、この ABS を活用して予算を確保し、リフォームに優先的に配分する計画を考えていく必要がある。



## Annex 6 プロジェクトの投入実績

### a. 日本人専門家投入実績リスト

	担当	氏名	派遣時期	M/M
第1年次(2009年8月～2010年5月)	総括／組織能力強化 1／ 村落給水	小野 健	2009年8月1日～12月13日	7.5
			2010年1月12日～3月15日	
			2010年4月12日～5月26日	
	衛生改善計画・教育 1	大野 明子	2009年10月1日～2010年5月19日	3.1
	衛生改善計画・教育 2	杉本 記久恵	2009年8月12日～10月10日	2.8
			2010年4月12日～5月5日	
給水施設運営維持管理 1	高見沢 清子	2010年1月25日～2月23日	2.0	
		2010年4月25日～5月24日		
給水施設運営維持管理 2	末広 直子	2009年11月24日～12月23日	1.0	
業務調整	江刺 和広	2009年8月1日～12月13日	2.0	
第1年次 M/M 計				18.4
第2年次(2010年8月～2011年5月)	総括／組織能力強化 1／ 村落給水	小野 健	2010年8月1日～10月29日	7.3
			2010年11月23日～12月23日	
			2011年1月23日～5月1日	
	衛生改善計画・教育 1	大野 明子	2010年8月23日～12月2日	5.6
			2011年1月4日～5月1日	
	給水施設運営維持管理 1	高見沢 清子	2010年9月25日～10月24日	2.0
2011年2月6日～3月7日				
給水施設運営維持管理 2	末広 直子	2011年2月26日～3月12日	1.0	
		2011年3月31日～4月14日		
業務調整/組織能力強化 2	富塚 孝則	2010年8月1日～11月10日	2.0	
		2011年1月4日～2月2日		
		2011年3月20日～4月30日		
第2年次 M/M 計				17.9
第1年次・2年次 M/M 計				36.3

b. カウンターパートおよび国別研修参加者リスト

農業・水利省（MAH）中央部局

局名	氏名	役職
水資源総局（DGRE）	Mr. THANOU Ousséini	水資源総局長
水資源総局（DGRE）／飲料水供給局（DAEP）	Mr. BINGBOURE Jean-Mathieu	飲料水供給局長
衛生・汚水・廃棄物総局（DGAEUE）	Mrs. SONDO Denis Marie	衛生・汚水・廃棄物総局長
衛生・汚水・廃棄物総局（DGAEUE）／衛生技術・施設開発局（DDTOA）	Mrs. OUEDRAOGO Josephine	衛生技術・施設開発局長
衛生・汚水・廃棄物総局（DGAEUE）／水質汚濁有害液体対策局（DL/PELD）	Mr. PALENFO Fousséni	水質汚濁有害液体対策局長

農業・水利省中央プラトー地方局（DRAH/PCL）

	氏名	役職
中央プラトー地方局（DRAH/PCL） ：プロジェクト調整ユニット	Mrs. TAPSOBA Gisèle	中央プラトー地方局長
	Mr. NIKIEMA Barnaby	水資源課
	Mrs. TRAORE Denise	水資源課
	Mr. GNANKINI Moctar	水資源課
	Mrs. CARABIRI Rokiatou	水資源課
ウブリテンガ県局（DPAH/OTG）	Mr. ILBOUDO P. Barthélemy	ウブリテンガ県局長
	Mr. TENSABA Amadou François	水資源課
	Mr. SAGNA Idrissa	Dapélogo ZAT 長
	Mr. ZONGO R. Richard	Absouya ZAT 長
	Mr. OUATTARA Mori	Nagreongo ZAT 長
	Mr. MINOUNGOU Drissa	Loumbila ZAT 長
	SAMTOUMA B. Stranislas	Ourgou-Manéga ZAT 長
	Mr. ZOUNDOU Jean-Paul	Zitenga ZAT 長
	Mr. NIKIEMA Etienne	Ziniaré ZAT 長
クルウェオゴ県局（DPAH/KWG）	Mr. NAKOULMA Boukaré	クルウェオゴ県局長
	Mr. LAMIEN Banou	水資源課
	Mr. SANON Lucien	Toéghin ZAT 長
ガンズルグ県局（DPAH/GNZ）	Mr. OUEDRAOGO Eugène	ガンズルグ県局長
	Mr. OUEDRAOGO Alaye	水資源課
	Mrs. ILBOUDO Martine	Zorgho ZAT 長

中央プラトー地方関連省庁地方局

保健省中央プラトー地方局 (DRS/PCL)	COMPAORE Mathurin	保健・衛生課長
国民教育識字化省中央プラトー地方局 (DRABA/PCL)	DIABOUGA Yabré Joseph	フォーカルポイント

国別研修（本邦研修）参加カウンターパートリスト

研修コース名	研修員氏名・役職	研修期間
平成 21 年度（国別）「給水・衛生管理」（ブルキナファソ）	Ms.OUEDRAOGO Joséphine 衛生・汚水・廃棄物総局 衛生技術・施設開発局長	2010 年 1 月 25 日 ～2 月 14 日（21 日間）
	Ms.LOMPO Joanna Marie Delphine 中央プラトー地方局 水資源部長	
「ブルキナファソ国 中央プラトー地方給水施設管理・衛生改善プロジェクト」 平成 21 年度（ブルキナファソ国別研修）「給水・衛生管理（高官）」	Mr. COMPAORE Adama 農業・水利農業・水利省 事務次官	2010 年 1 月 29 日 ～2 月 6 日（9 日間）
	Mr. OUEDRAOGO M. Robert 農業・水利農業・水利省 作物生産総局長	
平成 22 年度（国別）「給水・衛生管理」（ブルキナファソ）	Mr.BINGBOURE Jean Mathieu 水資源総局・飲料水供給局長	2011 年 1 月 9 日 ～22 日（14 日間）
	Ms.TAPSOBA Gisèle 中央プラトー地方局長（プロジェクトコーディネーター）	
	Mr.MAIGA Moussa 調査・計画局長	
	Mr.PALENFO Fousséni 衛生・汚水・廃棄物総局・水質汚濁有害液体対策局長	
	Mr.NAKOULMA Boukaré 農業・水利農業・水利省、Kourwéogo 県局長	

c. 日本側の供与機材・携行機材リスト

No.	機材名	数量	供与先	調達先	状態
1	デスクトップパソコン HP COMPAQ + 無停電電源装置 Mercury	2	Bureau du PROGEA	BESSEL	設置済み、良好
		2	DRAH/PCL	BESSEL	設置済み、良好
		1	DPAH/OTG	BESSEL	設置済み、良好
		1	DPAH/KWG	BESSEL	未設置*
		1	DPAH/GNZ	BESSEL	設置済み、良好
		1	DGRE/DAEP	BESSEL	設置済み、良好
2	ノートブックパソコン TOSHIBA	1	DRAH/PCL	BESSEL	設置済み、良好
3	カラーレーザープリンタ HP Laserjet couleur 4650 A3	1	Bureau du PROGEA	BESSEL	設置済み、良好
		1	DRAH/PCL	BESSEL	設置済み、良好
		1	DGRE/DAEP	BESSEL	設置済み、良好
4	モノクロレーザープリンタ HP Laserjet P 2015	2	DRAH/PCL	BESSEL	設置済み、良好
		1	DPAH/OTG	BESSEL	設置済み、良好
		1	DPAH/KWG	BESSEL	未設置*
		1	DPAH/GNZ	BESSEL	設置済み、良好
5	コピー機 Canon IR 2016	1	DRAH/PCL	BESSEL	設置済み、良好
6	ビデオプロジェクタ EPSON EB-X6	1	DRAH/PCL	BESSEL	設置済み、良好
7	オートバイ YAMAHA YBR 125	9	9 コミューン (ZAT)	CFAO Burkina	設置済み、良好

注) DPAH/KWG へ設置予定のデスクトップパソコンならびにモノクロレーザープリンタは、同局への電気供給工事の実施が進んでいないため、未設置である。

補足) 上表の供与機材(プロジェクト現地調達分)は、2,071,000FCFA(邦貨:4,240,000円)。このほか、JICA ブルキナファソ事務所調達により車輛2台(9,119,290円)を調達。

d. 活動実施に係る投入

<日本側投入（第1・2年次：2009年8月～2011年5月）>

項目	金額 (第1年次 JPY)	金額 (第2年次 JPY)	計(第1・2年次 JPY)
備人費	3,030,058	2,756,221	5,786,279
機材保守・管理費	426,423	440,488	866,911
消耗品	1,490,426	1,418,445	2,908,871
旅費・交通費	627,288	1,842,035	2,469,323
通信運搬費	97,449	156,085	253,534
資料等作成費	727,958	2,321,474	3,049,432
借料損料	1,093,635	225,480	1,319,115
現地研修費	546,607	4,284,812	4,831,419
雑費	56,989	50,630	107,619
供与機材・携行機材購入費	4,248,460	183,000	4,431,460
報告書作成費	300,000	620,000	920,000
ローカルコンサルタント契約	11,942,426	29,753,894	41,696,320
会議費	24,120	46,342	70,462
計(JPY)	24,611,839	44,098,906	68,710,745

専門家派遣

担当	第1年次 M/M	第2年次 M/M	計
総括／組織能力強化1／村落給水	7.5	7.3	14.8
衛生改善計画・教育1	3.1	5.6	8.7
衛生改善計画・教育2	2.8		2.8
給水施設運営維持管理1	2.0	2.0	4.0
給水施設運営維持管理2	1.0	1.0	2.0
業務調整	2.0		2.0
業務調整/組織能力強化2	2.0		2.0
	18.4	17.9	36.3

C/P 国別研修（本邦研修）

研修名	人数	研修期間
平成21年度（国別）「給水・衛生管理」（ブルキナファソ）	2名	21日間
平成21年度（国別）「給水・衛生管理（高官）」（ブルキナファソ）	2名	9日間
平成22年度（国別）「給水・衛生管理」（ブルキナファソ）	5名	14日間

<ブルキナファソ側投入（第1・2年次：2009年8月～2011年5月）>

項目	金額 (第1年次 FCFA)	金額 (第2年次 FCFA)	計(第1・2年次 FCFA)
事務用品等購入		4,883,142	4,883,142
情報機器・消耗品		3,787,800	3,787,800
燃料費		1,000,000	1,000,000
車両等整備費		5,847,667	5,847,667
手当等		10,800,000	10,800,000
計(FCFA)	第1年次は投入されず	26,318,609	26,318,609

カウンターパート配置状況

機関	役職	人数
農業・水利省中央プラトー地方局 (DRAH/PCL)	地方局長(プロジェクトショナルコーディネーター)	1名
	水資源課職員(プロジェクト調整ユニット)	5名
農業・水利省ウブリテンガ県局 (DPAH/OTG)	県局長	1名
	水資源課職員	1名
	ZAT長	7名
	UAT職員	13名
農業・水利省クルウェオゴ県局 (DPAH/KWG)	県局長	1名
	水資源課職員	1名
	ZAT長	1名
	UAT職員	1名
農業・水利省ガンズルグ県局 (DPAH/GNZ)	県局長	1名
	水資源課職員	1名
	ZAT長	1名
	UAT職員	2名
水資源総局(DGRE)	飲料水供給局長	1名
衛生・汚水・廃棄物総局(DGAEUE)	衛生技術・施設開発局長	1名
	水質汚濁有害液体対策局長	1名
保健省中央プラトー地方局(DRS/PCL)	保健・衛生教育課長	1名
国民教育・識字化省中央プラトー地方局 (DREBA/PCL)	フォーカルポイント	1名

補足（その他のブルキナファソ側負担事項）

日本人専門家の為の事務所スペース及び光熱費	DGEUE（ワガドゥグ）及び DRAH/PCL 事務所（ジニアレ）内にプロジェクトオフィスが設置され、光熱費等がブルキナファソ側の予算から支払われている。
補助的人材（秘書、経理、ドライバー、ガードマン）等の雇用	2009 年に予算執行されなかったことから、補助的人材に関する人件費も執行されなかった。補助的人材に関しては日本側負担で雇用。
資料・情報の提供	給水施設インベントリーデータベース（INOH）や人口統計データ、リフォームに関する各種ドキュメント、既存の衛生教育マニュアル・教材が日本人専門家に提供された。
衛生設備に必要な一部資材	衛生設備整備については、プロジェクト対象 3 県の各村に家庭用及び公共トイレの整備を行った。

Annex-7 PDM案 ver.3

プロジェクトの要約	指標	指標の入手手段	外部条件
<p><b>(上位目標)</b> 中央プラトー地方における保健・衛生環境が改善される。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2015年までに改善された水源を継続的に利用できる人口の割合が現在の7割から8割以上になる。</li> <li>・ 2015年までに給水施設の常時稼働率が現在の7割から8割以上になる。</li> <li>・ 2015年までに住民の、水を取り巻く衛生行動が改善される。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 給水施設の管理システム改革に関する報告</li> <li>・ 農業・水利・水資源省水資源総局・衛生汚水排泄物総局(DGRE・DGAEUE)作成インベントリ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現在の水源が確保される。</li> <li>・ 給水施設維持管理システム改革に関する政策が変更されない。</li> <li>・ 給水システムの給水能力が現在のレベルを下回らない。</li> <li>・ 農業・水利省県局(DPAH)やコミュニティが、ZAT及びUATとともに啓発活動を行う人員及び予算面での体制を保证する。</li> </ul>
<p><b>(プロジェクト目標)</b> 対象コミュニティ(ウブリテンガ県全コミュニティ、ガンズルグ県とクルウェオゴ県のパイロットコミュニティ)の給水施設の維持管理状況及び住民の衛生行動が改善される。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 対象9コミュニティ(ウブリテンガ県全コミュニティ、ガンズルグ県とクルウェオゴ県のパイロットコミュニティ)の給水施設の稼働率が現在の7割から8割に向上する。</li> <li>・ 追加11コミュニティ(ガンズルグ県7コミュニティならびにクルウェオゴ県4コミュニティ)において、給水施設維持管理システム改革に基づく実施体制が構築される。</li> <li>・ パイロット3コミュニティ(ウブリテンガ県、ガンズルグ県及びクルウェオゴ県のパイロットコミュニティ)の住民の、水を取り巻く衛生行動(10項目)の少なくとも6割が改善される。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ プロジェクト報告書</li> <li>・ 給水施設インベントリ(INOH)</li> <li>・ 活動モニタリングシート</li> <li>・ プロジェクト報告書</li> <li>・ 活動モニタリングシート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 技術を習得した職員が勤務を継続する。</li> </ul>
<p><b>(成果)</b> 0. PDMの指標が確定する。</p>			
<p>1. 対象コミュニティで維持管理システムの改革に則った組織体制が整う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 対象コミュニティの9割以上のZAT・UAT普及員が研修を受講し、8割以上の普及員が確認テストに合格する。</li> <li>・ 2010年5月末までに、パイロット3コミュニティのAUEが形成される。</li> <li>・ 2011年2月までにパイロット3コミュニティと同コミュニティの8割の水利用者組合(AUE)との間で、給水施設運営維持管理にかかる協定が締結される。</li> <li>・ 2011年6月までにウブリテンガ県のパイロットコミュニティ以外のコミュニティのAUEが形成される。</li> <li>・ 2012年2月までにウブリテンガ県のパイロットコミュニティ以外のコミュニティと同コミュニティの8割のAUEとの間で、給水施設運営維持管理にかかる協定が締結される。</li> <li>・ 2012年5月までに、追加11コミュニティのAUEが形成される。</li> <li>・ 2012年12月までに、追加11コミュニティと同コミュニティの1AUEとの間で、給水施設運営維持管理にかかる協定が締結される。</li> <li>・ 2013年2月までに、対象コミュニティと同コミュニティの8割の給水ポンプ修理業者との間で、保守・点検にかかる委託契約が締結される。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ プロジェクトの活動報告</li> <li>・ AUE許認可証明書</li> <li>・ コミュニティ-AUE間の給水施設維持管理委託協定</li> <li>・ AUE許認可証明書</li> <li>・ コミュニティ-AUE間の給水施設維持管理委託協定</li> <li>・ AUE許認可証明書</li> <li>・ コミュニティ-AUE間の給水施設維持管理委託協定</li> <li>・ コミュニティ-給水ポンプ修理業者間の保守・点検巡回契約</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 技術を習得した職員が勤務を継続する。</li> <li>・ 研修を受講した職員が継続的にプロジェクトの活動に介入する。</li> <li>・ 給水施設の所有権がコミュニティに移譲される。</li> </ul>
<p>2. 村落組織の給水施設運営維持管理能力が強化される。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2011年11月末までに、ウブリテンガ県のパイロットコミュニティの7割以上のAUEがコミュニティに対し水料金の賦課金を支払えるようになり、7割以上の水場委員会(CPE等)が必要な水料金の7割を徴収できるようになる。</li> <li>・ プロジェクト終了時までに、パイロットコミュニティ以外のコミュニティの7割以上のAUEがコミュニティに対し水料金の賦課金を支払えるようになり、7割以上の水場委員会が必要な水料金の7割を徴収できるようになる。</li> <li>・ プロジェクト終了時までに、11追加コミュニティの7割以上のAUEが水料金の徴収・会計管理などの活動を開始する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ プロジェクトの活動報告</li> <li>・ 研修を受講した職員へのアンケート</li> <li>・ モニタリング評価報告書</li> <li>・ コミュニティに提出されるAUE活動報告書</li> </ul>	
<p>3. 給水施設運営維持管理にかかるスペアパーツ供給及び修理体制が改善される。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2012年10月までに、給水ポンプ修理業者がコミュニティより要請された保守・点検件数の6割以上に対応できるようになる。</li> <li>・ スペアパーツの交換に必要な情報(店舗情報、発注手順)を中央プラトー地方20コミュニティが所有している。</li> <li>・ 軽微な修理にかかる期間が1ヶ月以内に短縮される。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ モニタリング評価報告書</li> <li>・ モニタリング評価報告書</li> <li>・ コミュニティに提出される給水ポンプ修理業者報告書</li> </ul>	
<p>4. 中央プラトー地方のパイロット3コミュニティにおける村落住民の衛生行動が改善される。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 衛生改善の啓発・教育プログラム及びマニュアルが作成される。</li> <li>・ パイロット3コミュニティの村落で衛生啓発・教育プログラムの実施者(教員、保健所員、行政機関の衛生担当者、住民アニメーター)が600名以上育成される。</li> <li>・ パイロット3コミュニティの村落で衛生啓発・教育プログラムの実施者による衛生改善の啓発活動が毎年6回以上実施される。</li> <li>・ 公共衛生設備維持管理マニュアルを作成され、公共衛生設備・行動の管理システムが構築される。</li> <li>・ 公共衛生設備維持管理マニュアルに基づき、衛生施設・行動に係る、モニタリング・評価が各サイトにおいて年2回以上行われる。</li> <li>・ 公共衛生設備(学校等の公共トイレ)が住民自身によって維持管理される。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ プロジェクト報告書</li> <li>・ 作成されたマニュアル・ツール</li> <li>・ モニタリングシートならびに報告書</li> <li>・ 研修報告書</li> <li>・ モニタリングシート</li> <li>・ 作成されたマニュアル</li> <li>・ モニタリングシート</li> <li>・ プロジェクト報告書</li> <li>・ モニタリングシート</li> </ul>	
<p>5. 各県のDPAHが給水及び衛生状況のモニタリング・評価を実施し、コミュニティに対し支援が行えるようになる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2010年より年2回、各DPAHによる村落の給水施設稼働率、AUEの財務状況、水場委員会の水料金徴収率及び給水ポンプ修理業者の給水施設の保守・点検状況にかかるモニタリング・評価が実施される。</li> <li>・ 2010年より年2回、各DPAHによる衛生改善状況にかかるモニタリング・評価が実施される。</li> <li>・ モニタリング・評価の結果必要とされた支援・助言のうち7割が、各DPAHの指示に基づき実施される。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ プロジェクト報告書</li> <li>・ モニタリングシート</li> <li>・ プロジェクト報告書</li> <li>・ モニタリングシート</li> <li>・ プロジェクト報告書</li> <li>・ モニタリングシート</li> </ul>	

(活動)	(投入)	外部条件
<p>0-1) プロジェクト開始時における対象3県の給水率、施設稼働率、衛生設備普及率、マニュアル等の整備状況等を確認するため、ベースライン調査を実施する。</p> <p>1-1) 0-1)の調査結果を踏まえ、DRAH/PCLがZAT、UATに対する研修計画を立てる。</p> <p>1-2) 研修計画に基づき、必要に応じ、既存のマニュアルを改訂する。</p> <p>1-3) 3県で活動しているZAT・UATに対し、DPAHが給水施設運営維持管理能力強化プログラムの研修を実施する。</p> <p>1-4) DPAHがZAT・UATに対し研修の確認テストを実施する。</p> <p>1-5) 3県からパイロットコミュニティを各1箇所選定する。</p> <p>1-6) ZAT・UAT等がパイロットコミュニティにおける給水施設運営維持管理の方針について啓発活動を支援する。</p> <p>1-7) ZAT・UAT等が、パイロットコミュニティでAUEを形成を支援する。</p> <p>1-8) パイロットコミュニティのZAT・UAT等がコミュニティ-AUE間の協定及びコミュニティ-修理業者間の委託契約締結を促進する。</p> <p>1-9) ウブリテンガ県のパイロットコミュニティ以外のコミュニティについて、ZAT・UAT等がAUEを形成を支援する。</p> <p>1-10) ウブリテンガ県のパイロットコミュニティ以外のコミュニティについて、ZAT・UAT等がコミュニティ-AUE間の協定及びコミュニティ-修理業者間の委託契約締結を促進する。</p> <p>1-11) ZAT・UAT等が、11コミュニティでAUE形成を支援する。</p> <p>1-12) 11追加コミュニティについて、ZAT・UAT等がコミュニティ-AUE間の協定締結を促進する。</p>	<p><b>日本側</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 専門家派遣</li> <li>1. チーフアドバイザー(組織能力強化/村落給水)</li> <li>2. 衛生管理</li> <li>3. 給水施設運営維持管理</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ローカルコンサルタント・NGOとの活動契約(ZAT及びUATと共同での村落に対する組織形成促進活動)</li> <li>● 機材供与: 車両及び広報に必要な機材</li> <li>● 現地活動費: ベースライン調査費、給水施設運営維持管理の研修実施費、公共衛生設備整備費用</li> </ul>	
<p>2-1) パイロットコミュニティのZAT・UAT等が、同コミュニティのAUEに対する会計・財務管理業務、及び、水場委員会に対する水料金徴収を支援する。</p> <p>2-2) パイロットコミュニティ以外のZAT・UAT等が、それぞれのコミュニティのAUEが実施する会計・財務管理業務、及び、水場委員会に対する水料金徴収を支援する。</p> <p>2-3) 11追加コミュニティのZAT・UAT等が、それぞれのコミュニティのAUEが実施する会計・財務管理業務、及び、水場委員会に対する水料金徴収を支援する。</p>		
<p>3-1) 各県のDPAH等がポンプ種別スペアパーツ販売店の所在とその在庫状況を調査し、スペアパーツ供給にかかる問題点を抽出する。</p> <p>3-2) 各県のDPAH等がスペアパーツ供給にかかる問題点の改善策に基づき、スペアパーツの購入に必要な情報と手段を整理しとりまとめ、全コミュニティに共有する。</p> <p>3-3) 各県のDPAH等が給水ポンプ修理業者に対し給水ポンプ修理の講習を行う。</p>	<p><b>ブルキナファソ側</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● カウンターパートの配置</li> <li>● 補助的人材(秘書、経理、ドライバー、ガードマン等)の雇用</li> <li>● 専門家及びプロジェクトスタッフのための事務所スペースと光熱費</li> <li>● 資料・情報の提供</li> <li>● 衛生設備整備に必要な一部の資材</li> </ul>	
<p>4-1) MAHの衛生汚水排泄物総局が保健省及び国民教育・識字化教育省の地方局と協力し、既存の衛生啓発プログラム及び実施体制を参考にしつつ、衛生改善の啓発・教育プログラム及び教材を作成する。</p> <p>4-2) 保健省及び国民教育・識字化教育省の地方局がパイロットコミュニティにおいて、衛生啓発・教育の実施者(学校教員、保健所員、行政機関の衛生担当者、住民アニメーター等)に対し4-1)で作成した教材に基づき研修を行う。</p> <p>4-3) 衛生啓発・教育の実施者がパイロットコミュニティの村落で、衛生改善の啓発・教育プログラムを実施する。</p> <p>4-4) 保健省及び国民教育・識字化教育省の地方局と共に公共衛生設備維持管理マニュアルを作成する(このマニュアルにより公共衛生設備が管理されているかチェックをするシステムを構築する)。</p> <p>4-5) 衛生啓発・教育の実施者が公共衛生設備を維持管理する住民組織の形成を支援する。</p>		
<p>5-1) 各DPAHが給水及び衛生改善状況にかかる情報収集が必要な項目のリスト、データ記入用のフォーム等を作成する。</p> <p>5-2) 対象コミュニティがAUEから給水及び衛生改善状況に係る情報を収集し、DPAHに報告する。</p> <p>5-3) 各DPAHが技術面での情報提供及び技術者の派遣等を行う関係機関の支援体制を構築する。</p>		

## 評価グリッド

1-1. 実績と実施プロセスの検証		
Items	Assessment Criteria	Findings of the study (○: positive ■: challenge)
上位目標達成の達成見込み		
中央プラトー地方における保健・衛生環境が改善される。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2015年までに改善された水源を継続的に利用できる人口の割合が現在の7割から8割以上になる。</li> <li>・2015年までに給水施設の常時稼働率が現在の7割から8割以上になる。</li> <li>・2015年までに住民の水を取り巻く衛生行動が改善される。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 以下の理由から上位目標達成の可能性はある。 <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 国家計画であるPN-AEPAで推進されている給水施設建設計画が順調に進んでいる。中央プラトー地方の安全な水のアクセス率は2009年の69.9%から2010年には71.45%に改善された。</li> <li>➢ 他ドナーが本プロジェクトの非対象地域でReforme促進事業実施の可能性がある。</li> <li>➢ 本プロジェクトはパイロットプロジェクトとして位置づけられており、その成果の確認後「ブ」国側で展開方法、制度不備の是正等が検討される予定となっている。</li> <li>➢ 衛生啓発・教育コンポーネントに関して、本プロジェクトで作成された教材・マニュアル類が、農業・水利省によって全国展開のモデルとして認定されたことは持続性の確保として期待される。</li> </ul> </li> <li>■ 他方でプロジェクトの成果の全国への展開計画は決まっていない。</li> <li>■ 本プロジェクトは中央プラトー地方全20コミュニティのうち、9コミュニティのみの活動であり、その効果も限定的である。</li> </ul>
プロジェクト目標の達成見込み		
対象コミュニティ(ウブリテンガ県全コミュニティ、ガンズルグ県とクルウェオゴ県のパイロットコミュニティ)の給水施設の維持管理状況及び住民の衛生行動が改善される。	<p>【PDM指標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 対象9コミュニティ(ウブリテンガ県全コミュニティ、ガンズルグ県とクルウェオゴ県のパイロットコミュニティ)の給水施設の稼働率が現在の7割から8割に向上する。</li> <li>2) パイロット3コミュニティ(ウブリテンガ県、ガンズルグ県及びクルウェオゴ県のパイロットコミュニティ)の住民の水を取り巻く衛生行動(10項目)の少なくとも6割が改善される。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 以下の理由から、給水施設の稼働率の改善に関するプロジェクト目標が達成する可能性は非常に高い。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 給水施設維持管理については、パイロットコミュニティで既に維持管理の為の具体的な活動(資金の積み立て、賦課金の納入、修理業者との契約)がほぼ完了。</li> <li>・ ポンプ故障時のReformeで想定されている活動も実施済みであり、3年次はC/Pを中心に構築した給水施設維持管理システムの定着を目指す。</li> </ul> </li> <li>○ 衛生行動に関し、現状調査は実施済み。現在データ整理を実施中。10項目のモニタリングに関する活動は第3年次以降に予定されている。</li> <li>■ 住民アニメーターのモチベーションの維持や活動の定着は今後要検討課題となっている。</li> </ul>

成果の達成度																
成果 0:PDM の指標が確定する。		○ 2010年9月の第2回合同調整委員会においてPDM指標について議論があり、タスクフォースでの議論を経て、衛生改善計画・教育に関する指標を中心に修正が行われた。														
成果 1:対象コミュニティで維持管理システムの改革に則った組織体制が整う。	<p><b>【PDM 指標】</b></p> <p>1) 対象コミュニティの9割以上のZAT・UAT普及員が研修を受講し、8割以上の普及員が確認テストに合格する。</p>	<p>○ DRAHのZAT/UAT職員研修後に理解度確認テストを実施。</p> <p>○ ZAT、UAT共に設定された基準(70点)を大きくクリアした成績となっている。以下は試験受験者数及び平均点である。</p> <p style="text-align: center;">確認テスト結果</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th></th> <th>第1年次</th> <th>第2年次</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>受験者数</td> <td>31</td> <td>63</td> </tr> <tr> <td>平均点</td> <td>78</td> <td>81.4</td> </tr> </tbody> </table>		第1年次	第2年次	受験者数	31	63	平均点	78	81.4					
	第1年次	第2年次														
受験者数	31	63														
平均点	78	81.4														
	2) 2010年5月末までに、パイロット3コミュニティのAUEが形成される。	<p>○ 2年次終了時点でパイロットコミュニティの全79の村落で、計80のAUEが設立された。各コミュニティの設立AUE数は以下の通り。</p> <p style="text-align: center;">パイロットコミュニティでの設立されたAUE数</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>コミュニティ</th> <th>設立AUE数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Toeghin</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>Dapelogo</td> <td>29</td> </tr> <tr> <td>Zorgho</td> <td>33</td> </tr> </tbody> </table> <p>○ また2011年5月時点で設立されたAUEのうち79AUEが県知事が組合法に基づき認定・交付する認定書を取得した。</p>	コミュニティ	設立AUE数	Toeghin	18	Dapelogo	29	Zorgho	33						
コミュニティ	設立AUE数															
Toeghin	18															
Dapelogo	29															
Zorgho	33															
	3) 2011年2月までにパイロット3コミュニティと同コミュニティの8割の水利用者組合(AUE)との間で、給水施設運営維持管理にかかる協定が締結される。	<p>○ 2011年3月までにZorghoコミュニティのZempassogo村を除く全AUEがコミュニティと給水施設維持管理委託協定の締結を行った。</p> <p>○ Torghinコミュニティでは全てのAUEの口座が信用金庫(BTEC)に開設された。</p>														
	4) 2011年6月までにウブリテンガ県のパイロットコミュニティ以外のコミュニティのAUEが形成される。	<p>○ 2011年5月には対象コミュニティ(パイロットコミュニティ以外のコミュニティ)において全190の対象村落でAUEの設立支援活動が完了した。各コミュニティのAUE数は以下の通り。</p> <p style="text-align: center;">対象コミュニティにおいて設立されたAUE</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>コミュニティ</th> <th>設立AUE数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Ziniare</td> <td>49</td> </tr> <tr> <td>Absouya</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td>Nagreongo</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td>Zitenga</td> <td>46</td> </tr> <tr> <td>Ourgou-Manega</td> <td>28</td> </tr> <tr> <td>Loumbilla</td> <td>30</td> </tr> </tbody> </table>	コミュニティ	設立AUE数	Ziniare	49	Absouya	19	Nagreongo	19	Zitenga	46	Ourgou-Manega	28	Loumbilla	30
コミュニティ	設立AUE数															
Ziniare	49															
Absouya	19															
Nagreongo	19															
Zitenga	46															
Ourgou-Manega	28															
Loumbilla	30															

	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ AUE 設立活動の過程では、多くの課題、問題があったが、専門家チームを中心に C/P、コミュニティ、ローカルコンサルタントが協力し、対応し問題解決に導いた。</li> <li>○ 2011 年 4 月に日本人専門家が政情不安により帰国後は、ローカルコンサルタントチームと DRAH/PCL が連携し、2011 年 5 月中旬には全村落で AUE が設立された。</li> </ul>																
5) 2012 年 2 月までにウブリテンガ県のパイロットコミュニティ以外のコミュニティと同コミュニティの 8 割の AUE との間で、給水施設運営維持管理にかかる協定が締結される。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 成果達成に向けて活動が実施されている。具体的には、給水施設維持管理協定に関する研修を含む AUE 研修を全対象コミュニティで実施している。</li> <li>○ コミュニティ、AUE 共に水源確保及び課題であった維持管理の解決策として本プロジェクトに対し高い期待を寄せており、高いモチベーションを示している。</li> </ul>																
6) 2013 年 2 月までに、対象コミュニティと同コミュニティの 8 割の給水ポンプ修理業者との間で、保守・点検にかかる委託契約が締結される。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 成果達成に向けて活動が実施されている。具体的には、2011 年 10 月、2012 年 1 月に第 2 回、第 3 回 AUE 研修の実施を予定している。</li> </ul>																
<p>成果 2: 村落組織の給水施設運営維持管理能力が強化される。</p> <p><b>【PDM 指標】</b></p> <p>1) 2011 年 11 月末までに、ウブリテンガ県のパイロットコミュニティの 7 割以上の AUE がコミュニティに対し水料金の賦課金を支払えるようになり、7 割以上の水場委員会 (CPE 等) が必要な水料金の 7 割を徴収できるようになる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各パイロットコミュニティにアニメーター 1 名を配置し、コミュニティレベルでの行政官と共に賦課金集金を含む給水施設維持管理活動の支援が行われている。</li> <li>○ 2011 年 5 月時点で賦課金納入を開始した AUE は計 21 にのぼる。特に Dapelogo は約 68% の AUE が既に賦課金納入を開始している。また合同レビュー調査団は Toeghin 及び Zorgho の両コミュニティにおいても賦課金納入が 3 年次に入り進んでいる事を確認した。以下は 2011 年 9 月時点でのパイロットコミュニティでの賦課金を開始した AUE の数及びその合計額を纏めたものである。</li> </ul> <p style="text-align: center;">賦課金を開始した AUE の数及びその合計額 (単位: FCFA)</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th></th> <th>Dapelogo</th> <th>Toeghin</th> <th>Zorgho</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>AUE からコミュニティに納入された賦課金の金額</td> <td style="text-align: center;">1,060,000</td> <td style="text-align: center;">620,000</td> <td style="text-align: center;">900,000</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 利用者からの水料金の支払いについては、Dapelogo 及び Toeghin コミュニティでは全 AUE が徴収を開始しており、Zorgho コミュニティについても、30 コミュニティが開始している。利用者から支払われた水料金金額の合計は以下の通りである。</li> </ul> <p style="text-align: center;">支払われた水料金金額 (単位: FCFA)</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th></th> <th>Dapelogo</th> <th>Toeghin</th> <th>Zorgho</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>利用者から支払われた水料金金額の合計</td> <td style="text-align: center;">5,523,425</td> <td style="text-align: center;">4,633,500</td> <td style="text-align: center;">4,203,375</td> </tr> </tbody> </table>		Dapelogo	Toeghin	Zorgho	AUE からコミュニティに納入された賦課金の金額	1,060,000	620,000	900,000		Dapelogo	Toeghin	Zorgho	利用者から支払われた水料金金額の合計	5,523,425	4,633,500	4,203,375
	Dapelogo	Toeghin	Zorgho														
AUE からコミュニティに納入された賦課金の金額	1,060,000	620,000	900,000														
	Dapelogo	Toeghin	Zorgho														
利用者から支払われた水料金金額の合計	5,523,425	4,633,500	4,203,375														

	2) プロジェクト終了時まで、パイロットコミュニティ以外のコミュニティの7割以上のAUEがコミュニティに対し水料金の賦課金を支払えるようになり、7割以上の水場委員会が必要な水料金の7割を徴収できるようになる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 2年次までに全村落でAUEの設立を達成。3年次には以下の活動が予定されている。 <ul style="list-style-type: none"> <li>- 対象コミュニティ第2回AUE研修</li> <li>- 対象コミュニティ第3回AUE研修</li> </ul> </li> <li>○ 上記の活動を通し、賦課金の支払い、水料金の徴収に関する活動が進められていく予定である。</li> </ul>
成果3: 給水施設運営維持管理にかかるスペアパーツ供給及び修理体制が改善される、	<p>【PDM指標】</p> <p>1) 2012年10月までに、給水ポンプ修理業者がコミュニティより要請された保守・点検件数の6割以上に対応できるようになる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 成果達成に向けて着実に活動が実施されている。</li> <li>○ 2年次終了時点での主な活動実績は以下の通り。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ポンプ・スペアパーツ・修理工に関する情報収集及び整理</li> <li>・ ポンプ修理工対象のReformeワークショップの開催</li> <li>・ ポンプ修理工の認可</li> <li>・ ポンプ修理工の能力強化研修(含む組合の組織化)</li> </ul> </li> <li>○ ポンプ修理工は積極的にプロジェクトに関与していることが確認できた。またプロジェクトの成果及びその効果に対し高い関心を示している。</li> <li>○ ポンプ修理工は研修を通じて、スペアパーツの仕入れ価格と販売価格の計算方法、予防的巡回点検の価格の計算方法を習得した。</li> <li>○ ポンプ修理工組合を組織、強化したことにより、ポンプ修理工の横の連携を生み出している。</li> <li>○ また技能レベル、所有する機材によってLevel1とLevel2と異なる営業認可をDRAH/PCLが付与することにより、Level1とされた修理工の技能習得に対するモチベーションが生まれた。 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ ポンプ修理工のほとんどが読み書き・計算ができず、長期的な課題となっている。</li> <li>■ ポンプ修理工の活動は県単位で展開している一方で、プロジェクト支援対象コミュニティは全県ではないため、混乱が生じている場合がある。</li> </ul> </li> </ul>
	2) スペアパーツの交換に必要な情報(店舗情報、発注手順)を全コミュニティが所有している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 以下の通りパイロットコミュニティに対する第2年次まで予定されていた活動は順調に実施されている。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ポンプ機種別スペアパーツ流通経路、販売店網、在庫保管等のデータ整理</li> <li>・ スペアパーツ流通網のデータ更新と情報共有</li> <li>・ パーツ供給網改善計画の検討</li> </ul> </li> </ul>
	3) 軽微な修理にかかる期間が1ヶ月以内に短縮される。	本指標に関する活動は3年次以降に予定されており、現時点で評価不能。
成果4: 中央プラトー地方のパイロット3コミュニティにおける村落住民の衛生行動が改善され	<p>【PDM指標】</p> <p>1) 衛生改善の啓発・教育プログラム及びマニュアルが作成される。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 現地ヒアリングにおいてプロジェクトで作成されたマニュアルが活用されていることが確認された。特に識字レベルを考慮し作成されたPHASTカードは研修参加者の評価が高い。</li> <li>○ 衛生行政指導者用マニュアルが作成された。また実際に活用後利用者からのフィード</li> </ul>

る。		<p>ドバックを得て、1年次終了時に改訂され、2年次には改訂版が活用されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 住民衛生アニメーター及び教員用ガイドが作成された。また活用後の利用者からのフィードバックを基に1年次終了時に適宜改訂が行われ、2年次には改訂版が活用されている。</li> <li>○ 衛生設備管理マニュアルが策定され、1年次終了時に改訂が行われ、2年次には改訂版が活用されている。</li> <li>○ PHAST ツールが作成され、1年次終了時に改訂が行われ、2年次には改訂版が活用されている。</li> </ul>								
	2) パイロット 3 コミューンの村落で衛生啓発・教育プログラムの実施者(教員、保健所員、行政機関の衛生担当者、住民アニメーター)が 600 名以上育成される。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ カスケード方式で衛生啓発プログラムの実施者の育成が進められている。</li> <li>○ 行政指導者研修により、行政スーパーバイザー(地方、県レベルの各省職員)、行政指導者(県、コミュニティの各省職員)に対し 5 日間の研修を実施。</li> <li>○ 研修を受けた行政指導者が 2 日間の住民衛生アニメーター用研修及び衛生教育教員研修を実施した。</li> <li>○ 2011 年 5 月時点で育成された人材は以下の通りとなっている。</li> </ul> <p style="text-align: center;">衛生啓発・教育プログラムの実施者数(人)</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>衛生行政指導者</td> <td>58</td> </tr> <tr> <td>住民衛生アニメーター</td> <td>430</td> </tr> <tr> <td>小学校教員</td> <td>400</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>888</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 行政指導者には通常の人事異動があり、活動の持続性を確保する為の制度作りが求められる。</li> <li>○ 初等教育では衛生教育は公民・道徳教育の一環として取り上げられている内容であり、また 2009 年に策定された教科外教育の新設課題 8 テーマの 1 つとしても位置づけられている。そのカリキュラムの中に組み込むことで持続性が担保されている可能性が高い。</li> <li>■ 育成された衛生アニメーターは無給で活動に参加しており、持続性の観点から課題を残している。</li> </ul>	衛生行政指導者	58	住民衛生アニメーター	430	小学校教員	400	合計	888
衛生行政指導者	58									
住民衛生アニメーター	430									
小学校教員	400									
合計	888									
	3) パイロット 3 コミューンの村落で衛生啓発・教育プログラムの実施者による衛生改善の啓発活動が毎年6回以上実施される。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 研修を受けた住民衛生アニメーター及び衛生教育教員は各村落、学校において衛生啓発・教育活動を実施する(2011年9月時点で、村落地域で合計参加人数 14,268 人を対象に 436 回、学校では 309 クラスを対象に 388 回実施)。</li> <li>○ 学校における衛生啓発・教育活動は開始されている。視学官、教育指導員が啓発活動を巡回しフォローアップを実施している。</li> <li>○ 行政指導者は衛生アニメーターの啓発活動に関し、フォローアップを行っており質の確保を行っている(フォローアップ回数は月 3 回)。</li> <li>■ 啓発活動を通して確認された課題として、以下が指摘されている。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ アニメーターのモチベーションの維持が困難</li> </ul> </li> </ul>								

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 住民の衛生に対する低い関心(特に男性の関心が低い)</li> <li>・ 深井戸、トイレがない地域での衛生活動実施の困難さ</li> <li>・ 一部アニメーターの技能・知識</li> </ul>
	4) 公共衛生設備維持管理マニュアルが作成され、公共衛生設備・行動の管理システムが構築される。	○ 2010年4月に行政指導者(農業・水利省、保健省、国民教育・識字省の地方・県局の職員)を利用者として位置づけた「衛生行動・設備管理マニュアル」(公共衛生設備維持管理マニュアル)が策定された。
	5) 公共衛生設備維持管理マニュアルに基づき、衛生施設・行動に係る、モニタリング・評価が各サイトにおいて年2回以上行われる。	○ マニュアルは既に作成されており、3年次にモニタリング体制の構築が実施される予定となっている。 ○ 各地方、県局レベルで共通のデータベースの構築を進めている。
	6) 公共衛生設備(学校等の公共トイレ)が住民自身によって維持管理される。	本指標に関する活動は3年次以降に予定されており、現時点で評価不能。
成果5:各県のDPAHRHが給水及び衛生状況のモニタリング・評価を実施し、コミュニティに対し支援が行えるようにする。	【PDM指標】 1) 2010年より年4回、各DPAHRHによる村落の給水施設稼働率、AUEの財務状況、水場委員会の水料金徴収率及び給水ポンプ修理業者の給水施設の保守・点検状況にかかるモニタリング・評価が実施される。	○ 持続可能なモニタリング体制の構築を目指し、より現状に即したモニタリング手法の導入が実施されている。具体的には以下の2通りが検討されている。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ AUEからコミュニティ及びZAT/UATへの給水維持管理に関する報告</li> <li>・ AUE活動に係る問題発生時の際の携帯電話を活用したAUE、行政官及びポンプ修理工との連絡網の整備</li> </ul> ○ モニタリング項目は、AUEの財務状況とポンプの維持管理状況に限定し、インパクトにかかる情報収集はローカルコンサルタントに委託。また第3年次以降はZAT/UATが主担当として実施の予定となっている。 ○ DPAH、ZAT/UATの担当業務及びモニタリング業務の負荷を考慮し、年4回のモニタリング実施は困難との認識から、年2回とする方向で調整が進められている。
	2) 2010年より年4回、各DPAHRHによる衛生改善状況にかかるモニタリング・評価が実施される。	○ 持続可能なモニタリング体制の構築を目指し、より現状に即したモニタリングが検討されている。 ○ 第3年次には、村落で2ヶ月に1度、学校へは年4回のモニタリング・評価を予定している。
	3) モニタリング・評価の結果必要とされた支援・助言のうち7割が、各DPAHRHの指示に基づき実施される。	第3年次以降の活動の為、現時点で評価不能。
投入実績		
日本側投入	(計画) 日本人専門家の派遣(チーフアドバイザー、衛生改善、給水施設運営維持管理、その他) プロジェクトの有効な実施に向けて必要な機材	○ 日本側投入は予定通り実施されている。 ○ 日本人専門家についてはチーフアドバイザー以下計7名が現地で活動を行った。現地派遣期間(M/M)は以下の通り。

(車両、モーターバイク、情報機器、その他必要  
機材)

日本人専門家の現地投入人月(M/M)

	1年次	2年次
実績	18.4	17.6

- 2011年4月の治安悪化による国外一時退避措置の為、2年次の専門家活動期間が短縮された影響は限定的であった。
- 総額 2,071,000FCFA(邦貨:4,240,000円)の機材供与(以下供与機材リスト参照)が行われた。供与機材は活用されている。

供与機材リスト

機材名	数量	供与先
デスクトップパソコン	2	Bureau du PROGEA
無停電電源装置	2	DRAH/PCL
	1	DPAH/OTG
	1	DPAH/KWG
	1	DPAH/GNZ
	1	DGRE/DAEP
ノートブックパソコン	1	DRAH/PCL
カラーレーザープリンタ	1	Bureau du PROGEA
	1	DRAH/PCL
	1	DGRE/DAEP
モノクロレーザープリンタ	2	DRAH/PCL
	1	DPAH/OTG
	1	DPAH/KWG
	1	DPAH/GNZ
コピー機	1	DRAH/PCL
ビデオプロジェクター	1	DRAH/PCL
オートバイ	9	9 コミューン (ZAT)

- JICA 本部及びブルキナファソ事務所による支援実績は以下の通りとなっている。

		JICA 本部及びブルキナファソ事務所による援助												
		摘要	支出元	金額 (円)										
		1 年次	C/P 日本研修 (一般)	JICA 本部	5,157,806									
			C/P 日本研修 (高官 2 名)	JICA 本部	3,775,204									
			供与機材 (車両 2 台)	JICA 事務所	9,119,290									
			ジニアレ事務所整備費	JICA 事務所	1,648,435									
		2 年次	C/P 日本研修 (一般)	JICA 本部	7,562,853									
			車両・バイク保険料・維持管理費	JICA 事務所	376,526									
ブルキナファソ側投入	(計画) ・ カウンターパートの配置 ・ 補助的人材(秘書、経理、ドライバー、ガードマン)等の雇用 ・ 日本人専門家の為の事務所スペース及び光熱費 ・ 資料・情報の提供 ・ 衛生設備整備に必要な一部資材	○ ブルキナファソ側の投入は概ね計画通り実施された。 ○ C/P は MAH 中央部局に 5 名、MAH 中央プラトー地方局に 20 名、中央プラトー地方関連省庁地方局に 4 名が配置されている。また、C/P(中央プラトー地方局長以下、各県局長、ZAT/UAT 職員)に異動はない。 ○ 2010 年度の予算は以下の通りである。 2010 年度のブルキナファソ側予算(執行分)(FCFA) <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>金額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人件費(手当等)</td> <td>10,800,000</td> </tr> <tr> <td>事務用機器</td> <td>4,883,142</td> </tr> <tr> <td>情報機器</td> <td>3,787,800</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>19,470,942</td> </tr> </tbody> </table> ■ ブルキナファソ国側の予算執行の問題(2009 年度予算が計上されなかった)から、補助的人材の配置がプロジェクト開始時に行われず、結果プロジェクト予算により支給されている。 ○ DGEUE(ワガドゥグ)及び DRAH/PCL 事務所(ジニアレ)内にプロジェクトオフィスが設置されている。 ○ 給水施設インベントリーデータベース(INOH)や人口統計データ、リフォームに関する各種ドキュメント、既存の衛生教育マニュアル・教材が日本人専門家に提供された。 ○ 予算執行に多少の遅れはあるものの、概ね予定通り実施された。 ○ 中央プラトー地方局(水資源課職員)に異動があったものの、後任の補充が適宜行われており、プロジェクト実施に支障はない。 ○ 衛生設備整備については、プロジェクト対象 3 県の各村にブルキナファソ国側が世帯用及び公共トイレの整備を行った。			項目	金額	人件費(手当等)	10,800,000	事務用機器	4,883,142	情報機器	3,787,800	合計	19,470,942
項目	金額													
人件費(手当等)	10,800,000													
事務用機器	4,883,142													
情報機器	3,787,800													
合計	19,470,942													

Implementation Process	
Progress on activities	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1年次、2年次に計画された各活動は概ね活動は順調に進んでいる。</li> <li>○ 促進要因としては以下が挙げられる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ プロジェクトチームとC/Pとの密接なコミュニケーション</li> <li>・ ナショナルコーディネーターを中央プラトー地方局長が兼務することにより、プロジェクトに対し高いオーナーシップを得ることが出来た</li> <li>・ 活動自体が国家政策であるReformeの適用化に完全に合致していることも促進要因</li> <li>・ Reforme策定に関与した現地コンサルタントへの現地再委託契約</li> <li>・ 現場レベルでの日本人専門家、行政、現地コンサルタントとの連携</li> </ul> </li> </ul>
Management System for the Project	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 合同調整委員会は現在までに3度開催されており、最終意思決定機関として機能している。</li> <li>■ 日本側の各年度の投入金額に関し、その決定プロセスにブルキナファソ側が関与していないことに対し不満が表明された。</li> </ul>
Technical Transfer	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 行政担当者(主にDRAH/PCL及びコミューン)へのReforme促進にかかる技能は確実に移転している。</li> </ul>
Commitment and Ownership by MAH and other C/Ps	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ プロジェクト実施に関する実質的なC/PであるDRAH/PCLは高いオーナーシップを示している。</li> <li>○ MAHは主に政策面からReforme実用化のパイロットプロジェクトである本件に高い関心を示し、日本人専門家チームとも密接に情報共有を行っている。</li> <li>○ DRAH/PCLはプロジェクト実施におけるC/Pとして、「PROGEAは我々のプロジェクトである」との意識のもと率先して貢献している。</li> </ul>
Other stakeholders involvement and understanding of the Project	<p>フランスの地方自治体がウブリテンガ県の3コミューンを対象に、PROGEAで作成した教材及び手法を取り入れ衛生教育を実施している。</p>
Factors to yield project effects or prevent the project from yielding effects	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 日本人専門家がフランス語に精通し、西アフリカフランス語圏で活動実績を有していることから、C/Pとのコミュニケーションという面で効果的であった。</li> <li>○ 日本人専門家チームは現場に出て、率先して動くという姿勢を常に示していることが現地で評価されている。</li> <li>○ Reforme策定に関わった現地コンサルタントへの再委託を行ったことは現場レベルでの活動を促進した主な理由となった。</li> <li>■ 2年次最初にC/Pがほぼ総入れ替えになったこと、治安問題により2年次の現地活動期間が1ヶ月短縮したことはプロジェクトに若干の影響を与えた。</li> </ul>
Cooperation with other ODA projects/donor cooperation	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 衛生啓発・教育に関し、JOCV(2名の水の防衛隊員)との連携が行われている。</li> <li>○ 学校運営委員会支援プロジェクト(PACOGES)の対象地域のうち中央プラトー地方において連携が行われている。</li> </ul>

1-2. Evaluation by the Five Criteria		
Items	Indicators	Findings of the Study (○: positive, ■: challenges)
<b>Relevance: High</b>		
Consistency with Burkina Faso National Policy	Is the Project consistent with the development policy in Burkina Faso?	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ AUE の形成、給水担当者の能力強化等を打ち出している「ブ」国側の国家計画である「飲料水・衛生供給国家計画 (PN-AEPA)」及び「村落・準都市部の飲料水供給水利施設の管理システム改革方針」に変化はない。</li> <li>○ 毎年 PN-AEPA 年次会合が開催され、進捗、課題について協議されている。</li> <li>○ プロジェクト対象地域である MAH 中央プラトー地方局は「PROGEA を我々のプロジェクト」であると考え、高いオーナーシップを示している。</li> </ul>
Appropriate approach	Is the Project an appropriate mean to achieve improvement of operation and maintenance of water facilities and sanitation & hygiene behavior?	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 給水施設維持管理活動及び衛生行動の改善は「人づくりプロジェクト」であり、課題を少しずつ解決・克服することで実現していくものである。</li> <li>○ 住民理解がプロジェクト成功の鍵であり、活動の方向性は正しいと考えられる。</li> </ul>
	Is the process of establishing AUE appropriate?	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ プロジェクトが採用した AUE 設立に関する活動は現地状況、プロジェクトの特異性に鑑み適切だと考えられる。</li> <li>○ 現地情報に精通したローカルコンサルタントを雇用することで、無用な混乱、反発を防ぐことが出来た。</li> <li>○ コミューン毎に問題は異なり、それぞれで専門家チーム、C/P、コミュニン関係者、ローカルコンサルタントが協議し解決にあたってきた。</li> </ul>
	Was the selection of target communes appropriate?	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 無償資金協力を実施していたこと、日本政府が出資の UNICEF プログラムとの連携からも中央プラトー地方をプロジェクト実施地域としたことは適切であった。</li> <li>○ コミューン、村落の立地、条件も様々であり、それぞれの特性に応じたアプローチを検討する上でも適切であった。</li> </ul>
Consistency with the cooperation policy of Government of Japan and JICA toward Burkina Faso	Is the Project consistent with the focal themes of Japanese ODA to Burkina Faso and JICA's country strategy?	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 日本側の ODA 政策に変更はない。</li> <li>○ プロジェクトの上位目標は JICA の対ブルキナファソ援助方針に合致している。</li> </ul>
Others	Demarcation with other donors/demarcation with other JICA projects	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ PN-AEPA では MAH 主導によるドナーマッピングが行われている。日本は中央プラトー地方と南部中央地方への支援を期待されている。</li> </ul>

	Environmental changes surrounding the Project, such as national policy and economic and social aspects	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 政府政策に変更はなく、Reforme の実施は MAH 内でも優先度の高い政策として位置づけられている。</li> <li>■ 2011 年 2 月に発生した混乱により、日本人専門家が国外退避となった。</li> </ul>
<b>Effectiveness : High</b>		
Project purpose is achievable	Is Project purpose achievable by the end of the Project?	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 給水施設の稼働率の改善に関するプロジェクト目標が達成する可能性は非常に高い。</li> <li>○ 給水施設維持管理については、パイロットコミュニティのほぼ全ての村落で AUE が設立されており、また維持管理の為に具体的な活動(資金の積み立て、賦課金の納入、修理業者との契約)がほぼ完了。ポンプ管理者の選定についても終了している。</li> <li>○ 今後 3 年次、4 年次を通してフォローアップを行いながら、給水施設維持活動の浸透、制度化をはかっていく。</li> <li>○ 修理工組合との連携も順調に進んでいる。</li> <li>■ 衛生行動の変容については、活動の効果がプロジェクト期間内に発現することは容易ではない。今後 3 年次、4 年次での活動に期待される。</li> <li>■ 特に住民アニメーターのモチベーションの維持や活動の定着が課題であるとの認識は関係者一致しており、要検討課題となっている。</li> </ul>
	What are factors to promote the Project purpose?	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ Reforme という国家政策に沿ったプロジェクトであり、C/P を含め「ブルキナファソのプロジェクトである」との認識が高い。</li> <li>○ このため、ブルキナファソ側の体制は中央プラトー地方局長が責任者となっており、高いコミットメントを示している。</li> <li>○ 日本人専門家がフランス語に精通し、西アフリカフランス語圏で活動実績を有していることから、C/P とのコミュニケーションという面で効果的であった。</li> <li>○ Reforme 策定に関わったローカルコンサルタント(ANTEA 社)が現場レベルで高いパフォーマンスを示している。</li> </ul>
	What are factors to prevent the Project from achieving project purpose?	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 大きな課題・障壁は確認されていない。</li> <li>■ 他方で AUE 設立に際して村落レベルでの課題が散見された。特に既存の水場委員会が機能している村落において、新しいシステム導入には反発が強かった。</li> </ul>
Causal Relations between Outputs and Project Purpose	Are outputs sufficient level?	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 順調に成果を達成しつつある。</li> <li>○ 対象 6 コミュニティの AUE 強化、ポンプ修理工による実際の修理、スペアパーツ供給体制の確立といった 3 年次、4 年次に想定されている活動を、現在の体制、モメンタムで継続することにより、達成可能性が高いと考えられる。</li> </ul>
	Are outputs produced enough in order to achieve the Project purpose?	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 給水施設の維持管理状況の改善については、活動を行うことで達成される可能性が高い。</li> <li>■ 衛生活動の改善については、衛生行動の変容を実現する為に一層の工夫が期待される。特にプロジェクト終了後の活動の継続性について懸念がある。</li> </ul>

Changes and influence of preconditions and external conditions	Identify preconditions and external conditions effect on the Project. Actual impacts of preconditions and external conditions	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 技能を修得した行政官の多くは勤務を継続している。</li> <li>○ 研修を受講した行政官はプロジェクト活動に関与し続けている。</li> <li>○ 2009年1月に県知事より給水施設の所有権がコミュニティに委譲された。</li> </ul>
<b>Efficiency: Relatively High</b>		
Causal relations between Japanese inputs and Project activities and outputs (Outputs reflects on Japanese inputs)	Were the number of JICA experts and their expertise and the timing of dispatching them appropriate?	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 日本人専門家の人数、派遣タイミングに問題はない。</li> <li>○ 活動実施が困難な雨季(6月～8月)の派遣は行わない等効果的な支援を行っている。</li> <li>■ 他方で総括以外の専門家の派遣時期、期間、活動内容についてブルキナファソ国側に事前通報がないとの不満が確認された。</li> </ul>
	Were the amounts of equipment supplied appropriate?	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ プロジェクトで供与された機材は十分であった。</li> </ul>
	Was the training in Japan appropriately conducted?	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 2009年に4名、2010年に5名のC/Pを国別研修(本邦研修)に派遣し、給水・衛生関連の施設視察や地方自治体、給水・衛生行政管理者との意見交換を行った。</li> <li>○ 派遣されたC/Pはプロジェクトナショナルコーディネーター他MAHの高官であり、研修後一層プロジェクトへの理解、協力姿勢を示していることが確認された。</li> <li>○ また、課題別研修枠にて、現在までにDRAH/PCL関係者計4名、DGRE関係者4名が研修に参加。参加者は帰国後より積極的にプロジェクトに関与していることが確認されている。</li> </ul>
	Was the scale of the Project budget appropriate?	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ プロジェクト予算額について問題は確認されていない。</li> <li>■ ブルキナファソ国側からは年度毎の日本側の予算額について事前に相談、説明がないことに対して強い不満が表明された。</li> </ul>
Causal relations between Burkina Faso inputs and Project activities and outputs (Outputs reflects on Burkina Faso inputs)	Is allocation of C/P appropriate?	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 2年次開始時にC/Pの人事異動、留学等あり、大幅な入れ替わりが発生した。</li> <li>○ その後はC/Pに変更なく順調に活動が展開され、技術移転も行われている。</li> </ul>
	Is Budget execution of Burkina Faso appropriate?	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 2009年度予算についてはプロジェクトに対する予算要求が前年行われておらず(R/D署名前に予算要求が行われたため)、執行されなかった。</li> <li>○ 2010年のブルキナファソ国側予算(C/P手当、燃料費、車両整備費、物品購入費等)については、遅れがあるものの執行されている。</li> </ul>
	Are logistic arrangements of trainings and workshop appropriate?	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 研修、ワークショップに関する準備はほぼ問題なく執り行われている。</li> <li>■ 農作業、マーケットデーとの重複やコミュニティによる住民への連絡の不徹底から住民集会の開催が延期になるケースが散見された。</li> </ul>
External condition to achieve outputs	Are there any external conditions to achieve outputs?	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 中央プラトール地方局の強いコミットメントは成果達成に貢献している。</li> </ul>

Impact: Moderate		
Prospects of Overall goals	Will overall goals be achievable within 2-3 years after the completion of the Project?	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ Reforme 推進の政策は 2015 年まで変更はない。</li> <li>○ 給水施設の増設、Reforme 実施への予算措置が行われれば、上位目標(特に給水に関連する)の達成可能性はある。</li> </ul>
	Factors to prevent the Project from achieving overall goals	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ セクター財政支援(ABS)予算が Reforme 推進に配分される必要がある。</li> <li>■ MAH がプロジェクトの経験から得る知見を理解し、全国展開に向けた活動を行うことが求められる。</li> </ul>
Causal relations	Dissociation between overall goals and project purpose	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ Achieving project purposes contribute to attain overall goals.</li> <li>○ プロジェクト対象地域は限定的であり、中央プラトー地方全域の保健、衛生環境の改善については、ブルキナファソ国側の活動継続に関する強いコミットメント(含む予算処置)が必要である。</li> </ul>
Pervasive effects (positive and negative)	Positive pervasive effects	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 9 対象コミューン以外のコミューンから Reforme 適用化への要望、期待が高まっている。</li> <li>○ ワガドゥグ近郊 5 ミューン、ボボデュラソ近郊 5 コミューンを対象に Reforme 適用化プロジェクトを計画中の NGO、SNV からプロジェクトとの連携の打診がある。</li> </ul>
	Negative pervasive effects	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ Reforme 適用化が進んでいない他コミューンの村落と給水施設を共有している村落において、住民間で給水施設管理に関する混乱が生じている。</li> <li>○ 対象 9 コミューン以外においては、県レベルのポンプ修理工訓練・強化の支援効果が限定的である。</li> </ul>
Sustainability: Moderate		
Fundamentals (policy and institution)	Project position in Burkina Faso's policy and institution	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 現在の国家政策(PN-AEPA)は 2015 年まで変更されない。</li> <li>○ PN-AEPA2010 年年度レビュー(2011 年 3 月実施)において、Reforme 適用化は給水・衛生分野の優先課題として掲げられている。</li> </ul>
Organizational Aspects	Organizational fundamental to sustain and develop the Project	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ ブルキナファソ側の組織的基盤は脆弱。特に以下は課題と考えられる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 40 人の普及員で 500 村を担当等、現場レベルでの人員不足は深刻。</li> <li>➢ 多くのドナーが支援を行っており、約 45 のプロジェクトが現在実施されている。その為慢性的な人員不足の状態となっている。</li> <li>➢ 地方局は設立後 10 年程であり、人員体制が整っていない。</li> </ul> </li> <li>■ 特にコミューンは 2006 年に設立されたばかりであり、陣容、予算ともに不十分。コミューンスタッフ(コミューン長等)も無給のボランティアベースの活動が主であり、継続性の面でも課題がある。</li> <li>■ 村落での衛生啓発活動の持続性の確保が必要。</li> <li>○ 学校での衛生教育については、学校運営委員会と連携して普及活動を継続・拡大することも可能と考えられる。</li> </ul>

Technical Aspects	Transferred technology is introduced to Burkina Faso and possibility to disseminate technology in Burkina Faso.	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ Reforme 適用化に関するノウハウについては、日本人専門家から行政担当者に着実に移転している。</li> <li>■ 行政担当者の多くが活動の多くを「プロジェクト内の活動」と位置づけており、プロジェクト終了後または人事異動後に活動の継続を行うことを想定していないことが確認された。</li> </ul>
	Factors to promote or Prevent Project effects	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 中央プラトー地方局の強いコミットメント、日本人専門家及びローカルコンサルタントの高いプロ意識がプロジェクト効果の発現に寄与している。</li> <li>○ 村落地域の住民にとって給水源確保は生活に直結する重要な問題であり、これは農村部になるほど強い。Toeghin コミューンのように代替水源がない地域ではコミューン長以下村民の高いコミットメントが示された。</li> </ul>
Financial Aspects	Financial fundamentals to sustain and develop the Project	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ プロジェクト実施期間の間に、ブルキナファソ側がプロジェクト終了後を見据えた活動継続のための予算措置を検討するとしている(2013 年からの活動実施のために、2013 年度中の予算申請が必要)。</li> <li>○ セクター財政援助の予算 (ABS) を Reforme 適用化に活用できる可能性が高まっている。</li> </ul>

## 第 4 回合同調整委員会 (JCC) 協議記録

日時	2011 年 9 月 26 日 (月)
場所	L' association Nabonszendé des Artisans d' Oubritenga (ANA0) à ZINIARE
参加者	<p>《JCC メンバー》</p> <p>KABRE. B. Raphael (経済財務省 協力総局)  TAPSOBA Gisèle (MAH 中央プラトー地方局)  BONKOUNGO Stanislas (MAH 水資源総局 飲料水供給局)  OUEDRAGO Joséphine (MAH 衛生・汚水・廃棄物総局 衛生技術・設備開発局)  BALKOULGA. K. Edouard (全国自治体首長協会 中央プラトー地方)  BAGRE Sibrègma (MAH 総務・財務局)  MAIGA Moussa (MAH 調査・計画局))  CALABIRI Rakietou (MAH 中央プラトー地方局 水資源課)  KABORE Etioenne (基礎教育・識字化省 中央プラトー地方局)  BANON Siaka (保健省 公衆衛生・保健教育局)  TAPSOBA Rosinz (PROGEA/PCL)</p> <p>《PROGEA 専門家チーム》</p> <p>小野 健  西山 範之</p> <p>《合同レビュー調査団》</p> <p>KARFO Sampana (MAH 調査・計画局)  NAPON Abdoulaye (MAH 調査・計画局)</p> <p>涌井 純二  深林 真理  井ノ口 一善  安土 和夫</p> <p>《在ブルキナファソ日本国大使館》</p> <p>原田 教枝 二等書記官</p> <p>《JICA ブルキナファソ事務所》</p> <p>影山 正  GANSONRE Cheik</p>
目的	<p>第 4 回 JCC</p> <p>プロジェクト進捗報告および 2011 年の活動計画報告、中間レビューの内容共有、合同中間レビュー報告書案に関する協議</p>
内容	<p>2011 年 9 月 28 日に実施された第四回 JCC において、中間レビュー結果の報告を行った。合同中間レビュー報告書案は、委員会のメンバーによって承認された。</p> <p>主な協議事項は、以下のとおり。</p> <p><b>1. ブルキナファソ国側の予算について</b></p> <p>ブルキナファソ国側が Reforme を全国導入するための予算が十分に確保できないことから、他ドナーや他組織の協力で少しずつ Reforme が行われている状況である。しかし本プロジェクトの対象地域による Reforme の定着に向け、国家予算の確保ができるよう引き続き努力を行っていく旨、説明があった。</p> <p><b>2. PROGEA により開発されたツールの全国普及に関して</b></p> <p>ブルキナファソ国では、現在いくつかのプロジェクトによって AUE の設立支援が行われているが、手法や AUE 設立後の支援の方法も統一がとれていない。このような状況が続けば将来的に調整のためのコストが必要となることが予想される。そのため PROGEA によって開発されたツールやノウハウの適用化を進めていきたいとの前向きな意見が出た。これは日本側も望むことであり、既に衛生啓発教材は全国レベルでの</p>

適用が決まったこともあり、更なる全国普及への努力をお願いした。

### **3. カウンターパート研修及び他国との情報共有ミッションについて**

ブルキナファソ国側より、カウンターパート研修による能力強化、また近隣国等での衛生分野の取り組みについて情報共有できるミッションの機会提供の要望が出された。これに関して課題別研修の説明を行うとともに、逆に JICA は衛生分野での取り組み実績が少ないことから、実施は困難である旨を伝えた。

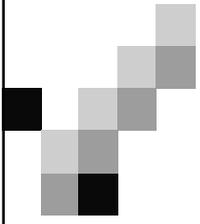
### **4. 衛生改善に関するアニメーターのモチベーション確保について**

この課題に対し、未だ解決策が見出されていないが、調査団より COGES の活用やコミュニティ・AUE の資金の活用の可能性の提案がなされたことに関し、委員会メンバーの中には、教育省管轄の COGES と農業・水利省の活動との調整は困難ではないかとの意見もでた。一方、COGES もコミュニティが関わり、AUE もコミュニティが関わっており、コミュニティを中心とした組織作りの風潮がある中、この流れに乗り協働を検討することも一つではないか、といった意見もあった。今後もこの課題について解決策を見出すための努力を行うことが確認された。

### **5. プロジェクト経費に関する報告について**

財務状況の評価がないとの指摘が出たものの、報告書に記載している旨、またその説明を行ったことにより内容が確認された。

以上



Japan International Cooperation Agency  
Comité de Pilotage

**PROGEA/PCL au Burkina Faso**  
Résultats de la revue à mi-parcours

Equipe de revue conjointe  
28 Sep, 2011

## Objectifs de la revue

- Evaluer les intrants, les activités et les progrès accomplis par le Projet;
- Faire ressortir les problèmes et les défis à présenter au Comité de Pilotage

## Méthodologie de la revue

- Période: du 11 au 29 septembre 2011
- Visite des sites: Toeghin, Dapelogo, Zorgho et Zitenga
- Questionnaires distribués : 300
- Rencontres (interviews): DGRE-MAH, DRAH/PCL, ZAT/UAT, Communes, AUEs et Associations des maintenanciers etc.
- Documents: Rapport intermédiaire, documents de politiques et compte rendu de comité de pilotage

## Cadre Logique du Projet

**But global** Dans la région du PCL, l'environnement en matière de santé, d'hygiène et d'assainissement est amélioré.

**Objectifs du Projet** L'état de gestion et de maintenance des IH et le comportement en matière d'hygiène et d'assainissement des populations sont améliorés dans les communes cibles.

**Résultats (extrants)**

1. Révision du PDM	2. Aménagement du système de gestion et de maintenance des IH d'AEP	3. Renforcement des capacités des AUE	
4. Etablissement du système d'approvisionnement en pièces détachées.	5. Amélioration du comportement en matière d'hygiène et d'assainissement dans les communes pilotes	6. Mise en œuvre du suivi/évaluation	

## Accomplissement des résultats (1-3) (Résumé)

### Résultats 1 et 2

Commune	Toeghin	Dapelogo	Zorgho	6 Communes
Nombre des AUE mises en place	18	29	33	191
signature de la Convention de délégation de gestion des PMH entre commune-AUE	Achevée	Achevée	Achevée	Les activités sont prévues pour les 3ème et 4ème années.
Contrat de suivi et d'entretien entre commune-maintenanciers	Achevée	Achevée	Achevée	
Versement des redevances (FCFA)	620.000	1.060.000	950.000	
Recouvrement des prix d'eau	En démarrage	En démarrage	En démarrage	

### Résultat 3

Pour ce qui concerne le système d'approvisionnement en pièces détachées, les formations des maintenanciers ont été mises en œuvre comme prévu.

## Accomplissement des résultats (4 and 5) (Résumé)

### Résultat 4

	Progrès
Elaboration du programme et des manuels sur le changement des comportements en matière d'hygiène et d'assainissement	Its sort déjà établis.
Formation des acteurs chargés de la sensibilisation et d'éducation en matière d'hygiène et d'assainissement	888 ont été formés dont 430 animateurs villageois
Mise en œuvre des activités de sensibilisation	En démarrage
Guide pour le monitoring des activités en hygiène et l'entretien des infrastructures sanitaires	Déjà établi
Mise en œuvre du monitoring et de l'évaluation	Le manuel d'évaluation a été établi. L'établissement de la base des données
Entretien des infrastructures sanitaires publiques (latrines)	La mise en œuvre des activités est programmé pour la troisième année

### Résultat 5

La plupart des activités sont prévues pour la 3ème année. L'introduction d'une méthode plus adaptée aux réalités est en étude pour établir un système de monitoring durable.

### Accomplissement des objectifs du Projet (perspective)

- Pour ce qui concerne la gestion et la maintenance des IH, il est bien possible d'accomplir l'objectif du Projet.
- L'état des lieux concernant les pratiques en matière d'hygiène et d'assainissement a été fait. Une base de donnée est en construction et s'appuie sur les résultats de l'état des lieux et les activités de monitoring du projet. La pérennisation des activités des animateurs villageois est un défi à relever

### Accomplissement du but global (perspective)

- Il est possible d'accomplir le but global.
  - Dans la région du PCL, le taux d'accès à l'eau potable est amélioré.
  - Mise en œuvre des projets de promotion de la Réforme avec d'autres partenaires de développement
  - La poursuite des activités d'animation en matière d'hygiène et d'assainissement est possible au niveau des écoles.
  - la partie burkinabè envisage de corriger les insuffisances dans la perspective de généralisation de la Réforme après l'achèvement du Projet au niveau national.
- Le PROGEA/PCL développe ses activités seulement dans les 9 communes. Le plan de généralisation de la réforme à l'échelle nationale n'est pas encore établi.

### Résultats de cinq critères du CAD de l'OCDE

Critères de revue du CAD

Résumé du Projet du Cadre Logique	Relevance	Effectiveness	Efficiency	Impacts	Sustainability
Overall Goal	Les objectifs du Projet et le but global sont-ils conformes aux politiques des pays donateurs et du pays récipiendaire et aux besoins des groupes cibles ?	Comment les résultats ont-ils contribué à l'atteinte de l'objectif (extrants) ?	A quel degré, les ressources humaines, matérielles et financières ont-elles permis l'atteinte des résultats	Quels sont les effets positifs et négatifs relevés à l'issue de la mise en œuvre du Projet ?	Est-ce que les effets positifs (bénéfices positifs) sont maintenus après l'achèvement du Projet ?
Project Purpose					
Outputs					
Inputs					

### Résultats de cinq critères du CAD de l'OCDE

Pertinence (Haute)	<ul style="list-style-type: none"> <li>•Le PN-AEPA reste inchangé.</li> <li>•Le plan d'aide de la partie japonaise reste inchangé.</li> <li>•La sélection de la région du PCL comme zone d'intervention était également pertinente.</li> </ul>
Efficacité (Haute)	<ul style="list-style-type: none"> <li>•Il est bien possible d'accomplir l'objectif du projet relatif à l'amélioration du taux de fonctionnement des IH.</li> <li>•Bien qu'il soit difficile d'avoir les effets tangibles sur le changement de comportement en matière d'hygiène et d'assainissement avant la fin du Projet, on peut compter sur les activités à mener d'ici pendant les 2 ans.</li> <li>•L'encrage des activités pour le changement de comportement en matière d'hygiène et d'assainissement est un défi.</li> </ul>
Efficience (Relative ment haute)	<ul style="list-style-type: none"> <li>•Les activités sont menées d'une manière régulière et conformément au plan pour l'accomplissement de l'objectif du Projet.</li> <li>•Pour ce qui concerne l'organisation des formations et ateliers de travail, il n'y a aucun problème constaté.</li> <li>•Le budget pour 2009 de la partie burkinabè n'a pas été exécuté. Les C/P ont été renouvelés.</li> </ul>

### Résultats de cinq critères du CAD de l'OCDE

Impact (Modérée)	<ul style="list-style-type: none"> <li>•Il est possible d'accomplir le but global, si les mesures budgétaires pour la réalisation des IH et pour la mise en œuvre de la Réforme sont prises</li> <li>•La zone d'intervention du Projet est limitée. L'implication et l'engagement de la partie burkinabè sont nécessaires pour l'amélioration de comportement en matière d'hygiène et d'assainissement dans l'ensemble de la région du PCL.</li> <li>•Des conflits entre vilges touchés par la réforme et les autres vilages non couvertes par le projet du fait des différences de mode de gestion et de maintenance des IH.</li> </ul>
durabilité (Modérée)	<ul style="list-style-type: none"> <li>•Le PN-AEPA restera inchangé jusqu'à 2015.</li> <li>•Les ressources humaines et financières des Directions centrales du MAH, de la DRAH, des communes etc. Sont faibles.</li> <li>•Le système de pérennisation des activités en matière d'hygiène et d'assainissement n'est pas établi au niveau des vilages.</li> <li>•Avant la fin du Projet, la partie burkinabè devra prendre les mesures budgétaires appropriées et établir un système de pérennisation des activités après l'achèvement du Projet.</li> </ul>

### Conclusions de la revue

#### ■ Conclusions:

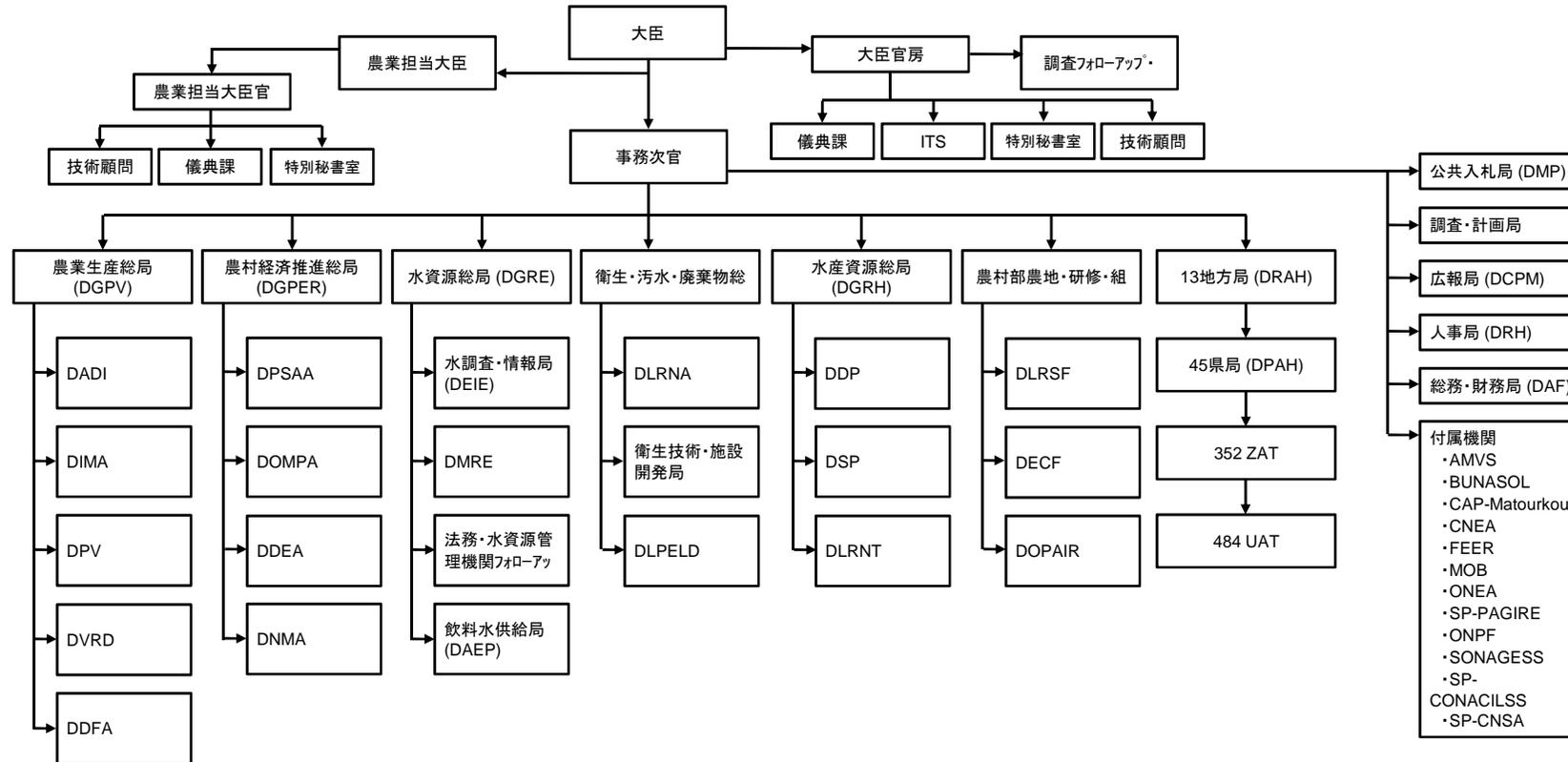
- Avec le résultat de la revue, il est possible de conclure que le Projet a fait de bons progrès et apportera quelques extrants (résultats) appréciables, par exemple l'amélioration de la gestion et de la maintenance des IH.
  - Les 270 AUE ont été mises en place.
  - début du versement des redevances et du recouvrement des prix d'eau,
  - Les associations des maintenanciers ont été mises en place.
  - La formation des acteurs chargés de l'exécution des activités en matière d'hygiène et d'assainissement ainsi que l'exécution proprement dite des activités a débuté
  - Il a été constaté que l'engagement des parties prenantes est fort.
- En ce qui concerne la composante animation et éducation en matière d'hygiène et d'assainissement, il y a des problèmes à surmonter pour accomplir l'objectif du Projet. Il est important de continuer les activités avec ténacité en faisant le monitoring.
- Il a été constaté quelques problèmes liés à la durabilité. Il s'agit surtout de la faiblesse des ressources humaines et financières de la partie burkinabè. Il faut prendre les mesures adéquates durant la période restante du Projet.

### SUGGESTION

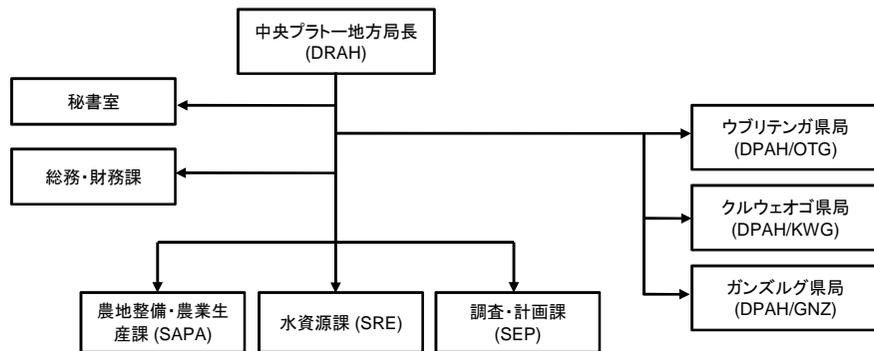
- prendre des mesures pour assurer la pérennisation des activités en matière d'hygiène et assainissement
- Faire une extension de la réforme aux 11 communes
- Prendre des mesures pour assurer la durabilité des activités du projet

Merci





MAH組織図



DRAH-PCL組織図

ブルキナファソ側（農業・水利省）の評価制度によるプロジェクト評価（参考資料）

農業・水利省が所管するプロジェクト及びプログラムの評価の枠内における  
タスクフォース 1 のミーティング  
(2011 年 6 月 9 日～10 日)

1. はじめに

農業・水利省が所管するプロジェクト及びプログラムの評価の枠内において、2011 年 6 月 11～18 日の評価の対象とならなかったプロジェクト及びプログラムを評価するためにタスクフォース（作業グループ）が設置された。このタスクフォースは、プロジェクト及びプログラムの業績と分類を決定するため、各プロジェクト及び各プログラムの現状を明らかにする責務を負う。

本報告の対象であるタスクフォース 1 の業務のため、2011 年 6 月 9 日及び 10 日にミーティングが開かれた。ミーティングは、担当大臣の会議室にて行われた。グループの構成は以下の通りである。

- ・ Mr. KYENDREBEOGO Jean Marie : 技術監査官、議長
- ・ Mr. OUEDRAOGO B. Jérémie : 人事局長、委員
- ・ Ms. BOUGAIRE Christine : 総務・財務局、委員
- ・ Mr. KABORE Abdoulaye : 人事局、報告者
- ・ Mr. NAPON Abdoulaye : 調査・計画局、報告者

タスクフォースは、プロジェクト/プログラム毎に提出された書類一式を検討した。2 日間にわたり協議が行われたが、当局の要請に応えたプロジェクト/プログラムの状況は以下の通りである。

- ・ 当初登録されたプロジェクト及びプログラムの数 : 3
- ・ タスクフォースによって評価されたプロジェクト及びプログラムの数 : 3 (以下の通り)
  - i) ブルキナファソ農業開発支援プログラム・フェーズ 2 (PADAB 2) 中央・東コンポーネント
  - ii) 小規模水管理及び灌漑プロジェクト(PIGEPE)
  - iii) 中央プラトー地方給水施設管理・衛生改善プロジェクト(PROGEA/PCL)

2. 方法

本会を開始するにあたり、議長は、本会の審議の目的を説明し、プロジェクトの各責任者が提出すべき書類リストをタスクフォースに示した。

先ずプロジェクト/プログラムの各責任者から説明が行われた。

タスクフォース 1 は、プロジェクトの実施段階を考慮して以下の通り分析を行った。

- ・着手フェーズにあるプロジェクト
- ・1年以上前から実施されているプロジェクト
- ・2010年に終了したプロジェクト

**2.1** 2010年に着手されたプロジェクトについては、プロジェクトの効率的な着手に配慮しているかどうか評価するためのクライテリアが決められた。また、活動プログラムの内容及び実施された活動を評価することが合意された。

**2.2** 1年以上前から実施されているプロジェクトについては、採点は以下の表に基づいて行われた。

No.	得点調整係数	評価項目	5/5	3/5	0/5
1	3	物理的实施率	70%以上	50～70%	50%以下
2	2	財務的实施率	70%以上	50～70%	50%以下
3	1	調整委員会の定期的開催	2回	1回	0回
4	1	カウンターパート資金の証拠書類の作成期限	3か月未満	3～6か月	6か月以上
5	3	資金支出プロシージャを順守した支出の割合	80%以上	60～80%	60%以下

**2.3** 2010年に終了したプロジェクトについては、1年以上前に実施されたプロジェクトに使用される他のクライテリアに加え、累計財務的实施率及び物理的实施率のみ使用される。

また、未消費資源の残、実施中に遭遇した困難、貧困対策に対するプロジェクトの効果、教訓、及び現行法に則りプロジェクトを効率的に終了するための措置が配慮された。

プロジェクト及びプログラムの各々につき、その困難や特殊性についても分析が行われた。

各々のプロジェクト及びプログラムの評価を終え、タスクフォースはカテゴリー（1、2、又は3）に分類した。この評価を具象化するために、全体の結果が協議議事録にまとめられ、評価対象プロジェクトのマネージャー/コーディネータ及び評価委員会議長によって署名された。

### 3. 討議結果

#### 3.1 小規模水管理及び灌漑プロジェクト(PIGEPE)

評価グループに当初提出した書類にミスや手落ちがあったため、PIGEPE は、2011年

6月3日及び4日のセクター総会において評価の見直しを要請し、認められた。

### 3.1.1 2011年4月11日及び18日の期間に最初に提出された書類にもとづき行われた個々の業績の分析

順番及びプロジェクトの カテゴリ		プロジェクト名	業績レベル3カテゴリに従った加重点数						加重点数	分類
No	カテゴリ		物理的実施率	財務的実施率 31/12/2010	調整委員会の定期 的開催	支出の証拠書類の 作成期限(月数)	資金支出プロシ ージャを順守した支 出割合			
1	A	PIGEPE	39.03%	19.08%	2	6か月以上	100%	20/50	カ テ ゴ リ ー 3	
			0/15	0/10	5/5	0/5	15/15			

### 3.1.2 2011年4月9日に提出された書類にもとづき行われた個々の業績の分析

順番及びプロジェクトの カテゴリ		プロジェクト名	業績レベル3カテゴリに従った加重点数						加重点数	分類
No	カテゴリ		物理的実施率	財務的実施率 31/12/2010	調整委員会の定期 的開催	支出の証拠書類の 作成期限(月 数)	資金支出プロシ ージャを順守し た支出割合			
1	A	PIGEPE	50.32%	30.78%	2	6か月以上	100%	29/50	カ テ ゴ リ ー 2	
			9/15	0/10	5/5	0/5	15/15			

物理的実施率及び財務的実施率の増大が大きいですが、これは評価グループに提出した最初の書類に実施支出が含まれていなかったためである。支出は以下の項目に関するものである。

- ・ 情報処理機器の購入
- ・ ペダル式ポンプの購入及び設置
- ・ 地方開発計画の実施
- ・ クーパダムの改修工事
- ・ 深井戸掘削工事

### 3.1.3 主要な阻害要因の分析

- ・ 主要な阻害要因は、特に調整及びプロジェクトの人材に関するものである。資金引

出し願い(DRF)の作成にかかる管理・財政責任者の業務要領の悪さ

- ・国内における契約締結プロセスの遅さ
- ・国際農業開発基金(IFAD)のノーリアクション
- ・DRFの組立てのレベルの脆弱さ
- ・DRF支出の遅さ
- ・予定される行動のほとんどの実現を条件付ける石油輸出国機構(OPEC)資金の規定
- ・他の原因として挙げられることは、PIEGEが実施第1年であるということである。

### 3.1.4 制約的原因の種別毎の対策・行動

- ・実施中の措置は、RAF(農業・土地改革)の人員整理及び新採用を予定している。

### 3.1.5 技術評価委員会の結論及び提言

- ・プロジェクトの分類 (A、B 又は C) 及びプロジェクトの実施段階 (着手フェーズ、実施フェーズ又は完了フェーズ) によって異なったクライテリアを検討する。

## 3.2 中央プラトー地方給水施設管理・衛生改善プロジェクト(PROGEA/PCL)

### 3.2.1 プロジェクトの個別的業績の分析

本プロジェクトは、評価委員会第1セッションの時に検討・評価は行われていない。

順番及びプロジェクトのカテゴリ		プロジェクト名	業績レベル3カテゴリに従った加重点数						
No	カテゴリ		物理的実施率	財務的実施率 31/12/2010	調整委員会の定期的開催	支出の証拠書類の作成期限 (月数)	資金支出プロジェクトを順守した支出割合	加重点数	分類
1	A	PROGEA/	98.88%	85.33%	2	3~6月	100%		カテゴリ1
		PCL	15/15	10/10	5/5	3/5)	15/15	48/50	

### 3.2.2 主要な阻害要因の分析

主要な阻害要因の分析

- ・村落によって、その村落に属する或る地区の拒否
- ・女性による水利用者組合委員長の選択の困難さ

### 3.2.3 制約的原因の種別毎の対策・行動

- ・給水施設維持管理をコミュニケーションに託すことについての紛争
- ・女性の利益を守るための村落共同体に対する啓発

### 3.2.4 技術評価委員会の結論及び提言

- ・何の提言もされていない。

## 3.3 ブルキナファソ農業開発支援プログラム・フェーズ2 (PADAB 2) 中央・東コンポーネント

### 3.3.1 プロジェクトの個別的業績の分析

2011年4月11日～18日の評価の結果は、下記表に記載した通りである。

順番及びプロジェクトの カテゴリ		プロ ジェ クト名	業績レベル3カテゴリに従った加重点数						
No	カ テ ゴ リ ー		物 理 的 実 施 率	財 務 的 実 施 率 31/12/2010	調 整 委 員 会 の 定 期 的 開 催	支 出 の 証 拠 書 類 の 作 成 期 限 (月 数)	資 金 支 出 プ ロ シ ー ジ ャ を 順 守 し た 支 出 割 合	加 重 点 数	等 級
1	A	PADAB 2 - CE	73.95%	64.78%	1	3 か月未 満	99%		カ テ ゴ リ ー 2
			15/15	6/10	3/5	5/5	9/15	38/45	

コーディネータの要請で、資金の支出プロセスを順守した支出部分を評価するために委員会が開催された。

コーディネータにとって非適格な支出が払い戻され、状況は正規なものとなった。

表：プロジェクト毎及び資金源毎の財務的实施率

プロジェクト名	資金源及び種別		合計コスト	30/12/2010 での支出額 累計	31/12/2010 での吸収率	修正予算割当額又は 2010年の計画	31/12/2010 でのコミットした 支出額又は実施 支出額	31/12/2010 での実施率
	ドナー	形態：ローン、補 助金、カウンター パート資金						
プロジェクト8								
	IFAD	ローン	5573.988	510.104	9.15%	1247.994	471.90	37.81%
	IFAD	贈与	201.949	40.546	20.07%	40.546	0	0
	OPEC	ローン	2020	0	0	515.5	76.8	14.89%
	国	カウンター パート 予算	1296.324	30.44	2.34	12.94	12.94	100%
	受益者	カウンター パート 予算	28.785	0	0	0	0	0
プロジェクト8合計			9120.956	581.09	6.34	1824.44	561.64	30.78%

